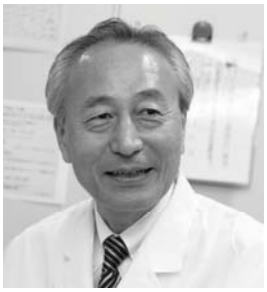
平成28年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人 国立病院機構

京都医療センター





序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成28年度版をお届けいたします。私が着任したのが平成28年4月1日ですので、これが院長として本院の成績を報告する第一歩となります。この1年間、地域のみなさまの深い信頼を得て、多数の患者さんが本院を受診し、外来および病棟にて診断・治療・ケアを受けられました。また全職員が力を合わせて、みなさまの信頼に応えるべく頑張ってきております。また伏見区を中心に、さまざまの医療機関から多数の患者さんをご紹介いただき、その数は増加の一途を辿っておりますし、また本院から逆紹介する患者さんも順調に増加いたしております。

しかしながら、病院経営という面では、昨年度は大幅なマイナスを計上することとなりました。これは偏に私の不徳のいたすところであります。政府の医療費抑制政策の影響を受けて、急性期病院の経営は非常に困難なものとなり、収支の急激な悪化は本院に限るものではありません。さらに本院では、平成27年度からの産婦人科の助産制度取り扱い停止の影響、腫瘍内科および救命救急センターのスタッフ交代・減少の影響が加わったものと思われます。しかし、これらの問題に対しては、全職員が真摯に対応した結果、危機からの脱却が見えてきており、各々の診療科の実績も順調に回復いたしております。また病院全体としては、高度ないし緊急の診療を要する患者さんが多数紹介され、質の高い集中的な治療を受けて、短期間で退院されるという典型的な高度急性期病院へと変貌してきております。

平成29年度の本院の目標を「地域のニーズに応えて高度・急性期の医療を推進します」としました。地域のみなさまの信頼に応えて、診療の質をさらに向上させていきたいと決意を新たにしています。幸いなことに、各診療科・診療部ともに最高レベルの能力をもつスタッフが揃っています。また地域の医療機関との連携もきわめて密なものとなっており、政府の目指す「地域医療構想」のお手本になりそうです。「地域医療構想」で各医療機関がそれぞれに分化していくなかで、本院は高度急性期を扱う最も重要な基幹病院としてその価値をさらに高めていきたいと存じます。それであっても、私自身は、本院はできるだけ敷居の低い病院でありたい、地域のみなさまが気軽に集い、憩える場でもありたいと念願いたしております。

今後も、みなさまの暖かなご支援をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生

京都医療センター診療年報　目次

序文 …… 1
京都医療センターの理念 …… 4
概要 …… 5
組織図 …… 14
幹部職員 …… 15
職員の状況 …… 16
診療実績 …… 18
総合内科 …… 21
血液内科 …… 23
内分泌・代謝内科 …… 24
糖尿病センター …… 34
腎臓内科 …… 43
腫瘍内科 …… 48
精神科 …… 50
神経内科 …… 52
呼吸器センター …… 56
消化器内科 …… 60
循環器内科 …… 65
小児科 …… 72
外科 …… 75
整形外科 …… 81
形成外科 …… 85
脳神経外科 …… 87
血管外科 …… 91
心臓外科 …… 93
皮膚科 …… 95
泌尿器科 …… 97
産科婦人科 …… 102
緩和ケア科 …… 106
眼科 …… 108
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 …… 112
麻酔科 …… 115
放射線科 …… 117
リハビリテーション科 …… 120

歯科口腔外科 …… 121
救命救急センター …… 124
健診センター …… 127
臨床研究センター …… 132
医療安全管理部 …… 138
医療情報部 …… 142
感染制御部 …… 147
教育研修部 …… 151
地域医療部 …… 152
薬剤部 …… 157
臨床検査科 …… 160
病理診断科 …… 163
臨床栄養科 …… 165
医療技術部　臨床工学科 …… 167
看護部 …… 169
京都看護助産学校 …… 185
編集後記 …… 204

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

【患者さんの権利に関する事項】

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

【守っていただく事項】

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

概要

（平成２９年４月１日現在）

１．施設の概要

（１）環　　境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稲荷大社で有名な稲荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉（うづら）が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業拠点である一方、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北部及び滋賀県南部をはじめ他府県に及んでいる。

（２）沿　　革

明治４１年１１月	京都衛戍（えいじゅ）病院として設立
（１９０８年）	
昭和１２年	京都陸軍病院と名称変更
（１９３７年）	
昭和２０年１２月	国立京都病院として厚生省に移管
（１９４５年）	
昭和５３年　４月	臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
（１９７８年）	
昭和５９年１２月	救命救急センター設置
（１９８４年）	
昭和６３年１１月	ＷＨＯより糖尿病協力センターに指定
（１９８８年）	
平成　７年　４月	開放型病院に認定
（１９９５年）	
平成　７年　７月	京都府エイズ治療拠点病院に指定
（１９９５年）	
平成１０年　６月	臓器提供施設に指定
（１９９８年）	
平成１１年　３月	国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門
（１９９９年）	医療施設として位置付けられる
平成１２年　４月	（財）日本医療機能評価機構
（２０００年）	病院機能評価『一般病院種別・Ｂ』に認定
平成１４年　６月	地域医療連携室の開設
（２００２年）	
平成１５年１０月	臨床研究センター（内分泌代謝疾患）設置
（２００３年）	
平成１６年　４月	独立行政法人へ移行
（２００４年）	京都医療センターと改称

平成１７年　４月　　（財）日本医療機能評価機構
（２００５年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.4.0)』に認定
平成１９年　１月　　地域がん診療連携拠点病院に指定
（２００７年）
平成２０年　８月　　地域医療支援病院に指定
（２００８年）
平成２２年　６月　　（財）日本医療機能評価機構
（２０１０年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.6.0)』に認定
平成２３年　１月　　新中央診療棟竣工　緩和ケア病棟開設
（２０１１年）
平成２６年　６月　　第２外来棟竣工
（２０１４年）
平成２７年　４月　　京都府災害拠点病院に指定
（２０１５年）
平成２７年　６月　　（財）日本医療機能評価機構
（２０１５年）　　病院機能評価『一般病院２（Ver.1.0)』『救急医療機能（Ver.2.0)』に認定
平成２８年１２月　　原子力災害拠点病院に指定
（２０１６年）

（３）医療圏・近隣医療機関の状況

●２次医療圏

・京都・乙訓医療圏

（京都市、向日市、長岡京市、大山崎町３市１町）

●２次医療圏内人口

・京都市　　１，４７３千人
・向日市　　５４千人
・長岡京市　　８０千人
・大山崎町　　１５千人　　計１，６２２千人

（４）職　員　数

●１，２７９名　（平成２９年４月１日現在）

・常勤職員　　１，０１６名（期間職員１名含む）
・非常勤職員　　２６３名

（５）敷地・建物の状況

●所在地　京都府京都市伏見区深草向畑町１－１

●敷地面積　･･･　６６，２６７㎡

●建物面積

区　　分	建築年月	建築構造	建築面積	延床面積
病　　棟	Ｈ01.03	ＲＣ-８Ｆ	2,976㎡	18,748㎡
外来管理診療棟	Ｓ58.05	ＲＣ-４Ｆ	2,711㎡	10,840㎡
中央診療棟	Ｓ60.07	ＲＣ-５Ｆ	2,405㎡	13,301㎡
第２外来棟	Ｈ26.06	ＲＣ-３Ｆ	421㎡	1,262㎡
新中央診療棟	Ｈ22.12	ＲＣ-６Ｆ	1,952㎡	8,672㎡
臨床研究センター	Ｓ53.02	ＲＣ-４Ｆ	827㎡	3,117㎡
看護学校	Ｈ15.03	ＲＣ-４Ｆ	3,298㎡	6,560㎡
その他（宿舎等）			4,660㎡	10,560㎡
合　　計			19,250㎡	73,060㎡

２. 診療機能の状況

（１）病床数　　医療法病床数(一般病床)　６００床

（２）診療科（３９科）

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、病理診断科、臨床検査科、救急科

（３）医療計画上の当院が担う機能

- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域医療支援病院
- 救命救急センター（三次、３０床）
- 地域災害拠点病院
- 原子力災害拠点病院
- 緊急災害医療チーム（ＤＭＡＴ２チーム１０名）
- 周産期医療２次病院（地域周産期母子医療センター）
- 難病医療協力病院
- エイズ拠点病院
- 急性期を担う医療機関（脳卒中、急性心筋梗塞）

（４）その他の主な機能

- 緩和ケア病棟（２０床）
- 外来化学療法センター
- ＥＲ（北米型救急外来）
- ＮＨＯ災害ブロック拠点病院
- 国際医療協力施設
- 臓器提供施設
- ＷＨＯ糖尿病協力センター
- 健診センター
- 人工透析センター
- （財）日本医療機能評価機構　病院機能評価　「一般病院２（Ver.1.0）」「救急医療機能（Ver.2.0）」認定

（５）教育研究機能

- 臨床研究センター
- 臨床研修指定病院（管理型）
- 附属京都看護助産学校（看護学科・助産学科）

（６）各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期(新生児）専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管膵外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞｰｼｮﾝ治療学会

３．診療機能等の特色

（１）救命救急センター（３０床：ＩＣＵ８床、ＨＣＵ２２床）

昭和５９年１２月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に６つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え２４時間３６５日、質の高い救急医療を提供している。

平成２３年１月に新中央診療棟に移転し、３０床全床で生体監視モニター管理が可能となった。また、広範囲熱傷処置対応のための熱傷治療室も設置した。

（２）集中治療室（ＩＣＵ・６床）

平成１５年７月に設置。集中治療室では、全身麻酔下手術等における重篤患者等の術後全身管理や入院中に集学的治療が必要となった患者の全身管理を行っている。救命救急センターの集中治療室と２ヶ所の集中治療室を有している。

（３）新生児集中治療室（ＮＩＣＵ・６床）

平成１２年２月に設置し、平成１２年４月に施設基準を取得。低出生体重児等の新生児の治療管理を集中的に行っている。地域周産期母子医療センターとして京都府南部地域の中核病院としての役割を果たしている。

（４）新生児治療回復室（ＧＣＵ・６床）

平成２３年１２月に設置し、平成２４年１月に施設基準を取得。

ＮＩＣＵでの集中管理が終了した新生児が一定の体重・週数に達し、なおかつ合併症コントロールの目途が立ち退院できるまで管理している。

（５）特別室個室病棟（２８床）

平成２３年１月にオープンした全室個室の病棟。セキュリティーを確保した特別病棟は、病棟専属のコンシェルジュを配置し、クオリティーの高い療養環境と最高のサービスを提供している。新型インフルエンザの発生時等において隔離病棟として使用できるよう陰圧機能を備えた病室を備えている。

（６）緩和ケア病棟（２０床）

平成２３年１月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

（７）開放型病床（２０床）

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあたっている。平成７年４月に開放型病院の承認。平成２０年８月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数　１７０名（平成２６年４月１日現在）

（８）特殊専門外来

特殊診療として、内視鏡センター、呼吸器センター、心臓センター、糖尿病センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、スポーツ医学センター、めまいセンター、脳・神経センター、産婦人科超音波外来、フットケア外来、セカンドオピニオン外来、腫瘍外来、遺伝子外来、禁煙外来、発達障害外来、外来化学療法センター、メタボリック症候群外来、妊娠糖尿病外来、糖尿病透析予防外来、婦人科骨粗鬆症更年期外来

（９）健診センター（平成１６年６月１日開設）

早期に病気を発見する予防医学の役割が一層重要になっていることから、当院の政策医療である内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設の特性を生かし、生活習慣病を主な対象とするとともに、各診療科の専門性を有効に活用した健診とし、専門医との連携による的確な判定を行う。

(10) 研修医・レジデントの教育、研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

□臨床研修指定病院（管理型）

□ＮＨＯ専修医制度

□臨床研修医の平成２９年度定数…１年目　９名、２年目　１０名

□スーパーローテーション方式

□ランチタイムセミナー

□双方向性の評価方式の導入

(11) 臨床研究センター

平成１５年１０月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成２０年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。

(12) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

平成２６年６月に腹腔鏡下手術を支援する内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入。このダヴィンチを用いた手術は通常の腹腔鏡下手術と同様に傷口が小さく低侵襲で術後の痛みも少ないことから回復も早く、早期の退院が可能となった（ただし保険適用手術は限られている）。

(13) ＰＥＴ／ＣＴ

がんの早期発見、早期治療の充実・発展のため、平成２６年６月に京都府南部地域初のＰＥＴ／ＣＴを導入。

(14) 地域医療連携室

平成１４年６月に地域医療連携室が設置され、地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化している。前方後方支援業務はもとより、年２回開催の医療連携フォーラムや脳卒中等の市民講座の開催にも力を入れている。

□人員配置

○地域医療部長（医師）　地域医療連携室長（医師）　地域医療連携係長・病床管理師長　医療社会事業専門員４名　看護師４名　係員１名
事務助手５名　　計１７名

(15) がん診療支援

当院は平成１９年１月から地域がん診療連携拠点病院の認定を受けており、キャンサーボードも設置し「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、コメディカル、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催している。

また、がん診療相談（地域医療連携室）や患者情報室（１階ホール）、京都では初となるＮＰＯ法人キャンサーリボンズが設置をサポートするリボンズハウス（外来化学療法室）を設置して患者の日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者の視点に立って生活を支援することができる施設を目指している。

□リボンズハウス（平成２３年１０月から運用開始）

○がん患者の「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。
○医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して患者がより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。
○広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。
○主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー（ウィッグ、帽子等）アロマテラピー等

(16) 感染制御部

平成９年４月に組織横断的院内感染対策チーム（ＩＣＴ）を設立し、平成２２年４月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者が安心して診療を受けられる環境を提供するため、ＩＣＴを核とする感染制御部を発足させた。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務職等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担している。ＩＣＴリーダーを中心に週に１回ＩＣＴミーティングを行い、更に週１回定期的に院内ＩＣＴラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応している。

□人員配置

○感染制御部長（医師）副部長（医師１名）医師１名 専任薬剤師２名
専従認定看護師　専任検査技師　事務２名　計９名

□主な活動例

○インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核等の院内感染対策
○手術部位感染、血流感染等のサーベイランス
○抗菌薬適正使用推進業務等
○これらの活動は、病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月１回)と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会(月１回)にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。（２７年１月の開催回数は１１回）

(17) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部を設置している。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行う体制を整えている。

また、客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催し、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催している。

メンバーには顧問弁護士を配置し、必要に応じて法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職、さらにはクレームや暴言暴力への対応策として警察ＯＢも配置して、あらゆるケースに対応出来る体制を構築している。

□人員配置

○副院長（医療安全担当）　医療安全管理部長（医師）
　医療安全管理副部長（医師）　訴訟専門職　看護師長（医療安全管理専従）
　副看護師長（医療安全管理専従）
　リスクマネージャー（各部署から１名：５９名）　顧問弁護士　　計６７名

□主な会議

○拡大医療安全管理委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策本部会議
○オカーレンス事例検討会
○ハイリスク診療検討会議
○リスクマネージャー会議

(18) 医療情報部

平成１５年７月に設置された医療情報部は国立病院としては初めて認可された部門であり、医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当している。ベンダーに依存することなく医療現場のニーズにマッチした情報システムの開発、導入、構築を迅速かつ正確に行っている。平成１１年に導入した病院総合情報システム（電子カルテ）は、平成２８年１０月より稼働した新システムで第４世代となる。

また、京都府及び京都市が設置した情報基盤協議会である「ＩＴコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し「ポケットカルテ」等の二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画、設計、開発、構築、運用等も行っている。

更に、情報システムや診療記録管理だけではなく、診療諸記録作成の作成等の医師事務作業補助の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し、各診療科に配置する事で、医師や看護師等の専門職が業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療の質の向上に努めている。

□人員配置

○部長（医師・ＳＥ）　副部長（医師）　診療情報管理士５名　スペシャル医療クラーク２７名
　医療クラーク５名　情報システム管理室員４名　流動研究員（ＳＥ等）１名　　計４４名

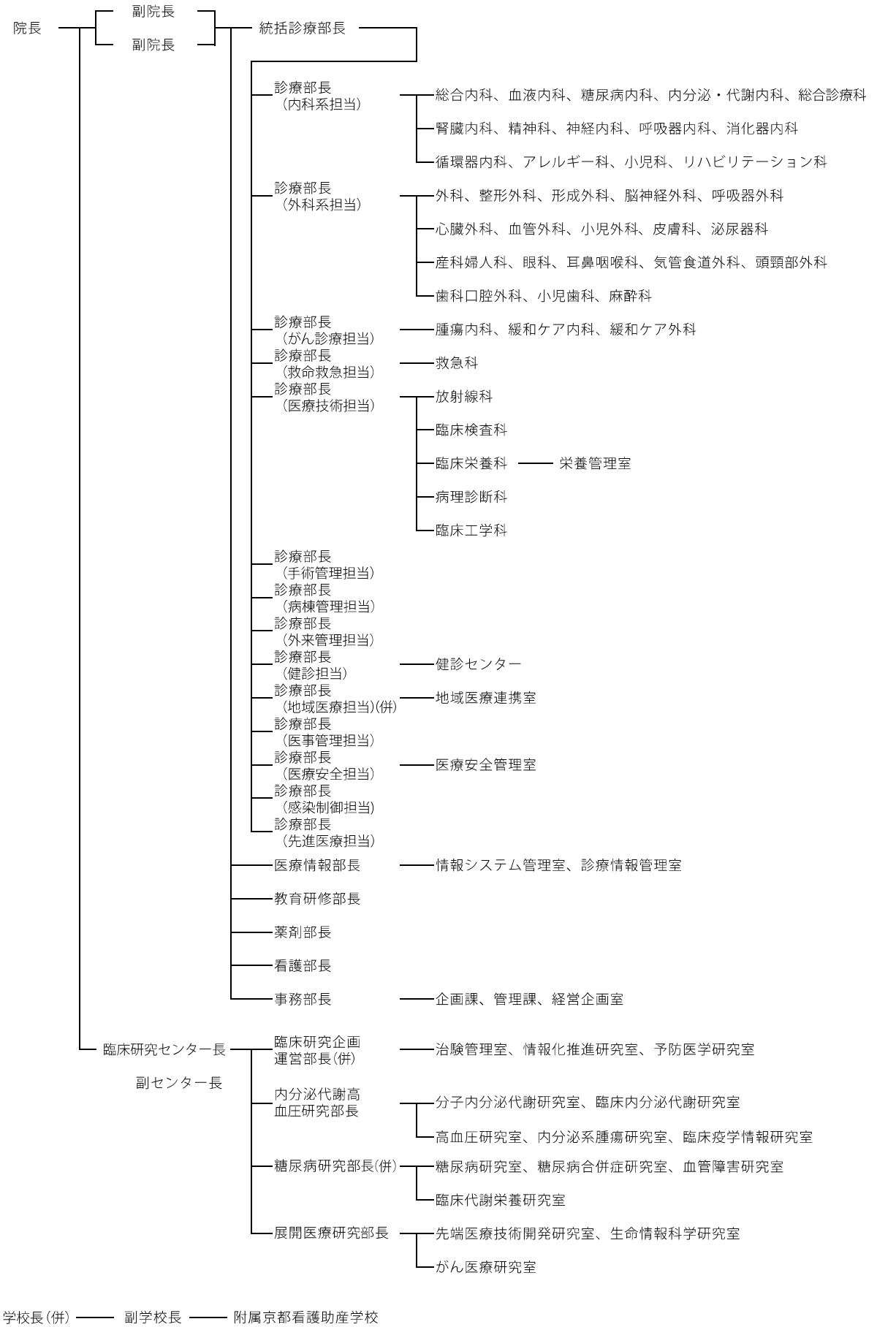
４.附属京都看護助産学校

（1）沿　　革

昭和２４年（１９４９年）	４月　１日	附属高等看護学院設置
昭和４４年（１９６９年）	４月　１日	附属高等看護助産学院設置
昭和５０年（１９７５年）	４月　２日	国立京都病院附属看護助産学校、看護婦科および助産婦科に名称が変更される。
平成１４年（２００２年）	４月　１日	看護学科、助産学科に名称が変更される
平成１６年（２００４年）	3月２５日	看護学校大型化整備工事竣工
平成１６年（２００４年）	４月　１日	国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を当院の地で統合し、附属京都看護助産学校となる。 ※１学年定員　看護学科８０名 助産学科３５名
平成２７年（２０１５年）	４月　１日	附属京都看護助産学校助産学科の定員減 ※１学年定員　助産学科２５名

京都医療センター　組織図

（平成２９年４月１日現在）



京都医療センター　幹部職員


院長　小西　郁生


副院長　塚原　徹也


副院長　髙倉　賢二


臨床研究センター長
島津　章


統括診療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
教育研修部長
小山　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
土屋　宣之


病棟管理部長
救命救急部長
赤尾　昌治


医療技術部長
伊藤　剛


手術管理部長
七野　力


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
田上　哲也


地域医療部長
秋山　祐一


医事管理部長
勝島　慎二

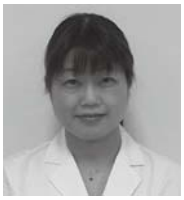

医療安全部長
白神　幸太郎


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜

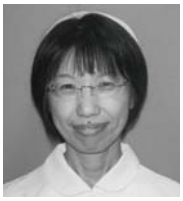

展開医療研究部長
長谷川　浩二


内分泌代謝高血圧研究部長
浅原　哲子


薬剤部長
小林　勝昭


看護部長
荒木　輝美


事務部長
高橋　良和


副学校長
増山　路子

職員の状況

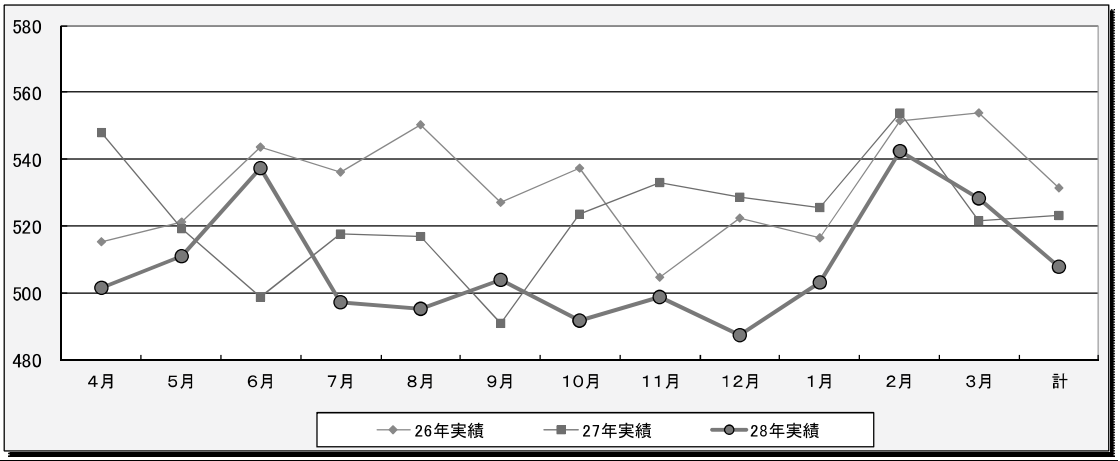
（平成２９年４月１日現在）

	職種・職名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算	合計
医師	院長・年俸表ー	院長	1	1							1.00
		副院長	3	3							3.00
		部長	18	16							16.00
		医長	43	41							41.00
		歯科医長	1	1							1.00
		小計	66	62							62.00
	一般医師	医師	86	87	48.57	59	45.49	0.90	1	0.90	132.49
	医療職（一）	歯科医師		1		2	1.54				2.54
		小計	86	88	48.57	61	47.03	0.90	1	0.90	135.03
医師計			152	150	48.57	61	47.03	0.90	1	0.90	197.03
医療職（二）	薬剤師	薬剤部長	1	1							1.00
		副薬剤部長	2	2							2.00
		主任薬剤師	7	7							7.00
		薬剤師	26	30							30.00
		小計	36	40							40.00
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1							1.00
		副診療放射線技師長	2	2							2.00
		主任診療放射線技師	6	6							6.00
		診療放射線技師	24	22							22.00
		小計	33	31							31.00
	検査技師	臨床検査技師長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	2	2							2.00
		主任臨床検査技師	8	8							8.00
		臨床検査技師	24	24		2	1.54				25.54
		小計	35	35		2	1.54				36.54
	管理栄養士	栄養管理室長	1	1							1.00
		副栄養管理室長	1								
		主任栄養士	2	2							2.00
		栄養士	3	4	2.31	2	1.66				5.66
		小計	7	7	2.31	2	1.66				8.66
	理学療法士	理学療法士長	1	1							1.00
		副理学療法士長									
		主任理学療法士	2	1							1.00
		理学療法士	13	13							13.00
		小計	16	15							15.00
	作業療法士	作業療法士長									
		副作業療法士長									
		主任作業療法士	1	1							1.00
		作業療法士	4	4							4.00
		小計	5	5							5.00
	医療技術職員	臨床工学技士	11	11							11.00
		視能訓練士	4	4	1.85	1	0.77				4.77
		言語聴覚士	3	3		1	0.21				3.21
		心理療法士			0.92	5	0.81				0.81
		歯科衛生士			1.54	3	2.31				2.31
		歯科技工士			0.77	1	0.77				0.77
		小計	18	18	5.08	11	4.87				22.87
医療職（二）計			150	151	7.39	15	8.07				159.07

	職種・職名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算	合計
医療職（三）	看護師、助産師	看護部長	1	1							1.00
		副看護部長	3	3							3.00
		看護師長	22	22							22.00
		副看護師長	48	49							49.00
		助産師	527	36		1	0.80				36.80
		看護師		530	33.99	16	11.22				541.22
		准看護師		1							1.00
	医療職（三）計		601	642	33.99	17	12.02				654.02
事務職・診療情報管理職	事務職員	事務部長	1	1							1.00
		課長・室長	3	3							3.00
		班長	2	2							2.00
		専門職	2	2							2.00
		係長	12	7							7.00
		主任									
		一般職員（事務補助）	4	11	103.69	142	108.11				119.11
		小計	24	26	103.69	142	108.11				134.11
	診療情報管理職	診療情報管理士	8	8		2	1.60				9.60
		小計	8	8		2	1.60				9.60
	事務職・診療情報管理職　計		32	34	103.69	144	109.71				143.71
技能職員		自動車運転手	13	1	25.31						1.00
		調理師		12							12.00
		看護助手				11	9.13				9.13
		その他				2	1.66				1.66
	技能職員　計		13	13	25.31	13	10.79				23.79
教育職		副学校長・教育主事	4	4							4.00
		教員（教務補助）	15	16							16.00
	教育職　計		19	20							20.00
研究職		センター長・部長									
		室長・主任研究官									
		研究（補助）員			3.49	12	9.42				9.42
	研究職　計				3.49	12	9.42				9.42
福祉職		保育士	1	1		1	0.77				1.77
		医療社会事業専門員	4	4							4.00
	福祉職　計		5	5		1	0.77				5.77
職員総数			972	1,015	222.44	263	197.81	0.90	1	0.90	1212.81
（男性）				299		58	43.41		1	0.90	343.31
（女性）				716		205	154.40				870.40

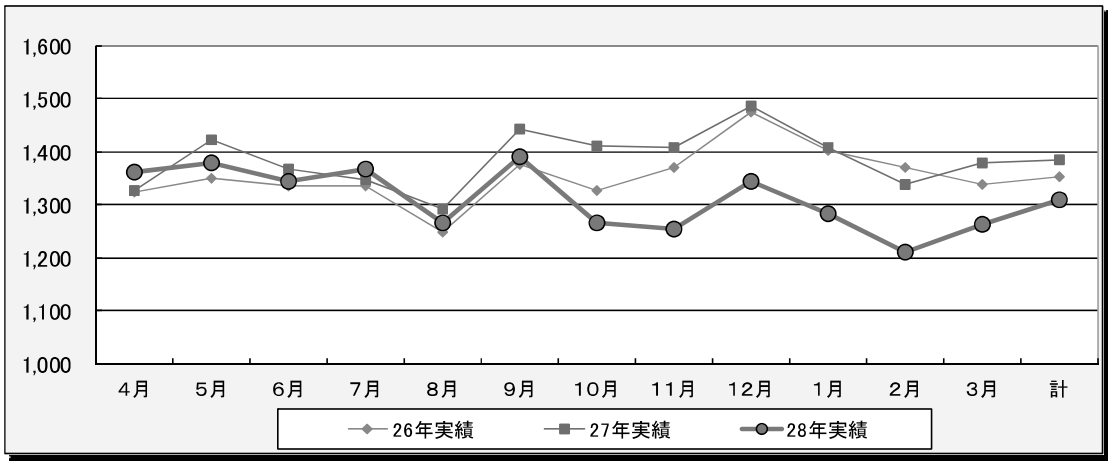
診療実績（年度別統計）

○平均入院患者数(年間目標数＝530人)　　（単位：人/日）



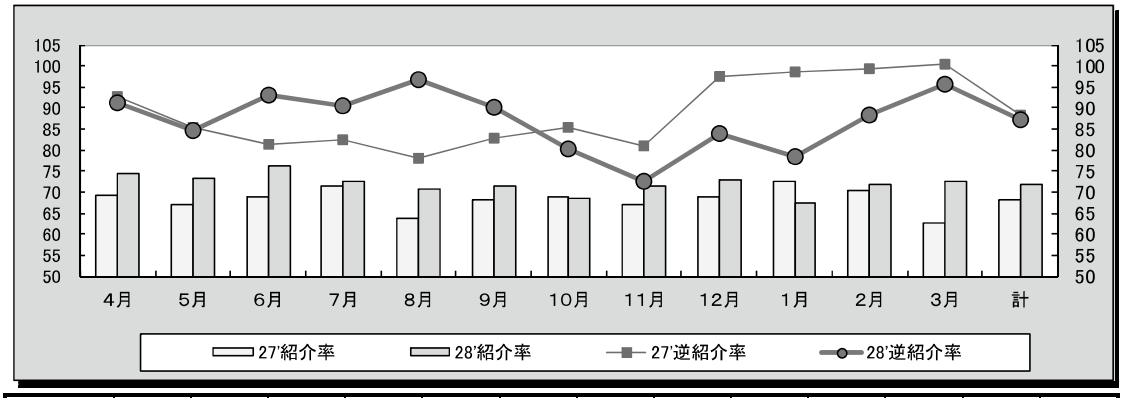
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
26年実績	515.4	521.1	543.4	536.0	550.4	526.9	537.2	504.5	522.3	516.5	551.6	553.7	531.5	88.6%
27年実績	547.7	519.1	498.5	517.5	517.0	490.9	523.5	532.9	528.5	525.3	554.0	521.7	522.9	87.2%
28年実績	501.6	511.1	537.2	497.0	495.3	503.7	491.7	498.6	487.1	503.2	542.5	528.4	507.8	84.6%

○平均外来患者数(年間目標患者数＝1,367人)　　（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年実績	1,323.2	1,348.3	1,335.1	1,335.7	1,248.9	1,375.6	1,326.0	1,369.4	1,473.7	1,401.5	1,370.6	1,336.3	1,351.6
27年実績	1,326.8	1,422.3	1,367.1	1,346.7	1,290.6	1,441.5	1,409.9	1,407.5	1,485.5	1,408.1	1,337.9	1,378.8	1,383.0
28年実績	1,362.1	1,377.4	1,342.4	1,366.0	1,266.5	1,389.5	1,264.2	1,254.9	1,343.5	1,282.3	1,209.9	1,261.8	1,309.2

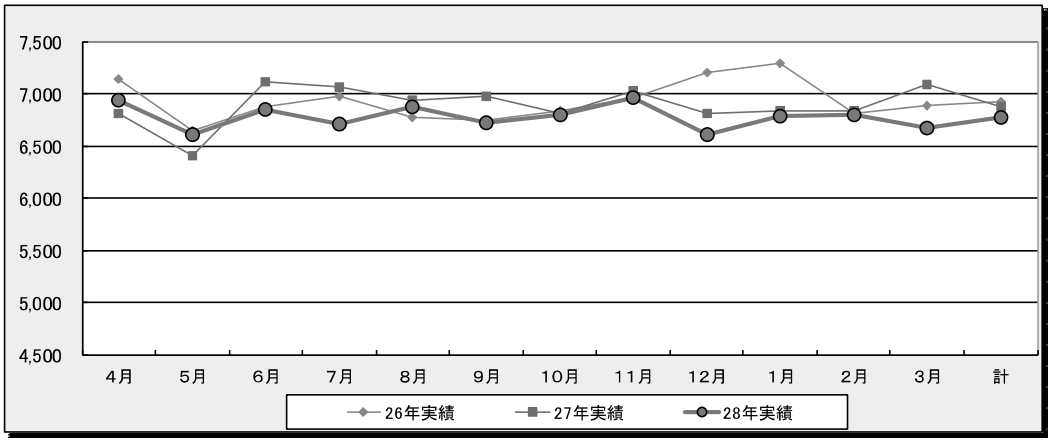
○紹介率、逆紹介率の推移　　（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27'紹介率	69.3	66.9	68.9	71.5	63.7	68.1	68.9	67.0	68.9	72.7	70.4	62.7	68.2
28'紹介率	74.3	73.4	76.1	72.7	70.9	71.4	68.4	71.5	73.1	67.3	72.0	72.4	72.0
27'逆紹介率	92.7	85.5	81.5	82.4	78.0	83.0	85.4	80.9	97.4	98.7	99.3	100.4	88.3
28'逆紹介率	91.3	84.5	93.0	90.4	96.8	90.1	80.2	72.5	83.9	78.5	88.3	95.8	87.2

○入院平均診療点数

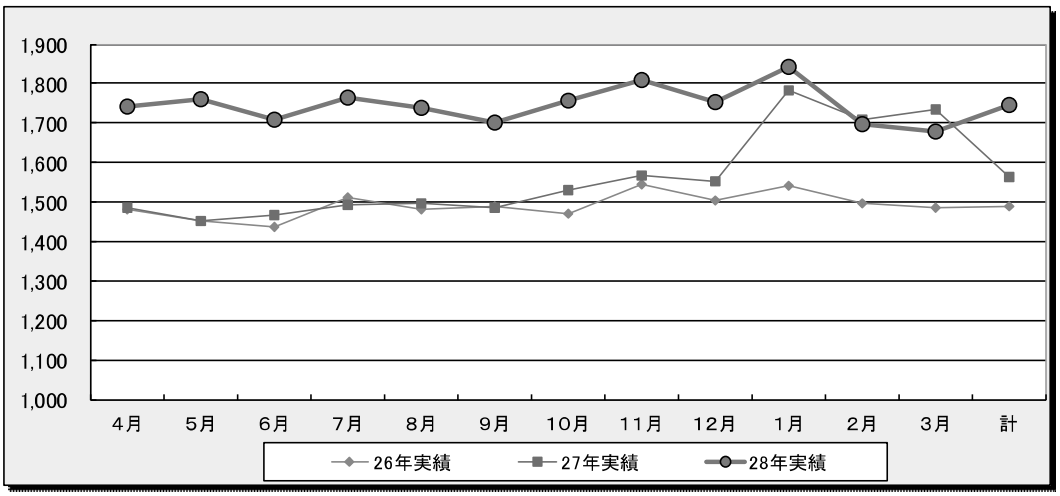
（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年実績	7,136.8	6,645.5	6,874.8	6,973.0	6,772.1	6,745.2	6,835.1	6,962.3	7,203.3	7,289.0	6,805.3	6,892.3	6,926.5
27年実績	6,812.6	6,404.0	7,116.8	7,059.6	6,939.6	6,977.5	6,808.8	7,030.9	6,814.9	6,830.9	6,834.0	7,090.7	6,872.6
28年実績	6,932.9	6,601.6	6,850.4	6,705.3	6,870.4	6,726.6	6,801.4	6,955.8	6,612.5	6,781.1	6,803.6	6,675.4	6,775.3

○外来平均診療点数

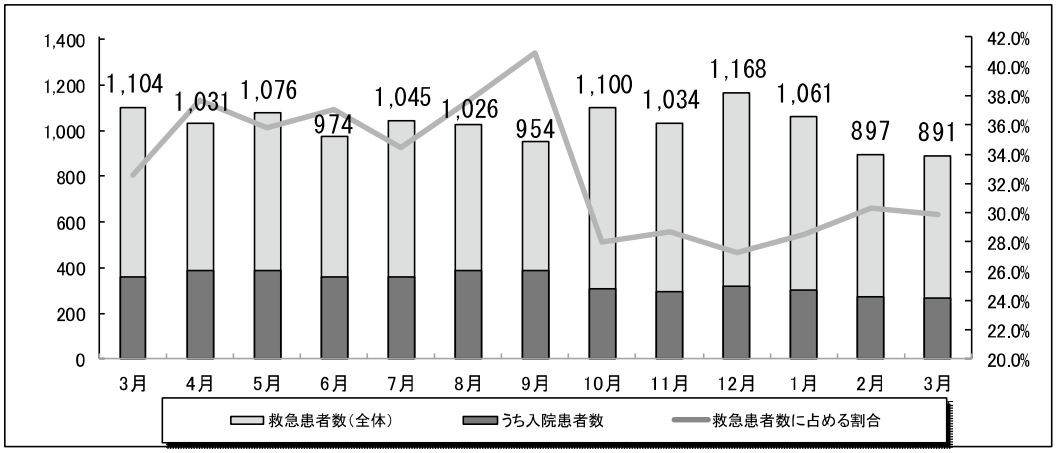
（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年実績	1,482.1	1,450.7	1,436.2	1,510.1	1,483.3	1,487.6	1,470.5	1,543.2	1,502.2	1,541.8	1,496.3	1,485.7	1,490.2
27年実績	1,486.9	1,452.6	1,468.1	1,491.1	1,494.7	1,487.1	1,530.3	1,568.1	1,554.0	1,784.4	1,707.9	1,735.5	1,563.3
28年実績	1,741.0	1,762.1	1,706.8	1,765.3	1,740.0	1,699.3	1,758.2	1,809.8	1,753.6	1,843.4	1,695.9	1,677.3	1,744.6

○救急患者数推移

（単位：人、%）



	H27' 3月	H28' 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急患者数（全体）	1,104	1,031	1,076	974	1,045	1,026	954	1,100	1,034	1,168	1,061	897	891	1,027.8
うち入院患者数	359	389	385	361	360	386	390	308	297	318	303	272	266	338.0
救急患者数に占める割合	32.5%	37.7%	35.8%	37.1%	34.4%	37.6%	40.9%	28.0%	28.7%	27.2%	28.6%	30.3%	29.9%	33.0%
救急搬送患者数	362	352	347	353	355	380	306	337	313	358	383	355	362	351.0
新規入院患者数（参考）	1,197	1,118	1,107	1,165	1,073	1,168	1,122	1,122	1,104	1,040	1,213	1,143	1,178	1,134.6

経 常 収 支 率

損益計算書

（千円）

区　　分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
医業収益	18,235,906	18,353,766	18,021,085
入院診療収益	12,955,293	12,749,117	12,133,434
室料差額収益	446,335	433,117	400,695
外来診療収益	4,740,257	5,086,113	5,402,939
保険予防活動収益	104,994	110,205	101,025
文書料収益	73,421	78,308	71,655
その他医業収益	2,287	2,139	7,610
保険等査定減（△）	▲86,681	▲105,235	▲96,273
診療業務費	18,063,338	18,421,645	18,576,339
給与費	8,587,732	9,049,214	9,082,351
材料費	5,387,213	5,634,162	5,942,733
委託費	727,064	755,083	788,512
設備関係費	2,079,935	2,012,093	1,866,317
研究研修費	6,850	4,940	6,155
経費	1,274,544	966,152	890,271
医業収支差	172,568	▲67,879	▲555,254
医業収支率	101.0%	99.6%	97.0%
人件費率	47.1%	49.3%	50.4%
材料費率	29.5%	30.7%	33.0%
委託費率	4.0%	4.1%	4.4%
経費率	7.0%	5.3%	4.9%
人件費+委託費率	51.1%	53.4%	54.8%
経常収益	19,083,993	19,231,133	18,939,488
経常費用	18,878,406	19,291,068	19,466,973
経常収支差	205,587	▲59,936	▲527,485
経常収支率	101.1%	99.7%	97.3%

区　　分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育研修収益	216,175	212,719	222,895
教育研修費用	265,720	288,874	292,050
収支差	▲49,545	▲76,154	▲69,156

区　　分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
臨床研究収益	374,464	411,802	435,671
臨床研究費用	418,752	451,617	473,391
収支差	▲44,288	▲39,815	▲37,720

総合内科



部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター BLSインストラクター 日本救急医学会 ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　　師	後藤　雅史	日本内科学会総合内科専門医 公衆衛生学修士	内科一般	内科一般
医　　師	井口美季子	日本内科学会総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー 日本リウマチ財団登録医	膠原病・リウマチ一般	膠原病・リウマチ一般

□ 診療科の特徴

1．器官系を横断的に考えます
2．患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3．専門診療科との連携を重視します
4．医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症（気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他）
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
膠原病リウマチ疾患（関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など）
＊膠原病リウマチ疾患については、新たに専門医を迎え、膠原病リウマチ内科として総合内科と協力しながら診療をしています

□ 診療（業務）内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介していますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、呼吸器、尿路、皮膚、骨軟部組織などの急性感染症、原因不明の発熱（最終的には薬剤熱、血管炎症候群や膠原病リウマチ疾患、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および

管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績（平成28年度）

総合内科・総合診療科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
18.1名	350名	18.2日

外来患者数

1日平均患者数
34.0名

主な疾患の件数など

感染症	高齢者医療	リウマチ疾患	血液・腫瘍	栄養・電解質異常
219件	35件	29件	27件	14件

膠原病・リウマチ内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2.2名	41名	19.8日

外来患者数

1日平均患者数
10.3名

主な疾患の件数など

関節リウマチ	リウマチ性多発筋痛症	血管炎症候群	その他
16件	6件	4件	14件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事(小山)

伏見関節リウマチ病診連携の会（井口）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	小田垣　孝男	医学生および研修医のための総合診療カンファレンス	日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会
国際学会	Mikko-Iguchi Hashimoto, Syuko Kaito, Masashi Goto, Takao Odagaki, Yoshiaki Okuno, Hiroshi Koyama	Angioimmunoblatic T-cell lymphoma with hemolytic anemia and thrombocytopenia mimicking SLE	the 13th International workshop om autoantibodies and autoimmunity

血液内科



医　長
奥野　芳章

専門医資格等　日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学医学博士
専 門 分 野　血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□ 診療（業務）内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫など

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.1名	227名	13.0日

外来患者数

1日平均患者数
14.2名

内分泌・代謝内科



診療部長・診療科長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医、近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医・教育責任者、評議員
日本甲状腺学会　専門医、評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士

専門分野　内科、内分泌・代謝

得意疾患　内分泌・代謝疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	立木　美香	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 臨床研修指導医 東京女子医科大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
医師	馬越　洋宜	日本内科学会　認定内科医 臨床研修指導医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
専修医	小笠原辰樹	日本内科学会　認定内科医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
専修医	廣嶋　佳歩	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	内分泌疾患
専修医	横本　真希	日本内科学会　認定内科医 日本糖尿病学会　専門医	内科 内分泌・代謝	骨代謝疾患
臨床研究センター・センター長	島津　章	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士	内科 内分泌・代謝 臨床検査医学	神経内分泌・下垂体疾患
臨床研究センター・臨床内分泌代謝研究室長	日下部　徹	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医 京都大学大学院医学研究科　客員研究員 京都大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	肥満症・糖尿病・サルコペニア
臨床研究センター・特別研究員	成瀬　光栄	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 日本糖尿病学会　専門医 日本腎臓学会　専門医・指導医 東京医科歯科大学医学部　臨床教授・非常勤講師 東京女子医科大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患

臨床研究センター・研究員	笹井有美子	日本内科学会　認定内科医 日本甲状腺学会　専門医	内科 内分泌・代謝	甲状腺疾患
非常勤医師	垣田真以子	日本内科学会　認定内科医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医 日本甲状腺学会　専門医 日本抗加齢学会　専門医 日本医師会　認定産業医	内科 内分泌・代謝 女性医学	内分泌疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設

- 内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するものです。下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症なども対象としており、糖尿病センターと連携して治療にあたっています。
- 地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として国の指定を受けています。全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築しています。また、日本内分泌学会認定教育施設および日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。
- 診療のモットー
  1．内分泌代謝疾患に関する、良質で高水準の医療を提供しています。
  2．満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供しています。
  3．十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進しています。

□ 主な対象疾患

●下垂体疾患

下垂体インシデンタローマ：脳ドックなど、CTやMRIで偶然見つかった下垂体腫瘍の機能評価をします。

下垂体機能亢進症：先端巨大症（アクロメガリー）、クッシング病（下垂体性クッシング症候群）、プロラクチン産生下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）、TSH産生下垂体腫瘍（中枢性甲状腺機能亢進症）などです。糖尿病や肥満、不順月経の原因になります。

下垂体機能低下症：シーハン症候群（出産後下垂体機能低下症）などの汎下垂体機能低下症、ACTH単独欠損症（下垂体性副腎不全）、成長ホルモン分泌不全症、リンパ球性下垂体炎、中枢性尿崩症などがあります。無月経や低身長、低血圧・低血糖、口渇・多飲・多尿などが主徴候となります。小児科からのトランジション（引き継ぎ治療）も大切です。

●甲状腺疾患

甲状腺腫：学校検診や人間ドックなどで指摘された甲状腺腫の評価をします。

甲状腺インシデンタローマ：頸動脈エコーなどで偶然見つかった甲状腺腫瘤の良性・悪性の判定をします。甲状腺機能亢進症：バセドウ病のほか、プランマー病（機能性結節）、妊娠性甲状腺機能亢進症があります。眼球突出や心房細動がきっかけで見つかることもあります。振戦や筋力低下の原因にもなります。コントロール不良のバセドウ病にはアイソトープ治療（^{131}I内用療法）も考えてみてください。

破壊性甲状腺中毒症：発熱・前頸部痛を主訴とする亜急性甲状腺炎や、橋本病をベースとした無痛性甲状腺炎、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺中毒症があります。

甲状腺機能低下症：原因として橋本病（慢性甲状腺炎）が最も多いですが、先天性甲状腺機能低下症や薬剤性甲状腺機能低下症（向精神薬など）も少なくありません。便秘や体重増加、皮膚の乾燥、顔のむくみ、脱毛などを訴えます。

●副甲状腺疾患
高カルシウム血症：副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症や悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症、ビタミンD中毒があります。尿路結石を繰り返します。
低カルシウム血症：成人では特発性副甲状腺機能低下症があります。小児では、先天性副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症があります。
骨粗鬆症：高齢化に伴い、閉経後の原発性骨粗鬆症が増加しています。ステロイドホルモンによる続発性骨粗鬆症にも注意が必要です。
●副腎疾患
副腎インシデンタローマ：CTやMRIで偶然見つかった副腎腫瘍の機能評価をします。
副腎皮質機能亢進症：原発性アルドステロン症やクッシング症候群などがあります。多くは副腎腫瘍が原因です。高血圧や糖尿病、メタボリック症候群の原因になります。
副腎髄質機能亢進症：褐色細胞腫や傍神経節腫が原因です。術後数年後に転移が見つかるケースも少なくありません。発作性の高血圧が特徴です。
副腎皮質機能低下症：アヂソン病や先天性副腎過形成などが原因となります。急性副腎不全（副腎クリーゼ）を発症することがあります。
●性腺疾患
ターナー症候群、クラインフェルター症候群、多嚢胞性卵巣症候群などです。
●内分泌性高血圧
高血圧の約15%はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので、専門医の受診を勧めます。高血圧の～10%に原発性アルドステロン症が見つかります。
●メタボリックシンドローム
高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。
●サルコペニア
加齢によって筋肉量が減り、握力や歩く速度が低下するなど、身体機能に影響がでる状態。日常生活に支障がでるのみならず、転倒・骨折、生活習慣病、認知症などのさまざまな病気のリスクとなります。
●その他
腎性尿崩症、多発性内分泌腺腫症(MEN Ⅰ型, MEN Ⅱ型)
電解質異常（低カリウム血症、低ナトリウム血症など）、高脂血症、高尿酸血症など、その他の内分泌代謝疾患

□ 診療（業務）内容

●外来では、血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、甲状腺の細胞診などを行っています。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施しています。本年度より新たに骨粗鬆症・サルコペニア専門外来を開設しました。
●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施しています。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6.0名	320名	6.7日

外来患者数

1日平均総患者数	年間初診患者数
60.3名	735名

主な検査の件数など

甲状腺エコー	甲状腺細胞診
1,767件	142件

〈福島県県外甲状腺検査〉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、東京電力福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出を伴う事故(以下、福島第一原発事故という)が発生した。この事故は、国際原子力・放射線事象評価尺度(International Nuclear and Radiological Event Scale: INES)において、1986年4月26日に旧ソビエト連邦(現ウクライナ)で発生したチェルノブイリ原子力発電所事故(以下「チェルノブイリ原発事故」という)と同等の「7」(暫定)とされている。チェルノブイリ原発事故においては、事故直後に食品等の規制がなされなかったことなどに起因し、周辺住民の放射性ヨウ素による内部被ばくが拡大し、小児の甲状腺がんが激増する事態となった。このことから、福島第一原発事故においても小児の甲状腺がん発症への懸念が高まっている。このため、福島県では県民の健康見守り事業である「県民健康管理調査」を実施し、その中で、福島第一原発事故発生時に18歳以下の小児であった者に対する甲状腺検査を行っている。

「県民健康管理調査」事業は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげることで、将来にわたる県民の健康維持・増進を図ることを目的としている。財源には、国及び福島県からの出資金並びに東京電力株式会社から福島県への賠償金等から構成される「福島県民健康管理基金」が充てられている。検査・診断等は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターが主体となって行っている。県民健康管理調査は、外部被ばく線量の推計を目的とした「基本調査」と、健康状態の把握を目的とした「詳細調査」から構成されている。

甲状腺検査

事故当時18歳以下の小児(平成4年4月2日以降に生まれた者)を対象とし、以下の2つの検査から構成されている。

● 先行検査 平成23年10月から平成26年3月末までに行われる、1回目の甲状腺検査

● 本格検査 平成26年4月以降、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して行われる甲状腺検査

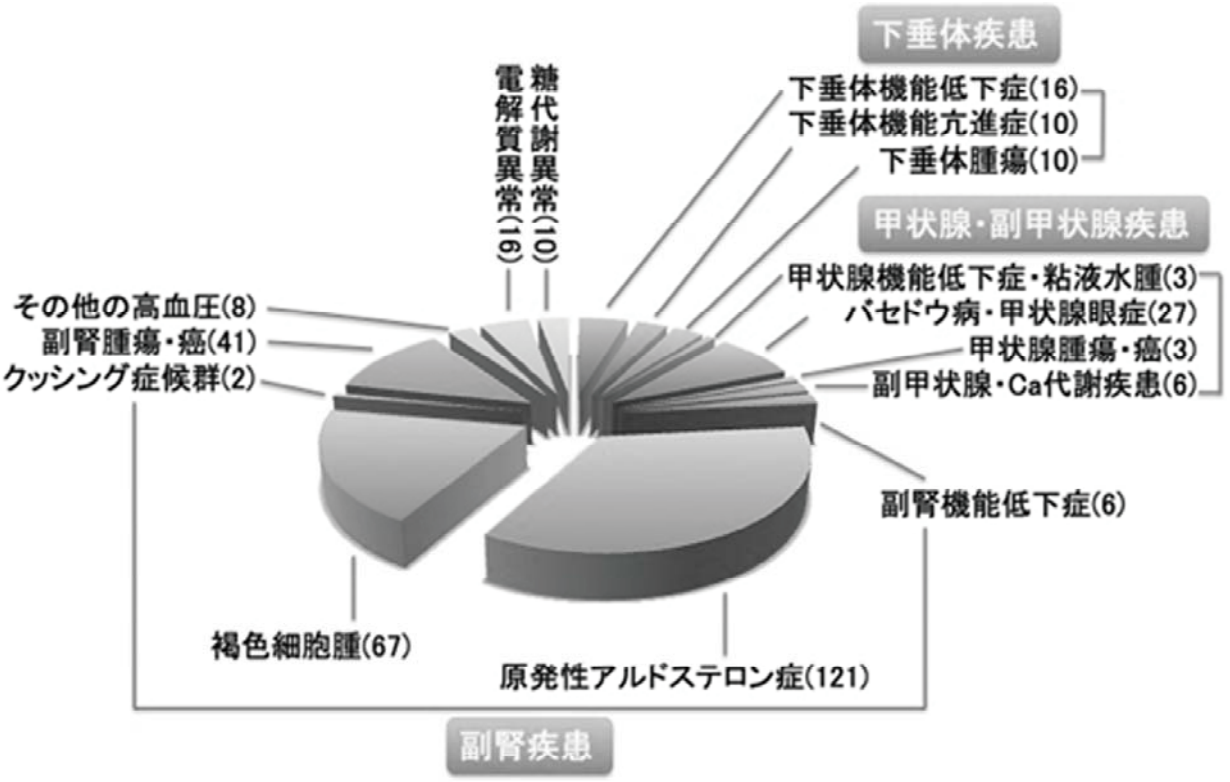
チェルノブイリ原発事故のデータから、小児甲状腺がんが増加するのは事故後4〜5年を経過して以降とされている。このことを踏まえつつ、事故直後に開始された先行検査は、福島第一原発事故後3年以内の小児の甲状腺の状態を把握することで、放射線被ばくによる影響が考えにくい時点での疾患の頻度を記録し、将来の健康管理の土台をつくることを目的としている。一方、事故後3年を経て開始される予定の本格検査は、放射線被ばくの影響についての追跡調査と健康管理を目的としている。平成25年現在行われているのは先行検査である。

先行検査はさらに、対象者全員に対して行われる一次検査と、一次検査で疑わしい所見のあった者に対してのみ行われる、診断確定のための二次検査で構成される。

一次検査は甲状腺エコー検査(超音波検査)である。二次検査は甲状腺エコー検査に加え、採血・尿検査が行われるほか、必要な場合は細胞診(甲状腺の細胞を採取して行う検査)が行われる。

京都医療センター内分泌・代謝内科では、京都府下への避難者（京都府内居住者）を対象に一次検査と二次検査を実施している。

	福島甲状腺エコー
2012年度	9件
2013年度	26件
2014年度	9件
2015年度	21件
2016年度	11件



□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題	学 会 名		
国際学会	Umakoshi, Naruse, Wada, Ichijo, Kamemura, Matsuda, Fujii, Kai, Fukuoka, Sakamoto, Ogo, Suzuki, Nanba, Tsuiki	Adrenal venous sampling in patients without primary aldosteronims.	ENDO 2016, the Endocrine Society's 98th Annual Meeting	Boston, USA	2016.4.1-2016.4.4
国際学会	Umakoshi, Naruse, Wada, Ichijo, Kamemura, Matsuda, Fujii, Kai, Fukuoka, Sakamoto, Ogo, Suzuki, Nanba, Tsuiki	Adrenal venous sampling in patients without primary aldosteronims.	17th International Congress of Endocrinol-ogy	Beijing, China	2016.8.31-2016.9.4
国際学会	Umakoshi, Xiaomeo, Ichijo, Kamemura, Matsuda, Fujii, Kai, Fukuoka, Sakamoto, Ogo, Suzuki, Ogasawara, Tsuiki, Naruse	Reassessment of the cosyntropin stimulation test in the confirmatory diagnosis and subtype classification of primary aldosteronism.	17th International Congress of Endocrinol-ogy	Beijing, China	2016.8.31-2016.9.4
国際学会	Umakoshi, Xiaomeo, Ichijo, Kamemura, Matsuda, Fujii, Kai, Fukuoka, Sakamoto, Ogo, Suzuki, Ogasawara, Tsuiki, Naruse	Reassessment of the cosyntropin stimulation test in the confirmatory diagnosis and subtype classification of primary aldosteronism.	RAAS 2016	Tokyo, Japan	2016.9.23-2016.9.24
国際学会	Ogasawara, Umakoshi, Wada, Ichijo, Kamemura, Matsuda, Fujii, Kai, Fukuoka, Sakamoto, Ogo, Suzuki, Tsuiki, Naruse	Clinical significance of adrenal computed tomography findings in young patients with primary aldosteronism.	RAAS2016	Tokyo, Japan	2016.9.23-2016.9.24
国際学会	Umakoshi, Tsuiki, Kurihara, Takeda, Ichijo, Wada, Katabami, Ogawa, Takahashi, Sone, Kawashima, Shibata, Yanase, Rakugi, Kamemura, Fujii, Naruse	Clinical significance of computed tomography and serum potassium in subtype classification of primary aldosteronism.	42nd International Aldosterone conference	Orlando, USA	2017.3.30-3.31
国際学会	Sasai, Umakoshi, Kurihara, Katabami, Yoshimoto, Wada, Ichijo, Sone, Kawasima, Takeda, Takahashi, Yamamoto, Kobayashi, Tsuiki, Naruse, JPAS group	Subtype diagnosis by adrenal vein sampling in patients with primary aldosteronism associated with autonomous cortisol secretion.	42nd International Aldosterone Conference	Orlando, USA	2017.3.30-207.3.31
国内学会	林 美沙, 二若 久美, 福田 佑紀, 小山 理恵, 今本 美幸, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	喫煙は甲状腺ホルモン作用に影響するか	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	馬越洋宜, 和田典男, 一城貴政, 松田祐一, 亀村幸平, 福岡富和, 小笠原辰樹, 立木美香, 成瀬光栄	非原発性アルドステロン症における副腎静脈血中アルドステロンの動態（ポスター）	第89回日本内分泌学会総会	京都	2016.4.21-2016.4.23
国内学会	垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	多発性内分泌腫瘍症1型の腫瘍発生機構に迫る	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	二若 久美, 田上 哲也, 林 美沙, 主田 綾佳, 根津 祥子, 小山 理恵, 福田 佑紀, 今本 美幸, 笠原 正登, 森山 賢治	成長ホルモンによるUncoupling protein(UCP)3遺伝子転写調節機構の解明	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	立木 美香, 馬越 洋宜, 広川 侑奨, 難波 多挙, 小笠原 辰樹, 垣田 真以子, 臼井 健, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症(PA)の副腎静脈サンプリング(AVS)による病型診断の再現性に関する検討	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23

国内学会	小笠原辰樹, 馬越洋宜, 一城貴政, 和田典男, 亀村幸平, 松田祐一, 福岡富和, 立木美香, 成瀬光栄	若年者原発性アルドステロン症の局在診断におけるCT所見の意義	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-2016.4.23
国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 辻村 隆司, 嘉田 真平, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	MMIで肝機能障害、PTUでCK上昇を認め、131I内用療法で甲状腺クリーゼをきたしたBasedow病の一例	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 辻村 隆司, 安里 亮, 森吉 弘毅, 島津 章	治療に難渋した甲状腺疾患　甲状腺C細胞過形成段階での甲状腺全摘術を施行したRET遺伝子変異保持者の二症例	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	立木 美香, 廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 垣田 真以子, 田上 哲也, 臼井 健, 島津 章, 猪飼 伊和夫, 笹野 公伸, 成瀬 光栄	診断・治療に苦労した副腎腫瘍　臨床と病理から　肝腫瘍との鑑別を要した副腎皮質癌の一例	第89回日本内分泌学会学術総会	京都	2016.4.21-23
国内学会	林 美沙, 二若 久美, 福田 佑紀, 小山 理恵, 今本 美幸, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	プロラクチンの代謝作用に関する基礎的検討	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都	2016.5.19-21
国内学会	横本真希, 金沢一平, 近藤しおり, 杉本利嗣	2型糖尿病患者における転倒リスクと脆弱性骨折の相互関連性	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都	2016.5.19-21
国内学会	横本真希, 金沢一平, 竹野歩, 田中賢一郎, 野津雅和, 杉本利嗣	骨細胞系ＭＬＯ-４細胞においてAMP-activated protein kinase活性化はメバロン酸経路を阻害することによりRANKL発現を減少させ、スクレロスチン発現を増加させる	第34回日本骨代謝学会	大阪	2016.7.21-7.23
国内学会	馬越洋宜, 一城貴政, 松田祐一, 藤井雄一, 福岡富和, 甲斐達也, 坂本竜一, 小河淳, 鈴木知子, 小笠原辰樹, 立木美香, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の機能確認と病型診断予測におけるACTH負荷試験の意義 (口演)	第39回日本高血圧学会総会	仙台	2016.9.30-2016.10.2
国内学会	田上 哲也	甲状腺ホルモン不応症：RTHβと RTHα	第59回日本甲状腺学会学術集会	東京	2016.11.3-5
国内学会	廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 横本 真希, 馬越 洋宜, 立木美香, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	油性ヨード造影剤による子宮卵管造影検査の半年後に甲状腺機能低下症をきたした妊婦の一例	第59回日本甲状腺学会学術集会	東京	2016.11.3-5
国内学会	山上 啓子, 角田 尚子, 関 香織, 埴岡 裕介, 中村 遼太, 中村 友之, 後藤 仁志, 吉田 陽子, 薬師寺 洋介, 細井 雅之, 田上 哲也, 浅原 哲子, 島津 章, 金本 巨哲	動悸、振戦が発見契機となった甲状腺ホルモン不応症の一例	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-19
国内学会	柏原 英里子, 横本 真希, 立木 美香, 廣嶋 佳歩, 小笠原辰樹, 馬越 洋宜, 浅原 哲子, 成瀬 光栄, 島津 章, 藤井友起子, 田上 哲也	高血圧性網膜症を契機に診断された傍神経節腫の一例	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-19
国内学会	小笠原 辰樹, 和田 典男, 一城 貴政, 福岡 富和, 坂本竜一, 小河 淳, 馬越 洋宜, 亀村 幸平, 立木 美香, 田上哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	若年者原発性アルドステロン症の局在診断におけるCT所見の意義	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-19
国内学会	馬越 洋宜, 一城 貴政, 福岡 富和, 坂本 竜一, 小河 淳, 亀村 幸平, 藤井 雄一, 小笠原 辰樹, 立木 美香, 田上哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症診断におけるACTH負荷試験の意義	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-19
国内学会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 横本 真希, 馬越洋宜, 立木 美香, 浅原 哲子, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上哲也	著明な甲状腺腫を呈した新生児Basedow病の一例	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-19
国内学会	小笠原　辰樹、馬越洋宜、一城貴政、和田典男、亀村幸平、坂本竜一、小河淳、松田祐一、藤井雄一、甲斐達也、福岡富和、鈴木知子、立木美香、成瀬光栄	若年者原発性アルドステロン症の局在診断におけるCT所見の意義	第26回臨床内分泌代謝Update	埼玉	2016.11.18-2016.11.19
国内学会	小笠原辰樹、廣嶋佳歩、馬越洋宜、立木美香、田上哲也、成瀬光栄、川端康弘、青木友和、森吉弘毅、増谷剛、井下尚子、島津章	ACTH依存性クッシング症候群における選択的静脈洞血サンプリングのピットフォール	第27回日本間脳下垂体腫瘍学会	東京	2017.2.24-2017.2.25
研究会	田上 哲也	生活習慣病と骨粗鬆症	第79回伏見医師学術講演会	京都	2016.5.14
研究会	廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 横本 真希, 馬越 洋宜, 立木美香, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	油性ヨード造影剤による子宮卵管造影検査の半年後に甲状腺機能低下症をきたした妊婦の一例	第16回京滋臨床甲状腺懇話会	京都	2016.7.9
研究会	笹井　有美子	甲状腺疾患診療のポイント　～橋本病と妊娠～	伏見内分泌代謝ネットワーク　第25回連携の会	京都	2016.7.23
研究会	横本 真希	骨粗鬆症診療のポイント	伏見内分泌代謝ネットワーク　第25回連携の会	京都	2016.7.23
研究会	小笠原 辰樹	高血圧診療のポイント	伏見内分泌代謝ネットワーク　第25回連携の会	京都	2016.7.23
研究会	成瀬 光栄	特別講演「副腎疾患診療と病診連携：新たな出発点」:	伏見内分泌代謝ネットワーク　第25回連携の会	京都	2016.7.23
研究会	垣田 真以子	女性の骨粗鬆症を考える	第7回京都医療センター医療連携フォーラム	京都	2016.9.3
研究会	廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 横本 真希, 馬越 洋宜, 立木美香, 笹井 有美子, 田上 哲也, 浅原 哲子, 成瀬 光栄, 島津 章	non-Langerhans cell histiocytosisに関連すると考えられる中枢性尿崩症の一例	第91回京都内分泌同好会	京都	2016.10.1
研究会	横本 真希	２型糖尿病患者における転倒リスクと脆弱性骨折の相互関連性	第２回Ｏｓｔｅｏｐｏｒｏｓｉｓ Seminar	京都	2016.11.10
研究会	馬越洋宜, 廣嶋佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 立木美香, 笹井有美子, 日下部徹, 浅原哲子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における　副腎静脈サンプリングの局在判定基準と 採血部位に関する検討	第2回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾	京都	2016.11.25
研究会	立木 美香	下垂体：出産後の・・・	伏見内分泌代謝ネットワーク　第26回連携の会	京都	2016.12.8

研究会	廣嶋 佳歩	甲状腺:不妊症で・・・	伏見内分泌代謝ネットワーク　第26回連携の会	京都	2016.12.8
研究会	馬越 洋宜	副　腎:医原性か・・・	伏見内分泌代謝ネットワーク　第26回連携の会	京都	2016.12.8
研究会	田上 哲也	骨粗鬆症治療における骨吸収抑制薬と顎骨壊死に関する最近の知見	京都府歯科医師学術講演会-第1回ARONJ Seminar	京都	2016.12.9
研究会	田上 哲也	甲状腺疾患の診断:検査の選び方と読み方	国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会	京都	2016.12.9
研究会	田上 哲也	骨吸収抑制薬と最近のトレンド～骨粗鬆症治療の立場から～	第2回ARONJ Seminar	京都	2016.12.15
研究会	笹井 有美子	Subtype Diagnosis by AVS in PA Patients with Autonomous Cortisol Secretion	Seminar for Young Endocrinologists 2017	京都	2017.1.5
研究会	笹井 有美子	Subtype Diagnosis by AVS in PA Patients with Autonomous Cortisol Secretion	JPAS Research Progress Seminar 2017	東京	2017.1.7
研究会	笹井 有美子、廣嶋 佳歩、小笠原 辰樹、横本 真希、馬越 洋宜 、立木 美香、日下部 徹、浅原 哲子、成瀬 光栄、島津 章、田上 哲也	TSH産生が疑われた下垂体腫瘍の一例	第39回京都甲状腺研究会	京都	2017.1.21
研究会	横本　真希	骨粗鬆症update	平成28年度　内分泌代謝性疾患専門医研修会	京都	2017.2.2
研究会	田上 哲也	保険診療を踏まえた甲状腺疾患の診かた	第2回内分泌・代謝疾患連携セミナー	大阪	2017.2.16
研究会	馬越 洋宜, 広川 侑奨, 廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 横本 真希, 立木 美香, 笹井 有美子, 日下部 徹, 浅原 哲子, 島津 章, 田上 哲也, 成瀬 光栄	腫瘍枝の同定に苦慮したアルドステロン産生腺腫の１例	第92回京都内分泌同好会	京都	2017.3.4

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ			出版社
J Gen Fam Med	Tagami T, Tsuiki M, Nakao K, Nakatani R, Kakita M, Ueda Y, Matsuo N, Usui T, Naruse M, Shimatsu A.	Specific Symptoms of Thyrotoxicosis in Japanese Patients: A Reevaluation of Classical Symptoms in Modern Thyroid Function Tests	17	3	225-231	
J Biomed Sci	Fan Y, Futawaka K, Koyama R, Fukuda Y, Hayashi M, Imamoto M, Miyawaki T, Kasahara M, Tagami T, Moriyama K.	Vitamin D3/VDR resists diet-induced obesity by modulating UCP3 expression in muscles.	23	56	1-12	
J Mol Endocrinol	Futawaka K, Tagami T, Fukuda Y, Koyama R, Nushida A, Nezu S, Yamamoto H, Imamoto M, Kasahara M, Moriyama K.	Transcriptional activation of the wild-type and mutant vitamin D receptors by vitamin D3 analogs.	57	1	23-32	
Growth Horm IGF Res	Futawaka K, Tagami T, Fukuda Y, Koyama R, Nushida A, Nezu S, Imamoto M, Kasahara M, Moriyama K.	Growth hormone regulates the expression of UCP2 in myocytes.	29		57-62	
Endocr J	Futawaka K, Tagami T, Fukuda Y, Koyama R, Nushida A, Nezu S, Imamoto M, Kasahara M, Moriyama K.	Growth hormone regulates the expression of UCP2 in myocytes.	63	3	221-229	
Endocr Res	Moriyama K, Yamamoto H, Futawaka K, Atake A, Kasahara M, Tagami T.	Molecular characterization of human thyroid hormone receptor β isoform 4.	41	1	34-42	
Clinical Endocrinology	Umakoshi H, Yang X, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Ogasawara T, Tsuiki M, Naruse M	Reassessment of the Cosyntropin Stimulation Test in the Confirmatory Diagnosis and Subtype Classification of Primary Aldosteronism.	86	2	170-176	
Clinical Endocrinology	Shibayama Y, Wada N, Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M	Bilateral aldosterone suppression and its resolution in adrenal vein sampling of patients with primary aldosteronism: Analysis of data from WAVES-J study.	85	5	696-702	
Hypertension	Umakoshi H, Naruse M, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M.	Adrenal venous sampling in patients with positive screening but negative confirmatory testing for primary aldosteronism.	67	5	1014-1019	
Endocr J	Takeno A, Kanazawa I, Tanaka K, Notsu M, Yokomoto-Umakoshi M, Sugimoto T.	Simvastatin rescues homocysteine-induced apoptosis of osteocytic MLO-Y4 cells by decreasing the expressions of NADPH oxidase 1 and 2	25	63	389-395	
Calcif Tissue Int	Notsu M, Kanazawa I, Yokomoto-Umakoshi M, Tanaka KI, Yamaguchi T, Sugimoto T	Advanced Glycation End Product (AGE3) increases apoptosis and the expression of sclerostin by stimulating TGF-β expression and secretion in osteocyte-like MLO-Y4-A2 cells.			In press	
成長科学協会研究年報	森山 賢治, 二若 久美, 田上 哲也	合成活性型ビタミンD3によるII型クル病の成長改善効果	39		147-152	成長科学協会

内分泌・糖尿病・代謝内科	成瀬 光栄, 田辺 晶代, 立木 美香, 馬越 洋宜, 笹井 有美子, 横本 真希, 田上 哲也	【内分泌癌の診断と治療の進歩】 悪性褐色細胞腫の新しい薬物治療	43	5	390-394	科学評論社
Medicina	田上 哲也	【内分泌疾患を診きわめる】 内分泌偶発腫の取り扱い 内分泌偶発腫(インシデンタローマ)の取り扱い 下垂体,甲状腺,副腎	53	13	2226-2230	医学書院
Medicina	小林[垣田]真以子, 田上 哲也	【内分泌疾患を診きわめる】 内分泌性○○病(症)の見つけ方 内分泌性骨粗鬆症	53	13	2223-2225	医学書院
Medicina	馬越 洋宜, 田上 哲也	【内分泌疾患を診きわめる】 副腎疾患 ホルモン過剰症 副腎皮質機能亢進症 原発性アルドステロン症 特発性アルドステロン症を含む	53	13	2203-2207	医学書院
Medicina	田上 哲也	【内分泌疾患を診きわめる】 甲状腺疾患 ホルモン抵抗症 甲状腺ホルモン不応症	53	13	2178-2183	医学書院
Medicina	小笠原 辰樹, 田上 哲也, 島津 章	【内分泌疾患を診きわめる】 下垂体疾患 ホルモン過剰症 下垂体前葉機能亢進症Cushing病と異所性ACTH産生腫瘍	53	13	2086-2090	医学書院
Medicina	田上 哲也	【内分泌疾患を診きわめる】 ホルモン作用からみた症候	53	13	2082-2085	医学書院
Medicina	田上 哲也, 菅原 明, 方波見 卓行, 廣嶋 佳歩	【内分泌疾患を診きわめる】 内分泌疾患診療のコツ	53	13	2072-2080	医学書院
循環器内科	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 小笠原 辰樹, 田上 哲也, 島津 章	原発性アルドステロン症の外科的治療と内科的治療の選択	79	5	479-481	科学評論社
Hospitalist	田上 哲也	【代謝内分泌】甲状腺検査の読み方 血液検査、画像検査の選択と解釈、ピットフォール	4	1	31-40	メディカル・サイエンス・インターナショナル
日本内分泌学会雑誌	廣田 圭昭, 垣田 真以子, 安田 謙, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 横田 美樹, 中谷 理恵子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 青木 友和, 臼井 健, 島津 章	両側難治性中耳炎と中枢性尿崩症を呈したANCA関連血管炎性肥厚性硬膜炎・下垂体炎の一例	91	Supple.	32-34	日本内分泌学会
内分泌・糖尿病・代謝内科	田上 哲也, 島津 章	【分子メカニズム解明がすすむ内分泌疾患】先端巨大症	42	3	191-196	科学評論社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	甲状腺ホルモンの基礎知識			162-163	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	Basedow病			172-179	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	慢性甲状腺炎（橋本病）			183-186	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	粘液水腫性昏睡			187-189	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	薬剤誘発性甲状腺機能異常			205-207	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	Column「BMIの話-ウルトラマンの場合-」			102	診断と治療社
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第４版	田上 哲也	Column「アミオダロン誘発性甲状腺機能異常症」			207	診断と治療社
甲状腺専門医ガイドブック	田上 哲也	甲状腺ホルモン受容体異常症			301-306	診断と治療社
今日の臨床サポート	田上 哲也	甲状腺機能低下症			オンライン	Elsevier Japan KK
ファーマーナビゲーター抗RANKL抗体編Chapter6 Question & Answer	横本真希、山口徹	デノスマブとテリパラチドの併用は単独投与と比べて有用でしょうか？			401-403	メディカルレビュー社
臨床泌尿器科	立木美香, 馬越洋宜, 成瀬光栄	褐色細胞腫	70	4	124-126	医学書院
ホルモンと臨床	立木美香, 馬越洋宜, 横本真希, 廣嶋佳歩, 小笠原辰樹, 田辺晶代, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	妊娠時の原発性アルドステロン症の診断と治療	62	7	571-574	医学の世界社

□ 内分泌・甲状腺・高血圧外来　平成28年度看護概況内容

●平成24年12月より内分泌・甲状腺外来から内分泌・甲状腺・高血圧外来に名称が変り、高血圧の初診患者を全て当科で対応することとなった。

●内分泌・甲状腺・高血圧センターは、小児から高齢者と年齢層も幅広く、また疾患も多岐にわたる。

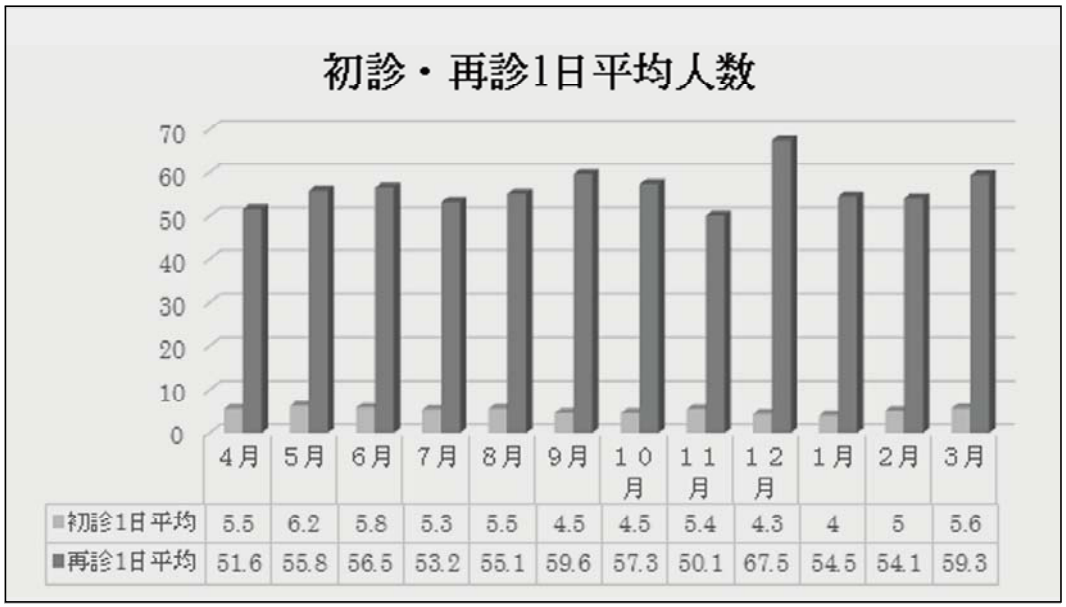
●治療方針や診断確定のために外来での安静採血や負荷試験、検査入院が必要となることが多い。

●平成25年1月より、東日本大震災で被災し福島県より避難された放射能影響の可能性がある小児を対象にした甲状腺エコーの協力施設となり、木曜日と金曜日に福島エコー枠を設け実施している。

●平成29年1月より骨粗鬆症・サルコペニア専門外来が開設され、主に整形外科・婦人科・健診センター・他院からの紹介を受け、診断と治療を行っている。

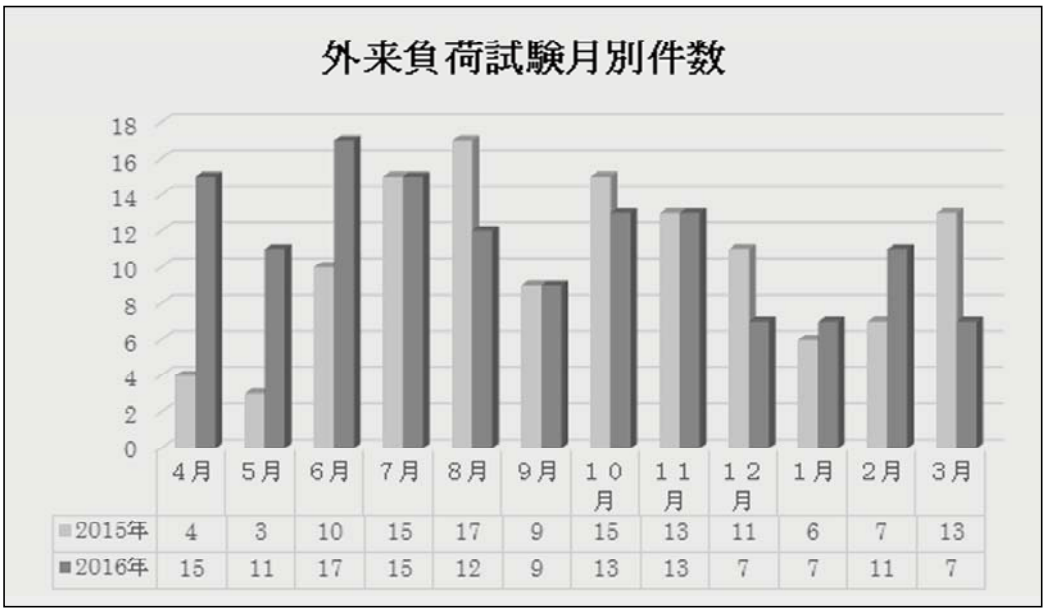
●内分泌・甲状腺・高血圧外来では負荷試験や検査に不安をもったり苦痛をともなったりしないように精神的なフォローに努めている。

●疾患によっては服薬や自己注射など長期にわたってコントロールを必要とするため、(外来→入院→外来と)継続した関わり、患者の立場に立った援助が行えるように日々心がけている。
●他院で検査を受け甲状腺疾患を指摘されたり、下垂体疾患で治療中だが専門医での治療目的、高血圧で降圧剤を服用するがコントロールが悪く紹介状を持参されたりして受診される患者が多い。



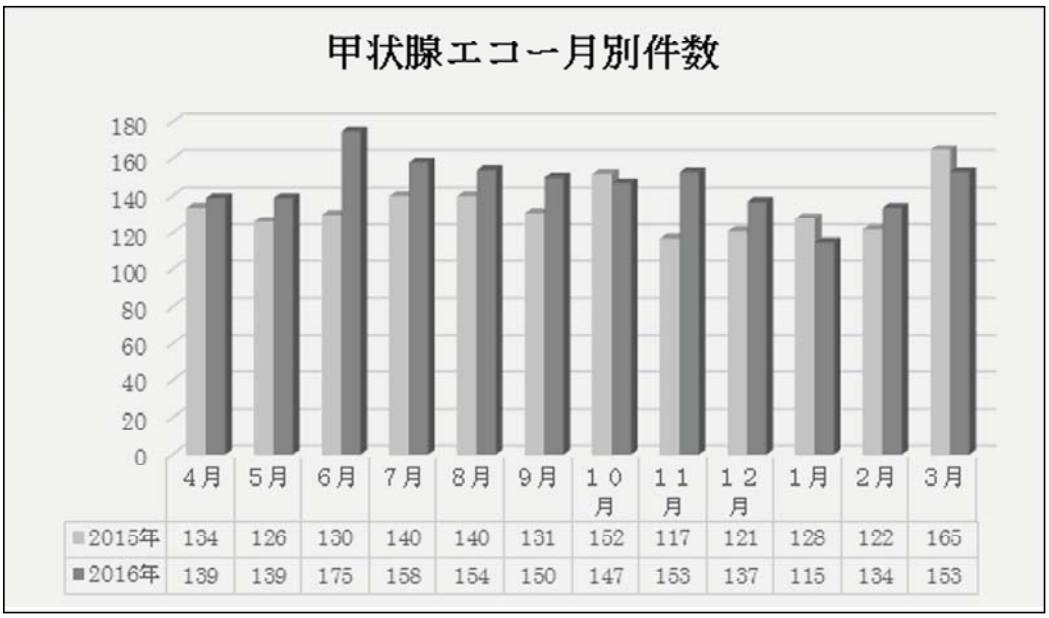
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■初診1日平均	5.5	6.2	5.8	5.3	5.5	4.5	4.5	5.4	4.3	4	5	5.6
■再診1日平均	51.6	55.8	56.5	53.2	55.1	59.6	57.3	50.1	67.5	54.5	54.1	59.3

●高血圧疾患が増加しており副腎偶発腫瘍や原お圧性アルドステロン症などの鑑別疾患や下垂体疾患評価目的で外来において安静採血や負荷試験を実施している。安静採血はベッドに30分安静になった状態で採血を行っている。
●下垂体疾患では成長ホルモンの筋肉注射が多い。油性のため調整時、注射時は慎重を要する。成長ホルモン自己注射導入では若い患者さんが多いため外来受診時に患者さんとその家族に継続的に関わりがもてるように心がけている。

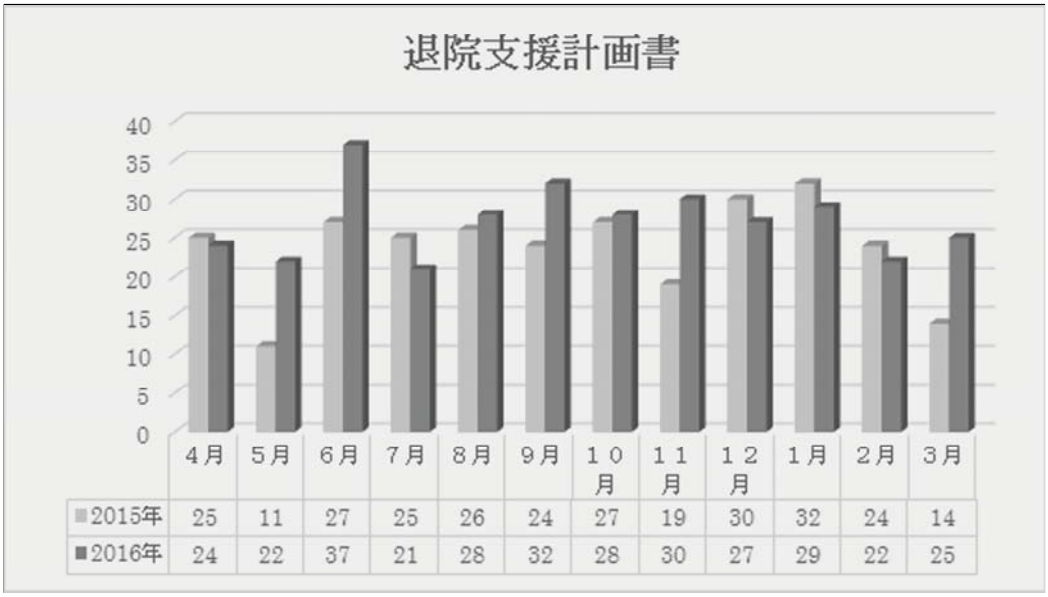


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■2015年	4	3	10	15	17	9	15	13	11	6	7	13
■2016年	15	11	17	15	12	9	13	13	7	7	11	7

●甲状腺エコーの細胞診検査は穿刺への恐怖と不安感がみられるためできるだけ付き添い状態把握に努めている。
●福島甲状腺エコーでは2歳から21歳までの若年者が受診される。東日本大震災において福島で被災し原発の影響に不安を抱えて来院される両親が多く、また実際に検査を受けるのは乳幼児が多いため検査が不安無くスムーズに進むように心がけている。



●2012年11月より活用になった退院支援計画書は入院説明時に記載し、支援必要患者には自宅での状況やサービスの使用状況、介護保険の申請状況等を確認しカルテ記載するようにして、病棟との連携がはかれるようにしている。
●退院時次回受診時の説明や退院後の指導も行えるときは病棟に出向いて行っている。



（内分泌・甲状腺・高血圧センター看護師　細井 静香）

糖尿病センター(糖尿病内科)



診療科長
(外来部門)
山田　和範

専門医資格等
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　糖尿病



診療科長
(入院部門)
河野　茂夫

専門医資格等
　日本糖尿病学会
　糖尿病専門医・研修指導医
　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
　日本糖尿病学会　評議員
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

医長
中川内　玲子

専門医資格等
　日本糖尿病学会
　糖尿病専門医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	村田　　敬	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医　　師	小鳥　真司	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医 日本抗加齢医学会専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊　知一	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子	日本内科学会　認定内科医 日本抗加齢学会　専門医 日本医師会認定　産業医	糖尿病	糖尿病
レジデント	岡田　早未	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
レジデント	塚本　雅美	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌

内分泌代謝高血圧研究部長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本抗加齢医学会　専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医 日本糖尿病学会近畿支部　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科
予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病
臨床内分泌代謝（専任）研究室長	日下部　徹	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌
非常勤医師	小谷　和彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 日本動脈硬化学会　専門医 自治医科大学医学博士	糖尿病	脂質異常症、糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院

1．生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます

2．地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症（眼科）、妊婦糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療（業務）内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来　毎週月曜日14時～/フットセンター外来　毎週火曜日14時～(2000年開設)フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回：木曜日13時～16時　完全予約制)フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Örthopedic Shoe Meister)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来（2005年開設）毎週火曜日午前・午後、金曜日の午前。/インスリンポンプ外来（2010年開設）毎週月曜日の午後。

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師がチームを組み、療養を支援。特に、通常の食事に合わせてインスリンを調節するカーボカウント、寝る前の修正インスリンと補食による夜間高血糖と夜間低血糖予防、DKAや重症低血糖予防などの教育で、血糖変動をなるべく少なくする質の良い血糖コントロールの達成と生活の質（QOL）の改善を目指している。糖尿病センターに登録されている1型糖尿病患者は310名。インスリンポンプを用いた持続皮下インスリン注入（CSII）療法を行っている者は81名（新規導入8名）。その中で、SAP（パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ）を用いている者は25名。2016年度の1型糖尿病外来の初診患者は19名である。

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～14時

肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。

また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会（患者会）を定期的に開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで延べ15,000人以上の患者治療を行ってきた。

・脂質異常症外来（2005年開設）第2,3,4木曜日。2015年3月末現在、家族性コレステロール血症（FH、108例）、高LDL-コレステロール血症（411例）、高トリグリセライド血症（290例）、高LDL-コレステロール血症＋高トリグリセライド血症（167例）、

低HDL-コレステロール血症（64例）。FH診療認定施設（2013年～：日本動脈硬化学会）で、PCSK9阻害薬の使用も開始。CPK上昇例やスタチン関連自免疫性ミオパチーなどスタチン副作用症例への対応も行っている。高脂血症療養指導外来（2006年開設）を併設し、食事によるコレステロール改善プログラム（VIPプログラム）と節酒による中性脂肪改善プログラム（HAPPYプログラム）を提供している。

・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)第2,4火曜及び毎週金曜日13時～15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2016年度当外来を受診した新規患者数は74名であった。

・糖尿病血管合併症外来/毎週金曜日13時～16時　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。

・糖尿病透析予防指導外来　(2012年10月開設)　糖尿病腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっていて、現在3回シリーズとして指導を実施している。

さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で看護部、薬剤部、栄養科、検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
15.3名	348名	16.1日

外来患者数

1日平均患者数
96.6名

主な手術・検査の件数など

CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)
29件	251件	62件

□ 地域医療連携・広報活動

・糖尿病センターだより（糖尿病センター広報誌）：2008年4月に糖尿病センター創立40周年を記念して発刊された患者向け広報誌。2016年度は36、37、38号を発刊。

・糖友会（患者会）：日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者会として昭和36年に発足した。2016年度総会は2016年11月26日に伏見の松廣で開催された(参加者23名)。

・糖尿病市民公開講座「第31回DM京都」出来ることからやってみよう　～効果的な食事療法について～
2016年7月30日　参加者　約100名
特別講演　「出来ることからやってみよう～効果的な食事療法について～」
講師：関西電力病院　糖尿病・代謝・内分泌センター　黒瀬　健センター長
講演　できることから備えよう～旅行・シックディ・災害時に必要な療養行動について～
2-8病棟　柴田　美歩　看護師・糖尿病療養指導士
講演　「糖尿病患者さんにおけるタイプ別の食事療法について
～当院の現状と課題～」　岡田　伶奈　栄養管理室・管理栄養士

・京都医療センター糖尿病フットケア実践講座 2016年10月16日13：00～15：30
参加者　約60名　本院と透析施設との医療連携ネットワークを構築し、患者の紹介・逆紹介の促進を図る目的で透析施設の医療従事者を対象として「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」と「糖尿病合併症管理料」の算定に必要な診療技術（糖尿病フットケア）に関する実践講座を開催。本院で実施している糖尿病フットケア技術に関して河野茂夫診療科長、泉有紀米国足病医、大井雅之義肢装具士による紹介・解説および質疑応答。

・第13回京都医療センター1型糖尿病セミナー「先進糖尿病治療と患者支援」、2017年3月12日（日）
11:00-15:00、参加者　67名、先進糖尿病治療に必要な患者支援につき神戸大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科助教の廣田勇士先生、国立病院機構大阪医療センター糖尿病内科医師の加藤研先生、武居小児科医院院長の武居正郎先生、南昌江内科クリニック院長の南昌江先生、愛生会山科病院糖尿病内科部長の神内謙至先生、土浦協同病院代謝・内分泌内科科長の神山隆治先生を招聘して研修会を開催。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者　・　演　題　・　学　会　名
国内学会	浅原哲子　生活習慣病における魚油・ω3 脂肪酸の意義　第20回日本病態栄養学会　京都
国内学会	上ノ町かおり、小鳥真司、西田博樹、日下部徹、浅原哲子、大谷哲之、猪飼伊和夫、島津章、河野茂夫　高齢社会におけるリフィーディング症候群発症防止のための栄養療法の意義　第20回日本病態栄養学会　京都
国内学会	小鳥真司、日下部徹、浅原哲子、大谷哲之、島津章、河野茂夫　短期間の外来での食事療法によって大幅な減量と2型糖尿病および脂肪肝の顕著な改善を認めた肥満症の一例　第20回日本病態栄養学会　京都
国内学会	浅原哲子、田中将志、山陰一、島津章　肥満症の心血管疾患発症における単球M1/M2形質の病態生理学的意義-肥満症コホート研究-　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	真田樹義、宮地元彦、石井好二郎、浅原哲子　サルコペニア肥満の診断と体力及び生活習慣病発症リスク 第37回日本肥満学会　東京

国内学会	山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　CAVIは肥満症患者の心血管疾患発症予測マーカーとなる-多施設共同前向き肥満症コホート-　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	増田慎也、田中将志、井上隆之、北野隆司、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　飽和脂肪酸負荷に伴うマイオカインCXCL1分泌は筋細胞分化を促進させる　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	福田宗孝、湯澤章、浅原哲子、山陰一、真田樹義、石井好二郎　肥満者の心拍変動自律神経活動の変化と肥満症の進行は関連する　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	湯澤章、福田宗孝、真田樹義、浅原哲子、山陰一、渡邊裕也、石井好二郎　肥満者における骨格筋量とメタボリックシンドローム(Mets)リスク項目の推移の縦断的検討　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	北野隆司、橋本惠以、中元昌広、古川祐一、星澤奈央子、前田仁美、桝田哲哉、北畠直文、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、村中和哉、島津章、谷史人、浅原哲子　熱ショックタンパク質HSPを介したT細胞の機能制御による腸管の慢性炎症改善の可能性　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	古嶋大詩、石井好二郎、浅原哲子、真田樹義　日本人成人肥満男女を対象としたサルコペニア簡易評価法の開発　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	上ノ町かおり、西田博樹、浅原哲子　チーム医療によるメタボ対策レシピ本・お弁当本の刊行とその減量治療効果　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、和田啓道、長谷川浩二、荒木里香、的場ゆか、齋藤美穂、長岡匡、米澤一也、田中剛史、大谷すみれ、澤村守夫、西村元伸、島津章、浅原哲子　肥満・糖尿病における認知症予知バイオマーカーの探索-血清TREM2の病態意義-　第37回日本肥満学会　東京
国内学会	井上隆之、田中将志、増田慎也、山陰一、北野隆司、村中和哉、和田啓道、長谷川浩二、島津章、浅原哲子　活性化ミクログリアにおけるSIRT1を介したω3不飽和脂肪酸による炎症抑制作用機序の解明　第37回日本肥満学会　東京
研究会発表	浅原哲子　チーム医療による効果的な食事療法のアプローチ-メタボ対策レシピからの学習-　第4回デュアルインピーダンス法を用いた内臓脂肪測定法研究会　京都
国際学会	Kitano R, Hashimoto K, Nakamoto M, Furukawa Y, Hoshizawa N, Maeda H, Masuda T, Kitabatake N, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Muranaka K, Shimatsu A, Tani F, Satoh-Asahara N Novel Mechanisms to Suppress Systemic Chronic Inflammation by the Gut Microbiota-derived Heat Shock Protein through Regulation of Intestinal Immunity 第21回アディポサイエンスシンポジウム　大阪
国内学会	浅原哲子　楽しく痩せる、楽して痩せるを科学する　SY02-1チーム医療の実効性と減量持続効果-HPAaxis活性とストレスマネジメント-　第16回日本抗加齢医学会総会　神奈川
国内学会	浅原哲子、田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章　GLP-1 受容体作動薬による単球・マクロファージのオートファジー誘導を介した硬動脈硬化作用　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国内学会	山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　国立病院機構多施設共同肥満症コホートにおける心血管イベント発症予知因子としての新規動脈硬化指標・CAVIの有用性　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国内学会	田中将志、増田慎也、山陰一、佐々木洋介、村中和哉、和田啓道、長谷川浩二、塚原徹也、島津章、浅原哲子　糖尿病における末梢血単球と頸動脈プラーク浸潤マクロファージのM1/M2形質連関　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国内学会	増田慎也、田中将志、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　パルミチン酸負荷による筋管細胞のCXCケモカイン分泌とその機能の解明　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国内学会	浅原哲子、田中将志、増田慎也、山陰一、村中和哉、松尾禎之、猪飼伊和夫、畑啓昭、井上真由美、全泰和、島津章　肥満に伴う内臓・皮下脂肪蓄積における線維化関連因子・トロンボスポンジン-1の病態生理学的意義　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	浅原哲子、臼井健、島津章　腸内細菌と肥満症-エクオールの関与-　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	山陰一、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　CAVIは肥満症患者の心血管疾患発症予測マーカーとなる-多施設共同肥満症コホートにおける心血管イベント発症追跡-　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
国際学会	増田慎也、田中将志、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　パルミチン酸負荷による筋管細胞のCXCケモカイン発現の変動とその生理的意義　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、和田啓道、長谷川浩二、島津章、浅原哲子　肥満症では単球のGLP-1受容体を介したオートファジー誘導と泡沫化抑制作用が障害される　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
研究会発表	浅原哲子　チームで取り組む効果的な肥満症治療　第39回糖尿病治療研究会　京都
国内学会	小鳥真司、水谷結香子、渡邊知一、村田敬、中川内玲子、山田和範、浅原哲子、島津章、清野裕、梶尾裕、河野茂夫　西太平洋地域におけるガス産生性糖尿病足壊疽症例の検討―国際多施設共同研究―　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国際学会	河野茂夫 Education programme on the Diabetic Foot in the Western Pacific.　The 16th Malvern Diabetic Foot Conference　Mrlvern,UK
国内学会	河野茂夫、寺師浩人、日高寿美、溝上祐子、竹内一馬、河辺信秀、渥美義仁 糖尿病足病変とフットケア　第59回　日本糖尿病学会年次学術集会　京都府京都市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際とトピックスー糖尿病足病変国際ガイドライン2015からー　第９回フットケアセミナー　愛知県名古屋市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際ー国際ガイドライン2015のトピックス　第13回乙訓糖尿病懇話会　京都府京都市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際とトピックス-糖尿病足病変国際ガイドライン2015から-　坂口糖尿病懇話会　兵庫県尼崎市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変の治療と最新動向　第12回　広島実践フットケア研究会　第６回講演会　広島県広島市

教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際とトピックス-国際ガイドライン2015より-　第14回道南フットケア研究会　北海道函館市
国際学会	河野茂夫　Dianbetic Foot Problems and Education Proguramme on the Diabetic Foot in Western Paciffic Region　11ｔｈ　IDF-WPR Congress 2016&8th AASD Scientific Meeting　台湾 台北
国際学会	河野茂夫 Foot care in WPR -screening,prevention,and treatment　11ｔｈ　IDF-WPR Congress 2016&8th AASD Scientific Meeting　台湾　台北
研 究 会	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際のトピックス　日本糖尿病学会　中国四国地方会第54回総会　高知県　高知市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際のトピックス　第14回生活習慣予防講演会　岐阜県岐阜市
研 究 会	河野茂夫　糖尿病フットケア外来の現状と今後の対策　第51回糖尿病学の進歩　京都府京都市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療のトピックスと実際　泉州糖尿病Up to Date 2017　大阪府和泉市
国内学会	岡田早未、寺見隆宏、渡邉聡子、須藤梨沙、太田徹、梶谷展生、伊勢田泉、肥田和之　糖毒性状態においてシタグリプチンからカナグリフロジンへの切り替えが糖・脂質代謝、細胞内エネルギー動態に及ぼす効果の検討　第59回日本糖尿病学会年次学術集会　京都
国内学会	岡田早未、中川内玲子、小鳥真司、塚本雅美、渡邊知一、村田敬、山田和範、浅原哲子、島津章、荒田順、河野茂夫　右踵底部慢性潰瘍に右踵骨骨折と左足趾骨髄炎を合併し、保存的治療した2型糖尿病の1例　第53回日本糖尿病学会近畿地方会　大阪
研究会発表	日下部徹、浅原哲子　メタボリックシンドロームから見た高尿酸血症　高尿酸血症フォーラム～新たな治療展開を考える～　京都
国内学会	日下部徹　レプチンのトランスレーショナルリサーチ　第20回　日本心血管内分泌代謝学会学術総会　東京
研 究 会	日下部徹　レプチンを用いた肥満症、糖尿病に対する新しい治療法の開発　平成28年度　京都成人血管病シンポジウム　京都
研 究 会	日下部徹、山陰一、島津章、浅原哲子　日本人糖尿病の合併症重症化予防の為の効果的治療戦略・医療連携体制の構築：多施設共同研究（JOMS/J-DOS2/J-DEFENS研究）第1回　糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ研究会　東京都
国内学会	日下部徹、田中智洋、宮澤崇、青谷大介、野口倫生、阿部恵、海老原健、中尾一和　AGPAT2遺伝子変異による脂肪萎縮症～我が国における先天性全身性脂肪萎縮症の遺伝子解析　第37回日本肥満学会　東京
研究会発表	日下部徹　脂肪萎縮症から学ぶ肥満症の本態　第1回　内分泌代謝トランスレーショナル医学塾　京都
研究会発表	浅原哲子　内分泌代謝の臨床研修拠点としての京都医療センターの将来 第1回　内分泌代謝トランスレーショナル医学塾　京都
国際学会	Takashi Murata, Munehide Matsuhisa, Akio Kuroda, Masao Toyoda, Yushi Hirota, Ken Kato, Hideaki Sawaki, Atsuhito Tone, Satoshi Kawashima, Akira Okada, Naoki Sakane　PREDICTIVE FACTORS OF THE ADHERENCE TO THE REAL-TIME CGM SENSORS: A PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY (PARCS STUDY): STUDY DESIGN　10th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes　Paris (France)
国内学会	村田敬　シンポジウム17　内分泌代謝疾患の移行期医療　1型糖尿病の成人移行にまつわる現状と課題　–内科の立場から-　第89回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	村田敬　シンポジウム26　テクノロジーの進歩がもたらす光と影　先進糖尿病治療領域における生命倫理　第59回日本糖尿病学会学年次学術集会　京都
国内学会	村田敬、河口八重子、岡田浩、山本利恵、吉岡ふみ、渡邊知一、水谷結香子、小鳥真司、中川内玲子、浅原哲子、河野茂夫、山田和範、坂根直樹　持続皮下インスリン注入療法(CSII)導入が1型糖尿病患者の体重に与える影響　第59回日本糖尿病学会学年次学術集会　京都
国内学会	Tomokazu Watanabe, Takashi Murata, Yukako Mizutani, Hayami Okada, Masami Tsukamoto, Shinji Odori, Reiko Nakagawachi, Fumi Yoshioka, Kazunori Yamada, Shigeo Kono, Akira Shimatsu, Noriko Satoh-Asahara, Naoki Sakane　Diagnostic accuracy of anti-GAD antibody in type 1 diabetes mellitus: comparison between ELISA and RIA　第70回国立病院総合医学会　宜野湾
研 究 会	村田敬、二連木　晋輔、坂根直樹、黒田暁生、難波光義、小林哲郎　日本先進糖尿病治療研究会によるインスリンポンプに使用する電池に関する調査　第16回日本先進糖尿病治療研究会　横浜
研 究 会	村田敬、坂根直樹、渡邊　知一、水谷　結香子、河口八重子、吉岡ふみ、岡田浩、小久保敦子、上ノ町かおり、繁井三智子、山地聡子、山本利恵、小鳥真司、中川内玲子、浅原哲子、河野茂夫、山田和範　1型糖尿病患者における摂食障害の有病率とNST介入・家族支援・ピアカウンセリングの重要性　第22回小児・思春期糖尿病研究会　大阪
研 究 会	村田敬、津崎こころ、渡邊知一、水谷結香子、岡田早未、塚本雅美、小鳥真司、中川内玲子、吉岡ふみ、河野茂夫、山田和範、島津章、浅原哲子、坂根直樹　１型糖尿病診断のためのELISA法およびRIA法による抗GAD抗体の診断精度の比較　第14回1型糖尿病研究会　徳島
研 究 会	塚本 雅美、村田 敬、栗田 康弘、斉ノ内 信、渡邊 知一、水谷 結香子、中川内 玲子、坂根　直樹、村瀬　永子、河野 茂夫、山田 和範 インスリンポンプ使用中に非痙攣性てんかん重積状態を合併した1型糖尿病患者の1例　第53回日本糖尿病学会近畿地方会　大阪
研 究 会	村田敬、松久 宗英、黒田暁生、豊田 雅夫、廣田勇士、加藤研、澤木秀明、利根淳仁、川嶋聡、坂根直樹　リアルタイム持続血糖測定器(CGM)センサーのアドヒアランス予測因子に関する前向き観察研究:研究デザイン　第16回日本先進糖尿病治療研究会　横浜
研究会発表	村田敬　センサー付きインスリンポンプ(SAP)療法の実際　第32回京都糖尿病教育研究会　京都
研究会発表	村田敬　1型糖尿病の最新治療について 第5回近畿学術集会　京都
研究会発表	村田敬　インスリン療法にまつわる心理・社会的な要因　～SAPからプレフィルド製剤まで～　東海大学スモールミーティング　東京
研究会発表	村田敬　低血糖予防に配慮した糖尿病治療　伏見医師会ランチョンセミナー　京都
教育講演	村田敬　糖尿病患者における低血糖の早期発見と適切な対処の重要性　メドトロニックメディアセミナー　京都
教育講演	村田敬　基礎インスリンをうまく調節するコツ　～インスリン療法の土台を安定させるために～　第4回つくば3C研究会　土浦

国際学会	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Nagai N, Moritani T, Egawa K, Yoshimura M, Kitagawa Y, Shibata H. Eating behavior associated with weight regain after dietary intervention in obese female. The XIII International Congress on Obesity (ICO) Vancouver, Canada
国内学会	坂根直樹, 二連木晋輔, 津崎こころ, 大谷良. アルツハイマー病および軽度認知障害におけるアポリポ蛋白と認知機能との関連 第35回 日本認知症学会 東京
国内学会	吉岡ふみ, 村田敬, 山田和範, 津崎こころ, 河口八重子, 二連木晋輔, 山本利恵, 岡田浩, 渡邊知一, 水谷結香子, 米本俊良, 佐伯邦雄, 吉岡宗, 坂根直樹. 成人1型糖尿病女性におけるPTH分泌の役割 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 京都
国内学会	村田敬, 二連木晋輔, 坂根直樹, 黒田暁生, 難波光義, 小林哲郎. 日本先進糖尿病治療研究会によるインスリンポンプに使用する電池に関するアンケート調査 第16回日本先進糖尿病治療研究会 横浜
国際学会	Fujiwara S, Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N. Gait speed as a predictor of all-cause mortality in community-dwelling elderly people in Japan: Themima cohort study. 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress Taiwan, Taipei
国際学会	Sukino S, Nirengi S, Tsuzaki K, Kawaguchi Y, Sakane N. The effect of Vitamin D-rich diet on Advanced Glycation End Products in Overweight and obese Women: VINTAGE trial 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress Taiwan, Taipei
国際学会	Okada H, Nakagawa Y, Sakane N. The validation of the community pharmacists' motivation to lifestyle support for diabetics: The effect of "3 star pharmacists training program" 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress Taipei, Taiwan
国際学会	Yamada S, Nakashima K, Abe K, Morisaki H, Ito J, Sato N, Ide M, Sakane N. Nurse-led training and education program on insulin pump therapy in Japan. 11th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress Taiwan, Taipei
国内学会	宮崎亮, 坂根直樹, 津崎こころ, 安藤仁. 日常身体活動の時間帯と体内時計機能との関係 第18回日本健康支援学会年次学術大会 東京

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Takayuki Inoue, Masashi Tanaka,Shinya Masuda, Ryuji Ohue-Kitano, Hajime Yamakage, Kazuya Muranaka, Hiromichi Wada, Toru Kusakabe, Akira Shimatsu,Koji Hasegawa, Noriko Satoh-Asahara	Omega-3 polyunsaturated fatty acids suppress the inflammatory responses of lipopolysaccharide-stimulated mouse microglia by activating SIRT1 pathways	Biochimica et Biophysica Acta			552-560		Online2017.2.22
Komiyama M, Shimada S, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Akao M, Morimoto T, Takahashi Y, Hasegawa K.	Time-dependent Changes of Atherosclerotic LDL Complexes after Smoking Cessation.	J Atheroscler Thromb	23	Equb ahead of print	Equb ahead of print		Equb ahead of print
Murakami T, Miyachi M, Iemitsu M, Murakami H, Kawano H, Gando Y, Kawakami R, Ishii K, Satoh-Asahara N, Sanada K.	Med Sci Sports Exerc. Indexes for Sarcopenia and Obesity Have The Difference Association with Metabolic Syndrome Risk Factors.	Med Sci Sports Exerc.	48	5 Suppl e1	355		2016,5
Funamoto M, Sugawara Y, Katanasaka Y, Miyazaki Y, Imaizumi A, Kakeya H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Komiyama M, Wada H, Morimoto T.	Highly absorptive curcumin reduces serum atherosclerotic low-density lipoprotein levels in patients with mild COPD.	International Journal of COPD	In press	In press	In press		In press
Satoh-Asahara N, Ito H, Akashi T, Yamakage H, Kotani K, Nagata D, Nakagome K, Noda M.	A patient-held medical record integrating depression care into diabetes care.	Japanese Clinical Medicine	18	7	19-22		2016.6
Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Sae Hirano, Funamoto M, Morimoto E, Komiyama M, Shimatsu A, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T.	Effect of Statins on Atherogenic Serum Amyloid A and α1-Antitrypsin Low-Density Lipoprotein Complexes.	International Journal of Cardiology	15	225	332-336		2016.12
Tanaka M, Masuda S, Matsuo Y, Sasaki Y, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Hasegawa K, Tsukahara T, Shimatsu A, Satoh-Asahara N.	Hyperglycemia and Inflammatory Proerty of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patients Undergoing Carotid Endarterectomy.	J Atheroscler Thromb.	23	10	1212-1221		2016.10
浅原哲子	総説企画テーマ「肥満症治療へのアプローチ」チームで取り組む効果的な肥満症の食事療法	日本肥満学会雑誌「肥満研究」	22	2	75-83	日本肥満学会	2016.8
浅原哲子	特集:「糖尿病における大血管症」糖尿病地域連携による合併症抑制の試み-J-DEFENS Studyより-	プラクティス(Journal of practical diabetes)	33	4	435-442	医歯薬出版株式会社	2016.7
浅原哲子	特集:慢性腎臓病(CKD)を極める 診断と病因の分類 11.脂質異常症、メタボリックシンドローム	臨床雑誌「内科」	118	1	53-59	南江堂	2016.7

村田敬、浅原哲子	「実地医科が診る内分泌疾患」セミナー11低血糖その原因と予防	Medical Practice	33	11	1773-1778	文光堂	2016.11
浅原哲子	実地医科が診る内分泌疾患　E 検査各論25.糖尿病	最新内分泌検査マニュアル第3版	33	11	211-218	日本医事新報社	2017.2
浅原哲子	内科診断の道しるべ　その症候、どう診るどう考える　肥満	medicina Thromb	53	4	22-27	医学書院	2016.4
浅原哲子、田中将志	【最新の解析技術】22.ヒトの単球あるいはマクロファージの解析：脂肪組織慢性炎症とリピドミクス	医学のあゆみ	257	6	721-726	医歯薬出版株式会社	2016.5
Satoh-Asahara N, Ito H, Akashi T, Yamakage H, Kotani K, Nagata D, Nakagome K, Noda M.	A Patient-Held Medical Record Integrating Depression Care into Diabetes Care.	Jpn Clin Med.	7		19-22		
河野　茂夫	糖尿病足病変の困難症例にどう対応するか？	総合診療	26	4	327-329	医学書院	2016.4.15
河野　茂夫	慢性合併症　糖尿病足潰瘍・壊疽糖尿病足病変の疫学	日本臨床増刊号新時代の臨床糖尿病学(下)	74	増刊号2	352-356	日本臨床社	2016.4.20
河野　茂夫	15　その他の糖尿病合併症	内分泌専門医ガイドブック　改訂第４版			418-420	診断と治療社	2016.4.30
河野　茂夫	糖尿病フットケア外来のシステム形成と病診連携	糖尿病診療マスター	14	7	542-545	医学書院	2016.7.15
河野　茂夫	下肢の動脈硬化の程度を調べる検査	糖尿病ケア　2016年秋季増刊キャッチフレーズで学ぶ！1分解説で伝わる！糖尿病の検査値マスターガイド	168	秋季増刊	184-189	メディカ出版	2016.9.10
河野　茂夫	特集：重症下肢虚血を救え	日経　メディカル特別編集版		特別編集版	8-12	日経BP社	2016.8.10
河野　茂夫	糖尿病足病変のまとめ　～診療のピットフォールと対策、および国際情勢について～	Diabetes Frontier	27	6	677-684	メディカルレビュー社	2016.12.26
Inoue T, Tanaka M, Masuda S, Ohue-Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N	Omega-3 polyunsaturated acids suppress the inflammatory responses of lipopolysaccharide-stimulated mouse microglia by activating SIRT1 pathways.	Biochim Biophys Acta	1862	2	552-560		Epub ahead of print
Aotani D, Son C, Shimizu Y, Nomura H, Hikida T, Kusakabe T, Tanaka T, Miyazawa T, Hosoda K, Nakao K	Reevaluation of anti-obesity action of mazindol and elucidation of its effect on the reward system.	Neurosci Lett	28	633	141-145		2016.10.28
Mori E, Fujikura J, Noguchi M, Nakao K, Matsubara M, Sone M, Taura D, Kusakabe T, Ebihara K, Tanaka T, Hosoda K, Takahashi K, Asaka I, Inagaki N, Nakao K	Impaired adipogenic capacity in induced pluripotent stem cell from lipodystrophic patients with BSCL2 mutations.	Metabolism	65	4	543-556		2016.4
日下部徹、中尾一和	脂肪萎縮症	最新医学	71	10	85-92		2016.10.10
日下部徹、野口倫生、巖西真規、中尾一和	7.トピックス：日本人の脂肪萎縮糖尿病の成因	BIO Clinical	32	3	50-52		2017.2.10
田中智洋、日下部徹	第1章　肥満症	Q＆A　京都大学健康市民講座　生活習慣病の科学　Neo			38-72	京都大学学術出版社	2016.12.10
日下部徹、田中智洋	第2章　糖尿病	Q＆A　京都大学健康市民講座　生活習慣病の科学　Neo			74-101	京都大学学術出版社	2016.12.10
荒井宏司、全泰和、宮澤崇、日下部徹	第12章　ホルモン補充療法	Q＆A　京都大学健康市民講座　生活習慣病の科学　Neo			338-357	京都大学学術出版社	2016.12.10
Murata T, Tsuzaki K, Nirengi S, Watanabe T, Mizutani Y, Okada H, Tsukamoto M, Odori S, Nakagawa-chi R, Kawaguchi Y, Yoshioka F, Yamada K, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Sakane N.	Diagnostic accuracy of the anti-glutamic acid decarboxylase antibody in type 1 diabetes mellitus: Comparison between radioimmuno-assay and enzyme-linked immunosorbent assay.	J Diabetes Investig.	doi: 10.1111/jdi.12594.				2016 11 10. [Epub ahead of print]
Murata T, Aoki Y, Kato Y, Tanaka T, Araki R, Kato K, Hida K, Kawamura T, Yoshida K, Imamura Y, Toyonaga T, Yamada K, Sakane N, for the NHO T1DM Research Group	The Percentage of Continuous Subcutaneous Insulin Infusion Usage Among Adult Type 1 Diabetes Mellitus Patients in Japan: A Cross-Sectional Study at National Hospital Organization Hospitals	J Diabetes Sci Technol.	In press.				2017.2
村田　敬		この1冊でカーボカウント・インスリンポンプ・CGMがわかる！　糖尿病３Cワークブック　改訂第2版				中山書店	2016.5

村田　敬、渡邊　知一、水谷　結香子、河口　八重子、山本　利恵、中川内　玲子、吉岡　ふみ、坂根　直樹、山田　和範	当院におけるグルコースセンサー付きインスリンポンプ集団指導の経験	日本先進糖尿病治療研究会雑誌	12		1-4		2016.11
村田　敬	FORUM　自己管理 第1回-第3回	プラクティス	33	4-6	464-466 588-590 708-710	医歯薬出版	2016.7, 9, 11
村田　敬	食事療法はなぜ困難なのか？～「食」の自己管理をサポートするためのヒント～	臨床雑誌　内科	117-119			南江堂	2016.5-12
村田　敬	1型糖尿病の成人移行にまつわる現状と課題 - 内科の立場から -	日本内分泌学会雑誌	92	1	153-153		2017.1
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, Nagai N, Moritani T, Egawa k, Yoshimura M, Kitagawa Y, Shibata H.	Eating behavior associated with weight regain after dietary intervention in obese female.	Journal of Diabetes and Obesity	3	2	1-4	OMEGA PUB-LISHERS	2016.8.16
坂根直樹.	ICTを用いた糖尿病予防と教育	日本糖尿病情報学会誌	15		89-95	NPO法人日本糖尿病情報学会	
Sakane N.	Current status and issues of diabetes class	日本臨床	Suppl 2		609-612	株式会社日本臨牀社	2016.4
Sakane N.	Diabetes prevention in the real world: Insights from the JDPP and J-DOIT1.	Journal of General and Family Medicine					
Sakane N, Sato J, Tsushita K, Tsuji S, Kotani K, Tominaga M, Kawazu S, Sato Y, Kamae I, Yoshida T, Kiyohara Y, Sato S, Tsuzaki K, Takahashi K, Kuzuya H.	Effects of lifestyle intervention on weight and metabolic parameters in patients with impaired glucose tolerance related to beta-3 adrenergic receptor gene polymorphism Trp64Arg(C/T): Results from the Japan Diabetes Prevention Program.	Journal Diabetes Investigation	7	3	338-342	Wiley	2016.5
Sakane N, Sato J, Tsushita K, Tsujii S, Kotani K, Tominaga M, Kawazu S, Sato Y, Usui T, Kamae I, Yoshida T, Kiyohara Y, Sato S, Tsuzaki K, Nirengi S, Takahashi K, Kuzuya H.	Determinants of glycated hemoglobin in subjects with impaired glucose tolerance: Subanalysis of the Japan Diabetes Prevention Program.	Journal of Clinical Medicine Research	9	4	360-365	Elmer	2017.2
Ishiyama N, Sakamaki K, Shimomura Y, Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N, Miyashita K, Fukamachi I, Kobayashi J, Stanhope KL, Havel PJ, Kamachi K, Tanaka A, Tokita Y, Machida T, Murakami M, Nakajima K.	Lipoprotein lipase does not increase significantly in the postprandial plasma.	Clinca Chimica Acta.	464		204-210	Elsevier	2016.11
Tsuzaki K, Kotani K, Yamada K, Sakane N.	Fasting Lipoprotein Lipase Protein Levels Can Predict a Postmeal Increment of Triglyceride Levels in Fasting Normohypertriglyceridemic Subjects.	Journal of Clinical Laboratory Analysis.	30	5	404-407	Wiley	2016.9
Nirengi S, Amagasa S, Homma T, Yoneshiro T, Matsumiya S, Kurosawa Y, Sakane N, Ebi K, Saito M, Hamaoka T.	Daily ingestion of catechin-rich beverage increases brown adipose tissue density and decreases extramyocellular lipids in healthy young women.	SpringerPlus	5	1	1363	Springer	2016.8
Nirengi S, Homma T, Inoue N, Sato H, Yoneshiro T, Matsushita M, Kameya T, Sugie H, Tsuzaki K, Saito M, Sakane N, Kurosawa Y, Hamaoka T.	Assessment of human brown adipose tissue density during daily ingestion of thermogenic capsinoids using near-infrared time-resolved spectroscopy.	Journal of Biomedical Optics	21	9	091305	SPIE	2016.9
Nirengi S, Fujibayashi M, Tsuzaki K, Furuno S, Uchibe A, Kawase Y, Kotani K, Sakane N.	ACTN3 gene R577X polymorphism associated with high-density lipoprotein cholesterol and adiponectin in rugby players.	Endcrine Practice	22	7	786-790	American Association of Clinical Endocrinologists	2016.7
Sukino S, Kotani K, Nirengi S, Gugliucchi A, Caccavello R, Tsuzaki K, Kawaguchi Y, Takahashi K, Egawa K, Shibata H, Yoshimura M, Kitagawa Y, Sakane N.	Dietary Intake of Vitamin D Is Related to Blood Levels of Advanced Glycation End Products during a Weight Loss Program in Obese Women	Journal of Biomedicine	1		1-4	ivyspring	2016.8
Kawaguchi Y, Nirengi S, Kotani K, Somei J, Kawamoto T, Tsuzaki K, Yonei Y, Sakane N.	Mushroom intake and advanced glycation end products in the skin among community-dwelling elderly subjects: preliminary data	Journal of Biomedicine	2	1	8-11	ivyspring	2017.1
Murata T, Tsuzaki K, Nirengi S, Watanabe T, Mizutani Y, Okada H, Tsukamoto M, Odori S, Nakagawa-chi R, Kawaguchi Y, Yoshioka F, Yamada K, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Sakane N.	Diagnostic accuracy of the anti-glutamic acid decarboxylase antibody in type 1 diabetes mellitus: comparison between radioimmuno-assay and enzyme-linked immunosorbent assay.	Journal Diabetes Investigation				Wiley	2017.1
Miyazaki R, Takeshita T, Kotani K.	Exercise intervention for anti-sarcopenia in community-dwelling older people.	Journal of Clinical Medicine Research	8	12	848-853	Elmer Press	2016.12
Masashi Tanaka, Shinya Masuda, Yoshiyui Matsuo, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakege, Kazuya Muranaka, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tetsuya Tsukahara, Akira Shimatsu and Noriko Satoh-Asahara;	Hyperglycemia and Inflammatoriy Property of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patuentts Undergoing Corotid Endarterectomy	J Aheroscler Thromb.	23	10	1212-1221		2016.10.1

腎臓内科



診療科長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

専門分野

得意疾患

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本高血圧学会専門医・指導医 総合内科専門医・JMECCインストラクター 日本集中治療医学会専門医 日本救急医学会ICLSインストラクター ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士		
医　　師	小泉　三輝	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定医 JMECCインストラクター		
専修医	高橋　昌宏			
専修医	沈　　載紀			
専修医	近藤　　悠			
専修医	辻　誠士郎			
専修医	平井　大輔			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設

1. 積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2. 血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3. 腹膜透析も多く導入している
4. 学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□ 主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□ 診療(業務)内容

1. 慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2. 保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。
3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.0名	403名	12.3日

外来患者数

1日平均患者数
31.6名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
64件	3,067件	41件	6件

□ 地域医療連携・広報活動

・CKD学術講演会
「非専門医のための腎臓病講座　～重要な疾患を見逃さないために～」 瀬田公一
2017年3月23日　奈良県奈良市
・第２３回　奈良肩関節フォーラム
「整形外科医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」 瀬田公一
2017年3月18日　奈良市
・CKD病診連携講演会
「非専門医のための腎臓病講座　～重要な疾患を見逃さないために～」 瀬田公一
2017年3月17日　福井県福井市
・腎疾患Up Date in 南加賀　～日常に潜む腎疾患のピットフォール～
「プライマリケア医の為の慢性腎臓病講座　～重要な疾患を見逃さないために～」 瀬田公一
2017年3月15日　石川県小松市
・世界腎臓デー関連イベント
2017年3月9日　京都医療センターロビー
・第2回県央ADPKD研究会
「ADPKD治療の課題と展望　～トルバプタン承認３周年を迎えて～」 瀬田公一
2017年3月7日　新潟県三条市
・腎疾患と新たな難病指定疾患について考える会　～新たな地域連携を目指して～
「ADPKD治療の課題と展望　～トルバプタン承認３周年を迎えて～」 瀬田公一
2017年3月3日　千葉県千葉市
・大阪市東南部病診連携の会
「非専門医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」 瀬田公一
2017年2月25日　大阪府大阪市
・第３９回　関西透析医学セミナー
「これからのADPKD診療」 瀬田公一
2017年2月4日　大阪府大阪市
・第3回京都腎疾患出張相談所
「明日から少し役にたつCKD講座」 八幡　兼成
2017年2月4日　ANAクラウンプラザホテル京都

・中東遠ADPKD治療研究会
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2017年2月2日　静岡県掛川市
・第４回北摂脊椎外科セミナー
「整形外科医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年11月19日　大阪府大阪市
・栃木県臨床整形外科医会
「疼痛コントロールの落とし穴　～腎機能を考慮した安全な医療を目指して～」　瀬田　公一
2016年11月17日　栃木県宇都宮市
・ADPKDフォーラム三河　～多発性嚢胞腎の治療を考える～　瀬田　公一
「これからのADPKD診療」
2016年11月1日　愛知県安城市
・第13回伏見CKD医療連携の会講演会
「ビタミンDと腎障害　～高齢者にはご注意を～」　小泉　三輝
「CKDと運動療法」　高橋　昌宏
「京都の地域医療における慢性腎臓病患者への腎性貧血治療実態とその効果　～ご報告第7報～」　八幡　兼成
「腎代替療法の選択　～こんな話をしています～」　透析看護認定看護師　川瀬　真紀子
「急性腎傷害 (AKI)と血液浄化療法 Do&Don't」　瀬田公一
2016年10月29日　京都タワーホテル
・腎臓疾患の病診連携を考える会
「非専門医のための慢性腎臓病講座　～重要な疾患を見逃さないために～」　瀬田　公一
2016年10月28日　石川県七尾市
・第３回釜座　腎臓と糖尿病を考える会
「非専門医のための腎臓病講座　～明日から役立つ実践的ポイント～」　瀬田　公一
2016年10月8日　京都府京都市
・第２６回日本医療薬学会ランチョンセミナー３２
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2016年9月19日　京都府京都市
・下京西部医師会生涯教育講演会
「整形外科医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年9月15日　京都府京都市
・第５１回大阪整形外科症例検討会
「整形外科医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年9月10日　大阪府大阪市
・腎臓病教室応用編
2016年9月3日　京都医療センター多目的ホール
・第５回尾北透析フォーラム
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2016年9月1日　愛知県小牧市
・京都透析懇話会
「Dialysis Support Team(DST)を立ち上げて　Acute Kidney Injury(AKI)への取り組み」　小泉　三輝
2016年8月28日　京都ホテルオークラ
・世田谷Pain Seminar
「整形外科医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年7月28日　東京都

・阪神北エリア慢性疼痛緩和フォーラム
「非専門医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年7月21日　兵庫県伊丹市
・ADPKD（多発性嚢胞腎）治療セミナー
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2016年7月8日　長野県中野市
・第２回京都ADPKD Expert Meeting
「京都医療センターでサムスカ用世中の多発性嚢胞腎患者の経過について」　瀬田　公一
2016年6月30日　京都府京都市
・多発性嚢胞腎Forum
「京都医療センターの多発性嚢胞腎外来の現状」　瀬田　公一
2016年6月26日　東京都
・多発性嚢胞腎Seminar
「サムスカとShared decision making」　瀬田　公一
2016年6月25日　東京都
・第29回京都糖尿病医会学術講演会
「糖尿病性腎症におけるCKD教育入院と地域連携の実際」　八幡　兼成
「CKD教育入院に適した症例とは」　高橋　昌宏
2016年6月25日　京都府医師会館
・洛南地区疼痛勉強会　慢性疼痛治療の薬物療法
「非専門医のための腎臓病講座　～鎮痛薬の選択に関連して～」　瀬田　公一
2016年6月23日　京都府宇治市
・第２回痛みを考える薬剤師の会
「腎臓に優しい鎮痛薬」　瀬田　公一
2016年5月28日　東京都
・Web講演会
「鎮痛薬のポイント　腎臓内科の立場から」　瀬田　公一
2016年5月28日　東京都
・尼崎地区慢性疼痛緩和フォーラム
「非専門医のための腎臓病講座　腎臓にやさしい鎮痛薬の選択」　瀬田　公一
2016年5月19日　大阪府尼崎市
・千葉県病院薬剤師会中央支部・千葉市薬剤師会　合同研修会
「腎臓に優しい鎮痛薬」　瀬田　公一
2016年5月13日　千葉県千葉市
・高知県疼痛フォーラム
「非専門医のための腎臓病講座　腎臓にやさしい鎮痛薬の選択」　瀬田　公一
2016年4月22日　高知県高知市
・第12回伏見CKD医療連携の会講演会
「薬で失敗しないために」　瀬田　公一
「CKD教育入院パスとその効果　～ご紹介お待ちしています～」　高橋　昌宏
「京都の地域医療における慢性腎臓病患者への腎性貧血治療実態とその効果　～ご報告第6報～」　八幡　兼成
「実地医家の為の腎臓疾患の診方」　公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科　前主任部長　武曾惠理先生
2016年4月9日　京都タワーホテル
・第２回多発性嚢胞腎の新規治療を考える会
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2016年4月7日　広島県広島市

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	夜間血圧下降度は慢性腎臓病患者において腎機能低下速度と関連する 高橋昌宏, 瀬田公一, 近藤悠, 沈載紀, 小泉三輝, 八幡兼成 第28回血圧管理研究会　京都　2016.11.26
国内学会	シェーグレン症候群に腎サルコイドーシスおよびIgA腎症の合併を認めた1例 高橋 昌宏, 瀬田 公一, 北村 憲子, 村田 真紀, 小泉 三輝, 八幡 兼成 第46回日本腎臓学会西部学術大会　宮崎　2016.10.14-15
国内学会	腎病理評価をした後、片側腎動脈狭窄に対し経皮的腎動脈形成術(PTRA)を施行し腎機能回復した一例 山下 憲子, 村田 真紀, 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 沈 載紀, 阿部 充, 八幡 兼成 第46回日本腎臓学会西部学術大会　宮崎　2016.10.14-15
国内学会	サービス付き高齢者住宅入所中の認知症合併患者へ訪問看護による腹膜透析を導入した一例 山下 憲子, 高橋 昌宏, 村田 真紀, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第61回日本透析医学会学術集会・総会　大阪　2016.6.10-12
国内学会	当院における高齢者腹膜透析と腹膜炎発症率の推移 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 北村 憲子, 村田 真紀, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第61回日本透析医学会学術集会・総会　大阪　2016.6.10-12
国内学会	抗生剤抵抗性の腎嚢胞感染に対し両側腎摘出術を施行し、改善した多発性嚢胞腎の一例 小泉 三輝, 高橋 昌宏, 北村 憲子, 村田 真紀, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第61回日本透析医学会学術集会・総会　大阪　2016.6.10-12
国内学会	Dialysis Support Team(DST)を立ち上げて　Acute Kidney Injury(AKI)への取り組み 小泉 三輝, 高橋 昌宏, 山下 憲子, 村田 真紀, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第59回日本腎臓学会学術総会　横浜　2016.6.17-19
国内学会	京都の地域医療におけるCKD患者への腎性貧血治療の実態とその効果　京都伏見腎性貧血研究:KFRA study(第3報) 八幡 兼成, 高橋 昌宏, 北村 憲子, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一 第59回日本腎臓学会学術総会　横浜　2016.6.17-19
国内学会	常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)に対するトルバプタン(T)60mgの効果 瀬田 公一, 高橋 昌宏, 山下 憲子, 村田 真紀, 小泉 三輝, 八幡 兼成 第59回日本腎臓学会学術総会　横浜　2016.6.17-19
国内学会	CKD患者における24時間血圧の変動型と1年後の腎予後の関連 高橋 昌宏, 瀬田 公一, 北村 憲子, 村田 真紀, 小泉 三輝, 八幡 兼成 第5回日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム　東京　2016.5.14-5.15

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Clin Nephrol. 2017;87(1):51-54.	Thrombotic microangiopathy associated with cetuximab, an epidermal growth factor receptor inhibitor. Koizumi M, Takahashi M, Murata M, Kikuchi Y, Seta K, Yahata K.
救急・集中治療 28:635-640, 2016	瀬田公一. 腎不全時の薬剤投与はサンフォード通りで良いのか？　感染症診療ーその常識は正しいか？ー
日本運動器疼痛学会誌 8:53-57, 2016	瀬田公一. 腎臓にやさしい疼痛コントロール
レジデントノート増刊　羊土社 18:136-142, 2016	瀬田公一. 敗血症での輸液　あらゆる場面で自信がもてる!輸液療法はじめの一歩　基本知識と状況に応じた考え方、ピットフォール
最新医学社111:197-205, 2016	瀬田公一,　笠原正登. 造影剤腎症の病態と対策　CKD　診断と治療のABC

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
野﨑　明

専門医資格等　臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医・指導医
がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
静脈経腸栄養学会認定医
内科学会認定医
医師会認定産業医

専門分野　固形腫瘍および一部造血器
悪性腫瘍

得意疾患　消化器がん

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡崎　俊介	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本内科学会　認定内科医	腫瘍内科学(臨床腫瘍学) 緩和医療	消化器がん

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1. 患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2. 患者さんとご家族を徹底的に支援します
3. エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4. 化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5. 患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6. 地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

・消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など）
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・希少疾患などその他の固形腫瘍

□ 診療（業務）内容

・化学療法（がん薬物療法）の実施
・緩和医療の実施
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション
・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営
・化学療法委員会の運営
・臨床試験・治験への参加

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2.5名	62名	15.7日

外来患者数

1日平均患者数
21.8名

★診療体制変更により、平成２８年度より入院患者は主科で計算するため前年よりは減少

□ 地域医療連携・広報活動

がんステップⅠ研修「がんの治療～薬物療法～」2017年10月22日：京都（野﨑　明）
第2回伏見薬剤師癌化学療法研修会「再発・進行がんにおける薬物療法の役割
　ー現状の課題と今後の展望ー」2016年11月5日：京都（野﨑　明）
乙訓薬剤師会研修会「進行・再発大腸がんにおける薬物療法の役割」2017年2月9日：京都（野﨑　明）
生命のがん教育（八幡市立男山第三中学校）「「がん」って？」2017年3月17日：京都（野﨑　明）
京滋・北陸大腸癌Web講演会「進行・再発大腸がんにおけるがん薬物療法の考え方」
　2017年3月22日：京都（野﨑　明）

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著者
Hospitalist　Vol.4　No.3　pp583-594 メディカルサイエンスインターナショナル　2016.11	初発時は限局期で手術し、その後再発したがんのマネジメント④膵がん	岡崎俊介

精神科



診療科長
杉崎　全良

専門医資格等　精神保健指定医
日本精神神経学会認定　精神科専門医
専 門 分 野　精神病理学

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	吉田　貴子	精神保健指定医 日本精神神経学会認定　精神科専門医	精神病理学	
医　　師	沼本　和記	日本医師会認定産業医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川　和行	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	西尾ゆう子	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	筒井　優介	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	繁昌　芳恵	臨床心理士		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

・睡眠障害
・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害
・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害
・躁うつ病、その他の気分障害
・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療（業務）内容

1．精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2．医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3．一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績（平成28年度）

外来患者数

1日平均患者数
53.3名

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ			出版社
京大心理臨床シリーズ	西尾ゆう子	イニシャル・ケースの中断からいきた転移／逆転移を学ぶ	11		219―230	創元社
臨床事例研究	西尾ゆう子	描画と沈黙を通した10歳少女との面接課程	42		140―149	京都大学大学院教育学研究科・心理教室相談室紀要
ロールシャッハ法研究	西尾ゆう子	ロールシャッハ法からとらえた老年期女性のジェンダーイメージ	20		32―41	ロールシャッハ学会

神経内科



診療科長
中村　道三

専門医資格等　日本神経学会専門医　指導医
日本内科学会認定医　指導医
京都大学医学部神経内科臨床教授
京都大学医学博士
専 門 分 野　神経内科, 臨床神経学
得 意 疾 患　ミオパチー、認知症

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	大谷　　良	日本神経学会専門医　指導医 日本脳卒中学会専門医　評議員 日本認知症学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 京都脳神経超音波研究会世話人 脳血管内治療デバイス資格医 京都大学医学部神経内科　臨床教授 京都大学医学博士	神経内科（臨床神経学） 脳血管障害 認知症	脳血管障害 認知症
医　　長	村瀬　永子	日本神経学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部　高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士 日本定位・機能神経外科学会技術認定医 日本臨床神経生理学会　評議員	神経内科 電気生理 運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
レジデント	斉ノ内　信		神経内科	
専 修 医	髙田　真基		神経内科	
専 修 医	栗田　康弘		神経内科	
専 修 医	増田　裕一		神経内科	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1. 納得できる医療を目指します
2. 紹介医との密な連絡（病診連携）および大学や機関病院との連携に努めます
3. 看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4. 若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療（業務）内容

神経内科一般

脳血管障害外来：脳血管障害の予防及び再発予防（臨床研究対象も含む）、頸部血管エコー検査

電気生理外来：電気診断学にもとづく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療：対象疾患　ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣

深部脳刺激によるパーキンソン病, ジストニアの治療

神経内科・音楽療法外来：認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数	深部脳刺激治療（パーキンソン病・ジストニア）
27.9名	428名	23.1日	6例

外来患者数

1日平均患者数
56.4名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題 ・ 学 会 名
研究会発表	村瀬　永子	パーキンソン病におけるドパミン補充以外の治療方法の選択　Parkinson's disease Forum 滋賀
国内学会	村瀬　永子	ジストニアの電気生理からみた病態生理と治療～　反復経頭蓋磁気刺激および定位脳手術　第57回日本神経学会学術大会　神戸
国内学会	村瀬　永子	Hands-on ボツリヌス毒素療法 part2 針電極を使ったアプローチ　第57回日本神経学会学術大会 神戸
研究会発表	村瀬　永子	パーキンソン病における 治療ガイドライン(2011)以降の 治療の進歩　福井県内科医学会学術講演会　福井
研究会発表	村瀬　永子	パーキンソン病の 病期に応じた治療選択　パーキンソン病の診断と治療を考える会　in Kyoto 京都
国内学会	村瀬　永子	Hands-on ボツリヌス毒素療法　針電極を使ったアプローチ　ボツリヌス治療学会学術大会 東京
国内学会	村瀬　永子	上肢ジストニアにおいて、視床の深部脳刺激あるいは焼灼術で最大効果を示した部位での神経発火活動　第10回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス　京都
国内学会	村瀬永子、増田裕一、高田真基、栄田康弘、斎ノ内　信、後藤昌広、大谷良、中村道三	パーキンソン病における運動野の皮質内抑制系とイストラデフィリンの効果との相関(最優秀ポスター賞受賞)　第10回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス　京都
教育講演	村瀬　永子	パーキンソン病における 痛みを伴う前屈症 の診断と治療　忠岡パーキンソン病友の会講演会 大阪
研究会発表	村瀬　永子	経頭蓋磁気刺激 transcranial magnetic stimulation (TMS)　第10回　関西脳波・筋電図セミナー 京都
国内学会	村瀬永子, 松橋眞生、前田 裕仁、河原崎知、中村道三、塚原徹也,平林秀裕	上肢ジストニアにおける 視床の単一神経活動にみられる beta oscillationの非優位性　第56回日本定位・機能神経外科学会　大阪
研究会発表	村瀬　永子	Neural oscillatory activities of the motor thalamus in dystonia: comparison with Parkinson's disease and essential tremor　Human Brain Research Center Seminar, Kyoto University　京都
研究会発表	村瀬　永子	パーキンソン病における 運動合併症出現期の治療選択～ ドパミン系以外の治療　第3回金沢エリアPD work shop　金沢
国内学会	村瀬永子,松橋眞生、前田裕仁、平林秀裕	ジストニアにおける視床運動核の神経振動　第94回日本生理学会大会　静岡
TV・ラジオ出演	中村道三, 飯塚三枝子	認知症治療に新たな光　音楽療法の可能性.　NHK先読み!夕方ニュース　東京
教育講演	中村　道三	パーキンソン病の診療　パーキンソン病治療を考える会　京都
国際学会	Mieko Iizuka, Michikazu Nakamura	Many elderly Japanese patients with dementia have a liking for old European and American folk songs　European Music Therapy Conference 2016　Vienna
TV・ラジオ出演	中村道三, 飯塚三枝子	認知症予防改善法　直撃!コロシアム!!ズバッと!TV
国内学会	飯塚三枝子, 中村道三	局所麻酔手術中のライブ音楽提供の経験　音楽医療研究会　岐阜
教育講演	飯塚　三枝子	『認知症とともによりよく生きる』【うたのちからを生きる力に】　認知症フォーラム　京都市中京区
国内学会	Y kuwata, N Murase, K Yasuda, M Takata, M Sainouchi, M Goto, R Ohtani, M Nakamura	Guillain-Barre syndrome associated with preserved deep tendon reflexes　第57回日本神経学会学術大会　神戸

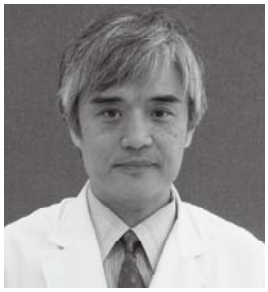
研究会発表	桑田康弘, 増田裕一, 高田真基, 後藤昌弘, 斉ノ内信, 村瀬永子, 大谷良, 後藤雅史, 小山弘, 森吉弘毅, 中村道三	脊髄症で発症し、4年後に剖検で診断がついた血管内大型B細胞リンパ腫(IVLBCL)の1例　亀山正邦記念神経懇話会(KSK)　大阪
研究会発表	後藤昌弘, 村瀬永子, 増田裕一, 高田真基, 桑田康弘, 斉ノ内信, 大谷良, 中村道三	母指球筋の規則正しい筋攣縮が数ヶ月にわたって持続した62歳女性　亀山正邦記念神経懇話会(KSK)　京都
研究会	増田 裕一,村瀬 永子,桒田 康弘,高田 真基,斉ノ内 信,大谷 良,瀬田 公一,勝島 慎二,中村 道三	B型慢性肝炎に対しアデホビル投与中に神経原性の筋力低下をきたした1例　第107回日本神経学会近畿地方会　大阪
研究会	後藤昌弘, 村瀬永子, 桑田康弘, 高田真基, 斉ノ内信, 安田謙, 大谷良, 中村道三	脳梁形成不全に合併したmirror　movementの発生機序についての電気生理学的検討　第105回日本神経学会近畿地方会　京都
教育講演	大谷　良	脳梗塞治療　～心原性脳塞栓症の急性期治療と予防～　京都南部脳卒中学術交流会　京都
教育講演	大谷　良	パーキンソン病およびレビー小体型認知症診断におけるDAT SPECTとMIBG心筋シンチグラフィの有用性　第９回　関西脳核医学研究会　大阪
国内学会	福田俊一、安田謙、米本直裕、塚原徹也、中村道三、青木友和、大谷良、村瀬永子、川端康弘、赤尾昌治	伏見心房細動患者登録研究（Fushimi AF Registry）における心原性脳塞栓症発症例のリスク解析　第41回　日本脳卒中学会総会　札幌
国内学会	川端康弘、河原崎知、手島啓幾、青木友和、福田俊一、塚原徹也、後藤昌広、大谷良	当院における脳梗塞急性期血行再建の治療成績　第41回　日本脳卒中学会総会　札幌
国内学会	大谷良、村瀬永子、広川侑奨、榎本直之、桑田康弘、高田真基、斉ノ内信、後藤昌広、安田謙、伊藤剛、中村道三	DATスキャンおよびMIBGシンチによるPDおよびDLB診断における検討　第57回　日本神経学会学術大会　神戸
国際学会	Ohtani R, Murase N, Hirokawa Y, Enomoto N, Kuwata Y, Takata M, Sainouchi M, Goto M, Yasuda K, Ito T, Nakamura M	The investigation between DAT SPECT and MIBG myocardial scintigraphy in diagnosis of PD and DLB.　2nd Congress of the European Academy of Neurology　Copenhagen, Denmark
教育講演	大谷　良	パーキンソン病　診断と治療：初期対応に重点をおいて　Parkinnson's Disease Seminar in 南京都　京都
国際学会	Yasuda K, Fukuda S, Nakamura M, Kuwata Y, Takata M, Sainouchi M, TeshimaY, Kawarazaki S, Kawabata Y, Murase N, Ohtani R, Aoki T, Akao M, Tsukahara T	Prtedictors of Cardioembolic Stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry　Asia Pacific Stroke Conference　Brisbane, Australia
教育講演	永金義成、大谷良	心原性脳塞栓症の発症・再発予防における抗凝固療法　第４回 Stroke 学術交流会　京都
教育講演	西嶋佑太郎、桑田康宏、大谷　良、増田裕一、高田真基、斉ノ内　信、後藤昌広、村瀬永子、中村道三	上室性期外収縮が高頻度に認められた塞栓源不明の脳塞栓症の一例　2017 STROKE研究会　京都
教育講演	三枝隆博、大谷良	高齢者てんかんのマネジメント　第３回　脳神経疾患学術交流会　京都
教育講演	大谷　良	糖尿病と認知症：診断と治療　平成28年度　内分泌・代謝性疾患研修会　京都
教育講演	大谷　良	認知症の診断と治療　第１回　北摂アカデミックフィールド　大阪
教育講演	大谷　良	パーキンソン病　診断と治療：初期対応の重要性、運動症状と非運動症状　伏見医師会ランチョンセミナー　京都
国内学会	坂根直樹、二連木晋輔、津崎こころ、大谷良	アルツハイマー病(AD)および軽度認知障害(MCI)におけるアポリポ蛋白と認知機能との関連：ストップ認知症プロジェクト　第35回　日本認知症学会学術集会　東京
教育講演	大谷　良	脳卒中と認知症　第14回　脳卒中市民講座　京都
教育講演	大谷　良	Opening　Remarks　：　神経内科専門医による脳卒中を考える会に当たり.　京都脳卒中　Expert Meeting　京都
教育講演	大谷　良	認知症の分類、現状と動向　大規模糖尿病・肥満症コホートを生かした認知機能低下・認知症発症の予測因子の解明　京都
教育講演	大谷　良	脳梗塞急性期の診断と治療　第４回　北摂アカデミックフィールド　大阪
国内学会	斉ノ内信、大谷良、増田裕一、桑田康弘、高田真基、村瀬永子、二連木晋輔、坂根直樹、中村道三	穿通枝梗塞の症状悪化因子と予後不良因子についての検討　第42回　日本脳卒中学会総会　大阪
国内学会	峰晴陽平、尾原知行、永金義成、冨井康宏、大谷　良、今井啓輔、福田俊一、西村真樹、宮本享、高木康志、赤尾昌治	経口抗凝固薬内服中に発症した脳卒中症例の前向き登録研究（KOACS　registry）中間解析結果　第42回　日本脳卒中学会総会　大阪
国内学会	大谷良、中村道三、村瀬永子、斉ノ内信、後藤昌広、桑田康弘、高田真基、増田裕一、塚原徹也、坂根直樹	脳梗塞急性期治療rt-PA療法における出血性脳梗塞の予測因子に関する検討　第42回　日本脳卒中学会総会　大阪

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タ　イ　ト　ル
Demura Y, Kinoshita M, Fukuda O, Nose S, Nakano H, Juzu A, Murase N, Yamamoto K. Neurol Sci.	Imbalance in multiple sclerosis and neuromyelitis optica: association with deep sensation disturbance. Vol.37 No.12 P1961-1968 2016.8

臨床神経	多発脳神経障害, 尿崩症を呈したMPO-ANCA関連肥厚性硬膜炎の1例 Vol.56 No.5 P334-337 2016.5
大谷　良 これが伏見流！　心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。	第５章　連携して診る　7.急性期脳梗塞治療 P211-220 2017.4.1
大谷　良 京滋RI検査を語る会　議事録集	教育講演　DATスキャンの臨床診断における有用性（MIBGシンチグラフィとの相関） P5-6 2016.10.1

呼吸器センター



診療科長
(呼吸器内科)
三尾　直士

専門医資格等
　日本がん治療認定医機構暫定教育医
　日本内科学会認定内科医、指導医
　日本医師会認定産業医
　アメリカ胸部疾患学会（ATS）
　アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）
　京都大学　医学博士
　京都大学　臨床教授
専門分野
　呼吸器内科全般
得意疾患
　肺癌・間質性肺炎



診療科長
(呼吸器外科)
澤井　聡

専門医資格等
　日本呼吸器外科学会/指導医・評議員
　呼吸器外科専門医
　気管支鏡指導医
　外科専門医
　滋賀医科大学医学博士
専門分野
　呼吸器外科全般
得意疾患
　肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	中谷　光一	日本内科学会　認定内科医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科全般	肺癌・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科全般
医　　師	元石　　充	外科専門医 呼吸器外科専門医 気管支鏡専門医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医　　師	岡村　美里	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医　　師	藤田　浩平	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本感染症学会　感染症専門医 京都大学医学博士	呼吸器内科全般	呼吸器感染症・肺癌・呼吸器内科全般
医　　師	金井　　修	日本内科学会　認定内科医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医 日本エイズ学会　治療指導医 エイズ拠点病院　施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会　委員	呼吸器内科全般	HIV感染症・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科一般
医　　師	林　　一喜	外科専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
レジデント	堀本かんな	外科専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

［診療のモットー］

1. 難治な呼吸器疾患に対して最新の治療を提供します。
2. 十分な情報を提供し、患者さんの意見を尊重し診療を行います。
3. 地域の医療機関と連携し、地域に根ざした医療機関を目指します。

［当科の特色］

呼吸器疾患は悪性腫瘍・感染症・気道系疾患・呼吸不全・びまん性肺疾患・生活習慣病など、他の臓器には見られないほど多岐にわたり、その多くが生命に直接関わる重要な領域です。当科では多様な呼吸器疾患患者さんに対して専門性の高い医療を提供するように努力しています。さらに現在治療法の進歩が見られる疾患について最新最良の治療を取り入れています。

肺癌は最も死亡数が多い悪性腫瘍で、今でも難治ですが、分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤などの新しい治療薬や支持療法の開発が急速に進んでおり、治療方法が大きく変わりつつあります。新しい治療法のおかげで、治療不能とされていた超高齢者や、治療不応となった患者さんにも治療を提供できる機会が増えており、患者さんの予後が大きく改善しつつあります。また、悪性腫瘍の診療においては外科治療・放射線治療・化学療法・緩和医療の４本柱があり、関係する各科の協力が必要ですが、当院での肺癌診療においては、呼吸器内科・外科、放射線科、化学療法部、緩和ケア部とカンファレンスなどの場をもうけ緊密な関係をもって進めています。

気道系疾患である喘息、慢性閉塞性肺疾患は特に有病率が高い疾患ですが、終生にわたって治療を続けていく必要性があり、当科では診断・治療導入、悪化時の緊急対応、リハビリテーションなど地域の拠点病院でないとできない診療を中心に行い、その後は患者さんの負担を出来るだけ少なくするように地域の医療機関と連携して診療を行なっています。

呼吸器感染症はヒトの疾患の中でも最も重要な疾患の一つです。当科では急性・慢性の呼吸器感染症の診療を行っていますが、市中肺炎以外に、他科で診療中の免疫不全状態で起きる弱毒菌の感染症やHIVの症例の診療も行っております。さらに、最近急増している非結核抗酸菌の患者数が多く、積極的に臨床・研究に取り組んでいます。

上記以外にも呼吸器には急性・慢性の呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺疾患など重要な疾患が多数あります。それらの疾患をもつ患者さんに対しても常に最良の治療を提供できるように日々研鑽しながら診療に当たっています。

呼吸器外科では肺癌をはじめとする胸部の腫瘍（肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍）や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して、より負担の少ない胸腔鏡下手術を積極的に行っています。 膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療（局所麻酔下胸腔鏡を含む）を行っています。気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術や、漏斗胸に対する矯正術（Nuss法）も行っています。

□ 主な対象疾患

肺癌　転移性肺腫瘍　縦隔腫瘍　中皮腫　胸腺腫　胸壁腫瘍　気胸　肺嚢胞症　気道狭窄　漏斗胸　膿胸
慢性閉塞性肺疾患　気管支喘息　慢性・急性呼吸不全、呼吸器感染症（肺炎・非結核性抗酸菌症・結核）
びまん性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など）
睡眠時無呼吸症候群　HIV感染症

□ 診療（業務）内容

呼吸器内科の外来診察日は月曜から金曜まで毎日新患外来を含めて3外来を行なっています。
呼吸器外科の外来診察日は月、火、木、金曜日で、手術は水、金曜日に行っています。
睡眠時無呼吸症候群の専門外来は毎週水曜日です。完全紹介制としております。初めての方は紹介元の施設で予約を取得して頂きますよう、よろしくお願い致します。
気管支鏡検査、CTガイド下生検検査は原則として１泊の入院で行なっています。
それぞれ月・火・木と火・木曜日の午後に行っています。
HIV感染症の初診については呼吸器科外来に予めお電話頂ければ受診日等を事前に相談していただくことができます。

□ 診療実績（平成28年度）

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
42.7名	1,086名	14.1日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
60.8名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.7名	248名	12.7日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
11.5名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)	気管支鏡検査	局所麻酔下胸腔鏡検査	CTガイド下肺生検
136件	90件	311件	9件	48件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演者・演題・学会名
	呼吸器内科
国内学会	金井　修　既治療の非小細胞肺癌に対するアルブミン懸濁型パクリタキセルの使用成績の解析　第56回日本呼吸器学会総会　2016.4.8　京都
国内学会	藤田浩平　再発・難治性肺Mycobacterium avium complex症に対するsitafloxacinの有用性の検討　第56回日本呼吸器学会総会　2016.4.9　京都
国内学会	岡村美里　当院における気腫合併肺線維症(CPFE)合併肺癌の検討　第56回日本呼吸器学会総会　2016.4.9　京都
国内学会	中谷光一　呼吸器領域悪性疾患におけるペグフィルグラスチムの使用経験　第56回日本呼吸器学会総会　2016.4.10　京都
国際学会	藤田浩平　Preliminary evaluation of a sitafloxacin-containing regimen for relapsed or refractory pulmonary Mycobacterium avium complex disease　American Thoracic Society 2016　2016.5　San Francisco, USA
国際学会	藤田浩平　Rising stars of research award lecture (Association between environmental exposure and Mycobacterium avium complex infection)　American Thoracic Society 2016　2016.5　San Francisco, USA
国内学会	金井　修　癌性髄膜炎のため経鼻胃管よりアレクチニブを投与し長期生存を得た非小細胞肺癌の一例　第87回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.7.9　大阪
国内学会	藤田浩平　急速に増大し自然破裂が疑われた縦隔成熟奇形腫の一例　第87回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.7.9　大阪
国内学会	藤田浩平　進行肺扁平上皮癌患者に対する抗PD-1抗体使用中に発症した肺結核の一例　第59回日本感染症学会中日本地方会　2016.11.24　沖縄
国内学会	井口貴文　Primary ciliary diskinesiaを疑ったびまん性汎細気管支炎の一例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	西嶋佑太郎　右上葉嚢胞中に認められた低分化悪性腫瘍の一例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	大崎活貴　ニボルマブ投与後に間質性陰影を認め、TBLBで癌性リンパ管症と診断に至った肺腺癌の一例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	柏原英里子　肺腺癌の皮膚転移による上大静脈症候群様の顔面浮腫を呈した1例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	金井　修　インフリキシマブ投与後に多発リンパ節炎を生じ、治療後に壊死性リンパ節炎を発症した抗酸菌感染症の一例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	藤田浩平　肺腺癌に対する化学放射線療法施行中に潰瘍性大腸炎を発症した一例　第88回日本呼吸器学会近畿地方会　2016.12.10　京都
国内学会	金井　修　ニボルマブ投与後早期に臨床症状が増悪した非小細胞肺癌患者の背景因子に関する後方視的研究　第57回日本肺癌学会総会　2016.12.19　福岡
国内学会	岡村美里　KCOG1213 化学療法未施行進行扁平上皮肺癌に対するTS-1・Nedaplatin併用化学療法による臨床第I相試験　第57回日本肺癌学会総会　2016.12.19　福岡
国内学会	中谷光一　Nivolumab投与によるILD　第57回日本肺癌学会総会　2016.12.20　福岡
TV・ラジオ出演	三尾直士　非小細胞肺癌治療におけるオプジーボの位置づけ　M3動画(MR君)　2016.8　京都
教育講演	三尾直士　肺がん治療のパラダイム転換:免疫チェックポイント阻害剤。使ってわかったこと、わからないこと　伏見医師会癌医療病診連携の会　2016.9　京都
教育講演	金井　修　京都医療センターにおけるオプジーボ®の使用状況　伏見医師会癌医療病診連携の会　2016.9　京都
教育講演	金井　修　当院におけるNivolumabの使用実績　第6回がんサポーティブケア研究会　2016.4　京都
教育講演	三尾直士　喘息治療の新しい展開～呼気NO測定による治療管理と新規薬剤～　伏見医師会ランチョンセミナー　2016.11　京都
教育講演	金井　修　当院におけるNivolumabの使用成績ー有害事象を中心にー　京都南部エリア　肺がん免疫療法カンファレンス　2016.12　京都
教育講演	三尾直士　ニボルマブ登場から1年　パラダイム変化はおきたのかー実臨床の経験を踏まえて　湖東・湖北エリアがん免疫療法セミナー　2017.2　滋賀
教育講演	金井　修　ミッツ・マングローブ　AIDSについて何を語る?　第6回AIDS文化フォーラムin京都　2016.10.2　京都

呼吸器外科	
国内学会	賀来良輔,元石　充、林　一喜、澤井　聡　胸腺に発生したコレステリン肉芽腫の1切除例　第33回日本呼吸器外科学会総会　2016.5.13　京都
国内学会	林　一喜,賀来良輔、元石　充、澤井　聡　永久気管孔よりDumon Y-stentを留置した一例　第39回呼吸器内視鏡学会学術集会　2016.6.24　名古屋
国内学会	元石　充,林　一喜、賀来良輔、澤井　聡　全身性血管腫症に合併した肺海綿状血管腫の1切除例　第39回呼吸器内視鏡学会学術集会　2016.6.24　名古屋
国内学会	元石　充、堀本かんな、林　一喜、澤井　聡　高齢で再発した非小細胞肺癌術後症例の検討　第57回日本肺癌学会学術集会　2016.12.21　福岡
国内学会	林　一喜、堀本かんな、元石　充、澤井　聡、賀来良輔、大塩麻友美　肋間神経および交感神経幹由来の腫瘍が隣接していた神経鞘腫の一切除例　第57回日本肺癌学会学術集会　2016.12.21　福岡
国内学会	堀本かんな、元石　充、林　一喜、澤井　聡、大塩麻友美　セミノーマを合併した多房性胸腺嚢胞の1切除例　第57回日本肺癌学会学術集会　2016.12.21　福岡
研究会	堀本かんな、元石　充、林　一喜、澤井　聡　セミノーマを合併した多房性胸腺嚢胞の1切除例　第53回近江呼吸器疾患研究会　2016.9.3　京都
研究会	澤井　聡、堀本かんな、林　一喜、元石　充　当院のT790M変異検索におけるliquid biopsyの状況 第54回近江呼吸器疾患研究会　2017.3.4　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
呼吸器内科	
J Thoracic Oncol	Fujita K, et al　Anti-PD1 Antibody and Development of Pulmonary Tuberculosis　2016.12
Open Forum Infect Dis	Fujita K, et al　Preliminary Evaluation of a Sitafloxacin-Containing Regimen for Relapsed or Refractory Pulmonary Mycobacterium avium complex Diseases　2016.7
Annals Oncol	Kanai O, et al　Severe exacerbation or manifestation of primary disease related to nivolumab in non-small-cell lung cancer patients with poor performance status or brain metastase　2016.7
Respirology Case Reports	Kanai O, et al　Repetitive responses to nanoparticle albumin-bound paclitaxel and carboplatin in malignant pleural mesothelioma　2016.12
Respirology Case Reports	Fujita K, et al　Concomitant T790M mutation and small-cell lung cancer transformation after acquired resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor　2016.12
Oxford Medical Case Reports.	Fujita K, et al　Giant mature teratoma in the mediastinum presenting with rapid growth 2016.12

消化器内科



診療科長
部長
（医事管理担当）
勝島　慎二

専門医資格等　日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・同評議員
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・同評議員
日本医学放射線学会放射線科診断専門医
日本肝臓学会肝臓専門医・同西部会評議員
日本内科学会認定内科医　同近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医
日本消化器がん検診学会胃認定医
京都大学医学博士

専門分野　消化器内科全般

得意疾患　肝疾患
炎症性腸疾患

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 副健診センター長	島　伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医	消化器内科全般	消化器内科疾患全般
医長	水本　吉則	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医　同評議員 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科全般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般、炎症性腸疾患
医師	笠原　勝宏	日本消化器病学会消化器病専門医・同近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本プライマリ・ケア連合会プライマリ・ケア認定医	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	岩本　諭	日本消化器病学会消化器病専門医・同近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 京都大学医学博士	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	江坂　直樹	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	ESD、小腸内視鏡、食道胃静脈瘤治療、緩和医療、PEG
医師	太田　義之	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
医師	熊谷　健	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
レジデント	下釜　翼	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
レジデント	筑後　孝紀		消化器内科全般	消化管疾患
専修医	中野　重治	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
専修医	濵田　聖子		消化器内科全般	消化管疾患

非常勤医師	前川　高天	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医 京都府医師会消化器がん検診委員会委員長 京都大学医学博士	上部消化管内視鏡	H.pylori(ピロリ菌)関連疾患
非常勤医師	米田　俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医・同西部会評議員 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科全般	肝疾患
非常勤医師	遠藤　文司	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・同近畿支部評議員 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター 臨床研修指導医 日本消化器がん検診学会　胃・肝胆膵認定医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査治療

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療
6. 潰瘍性大腸炎、クローン病、神経内分泌腫瘍に対する治験Phase Ⅲを実施

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)
炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)
肝硬変
ヘリコバクター感染症関連疾患（消化性潰瘍、ＭＡＬＴ）

□ 診療（業務）内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS
消化管・胆膵系ステント留置
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫調節剤、生物学的製剤)

ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(内服薬、インターフェロン)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成
治験Phase II および III

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
52.8名	1,421名	13.5日

外来患者数

1日平均患者数
123.2名

主な手術・検査の件数など

上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道・胃ESD	大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
5,477件	2,775件	485件	129件	64件	55件

□ 地域医療連携・広報活動

＜開催研究会等＞

・第8回深草消化器医療連携の会　2017/2/18 アストラゼネカ（株）京都支店「Aztrium」

＜講演・パネリストなど＞

演者	演題	講演会名
勝島慎二	肝臓がんについて～内科的立場から～	京都医療センターがん診療ｾﾐﾅｰ肝臓がん治療の現状について2016/5/26
筑後孝紀	急性胆管炎における耐性菌治療と敗血症ガイドラインについて	第20回消化器医療懇話会　2016/6/2
米田俊貴	慢性C型肝炎の最近の話題と治療法	京都南部C型肝炎講演　2016/12/3
勝島慎二	当院におけるC型慢性肝炎の治療実績	京都南部C型肝炎講演　2016/12/3
前川高天	胃内視鏡検診におけるHP感染診断	京都消化器医会定例学術講演会 2017/2/11
岩本　諭	PPI関連の最新の話題	第8回深草消化器医療連携の会　2017/2/18
江坂直樹	カプセル内視鏡最新の話題	第8回深草消化器医療連携の会　2017/2/18
水本吉則	消化管ステント留置後の注意点	第8回深草消化器医療連携の会　2017/2/18
勝島慎二	C型肝炎今後の課題	第8回深草消化器医療連携の会　2017/2/18
前川高天	ジェネラリスト・消化器内科医の為のH.Pylori感染症の診断と治療	ジャネラリスト・一般内科・専門医のための消化器エキスパートセミナー　2017/3/31

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	Hiroki Yamashita,Shunsuke Okazaki,Hiroki Moriyoshi,Yasuhiro Hamatani,Hiroyuki Tanaka,Bunji Endo,Hisateru Yasui.	A case of pancreatic cancer in a patient who suffered CPA during TC therapy and was diagnosed at autopsy with AMI.	第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 2015.7.16　札幌
国内学会	笠原勝宏,勝島慎二,岩本諭,濵田聖子,中野重治,筑後孝紀,下釜翼,熊谷健,江坂直樹,太田義之,米田俊貴,島伸子,水本吉則,遠藤文司.	全例SVRを目指した第一世代IFN-free治療の導入基準	第102回日本消化器病学会総会 2016.4.21　東京
国内学会	勝島慎二,笠原勝宏,小畑達郎,濵田聖子,中野重治,筑後孝紀,下釜翼,熊谷健,太田義之,江坂直樹,遠藤文司,岩本諭,島伸子,水本吉則,米田俊貴.	後期高齢者Ｃ型肝炎における抗ウイルス療法の選択	第102回日本消化器病学会総会 2016.4.23　東京

国内学会	水本吉則,遠藤文司,勝島慎二.	タブレット端末を用いた内視鏡データベース作成の試み	第91回日本消化器内視鏡学会総会 2016.5.12　東京
国内学会	熊谷健,岩本諭,水本吉則.	早期胃癌ESD後潰瘍に対するポリグリコール酸シートの新たなデリバリー方法	第91回日本消化器内視鏡学会総会 2016.5.12　東京
国内学会	水本吉則.	内視鏡データベースの構築-内視鏡技師の業務短縮にもつながるデータベース構築とは-	第76回日本消化器内視鏡技師会 2016.5.13　大阪
国内学会	勝島慎二,米田俊貴,岩本諭.	C型肝炎合併肝細胞癌根治術後の抗ウイルス療法	第52回日本肝臓学会総会 2016.5.19　千葉
国内学会	井本勉,金守良,村田一素,田中靖人,飯尾悦子,石川達,天野恵介,矢野嘉彦,榎本大,勝島慎二,福永豊和,堀江裕,尹聖哲,鄭浩柄,國立裕之.	散発性急性C型肝炎例に於ける血清IFN-λ3値の動態―その臨床的意義	第52回日本肝臓学会総会 2016.5.20　千葉
国内学会	遠藤文司,江坂直樹,福田良子,水本知宏,志馬伸朗.	急性胆管炎・胆嚢炎に対する経験的抗菌薬の適切な選択に寄与する因子の検討	第64回日本化学療法学会総会 2016.6.10　神戸
国内学会	勝島慎二,遠藤文司,江坂直樹,岩本諭,水本吉則,島伸子,前川高天.	PET検診で発見された肝類上皮血管内皮腫の一切除例	第55回日本消化器がん検診学会総会　2016.6.10　鹿児島
国内学会 地方会	下釜翼,水本吉則,筑後孝紀,中野重治,熊谷健,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,遠藤文司,米田俊貴,島伸子,前川高天,勝島慎二.	放射線治療後の悪性食道狭窄に対する小口径食道ステント（16mm）の使用経験	日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会　2016.6.11　京都
国内学会 地方会	遠藤文司,熊谷健,笠原勝宏,水本吉則,勝島慎二.	多施設共同前向き観察研究からみた各施設別のERCP後膵炎対策の実態	日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会　2016.6.11　京都
国内学会 地方会	筑後孝紀,遠藤文司,江坂直樹,中野重治,下釜翼,熊谷健,太田義之,岩本諭,笠原勝宏,島伸子,水本吉則,勝島慎二,前川高天.	胃への開口を呈した重複胆管の一例	日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会　2016.6.11　京都
国内学会 地方会	中野重治,遠藤文司,筑後孝紀,下釜翼,熊谷健,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,米田俊貴,島伸子,水本吉則,勝島慎二.	EUS-FNAにて診断し得たまれな転移性膵平滑筋肉腫の一例	日本消化器内視鏡学会近畿支部第96回支部例会　2016.6.11　京都
国内学会 地方会	濵田聖子,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,熊谷健,江坂直樹,太田義之,岩本諭,笠原勝宏,水本吉則,島伸子,勝島慎二.	内視鏡的に指摘困難であった食道壁内埋没魚骨異物の１例	日本消化器病学会近畿支部第105回例会　2016.9.17　大阪
国際学会	Naoki Esaka, Bunji Endoh, Yoshinori Mizumoto, Shinji Katsushima, Nobuaki Shime.	PREDICTORS FOR DETECTION OF DIFFICULT-TO-TREAT BACTERIA IN BILIARY TRACT INFECTION	24th United European Gastroenterology Week Vienna 2016 2016.10.19　Vienna
国内学会	桑井寿雄,豊川達也,岩瀬弘明,工藤智洋,江坂直樹,太田肇,山下晴弘,細田泰雄,渡邉典子,原田直彦.	5mm以下の大腸微小ポリープに対するJumbo鉗子を用いたCold biopsyの短期治療成績	第24回日本消化器関連学会週間 2016.11.4　神戸
国内学会	勝島慎二,岩本諭,笠原勝宏,濵田聖子,熊谷健,米田俊貴.	Genotype/Serogroup不一致例への対応	第24回日本消化器関連学会週間 2016.11.4　神戸
国内学会	勝島慎二,岩本諭,笠原勝宏.	C型肝炎合併肝細胞癌根治後のSVRの意義	第24回日本消化器関連学会週間 2016.11.5　神戸
国内学会	筑後孝紀,中野重治,遠藤文司,濵田聖子,下釜翼,熊谷健,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,水本吉則,勝島慎二.	急性胆管炎の予後予測因子の前向き検討	第24回日本消化器関連学会週間 2016.11.5　神戸
国内学会	北野由美,坂井洋子,松岡律子,田口いづみ,森そのみ,水本吉則,勝島慎二.	大腸内視鏡検査における不適切な前処置になる予測因子の検討	第77回日本消化器内視鏡技師学会 2016.11.5　京都
国内学会 地方会	太田義之,水本吉則,勝島慎二.	当院におけるT1b癌の長期経過と再発例についての検討	日本消化器内視鏡学会近畿支部第97回支部例会　2016.11.26　京都
国際学会	Katsuhiro Kasahara,Bunji Endo,Seiko Hamada,Shigeharu Nakano,Kouki Chikugo,Tsubasa Shimogama,Ken Kumagai,Yoshiyuki Ohta,Naoki Esaka,Satoru Iwamoto,Yoshinori Mizumoto,Shinji Katsushima.	CLINICAL UTILITY OF KRAS MUTATION ANALYSIS OF EUS-FNA SAMPLES FOR DIAGNOSING PANCREATIC SOLID TUMORS	ENDO2017 2017.2.19　Hyderabad
国内学会 地方会	濵田聖子,遠藤文司,水本吉則,中野重治,筑後孝紀,下釜翼,熊谷健,江坂直樹,太田義之,岩本諭,笠原勝宏,島伸子,勝島慎二.	EST後出血に対してFCSEMSによる圧迫止血術を施行した７例	日本消化器病学会近畿支部第106回例会　2017.2.25　大阪
国内学会 地方会	勝島慎二,江坂直樹,熊谷健,遠藤文司.	C型肝炎Genotype/Serotype乖離例における薬剤選択	日本消化器病学会近畿支部第106回例会　2017.2.25　大阪
国内学会 地方会	勝島慎二,米田俊貴,太田義之,下釜翼.	IFNフリー治療の肝発癌抑制効果検証に関する統計学的考察	日本消化器病学会近畿支部第106回例会　2017.2.25　大阪
研究会発表	笠原勝宏,山敷宣代,上田佳秀	急速な転帰をたどった若年女性の急性肝不全の一例	第6回東京・神奈川劇症肝炎研究会 2016.4.2　東京
研究会発表	水本吉則	便潜血陽性患者の大腸内視鏡検査報告	第13回京都大腸内視鏡研究会 2016.6.3　京都
研究会発表	熊谷健,岩本諭,濵田聖子,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,太田義之,江坂直樹,笠原勝宏,水本吉則,勝島慎二	胃ESD後潰瘍底に縫合糸PDSを用いてPDAシートを一括留置しえた2例	第39回京大消化器内科関連病院症例検討会　2016.6.4　尼崎
TV・ラジオ出演	島伸子	健診の勧め	FM845京都リビングエフエム「カラダ元気」ラジオ出演　2016.7.26　京都
研究会発表	勝島慎二	DAAs治療後発癌例の検討	平成28年度第２回国立病院機構共同臨床研究、第２回厚生労働科学研究費補助金合同班会議 2017.2.3　長崎

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Endoscopy. 2016.8;48 (Suppl 1):E274-275	Ken Kumagai ,Satoru Iwamoto,Naoki Esaka,Yoshinori Mizumoto.　A new method of polyglycolic acid sheet placement in the stomach after endoscopic submucosal dissection.
BMJ Open Gastroenterology. 2016.11;3(1)	Takuya Yoshino,Hiroshi Nakase,Tomohisa Takagi,Shigeki Bamba,Yusuke Okuyama,Takuji Kawamura,Teruki Oki,Hirozumi Obata,Chiharu Kawanami,Shinji Katsushima,Toshihiro Kusaka,Tomoyuki Tsujikawa,Yuji Naito,Akira Andoh,Takafumi Kogawa.　Risk factors for developing colorectal cancer in Japanese patients with ulcerative colitis:a retrospective observational study-CAPITAL(Cohort and practice for IBD total management in Kyoto-Shiga Links)study I.
Human Molecular Genetics 2017.2;26(3):650-659	Minae Kawashima,Yuki Hitomi,yoshihiro Aiba,Nao Nishida,Kaname Kojima,Yosuke Kawai,Hitomi Nakamura,Atsushi Tanaka,Mikio Zeniya,Etsuko Hashimoto,Hiromasa Ohira,Kazuhide Yamamoto,Mashiro Abe,Kazuhiko Nakao,Satoshi Yamagiwa,Shuichi Kaneko,Masao Honda,Takeji Umemura,Takafumi Ichida,Masataka Seike,Shotaro Sakisaka,Masaru Harada,Osamu Yokosuka,Yoshiyuki Ueno,Michio Senju,Tatsuo Kanda,Hidetaka Shibata,Takashi Himoto,Kazumoto Murata,Yasuhiro Miyake,Hirotoshi Ebinuma,Makiko Taniai,Satoru Joshita,Toshiki Nikami,Hajime Ota,Hiroshi Kouno,Hirotaka Kouno,Maokoto Nakamuta,Nobuyoshi Fukushima,Motoyuki Kohjima,Tatsuji Komatsu,Toshiki Komeda,Yukio Ohara,Toyokichi Muro,Tsutomu Yamashita,Kaname Yoshizawa, Yoko Nakamura,Masaaki Shimada,Noboru Hirashima,Kazuhiro Sugi,Keisuke Ario,Eiichi Takesaki,Atsushi Naganuma,Hiroshi Mano,Haruhiro Yamashita,Kouki Matsushita,Kazuhiro Yamauchi,Fujio Makita,Hideo Nishimura,Kiyoshi Furuta,Naohiro Takahashi,Masahiro Kikuchi,Naohiro Masaki,Tomohiro Tanaka,Sumito Tamura,Akira Mori,Shinataro Yagi,Ken Shirabe,Atsumasa Komori,Kiyoshi Migita,Masahiro Ito,Shinya Nagaoka,Seigo Abiru,Hiroshi Yatsuhashi,Michio Yasunami,Shinji Shimoda,Kenichi Harada,Hiroto Egawa,Yoshihiko Maehara,Shinji Uemoto,Norihiro Kokudo,Hajime Takikawa,Hiromi Ishibashi,Kazuaki Chayama,Masashi Mizokami,Masao Nagasaki,Katsushi Tokunaga,Minoru Nakamura.　Genome-wide association studies identify PRKCB as a novel genetic susceptibility locus for primary biliary cholangitis in the Japanese population.
Gastrointestinal　Endoscopy. 2017.2;85(2):371-379	Yojiro Sakuma,Yuzo Kodama,Yuko Sogabe,Yoshitaka Nakai,Yukitaka Yamashita,Sakae Mikami,Kozo Kajimura,Kazuki Ikeda,Hiroyuki Tamaki,Satoru Iwamoto,Fumihiro Matsuda,Koichi Fujita,Norimitsu Uza,Takashi Kawamura,Shinji Uemoto,Hiroshi Seno,Tsutomu Chiba,Shujiro Yazumi; Kyoto Pancreatobiliary Study Group. Diagnostic performance of a new endoscopic scraper for malignant biliary strictures:a multicenter prospective study.
消化器内視鏡　2016.5;28(5):700-708	水本吉則,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,熊谷健,太田義之,遠藤文司,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,勝島慎二.〔狭窄における内視鏡治療：上部消化管〕　食道癌性狭窄；金属ステント
臨床消化器内科　2016.6;31(8):1119-1125	水本吉則,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,勝島慎二.　悪性食道狭窄に対するステント治療―放射線化学療法後を含む
救急・集中治療 2016.7;28(7・8):630-634	遠藤文司.　急性胆道感染症に対してSBT/CPZを投与する？（胆道感染症に対する抗菌治療）
臨床雑誌外科　2016.10;78(10):1049-1055	水本吉則,濵田聖子,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,熊谷健,太田義之,遠藤文司,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,勝島慎二.食道・食道胃接合部狭窄に対するステント術
これが伏見流!心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。 2017.3:192-199	赤尾昌治、杉山裕章、高林健介、山下侑吾、石井充、阿部充、益永信豊、福田俊一、井口守丈、手塚祐司、濱谷康弘、長谷川浩二、小見山麻紀、安珍守、小川尚、岸本周子、江坂直樹、畑啓昭、大谷良、和田啓道、高木大輔、福田俊一、江里正弘、白神幸太郎、辻光、品川智子、中島康代、鵜木崇、片岡剛.　消化器内視鏡への対応

循環器内科



部長
診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等　日本循環器学会認定循環器専門医、代議員（社員）、
近畿支部評議員
日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員
日本不整脈心電学会評議員
日本心血管脳卒中学会評議員
京都大学臨床教授、非常勤講師

専 門 分 野　心房細動、不整脈、臨床疫学

□ スタッフ

平成 28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ 医療安全 管理副部長	阿部　　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医、代議員	心臓カテーテル検査・治療、造影剤腎症、医学統計	
医　　長 CCUチーフ	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
医　　師 不整脈チーフ	小川　　尚	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	不整脈、電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医　　師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	心不全、循環器領域の画像診断	
医　　師	石井　　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのインターベンション、循環器全般	
医　　師	安　珍守	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本不整脈心電学会　認定不整脈専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	不整脈、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医　　師	手塚　祐司	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
専 修 医	土井　康佑		循環器一般	
展開医療研究部部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	
医　　長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医	循環器一般、心臓リハビリテーション	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー：「地域、世界、そして将来に貢献する循環器内科」
1.「地域」：命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること
2.「世界」：より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること
3.「将来」：指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎
心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療（業務）内容

心臓、血管系の疾病全般を扱っています。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけています。
2014年9月8日に、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンし、「心血管治療センター」として稼働を開始しました。「心血管治療センター」では、冠動脈疾患や末梢動脈疾患に対するカテーテル検査・治療、不整脈疾患に対する電気生理検査・アブレーション治療を行っています。最新鋭のレントゲン透視装置で鮮明な画像が得られるため、より正確な診断と、より確実な治療が行えます。放射線の被ばく量も減少させることができます。より安全で確実に、清潔で快適な環境で、患者さんに検査や治療を受けて頂けるよう、そしてさらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献してまいる所存です。
当院は、三次救急病院として地域医療の最後の砦であるという自覚と責任感を持って、絶対に断らない医療を目標としています。医療関係者専用の当科医師への直通電話（循環器ホットライン：070-6506-7304)を設けています。24時間365日、緊急症例、診療のご相談、なんでも気軽にお電話下さい。重症度や緊急度によりましては、当科ドクターカーを派遣することも可能です。
高齢化の進むわが国において、心疾患の終末像ともいえる心不全患者が増加の一途を辿っています。心不全の治療には、薬物療法だけでなく、食事療法、心臓リハビリなどの運動療法、訪問介護・看護などを含めた生活の支援も重要になります。当科では、心臓リハビリスタッフ、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、医師を中心に、心不全チーム医療を充実させ、多職種介入による包括的管理に力を入れています。
また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。とくに、当科が中心となって2011年より開始した「伏見心房細動患者登録研究（伏見AFレジストリ）」は、日本の実臨床の現場における心房細動患者の実態を反映するデータとして全国の注目を集めており、その成果を国内や国外の一流学会や論文に発表しております。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
29.4名	1,178名	9.1日

外来患者数

1日平均患者数
66.2名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
317件	626件	35件	76件

ペースメーカー植込
35件

□ 地域医療連携・広報活動

第9回伏見心血管病勉強会「心房細動」　平成28年10月13日
第3回伏見AFネットワークミーティング　平成28年6月18日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学　会　名	演　　題	演　　者
プラザキサ発売5周年記念全国講演会ー日本の抗凝固療法は進化したか?ー 東京　2016.4.02	これからのBrain　Protectionを考える〜循環器の立場から	赤尾昌治
第41回日本脳卒中学会総会 札幌　2016.4.14〜2016.4.16	伏見心房細動患者登録研究における心原性脳塞栓症発症例のリスク解析	福田俊一、安田謙、米本直裕、塚原徹也、中村道三、青木友和、大谷良、村瀬永子、川端康弘、赤尾昌治
第3回北河内エリア心臓病連携セミナー 枚方　2016.4.23	地域発の登録研究の必要性と意義を考える〜伏見AFレジストリから	赤尾昌治
第6回Kyoto Congestive Heart Failure研究会　京都　2016.5.7	地域発の登録研究は何をもたらしたか〜伏見AFレジストリから	赤尾昌治
ハートをまもる心房細動カンファレンス 岐阜　2016.5.11	NOACで心房細動の抗凝固療法はどう変わったか〜伏見AFレジストリから	赤尾昌治
Expert Meeting Kyoto 2016 京都　2016.5.19	実臨床データの重要性	赤尾昌治
第5回 OJD Meeting 大阪　2016.5.21	NOACで心房細動の抗凝固療法はどう変わったか〜伏見AFレジストリから	赤尾昌治
抗凝固フォーラム in 足立 東京　2016.5.26	超高齢化社会の抗凝固療法はどうあるべきか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Japan Registry Day ~日本の血栓症登録研究について考える　東京　2016.6.4	地域発の登録研究は何をもたらしたか〜Fushimi AF Registryより	赤尾昌治
抗凝固療法 Up To Date　東京 2016.6.10	超高齢化社会の抗凝固療法はどうあるべきか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
抗血栓療法トータルマネジメントフォーラム　札幌　2016.6.11	超高齢化社会の抗凝固療法はどうあるべきか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
日本心血管脳卒中学会学術集会ランチョンセミナー3　東京　2016.6.17	心房細動レートコントロールにおけるβ遮断薬の位置付け〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第8回心血管を考える会　倉敷 2016.6.23	NOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第18回不整脈アカデミー　大阪 2016.6.23	NOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか	赤尾昌治
第9回京阪神インターベンションカンファレンス　神戸　2016.6.24	大動脈解離の除外が必要な、ショックを呈したSTEMIの一症例	阿部充
第100回日本神経学会中国・四国地方会ランチョンセミナー1　出雲　2016.6.25	CHADS2スコアを疑え!〜伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾昌治
Meet The Specialist　大津 2016.7.6	地域発の観察疫学研究の必要性と意義を考える〜伏見AFレジストリから	赤尾昌治
第25回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　東京　2016.7.7〜2016.7.9	造影剤腎症の実際とその対策:PCI後の永続性および一過性造影剤腎症発症が長期生命予後に与える影響	阿部　充
第63回日本不整脈心電学会学術集会 札幌　2016.7.14〜2016.7.17	Comparison of heart failure events in patients with atrial fibrillation receiving rhythm- versus rate-control therapy: The Fushimi AF Registry.	Yoshimori An, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Masaharu Akao.
第63回日本不整脈心電学会学術集会 札幌　2016.7.14〜2016.7.17	Clinical characteristics and outcomes of 'silent' (asymptomatic paroxysmal) atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Yeung-Hwa Chun, Hisashi Ogawa, Yoshimori An, Masaharu Akao.
第11回Keiji PCI Conference for Next Generation　京都　2016.7.22	造影剤腎症 恐るるに足らず ~腎機能障害は心臓カテーテル検査の妨げか~	阿部充
心房細動Webセミナー「高齢者AFのトータルケア」 東京　2016.7.26	低体重AF患者の脳卒中リスク〜伏見AFレジストリからの知見	赤尾昌治
ひたちなか抗血栓療法講習会　ひたちなか　2016.7.29	超高齢化社会の抗凝固療法はどうあるべきか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
釧路地区の不整脈治療を考える〜心房細動に出会ったら　釧路　2016.8.19	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
京都循環器医会学術講演会　京都 2016.8.20	京都府における急性心筋梗塞診療体制向上プログラムについて	阿部充
南河内心房細動セミナー　富田林 2016.8.24	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Medscape　ウェブ講演　Rome, Italy 2016.8.29	アドヒアランス向上への取り組み　-Fushimi AF registryより-	赤尾昌治

European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Temporal change of anticoagulation therapy and its outcomes of Japanese atrial fibrillation patients in the real-world clinical practice: The Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Yugo Yamashita, Ryuji Uozumi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Satoshi Morita, Mitsuru Abe.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Clinical characteristics and prognosis of silent versus manifest paroxysmal atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Yeung-Hwa Chun, Yoshimori An, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	The incidence of stroke after hospitalization for heart failure in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Moritake Iguchi, Yuji Tezuka, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	The impact of heart failure on the incidence of stroke in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Moritake Iguchi, Yuji Tezuka, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Relationship between systolic blood pressure and risk of stroke or systemic embolism in patients with atrial fibrillation: from the Fushimi AF Registry	Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	The combination therapy with oral anticoagulant and antiplatelet drug for atrial fibrillation patients: The Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	The clinical outcomes in atrial fibrillation patients with vascular disease: The Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Ethnic disparities between Japanese and British atrial fibrillation patients with previous stroke: Comparative analysis from the Fushimi and Darlington Atrial Fibrillation Registries	Hisashi Ogawa, Keitaro Senoo, Yoshimori An, Alena Shantsila, Eduard Shantsila, Deirdre A Lane, Andreas Wolff, Masaharu Akao, and Gregory Y H Lip.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Characteristics and outcomes in elderly Japanese and British patients with atrial fibrillation: Comparative analysis from the Fushimi and Darlington Atrial Fibrillation Registries	Hisashi Ogawa, Keitaro Senoo, Yoshimori An, Alena Shantsila, Deirdre A Lane, Andreas Wolff, Eduard Shantsila, Masaharu Akao, and Gregory Y H Lip.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Risk of stroke or systemic embolism in cardiomyopathy patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Yuji Tezuka, Daisuke Takagi, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao .
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	The impact of systolic blood pressure on hospitalization for heart failure in atrial fibrillation patients: The Fushimi AF registry.	Yuji Tezuka, Daisuke Takagi, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
European Society of Cardiology Congress 2016　Rome, Italy 2016.8.27～2016.9.1	Clinical characteristics and outcomes of atrial fibrillation patients taking direct oral anticoagulants in the real-world: The Fushimi AF Registry	Yugo Yamashita, Ryuji Uozumi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Satoshi Morita, Masaharu Akao.
高齢者AFトータルケア講演会　川越 2016.9.6	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
エリキュース Expert Seminar　東京 2016.9.11	地域発のレジストリ研究の必要性と意義を考える～伏見AFレジストリから	赤尾昌治
北陸地区Network Meeting　金沢 2016.9.15	地域発の登録研究の必要性と意義を考える～伏見AFレジストリから	赤尾昌治
最新医療懇話会　酒田市　2016.9.21	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第1回南京都不整脈アカデミー　京都 2016.9.29	唯一の国産DOAC、エドキサバンを心房細動治療に活かす	赤尾昌治
第39回日本高血圧学会総会ランチョンセミナー15　仙台　2016.10.1	心房細動レートコントロールにおけるβ遮断薬の位置付け～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
臨床医のための血栓症セミナー 安城市　2016.10.4	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第20回日本心不全学会学術集会 札幌　2016.10.07～2016.10.09	Predictors and prognosis of new-onset heart failure in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Moritake Iguchi, Yuji Tedsuka, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
エリキュース Master Class　東京 2016.10.16	地域発のレジストリ研究に見る、リアルワールドの多様性	赤尾昌治
宇和島地区Network Meeting　宇和島市 2016.10.21	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
心原性脳塞栓症一次・二次予防を考える心房細動Meeting　名古屋　2016.10.22	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
ケアネットweb講演　京都　2016.10.24	抗凝固療法中患者の血圧管理の重要性	赤尾昌治
リクシアナ座談会　京都　2016.10.30	高齢者AF治療の実践	赤尾昌治
第6回東三河不整脈研究会 豊橋市 2016.11.1	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
DOAC Forum in SASEBO　佐世保 2016.11.2	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
名古屋東部地区心房細動Network Meeting　名古屋　2016.11.5	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
American Heart Association Scientific Session 2016　New Orleans, LouisianaUSA　2016.11.12～2016.11.16	Relationship of hypertension and systolic blood pressure with the risk of bleeding in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Session 2016　New Orleans, LouisianaUSA　2016.11.12～2016.11.16	Progression from paroxysmal to sustained atrial fibrillation as an increased risk of hospitalization for heart failure: The Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Session 2016　New Orleans, LouisianaUSA　2016.11.12～2016.11.16	Efficacy and safety of direct oral anticoagulants in patients with atrial fibrillation in the real-world: The Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Ryuji Uozumi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Satoshi Morita, Masaharu Akao.

SPAF座談会　New Orleans, LouisianaUSA　2016.11.12～2016.11.16		赤尾昌治
PAC16　京都　2016.11.18～2016.11.19	SESのVLSTに対する治療に難渋した一例	阿部充
DS Oral Anticoagulant Forum　神戸 2016.11.24	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
天神京循環器セミナー2016　大阪 2016.11.26	造影剤腎症を究める!	阿部　充
天神京循環器セミナー2016　大阪 2016.11.26	唯一の国産DOAC、エドキサバンを心房細動治療に活かす	赤尾昌治
敦賀市医師会学術講演会　敦賀 2016.11.30	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
高島市血栓療法セミナー　高島市 2016.12.8	地域発の登録研究の必要性と意義を考える～伏見AFレジストリから	赤尾昌治
第3回KIBC　大阪　2016.12.17	左浅大腿動脈のステント内急性閉塞を繰り返した一例	阿部　充
ELDERCARE-AF全国キックオフ会議 東京　2016.12.17	伏見AFレジストリから、試験にエントリーすべき患者像を考える	赤尾昌治
氷見市医師会学術講演会　氷見市 2016.12.21	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Thrombosis Meeting　千葉市 2017.1.13	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
DS Oral Anticoagulant Forum　大阪 2017.1.14	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第2回宮崎脳卒中予防セミナー　宮崎市 2017.1.26	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
京都脳卒中 Expert Meeting　京都 2017.1.27	伏見AFレジストリは何をもたらしたか～地域発の登録研究の意義を考える	赤尾昌治
Heart Disease Seminar　大阪　2017.2.4	地域発の登録研究の必要性と意義を考える～伏見AFレジストリから	赤尾昌治
第12回日本PCIフェローコース　博多 2017.2.4	冠動脈疾患と腎障害（循環器内科医から）～腎機能障害は心臓カテーテル検査の妨げか?～	阿部　充
心房細動治療セミナー　松山市 2017.2.9	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
静岡AFカンファレンス　静岡市 2017.2.10	抗凝固療法の質の向上には何が必要か～伏見AFレジストリから考える	赤尾昌治
東近江抗血栓療法セミナー　東近江市 2017.2.16	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
日赤長崎原爆病院　循環器病診連携学術講演会　長崎市　2017.2.23	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
島原市医師会学術講演会　島原市 2017.2.24	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
DS Oral Anticoagulant Forum 京都市　2017.2.25	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Cardio-Coagulation座談会 東京都 2017.2.28	心房細動リスクスコアと日本人	赤尾昌治
World Kidney Day（WKD）& 脈の日 Joint Seminar　岐阜市　2017.3.9	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017. 3. 19	Impact of the J-CTO score on long-term target lesion revascularization rate after native chronic total coronary occlusion angioplasty	阿部充
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Meet the ESC: Registries and Innovation in Research The Role of Registries in Arial Fibrillation	Masaharu Akao
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Meet the Expert: 抗凝固療法：RCTからReal Worldへ Real-world studies of atrial fibrillation in Japan: Current status and future perspectives	Masaharu Akao
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Risk stratification for ischemic stroke in Japanese non-valvular atrial fibrillation patients: Pooled analysis of five major Japanese atrial fibrillation registries	Ken Okumura, Fumiaki Nakamura, Eitaro Kodani, Shinya Suzuki, Masaharu Akao, Kenshi Hayashi, Shun Kohsaka, Masahiko Goya, Takeshi Yamashita, Keiichi Fukuda, Mitsuaki Isobe, Kazunori Toyoda, Yoshihiro Miyamoto, Hiroaki Miyata, Tomonori Okamura, Yusuke Sasahara, Hirofumi Tomita for the J-RISK AF Research Group
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Efficacy and Safety of Direct Oral Anticoagulants Compared to Warfarin and Non-Anticoagulated Patients: Pooled Analysis from 5 Japanese AF Registries	Shun Kohsaka, Fumiaki Nakamura, Takehiro Kimura, Eitaro Kodani, Shinya Suzuki, Masaharu Akao, Kenshi Hayashi, Kazunori Toyoda, Yoshihiro Miyamoto, Hiroaki Miyata, Masahiko Goya, Takeshi Yamashita, Tomonori Okamura, Hirofumi Tomita, Ken Okumura for the J-RISK AF Research Group
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Causes of Cardiovascular and Non-cardiovascular Death in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Yuji Tezuka, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao ; for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Paradoxical Association of Body Mass Index with Mortality in Japanese Patient with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Yuji Tezuka, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao ; for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Clinical characteristics of Japanese patients with atrial fibrillation with mitral stenosis: The Fushimi AF Registry	Kosuke Doi, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Progression of heart failure is associated with poor prognosis in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Yuji Tezuka, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Kousuke Doi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Decompensated but not compensated heart failure is a risk for stroke in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Yuji Tezuka, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Exploration of risk factors for major bleeding in Japanese AF patients with oral anticoagulation: The Fushimi AF Registry	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao

第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	The combination therapy with oral anticoagulant and antiplatelet drug for atrial fibrillation patients with vascular disease: The Fushimi AF Registry.	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Adverse Outcomes after Incidence of Major Bleeding in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Kousuke Doi, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Clinical Outcomes in Atrial Fibrillation Patients with Bundle Branch Block: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Hiroaki Sugiyama, Yoshimori An, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Electrocardiographic T-wave flatness/inversion predicts adverse cardiovascular outcomes in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Hiroaki Sugiyama, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Hypokalemia was associated with higher all-cause mortality in patients with atrial fibrillation in Japan: The Fushimi AF Registry	Yuji Tezuka, Moritake Iguchi, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Lower sodium levels in the normal range were associated with mortality in atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yuji Tezuka, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017.3.17～2017.3.19	Under-dosing of Direct Oral Anticoagulants in Patients with Atrial Fibrillation in the Real-world: The Fushimi AF Registry	Yugo Yamashita, Yoshimori An, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第81回日本循環器学会学術集会総会 金沢　2017. 3.17～2017.3.19	心房細動と高血圧の関連を再考する～抗凝固療法中の血圧管理の重要性	赤尾昌治
第398回直鞍研修会　直方市 2017.3.21	地域発の登録研究の必要性と意義を考える～伏見AFレジストリから	赤尾昌治
京滋地区ANAFIE Registry神経内科ミーティング　京都　2017.3.24	高齢者心房細動のリアルワールド～ANAFIEレジストリ開始の背景	赤尾昌治
TAMAGAWA AFカンファレンス 東京都　2017.3.31	DOAC登場から5年、抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著者
Is new-onset atrial fibrillation bad news for patients with heart failure?　Circ J 2016.1;80(1):62-63	Moritake Iguchi, Masaharu Akao.
Clinical characteristics and outcomes in extreme elderly (age ≥85) Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.　Chest　2016.2;149(2):401-412	Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Gregory Y.H. Lip, Masaharu Akao.
Indications, applications, and outcomes of inferior vena cava filters for venous thromboembolism in Japanese patients.　Heart Vessels　2016.7;31(7):1084-1090	Yugo Yamashita, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
Incidence and predictors of ischemic stroke during hospitalization for congestive heart failure　Heart Vessels　2016.7;31(7):1154-1161	Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Michikazu Nakamura, Ryo Ohtani, Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Mio Hamatani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao
One-year outcome of a prospective trial stopping dual antiplatelet therapy at 3 months after everolimus-eluting cobalt-chromium stent implantation: ShortT and OPtimal duration of Dual AntiPlatelet Therapy after everolimus-eluting cobalt-chromium stent (STOPDAPT) trial.　Cardiovasc Interv Ther　2016.7;31(3):196-209	Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto E, Shiomi H, Furukawa Y, Abe M, Nakao K, Ishikawa T, Kawai K, Yunoki K, Shimizu S, Akao M, Miki S, Yamamoto M, Okada H, Hoshino K, Kadota K, Morino Y, Igarashi K, Tanabe K, Kozuma K, Kimura T
Left atrial enlargement is an independent predictor of stroke and systemic embolism in patients with non-valvular atrial fibrillation　Sci Rep　2016.8;6:31042	Yasuhiro Hamatani, Hisashi Ogawa, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Gregory Y.H. Lip, Masaharu Akao
International Collaborative Partnership for the Study of Atrial Fibrillation (INTERAF): Rationale, Design, and Initial Descriptives.　J Am Heart Assoc 2016.11.02;5(11):e004037	Jonathan C. Hsu, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Karen L. Anderson, Alvaro Avezum,Nathan Glusenkamp, Shun Kohsaka, Deirdre A. Lane, Gregory Y. H. Lip, Chang-Sheng Ma,Frederick A. Masoudi, Tatjana S. Potpara, Teo Wee Siong, Mintu P. Turakhia, Hung-Fat Tse,John S. Rumsfeld, Thomas M. Maddox.
Stroke and death in elderly patients with atrial fibrillation in Japan compared with the United Kingdom.　Heart　2016.12;102(23):1878-1882	Keitaro Senoo, Yoshimori An, Hisashi Ogawa, Deirdre A Lane, Andreas Wolff, Eduard Shantsila, Masaharu Akao, and Gregory Y H Lip
Study design of J-ELD AF: A multicenter prospective cohort study to investigate the efficacy and safety of apixaban in Japanese elderly patients.　J Cardiol 2016.12;(68):554-558	Masaharu Akao, Takeshi Yamashita, Ken Okumura, for the J-ELD AF Investigators
Clinical characteristics and outcomes of dialysis patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.　Heart Vessels　2016.12;31(12):2025-2034	Yugo Yamashita, Daisuke Takagi, Yasuhiro Hamatani, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hitoshi Itoh, Masato Nishimura, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
血液サラサラは健康の証？ Medical Practice　2016;33(4):664	赤尾昌治
日本人における心原性脳塞栓症リスク―欧米人との相違　診断と治療 2016;104(5):549-554	赤尾昌治
プライマリケア医のための抗凝固療法セミナー：超高齢者の心房細動に抗凝固療法を行うべきか？　Cardio-Coagulation　2016;3(2)42-47	赤尾昌治
抗凝固薬Anticoagulants　Heart View　2016;20(12):50-59	安珍守、赤尾昌治
Relation of Stroke and Major Bleeding to Creatinine Clearance in Patients With Atrial Fibrillation (From the Fushimi AF Registry).　Am J Cardiol　2017.1:in press	Abe M, Ogawa H, Ishii M, Masunaga N, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Lip GY, Akao M
CREDO-Kyoto AMI Registry Investigators. Cardiac and Noncardiac Causes of Long-Term Mortality in ST-Segment-Elevation Acute Myocardial Infarction Patients Who Underwent Primary Percutaneous Coronary Intervention.　Circ Cardiovasc Qual Outcomes　2017.1;10(1)	Yamashita Y, Shiomi H, Morimoto T, Yaku H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Abe M, Nagao K, Shizuta S, Ono K, Kimura T
これが伏見流!心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。 2017.3:全編	赤尾昌治
Ethnic differences in patients with atrial fibrillation and prior stroke: The Fushimi and Darlington AF Registries　eBioMedicine　2017 in press	Hisashi Ogawa, Keitaro Senoo, Yoshimori An, Alena Shantsila, Eduard Shantsila, Deirdre A Lane, Andreas Wolff, Masaharu Akao, Gregory Y H Lip.
Current status and outcomes of direct oral anticoagulant use in patients with atrial fibrillation in the real-world: The Fushimi AF Registry　Circ J　2017 in press	Yugo Yamashita, Ryuji Uozumi, Yasuhiro Hamatani, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Satoshi Morita, Masaharu Akao

ワルファリン、DOAC　ここが知りたい-循環器の薬と使い方　2017:180-189	赤尾昌治
From the World Conference「ESC（欧州心臓学会）2016」 Cardio-Coagulation　2017;2(3):59-61	赤尾 昌治
アピキサバン　Circulation Up-to-Date「超実践的!抗凝固薬の使いかた」　2017:40-47	赤尾 昌治
心不全のキードラッグを使いこなす!「抗凝固薬」　月刊薬事　2017;59(4):47-51	井口守丈、赤尾昌治

小児科



診療科長
秋山　祐一

専門医資格等　日本小児科学会専門医
京都大学医学部　臨床教授
専 門 分 野　血液・腫瘍
得 意 疾 患　予防接種・心身症

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	浅井　康一	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本小児感染症学会　評議員 ICT(Infection Control Doctor) 京都大学医学博士	小児アレルギー/小児膠原病/小児科感染症	喘息・アトピー・食物アレルギー
医　　長	黒須　英雄	日本小児科学会専門医 国際ラクテーションコンサルタント(IBCLC) 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	未熟児・新生児	新生児一般・母乳育児
医　　長	河田　　興	日本小児科学会専門医　薬事委員 日本周産期新生児医学会　周産期(新生児)専門医・指導医 日本臨床薬理学会　専門医・指導医 日本新生児成育医学会　薬事委員 小児臨床薬理学会　教育委員・運営委員 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	未熟児・新生児 臨床薬理	妊娠とくすり・新生児とくすり
医　　師	石塚　哲也		小児感染症/小児救急	小児感染症/小児救急
医　　師	北　　誠	日本小児科学会専門医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	未熟児・新生児/小児全般	虐待・遺伝子解析・先天異常
医　　師	阿水　利沙	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	極・超出生体重児・先天異常
医　　師	豊田　有子	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺・遺伝子解析・先天異常
医　　師	佐治　くみ子	日本小児科学会専門医	小児全般	
医　　師	仁井　純子	日本小児科学会専門医	小児全般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会専門医研修施設 周産期(新生児)専門医指定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修

1. お子さんの、心とからだの発達を重視します
2. スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3. 小児期からもちこした疾患の診療に関与します

4. 御家族全体が健康であるように、配慮します
5. 長期入院の場合に学習の継続を重視します（院内学級併設）

□ 主な対象疾患

1．平成12年4月から新生児集中治療室（NICU6床）に加え、平成23年12月に新生児治療回復室（GCU6床）を開設しました。赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。
2．産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています。
3．小児科病棟（2-3病棟）では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します。
4．乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています。

□ 診療（業務）内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。
このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。
初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。
主な取り扱い疾患は以下の通りです。

- 新生児・低出生体重児（2500g未満）
- 小児血液疾患（白血病、血小板減少症、貧血）
- アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
- 小児腎疾患（血尿・蛋白尿）
- 小児感染症全般
- 小児心臓疾患
- 小児内分泌疾患（甲状腺疾患・低身長など）
- 小児代謝疾患（糖尿病・副腎過形成など）
- 小児のてんかん、発達障害

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.2名	320名	12.9日

外来患者数

1日平均患者数
34.2名

□ 地域医療連携・広報活動

第3回京都免疫クロストーク　一般演題　座長　浅井康一　2016年7月2日　（京都・芝蘭会館別館）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学会名	演　者	演　題
第25回伏見臨床小児科懇話会 2017.3.18	浅井　康一、秋山 祐一、仁井　純子、橋本　有希子、阿水　利沙、北 誠、石塚 哲也、黒須 英雄、河田 興	耳下腺腫脹を伴わず発症した、ムンプス髄膜炎の1歳男児例
FM845（ラジオ放送） 2016.8.30	浅井康一	小児の食物アレルギーについて
題2回日本周産期・新生児医学会学術集会　2016.7.17	阿水　利沙、北　誠、黒須　英雄、河田　興	当院における小児科医の分娩立ち会い
第22回京都小児科医会　感染症研究会　2016.10.22	阿水　利沙、北　誠、黒須　英雄、河田　興、石塚 哲也、豊田　有子、浅井　康一、秋山　祐一	生後２週以降に発症したStreptococcus bovis髄膜炎の極低出生体重児

第70回国立病院総合医学会 2016.11.11	阿水　利沙、北　誠、黒須　英雄、河田　興、石塚 哲也、豊田　有子、浅井　康一、秋山　祐一	streptococcus_gallolyticus_subsp.pasteurianusによる新生児細菌性髄膜炎
第30回京滋新生児成育研究会 2017.2.25	阿水　利沙、北　誠、黒須　英雄、河田　興、石塚 哲也、仁井　純子、浅井　康一、秋山　祐一	分娩立ち会い体制についての検討
摂南大学薬学部学生講義「先端医療２」 2016.5.12	河田 興	NICUで求められる薬剤師 小児薬物療法認定薬剤師
香川大学医学部医療総合講義 2016.7.4	河田 興	新生児へ薬物を使用する 臨床薬理学の手引き
第52回日本周産期・新生児医学会学術集会　2016.7.16	河田 興 阿水利沙　黒須英雄　北 誠	当院におけるコニカミノルタ黄疸計（ＪＭ-103）を用いた出生後早期の新生児黄疸管理
第26回日本医療薬学会年会 2016.9.17	河田 興	NICUにおける　医師と薬剤師の協同
第15回日本新生児黄疸管理研究会　2016.10.1	河田 興　安田真之　岡田仁　日下隆　伊藤進	TB測定の問題点　採血前半と後半の毛細管検体でTB値は異なるか？
平成28年度 秋期 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会 2016.11.26	河田 興	授乳のメリットと授乳と薬剤
第43回日本小児臨床薬理学会学術集会　2016.11.11	河田 興 中嶋尚子 喜田孝史 黒須英雄 阿水利沙 高倉賢人 安 珍守	エドキサバンのヒト乳汁移行の検討ー妊娠・産褥期に処方する経口抗凝固薬（NOAC）における問題点ー
第61回日本新生児成育医学会 2016.12.1	河田 興　安田真之　岡田仁　日下隆　伊藤進	極低出生体重児の黄疸管理―極低出生体重児の黄疸はいつまで遷延するのか―
第37回日本臨床薬理学会学術総会（米子）　2016.12.1	河田 興 中嶋尚子 喜田孝史 黒須英雄 阿水利沙 高倉賢人 安 珍守	エドキサバンのヒト乳汁移行の検討ー妊娠・産褥期に処方する経口抗凝固薬（NOAC）における問題点ー
ICHG2016（The 13th International Congress of Human Genetics）　2016.4.6	Makoto kita, Takesi Usui, Yasuhiro Kuwata, Yuichi Akiyama, Akira Shimatsu	The minor nasopharyngeal anomaly in a family of Hypoparathyroidism, Deafness, and Renal displasia (HDR) syndrome.
第30回近畿小児科学会 2017.3.12	北 誠, 阿水 利沙, 石塚 哲也, 黒須 英雄, 河田 興, 浅井 康一, 秋山 祐一	頻回の嘔吐を特徴とし発作時脳波で前頭葉の焦点由来と考えられたPanyiotopoulos症候群の１例
第25回母乳育児シンポジウム 2016.7.30	黒須英雄、河田興、橋本恵	母乳栄養が確立しない要因の検討
第31回日本母乳哺育学会 2016.9.17	黒須英雄	授乳支援必要度スコアリング導入の試み
第10回国立病院機構母乳育児推進の集い　2016.11.11	黒須英雄	赤ちゃんにやさしい病院(BFH)に向けての取り組み

□ 投稿論文など

著　　者	タイトル・著書・雑誌名
中川 雅生, 土田 尚, 河田 興, 佐藤 淳子, 崎山 美知代, 平野 慎也, 森 雅亮, 中村 秀文	日本小児科学会雑誌　本邦における小児医薬品開発推進のための提言
河田 興 . Rp.2016:15(4),054-058	Rp. 【プロフェッショナルに聞いた!乳幼児の発熱】「乳幼児の発熱」ワンポイントアドバイス　発熱時の処方に関するFAQ
河田 興 Neonatal Care 2016:29(9),838	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】モルヒネ　ー般名:モルヒネ塩酸塩　静注　持続静注.
河田 興 Neonatal Care 2016:29(9), 832	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】ホストイン　ー般名:ホスフェニトインナトリウム　静注.
河田 興Neonatal Care 2016:29(9), 825	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】フェンタニル　ー般名:フェンタニルクエン酸塩　静注　持続静注
河田 興 Neonatal Care 2016:29(9), 818	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】ノーベルバール　ー般名:フェノバルビタールナトリウム　静注.
河田 興 Neonatal Care 2016:29(9), 817	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】ドルミカム、ミダフレッサ　ー般名:ミダゾラム　静注　持続静注.
河田 興 Neonatal Care 2016:29(9), 805	Neonatal Care　【トラブル回避のコツはこれ!】エスラックス　ー般名:ロクロニウム臭化物　静注　持続静注.
河田　興，藤村　尚子，平野　慎也 2015:28,11-16	日本小児臨床薬理学会雑誌　新生児適応外医薬品リストの現状調査と適応外解決への提言　平成14・15年度リスト薬品の平成26年添付文書記載.

外科



診療科長
(肝胆膵責任者)
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本肝癌研究会幹事・取扱い規約委員
日本臨床外科学会　評議員
京都大学医学部　臨床教授
京都大学　医学博士
専門分野　肝胆膵外科
得意疾患　肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 (乳腺責任者)	山﨑　誠二	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 日本乳癌学会　乳腺専門医・認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 ASCO member 京都大学　医学博士	乳腺	乳がん
医長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷　哲之	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 京都大学医学部　臨床教授	上部消化管	胃がん 食道がん
医長 (下部消化管責任者)	山口　高史	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医師	成田　匡大	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能専門医 日本消化器病学会　専門医 Le DiplÔme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　医学博士	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん

医　　師	畑　　啓昭	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター)	上部消化管	胃がん 食道がん
医　　師	松末　　亮	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 内痔核治療法研究会　四段階注射法講習会受講 京都大学　医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医　　師	山賀　　郁	日本外科学会 外科専門医	乳腺	乳がん
医　　師	花田　圭太	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
医　　師	佐治　雅史	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
医　　師	中西　宏貴	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
専　修　医	直原　駿平			
専　修　医	大倉　啓輔			
専　修　医	岡田　はるか			
専　修　医	後藤　健太郎			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設

1. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
2. 臓器別（上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺）に専門医がおり、専門性が高く高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術（体への負担が少ない手術）を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行ったり、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行って臓器温存を図ったりしています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。
   各科が必要に応じた治療が可能なため、特定の科の治療にかたよることもありません。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療（業務）内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
41.5名	1,073名	13.8日

外来患者数

1日平均患者数
68.6名

手術実績

全手術件数（外来手術含める）	970件
全麻手術	767件
腰麻手術	31件
局麻手術	172件

※うち緊急手術件数148件

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術 (ポリペクトミー、EMR,ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	6	5
幽門側胃切除術（幽門保存胃切除術を含む）	52	40
胃全摘術（噴門側胃切除術を含む）	23	10
結腸切除術	119	79
直腸前方切除術	60	51
直腸切断術	4	2
肝切除術（葉切除以上）	13	2
肝切除術（区域・亜区域切除術）	33	8
肝切除術（上記以外）	20	13
膵頭十二指腸切除術	17	0
膵体尾部切除術（胃がん手術に伴うものは除く）	6	3
膵切除術（その他）	2	0
乳がん手術	76	0
胆嚢摘出術	123	108
脾摘術	0	0
虫垂切除術	49	39
ヘルニア手術（小児を除く）	138	13
良性肛門疾患手術	30	1
小児外科手術（ヘルニアも含む）	9	1

□ 地域医療連携・広報活動

2016/4/23	第31回伏見医師会　癌医療病診連携の会　「胃癌の周術期化学療法について」　畑啓昭
2016/5/26	京都医療センター　がん診療セミナー　「肝臓がんについて～外科的立場から～」　猪飼伊和夫
2016/6/7	第16回京都南部外科集談会　「腹腔鏡下に切除した胸骨後再建胃管癌の一例」　花田圭太

2016/6/24	大腸がんexpertmeeting 「直腸癌の治療について-EST-NEO試験の結果から-」 山口高史
2016/6/25	第12回関西肝臓外科医育成の会 「肝細胞がん破裂、コイル塞栓術後に対する手術手技の工夫」 直原駿平、成田匡大、猪飼伊和夫
2016/7/2	伏見消化器研究会 「上部消化管外科手術の進歩」 畑啓昭
2016/7/2	第44回京大外科関連施設癌研究会 「PDのビデオ」 成田匡大
2016/7/9	京都消化器のつどい 「上部消化管外科手術の進歩」 畑啓昭
2016/9/3	第7回京都医療センター医療連携フォーラム 「乳がん予防のためのライフスタイル再考」 山﨑誠二
2016/9/15	Meeting of Venous ThromboEmbolism～今後のVET（静脈血栓塞栓症）治療を考える～「ディスカッション ①周術期PEをふせぐために ②手術におけるヘパリンブリッジは必要か?」 畑啓昭
2016/9/24	第21回京都臨床外科セミナー 「胸腔鏡下食道亜全摘術」 花田圭太
2016/10/7	第12回滋賀消化器外科カンファレンス 「当院での上部消化管手術の現状」 畑啓昭
2016/10/15	第2回 肝胆膵外科・メルパルクフォーラム 「当科における肝S8亜区域切除の実際と成績」成田匡大 直原駿平 花田圭太 猪飼伊和夫
2016/11/18	陰圧閉鎖療法セミナー 「NPWTの適応、気をつける点、文献エビデンス、世間の流れ等」 畑啓昭 「腸管露出・ろう孔症例等へのNPWT」 佐治雅史
2016/11/20	研修医のための輸液セミナー 「「術後輸液」の部屋 何を どれだけ どんな根拠で?」 畑啓昭
2016/12/3	平成28年度京都大学外科冬季研究会 「肝細胞癌破裂、コイル塞栓術後症例に対する手術手技の工夫」 直原駿平 成田匡大 猪飼伊和夫
2017/2/18	栃木県立がんセンター Grand-Conference 「手術部位感染予防と院内感染対策～ガイドラインと実際に行っていること～」 畑啓昭
2017/2/18	京都外科医会学術講演会 <京都医療センターの外科治療の特色と実際> 「病院紹介」 猪飼伊和夫 臓器別部門紹介「(1)食道癌・胃癌治療のOverview」 花田圭太 「(2)当院における大腸肛門疾患の実際」 松末亮 「(3)当院における肝胆膵手術の変遷」 成田匡大 「(4)当院における乳がん治療について」 山﨑誠二
2017/2/18	京都外科医会学術講演会 「90歳体上部胃癌の1手術症例」 花田圭太 「結腸直腸癌の集学的治療」 中西宏貴 「当院における細胆管癌の検討」 岡田はるか 「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛に対する新しい治療」 大倉啓輔 「尿膜管遺残の外来治療」 佐治雅史

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区 分	演 者	演 題	学会名	開催地	会期
国際学会	Narita M, Moriyoshi K, Hanada K, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I	Prevention from neuralgia following inguinal hernia repair,What should we know?	EHS2016	オランダ	2016.6.5～2016.6.8
国内学会	花田圭太 畑啓昭 大谷哲之 大倉啓輔 岡田はるか 後藤健太郎 直原駿平 中西宏貴 佐治雅史 松末亮 成田匡大 山口高史 山崎誠二 猪飼伊和夫	鼠径リンパ節穿刺によるリンパ管造影が有用であった食道癌術後乳糜胸の1例	第70回日本食道学会学術集会	東京	2016.7.4～2016.7.6
国内学会	花田圭太 畑啓昭 大倉啓輔 岡田はるか 後藤健太郎 直原駿平 中西宏貴 佐治雅史 松末亮 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	胸骨後再建後の胃管癌に対する手術～腹腔鏡下横隔アプローチの有用性～	第71回日本消化器外科学会総会	徳島	2016.7.14～2016.7.16
国際学会	中西宏貴 大倉啓輔 岡田はるか 後藤健太郎 直原駿平 佐治雅史 花田圭太 山賀郁 松末亮 畑啓昭 成田匡大 山口高史 大谷哲之 山﨑誠二 猪飼伊和夫	重症急性膵炎に合併した被包化壊死に対して後腹膜アプローチによるnecrosectomyを施行した3例	第71回日本消化器外科学会総会	徳島	2016.7.14～2016.7.16
国内学会	藤井正一 石黒めぐみ 手良向聡 松田宙 上野秀樹 安政啓吾 尾嶋仁 江川智久 進士誠一 井川理 村田幸平 山上英樹 横山登 山口高史 杉原健一	Stage Ⅱ大腸癌における術後補助化学療法の有用性:SACURA trial	第54回日本癌治療学会学術集会	横浜	2016.10.20～2016.10.22
国内学会	成田匡大 森吉弘毅 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	病理所見から検討した鼠径ヘルニア術後神経因性慢性疼痛の発生	第14回日本ヘルニア学会	東京	2016.10.27～2016.10.29
国内学会	山口高史 松末亮 大倉啓輔 後藤健太郎 岡田はるか 直原駿平 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡手術における腹膜外経路でのS状結腸単孔式ストーマ造設	第71回日本大腸肛門病学会学術集会	三重	2016.11.18～2016.11.19
国内学会	松末亮 山口高史 大倉啓輔 後藤健太郎 岡田はるか 直原駿平 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	単孔式ストーマにおける傍ストーマヘルニアについて	第71回日本大腸肛門病学会学術集会	三重	2016.11.18～2016.11.19
国内学会	中西宏貴 山口高史 大倉啓輔 岡田はるか 後藤健太郎 直原駿平 佐治雅史 花田圭太 山賀郁 松末亮 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 山﨑誠二 猪飼伊和夫	S状結腸癌術後の肝門部リンパ節転移を伴った肝転移再発に対し集学的治療を行い長期生存が得られた一例	第71回日本大腸肛門病学会学術集会	三重	2016.11.18～2016.11.19
国内学会	成田匡大	当院における腹腔鏡下肝切除の導入と現状	第10回肝臓内視鏡外科研究会	東京	2016.11.23

国内学会	成田匡大 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	当院における超高齢者肝細胞癌に対する肝切除後治療成績	第78回日本臨床外科学会総会	東京	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	松末亮 山口高史 大倉啓輔 後藤健太郎 岡田はるか 直原駿平 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下大腸切除術の開腹移行症例の検討	第78回日本臨床外科学会総会	東京	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	佐治雅史 畑啓昭 大倉啓輔 岡田はるか 後藤健太郎 直原駿平 中西宏貴 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 大谷哲之 山﨑誠二 猪飼伊和夫	尿膜管膿瘍に対する起炎菌と適正抗菌薬の検討	第78回日本臨床外科学会総会	東京	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	直原駿平 成田匡大 後藤健太郎 岡田はるか 大倉啓輔 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	肝細胞癌破裂に対して肝動脈前区域枝へのコイル塞栓術後に対する肝S8亜区域切除術	第78回日本臨床外科学会総会	東京	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	畑啓昭　坂井義治	パネルディスカッション1：手術部位感染の予防 術後感染予防抗菌薬の投与法について	第59回日本感染症学会 中日本地方会学術集会	沖縄	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	畑啓昭	ランチョンセミナー2：SSIケアバンドルの最新知見-整形外科医と消化器外科医の立場から- SSIケアバンドルの最新知見-消化器外科医の立場から-	第59回日本感染症学会 中日本地方会学術集会	沖縄	2016.11.24～2016.11.26
国内学会	畑啓昭	スポンサードシンポジウム2 CDCガイドライン/ドラフトからみたSSI予防バンドル　SSI予防対策バンドル～消化器外科領域～	第29回日本外科感染症学会総会	東京	2016.11.30～2016.12.1
国内学会	畑啓昭	教育委員会企画プログラム　プレゼンター 「周術期感染対策にまつわるコスト」	第29回日本外科感染症学会総会	東京	2016.11.30～2016.12.1
国際学会	Hata H	usefulness of oral and parenteral antibiotic prophylaxis in colorectal	16ｔｈ　Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology & Infection	オーストラリア	2016.11.30～2016.12.3
国内学会	成田匡大 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	当院における腹腔鏡下肝切除の導入と現	第29回日本内視鏡外科学会総会	横浜	2016.12.8～2016.12.10
国内学会	畑啓昭	日本外科感染症学会合同シンポジウム ERAS: enhanced recovery after surgery ー最近のSSI防止ガイドラインを踏まえてー　ディスカッサント	第32回日本環境感染学会総会・学術集会	神戸	2017.2.24～2017.2.25
研究会	畑啓昭	WHO SSI サーベイランスを読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー「知って得する感染症」外科感染症のUp To Date 2017 in Tokyo	東京	2017.3.25

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
畑啓昭	あらゆる場面で自信がもてる!　輸液療法　はじめの一歩 基本知識と状況に応じた考え方、ピットフォール　第2章診療の場による輸液の考えかた　3.外科病棟・周術期での輸液	増刊レジデントノート	18	2	46-53	2016.4
畑啓昭	【術前術後の水分バランスアセスメント　尿は語る】　手術による水分の動き	消化器外科 NURSING	21	5	442-445	2016.5
畑啓昭	【術前術後の水分バランスアセスメント　尿は語る】「尿の語り」を読み取る!	消化器外科 NURSING	21	5	446-450	2016.5
畑啓昭	【術前術後の水分バランスアセスメント　尿は語る】輸液とのバランスまでわかると上級	消化器外科 NURSING	21	5	451-454	2016.5
畑啓昭	【術前術後の水分バランスアセスメント　尿は語る】エキスパート!　心・腎機能の悪い患者の場合	消化器外科 NURSING	21	5	455-457	2016.5
Hata H, Yamaguchi T, Hasegawa S, Nomura A, Hida K, Nishitai R, Yamanokuchi S, Yamanaka T, Sakai Y.	Oral and Parenteral Versus Parenteral Antibiotic Prophylaxis in Elective Laparoscopic Colorectal Surgery (JMTO PREV 07-01): A Phase 3, Multicenter, Open-label, Randomized Trial.	Ann Surg.	263	6	1085-91	2016.6
花田圭太 直原駿平 佐治雅史 畑啓昭 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下修復術を行ったラジオ波焼灼術後横隔膜ヘルニア嵌頓の1例(原著論文)	外科	78	6	649-654	2016.6
畑啓昭 志馬伸朗	術後肺合併症のリスク評価	日本外科感染症学会雑誌	13	3	201-208	2016.6
畑啓昭	結腸・直腸手術	術後ケアとドレーン管理のすべて			270-273	2016.7
畑啓昭	【感染症診療-その常識は正しいか?-】脾損傷患者に対して肺炎球菌ワクチンを接種する?	救急・集中治療	28	7.8	543-548	2016.7
畑啓昭	抗がん治療における手術療法の基礎知識：固形腫瘍では第一選択肢として、症状・全身状態に応じて適応を判断する	Hospitalist	4	3	630-638	2016.9
畑啓昭	感染症フォーカス　手術部位感染の予防	INFECTION FRONT	38		4-7	2016.10

山口高史・松末亮	Ⅴ.下部直腸癌に対する剥離授動　-Rbにかかる進行癌を想定- 2.腸管・腸間膜の剥離・授動、直腸切離におけるコツ・工夫 ①骨盤神経叢・神経血管束と直腸との剥離層を見つけるコツ	腹腔鏡下大腸癌手術の要点と盲点			128-131	2016.10
Goto S, Hasegawa S, Hata H, Yamaguchi T, Hida K, Nishitai R, Yamanokuchi S, Nomura A, Yamanaka T, Sakai Y.	Differences in surgical site infection between laparoscopic colon and rectal surgeries: sub-analysis of a multicenter randomized controlled trial (Japan-Multinational Trial Organization PREV 07-01).	Int J Colorectal Dis.	31	11	1775-1784	2016.11
畑啓昭	第5章　連携して診る　6. 外科手術への対応	これが伏見流! 心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。			200-207	2017.3
Saito S, Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Saito N, Kinugasa Y, Akazai Y, Ota M, Ohue M, Komori K, Shiozawa M, Yamaguchi T, Akasu T, Moriya Y; Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group.	Male sexual dysfunction after rectal cancer surgery: Results of a randomized trial comparing mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for patients with lower rectal cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0212.	Eur J Surg Oncol.	42	12	1851-1858	2016.12

整形外科



診療科長
中川　泰彰

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専 門 分 野　スポーツ、軟骨、関節
得 意 疾 患　膝、肩、肘関節

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	山 田　　茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　　師	向 井　章 悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　　師	向 田　征 司	日本整形外科学会専門医	脊椎、脊髄外科	
医　　師	宮 田　誠 彦	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 脊椎脊髄病医	脊椎、脊髄外科	頚椎症、OPLL、上位頚椎疾患、リウマチ頚椎症、脊髄腫瘍、腰椎すべり症、変性側弯症
医　　師	太 田　英 吾	日本整形外科学会専門医	小児整形、整形外科一般	小児側弯症
医　　師	佐 治　隆 彦	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩	膝、肩
医　　師	坪 内　直 也	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎一般
医　　師	薮 本　浩 光	日本整形外科学会専門医	整形外科一般	
専 修 医	三 輪　晶 子			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設 日本脊椎脊髄病学会認定　脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設 脊椎脊髄外科指導医　常勤施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. 脊椎・脊髄外科は後頭骨～頸胸椎・腰椎～骨盤までインスツルメンテーション手術に対応。ナビゲーションシステムを使用し、精緻な手術を心がけている（特に頸胸椎）。脊髄誘発電位を使用し、手術の安全性の向上に努めている。
4. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
5. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靱帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
54.8名	678名	28.1日

外来患者数

1日平均患者数
83.1名

主な術式別手術件数

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
32件	106件	39件	67件

自家骨軟骨移植術
50件

□ 地域医療連携・広報活動

京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。

・少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策
　平成28年京都府軟式野球連盟指導者研修会　2016.6.3　京都（向井章悟）
・現場から見たドーピング検査の注意点
　平成28年度京都府薬剤師会第4回学術講演会　2016.7.21　京都、日本（中川泰彰）
・スポーツを有意義に行うための知識とポイント
　平成28年度京都府立乙訓高校スポーツ健康学科1, 2年生講義　2016.6.30及び12.1　京都、日本（中川泰彰）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	三輪晶子、中川泰彰、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、中村孝志 人工膝関節置換術後の膝蓋骨脱臼に対してMPFL再建術を施行した2例 第126回中部日本整形外科災害外科学会学術集会、　2016.4.8-9、浜松、日本
国内学会	坪内直也、三輪晶子、藪本浩光、佐治隆彦、太田英吾、向田征司、宮田誠彦、向井章悟、山田茂、中川泰彰、中村孝志 転移性脊椎腫瘍手術後の早期死亡例に関与する因子の解析 第45回日本脊椎脊髄病学会、　2016.4.14-16、幕張、日本
国際学会	Y.Nakagawa, S.Mukai, T.Saji, H.Yabumoto, T.Nakamura Alendronate promote the bone formation in the donor sute of mosaicplasty The 17th ESSKA Congress, 2016.5.4-7, Barcelona, Spain
国際学会	S. Mukai, Y.Nakagawa, Y.Setoguchi, T.Saji, H.Yabumoto The postoperative MRI findings of transferre plugs in osteochondritis dissecans of capitellum: Healing condition and the location of the lesion The 17th ESSKA Congress, 2016.5.4-7, Barcelona, Spain
国際学会	H. Yabumoto, Y.Nakagawa, S.Mukai T.Saji Clinical outcome of osteochondral autograft transplantation for cartilage lesions of the tibial plateau The 17th ESSKA Congress, 2016.5.4-7, Barcelona, Spain
国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、三輪晶子 アレンドロネートはモザイクドナー部の骨形成を促進する 第89回日本整形外科学会学術総会、　2016.5.12-15、横浜、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、三輪晶子、中村孝志 膝蓋大腿関節の変形性関節症に対する自家骨軟骨移植術の中期成績 第89回日本整形外科学会学術総会、　2016.5.12-15、横浜、日本
研究会	中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、中村孝志 半月板がほぼ消失した症例に対する自家骨軟骨移植術の治療成績（シンポジウム） 第26回関西臨床スポーツ医科学研究会、　2016.6.18、大阪、日本

教育講演	中川泰彰 スポーツを有意義に行うための知識とポイントー発育期から中高年までー 平成28年乙訓高校スポーツ健康学科１、2年生講義　2016.6.30、　京都、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、池口良輔 関節リウマチを有する脛骨感染性偽関節症例に対し、遊離血管柄付き腓骨移植術を用いた治療経験 第42回日本骨折学会、　2016.7.1-2、東京、日本
教育講演	中川泰彰 現場から見たドーピング検査の注意点 京都府薬剤師会第4回学術講演会、　2016.7.21.京都、日本
教育講演	Y. Nakagawa Clinical outcome of mosaicplasty in the elbow and knee joints, and donor site morbidity in the healthy knee joint The 38th Kyoto Orthopaedic Seminar, 2016.7.23, Kyoto, Japan
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、井上直人 片脚立ち上がりテストを用いた学童期少年野球選手におけるポジション別下肢筋力の比較 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、中村孝志 脛骨側軟骨下骨露出部を無処置とした骨軟骨移植術の中期成績：術後2年と5年と最終時の比較 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	岡徹、黒木裕士、古川泰三、中川泰彰 特発性膝骨壊死に対する自家骨軟骨移植術後の膝機能とリハビリテーション―9例の2年経過― 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦 脛骨内か骨壊死に対する自家骨軟骨移植術を併用した楔上開大型高位脛骨骨切り術 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	井上直人, 中川泰彰、向井章悟 特発性膝骨壊死に脛骨高位骨切り術と骨軟骨柱移植術を併用した患者の術後成績 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦 大腿骨内か骨壊死SONKに対する自家骨軟骨移植併用OWHTOの再鏡視所見に影響する因子について 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	木下和昭、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、井上直人、橋本雅至、大槻伸吾 野球経験年数での肩関節回旋可動域の変化 第8回JOSKAS、　2016.7.28-30、　福岡、日本
国内学会	三輪晶子、中川泰彰、向井章悟、中村孝志 10代の大腿骨滑車部における離断性骨軟骨炎と軟骨損傷に対する自家骨軟骨移植術後のスポーツ復帰時期の検討 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会、　2016.9.16-18、　札幌、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、三輪晶子、中村孝志 初回前十字靱帯再建術時に自家骨軟骨移植を要した症例の検討 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会、　2016.9.16-18、　札幌、日本
国内学会	南和文、中川泰彰、北原聡太、桑森真介、服部祐児、満留久摩 児童生徒の相撲による外傷・障害そして重大事故の特徴と予防対策―武道必修化を安全に行う為への対応 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会、　2016.9.16-18、　札幌、日本
国際学会	S.Mukai, Y.Nakagawa, T. Nakamura Clinical results and cartilage repair after osteochondral autograft transfer combined with OWHTO for severe medial OA 13th World Congress of the International Cartilage Repair Society, 2016.9.24-27, Sorrento, Italy
国際学会	Y.Nakagawa, S.Mukai, H Yabumoto, T. Nakamura Does Alendronate promote the cartilage formation in the donor site of mosaicplasty? 13th World Congress of the International Cartilage Repair Society, 2016.9.24-27, Sorrento, Italy
国内学会	喜屋武弥、中川泰彰、向井章悟、新井竜雄、黒木裕士 高周波三次元超音波装置による非侵襲的な膝関節軟骨早期変性の臨床評価 第31回日本整形外科学会基礎学術集会、　2016.10.13-14、　福岡、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦 小学生野球選手の肩関節の可動域の男女差について 第43回日本肩関節学会、　2016.10-21-22、　広島、日本
国内学会	佐治隆彦、向井章悟、中川泰彰 当院における上方関節包再建術の治療経過と成績 第43回日本肩関節学会、　2016.10-21-22、　広島、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、藪本浩光、新宮信之、井上直人、伊藤盛春、廣瀬ちえ 野球における外傷、障害調査と予防：義務化により異常所見の検出率はどう変わったか？ 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2016.11.5-6、　幕張、日本
国内学会	木下和昭、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、井上直人、廣瀬ちえ、橋本雅至、大槻伸吾 学童期野球選手における肩肘関節障害者の方関節可動域の特徴―健常群と障害軍の比較― 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2016.11.5-6、　幕張、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ、橋本雅至、木下和昭 小学生軟式野球選手におけるSide Bridge testと投球障害肘との関係ー第2報― 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2016.11.5-6、　幕張、日本
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ 学童期少年野球選手における体力テストと投球障害肘の関連について 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2016.11.5-6、　幕張、日本
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、井上直人 小学生野球選手の股関節の可動性と周囲筋タイトネスの性差 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2016.11.5-6、　幕張、日本

国内学会	向井章悟、中川泰彰、瀬戸口芳正 上腕骨離断性骨軟骨炎の手術前後の機能評価は病巣部位によりどのように変化するか 第29回日本肘関節学会学術集会、 2017.2.3-4、 東京、日本
国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、三輪晶子 脛骨近位骨軟骨損傷に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第111回京都整形外科懇話会、 2017.2.18、 京都、日本
国内学会	Y. Nakagawa, S. Mukai, S. Yamada, A. Imaizumi, T. Hashimoto, S. Murata, T. Saji H. Yabumoto The effects of highly-bioavailable curcumin for treating knee osteoarthritis-6 month study- 第30回日本軟骨代謝学会、 2017.3.3-4、 京都、日本
国内学会	喜屋武弥、中川泰彰、向井章悟、新井竜雄、黒木裕士 高周波3D超音波システムによる早期膝関節軟骨の臨床評価 第30回日本軟骨代謝学会、 2017.3.3-4、 京都、日本
教育講演	中川泰彰 骨軟骨損傷に対する診断、保存的治療、手術手技 第7回京都南部整形外科合同カンファレンス、 2017.3.11、 京都、日本
教育講演	中川泰彰 550例の自家骨軟骨移植術からわかったこと 北勢軟骨治療講演会、 2017.3.23、 四日市、日本
国内学会	井上直人　中川泰彰　向井章悟　佐治隆彦　藪本浩光　伊藤盛春　廣瀬ちえ　橋本雅至　木下和昭　高本晴 小学生軟式野球選手におけるSide Bridge testと投球障害肘との関係 第51回日本理学療法学術大会、 2016.5.29、 札幌、日本

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
OS NEXUS スポーツ復帰のための手術　膝（宗田大編） 中川泰彰、向井章悟 V.軟骨　軟骨欠損や関節症に対する関節面再建術　自家骨軟骨移植術；　154-165、メディカルビュー社、2016
内科診断学（福井次矢、奈良信雄編）第３版 中村孝志、中川泰彰 III.　症候編　背部痛、腰痛；602-608　四肢痛、関節痛；641-647、　医学書院、　2016
今日の整形外科治療指針（土屋弘行、紺野愼一、田中康仁、田中栄、松田秀一編） 12：上腕の疾患　上腕骨頭無腐性壊死：　426、医学書院、2016
今日の整形外科治療指針（土屋弘行、紺野愼一、田中康仁、田中栄、松田秀一編） 12：上腕の疾患　上腕二頭筋腱・三頭筋腱皮下断裂：　427、医学書院、2016
Yasuaki Nakagawa, Shogo Mukai, Hiromitsu Yabumoto, Eri Tarumi, Takashi Nakamura Serial changes of the cartilage in recipient sites and their morror sites on second-look imaging after mosaicplasty Am J Sports Med 2016, 44:1243-1248
Hiromitsu Yabumoto, Yasuaki Nakagawa, Shigeru Yamada, Shogo Mukai, Seiji Mukaida, Shuzo Ninomiya, Naoya Tsubouchi, Masayuki Matsuoka, Eri Tarumi, Takashi Nakamura Osteochondral autograft transfer for post-traumatic osteochondral defects of the anterolateral surface of the distal tibial plafond Trauma Case Reports 2016,
向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦、藪本浩光 内側型OAに対する自家骨軟骨移植術併用OWHTOの再鏡視所見に影響する因子 JOSKAS 41:188-189, 2016
藪本浩光、中川泰彰、二宮修三、中村孝志、藤原正利 臼蓋縁欠損を伴う大腿骨近位部骨折において術後人工骨頭脱臼を予測するBikini sign 骨折　38：364-367, 2016
中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、中村孝志 脛骨高位骨切り術後の骨切り部周辺に出現した皮膚炎の検討 JOSKAS 41: 924-927, 2016
井上直人、中川泰彰、向井章悟 脛骨高位骨切り術と骨軟骨柱移植術を併用した患者の術後成績―65歳未満と65歳以上の比較検討― JOSKAS 41: 955-960, 2016
三輪晶子、中川泰彰、藪本浩光、中村孝志 人工膝関節置換術後の膝蓋骨脱臼に対してMPFL再建術を施行した２症例 中部整災誌、　59：1183-84、2016

形成外科



診療科長
荒田　順

専門医資格等　日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床教授
専 門 分 野　手外科・先天異常
得 意 疾 患　手足指短縮症

□スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	瀬崎　伸一	日本形成外科学会専門医	顔面形成 形成一般	
医　　師	鈴木　茉友	日本形成外科学会専門医	形成一般	乳房
レジデント	海透　修子		形成一般	
専 修 医	熊切　将宜		形成一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設

□主な対象疾患

先天異常、皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□診療（業務）内容

当科では

・手足、顔面、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容を重視した眼瞼下垂、内反症および外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・切断指を含む手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ）、Ｖビーム（血管腫）、ＣＯ２レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.0名	213名	14.9日

外来患者数

1日平均患者数
21.6名

主な術式別手術件数

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
344件	24件	77件	59件

マイクロサージャリー
38件

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	荒田順　益岡弘　瀬崎伸一 鈴木茉友　海透修子	中足骨短縮症に対し経皮的骨切り法による仮骨延長術を施行した症例の検討	第59回日本形成外科学会総会
国内学会	瀬崎伸一　荒田順　益岡弘 鈴木茉友　海透修子	形成外科における医師事務作業補助者（MC)の有用性	第59回日本形成外科学会総会
国内学会	鈴木茉友　荒田順　北山稔大 添田晴雄	血行再建による末節切断再接着術において動脈を2本吻合した症例の検討	第59回手外科学会
国内学会	荒田順　瀬崎伸一　鈴木茉友 海透修子　熊切将宜	体内人工挿入物露出症例の検討	第7回日本創傷外科学会
国内学会	鈴木茉友　荒田順　瀬崎伸一 海透修子　熊切将宜	当院における糖尿病性足潰瘍に対するチーム医療について	第7回日本創傷外科学会
国内学会	荒田順　瀬崎伸一　鈴木茉友 海透修子　熊切将宜	Zone1での末節切断再接着術における動脈吻合数における治療成績について	第43回日本マイクロサージャリー学会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ			出版社
日本手外科学会会誌	鈴木 茉友, 荒田 順、北山稔大、添田晴雄	末節切断再接着術における動脈を2本吻合例の検討	33	2	66-69	

脳神経外科



副院長
塚原　徹也

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳血管障害
　脳卒中の外科的治療



診療科長
福田　俊一

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳動脈瘤
　良性脳腫瘍
　頭蓋底手術
　バイパス術

□スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	青木　友和	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医 日本脳卒中学会　専門医 日本癌治療学会　暫定教育医	脳神経外科	脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医　　師	川端　康弘	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医 日本脳卒中学会　専門医 脳神経血管内治療学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍
医　　師	河原﨑　知	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医	脳神経外科	

□診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□主な対象疾患

・脳血管障害（脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害）
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・頭蓋咽頭腫）
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛）

□診療（業務）内容

・脳血管障害（脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術および脳動静脈奇形・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術）
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓、急性期血管血行再建など)
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）に対する摘出術
・神経内視鏡手術（下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎背髄疾患
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
・頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.5名	339名	16.8日

外来患者数

1日平均患者数
32.3名

□ 地域医療連携・広報活動

第14回脳卒中市民講座　2016年12月17日　於：京都医療センター、多目的ホール
「脳卒中診療のいまと今後の課題」 日本脳卒中協会京都府支部長　京都医療センター 副院長　塚原徹也
「脳卒中と認知症」 京都医療センター神経内科医長　大谷良
「こんなところに気をつけて!冬の脳卒中予防」 京都医療センター　脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　樋口泰子
「脳卒中予防の食事～手軽にできる食事療法のポイント～」 京都医療センター管理栄養士　岡田怜奈
「音楽で活性化する脳と心」 京都医療センター　音楽療法士　飯塚三枝子
「脳卒中・急性期の治療」 京都医療センター脳神経外科医長　川端康弘
「めまいと脳卒中」 京都桂病院　脳血管センター長　山本康正

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	青木友和　免疫チェックポイント阻害薬のグリオーマ治療　第71回脳神経外科学会近畿地方会　2016.4.2　大阪
研究会	川端康弘、中澤拓也、福田俊一、青木友和、森田匠、河原﨑知、手島啓幾、塚原徹也　椎骨動脈の解離性脳動脈瘤に対してLVIS Jrステントを用いた塞栓術が有効であった1例　第71回脳神経外科学会近畿地方会　2016.4.2　大阪
国際学会	Fukuda S, Shimogonya Y　A role of hemodynamic stress in carotid stenosis; a study using computational fluid dynamic analyses　Experimental Biology 2016　2016.4.6　San Diego, CA, USA
国内学会	川端康弘　中大脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績　第41回日本脳卒中学会総会　（STROKE2016）2016.4.14　札幌
国内学会	福田俊一、安田 謙、米本直裕、塚原徹也、中村道三 青木友和、大谷 良、村瀬永子、川端康弘、赤尾昌治　伏見心房細動患者登録研究(Fushimi　AF　Registry)における心原性脳塞栓症発症例のリスク解析　第41回日本脳卒中学会総会（STROKE2016）　2016.4.15　札幌
国内学会	川端康弘　脳動脈瘤コイル塞栓術後に再治療を要する危険因子の検討　第41回日本脳卒中学会総会（STROKE2016）2016.4.16　札幌
国内学会	川端康弘　当院における脳梗塞急性期血行再建の治療成績　第41回日本脳卒中学会総会　（STROKE2016）2016.4.16　札幌
国際学会	Tomokazu Aoki　Phase Ⅰ/Ⅱ Study of a Combination of Temozolomide with ACNU for Ptaients wirh Recurrent Malignant Gliomas　21th International Conference on Brain Tumor　Apirl 13, 2016　Okinawa
研究会発表	川端康弘　A-com動脈瘤の一例　Codman Coil Visitation　2016.4.26　宮城
教育講演	福田俊一　脳血管障害における　血行力学的因子の役割について　九州大学医学部　脳神経外科　R&Dセミナー　2016.5.11　福岡

国内学会	下權谷祐児、福田俊一　計算流体力学による破裂脳動脈瘤に関する検討：DISTURBED　FLOWの観点から　第39回日本バイオレオロジー学会年会　2016.6.18　東京
国際学会	Tetsuya　Tsukahra,　Satoshi　Kawarazaki, Nagako Murase　Monitoring by MEP and ICG in aneurysm surgery　8th　European-Japanese Cerebrovascular Congress　June.22.2016　Zurich
研究会発表	川端康弘　コイル塞栓術後に動脈瘤周囲浮腫を来たしたラージサイズの脳底動脈-上下脳の分岐部動脈瘤の一例　STROKE研究会　2016.7.8　京都
国際学会	Yasuda K, Fukuda S, Nakamura M, Kuwata Y, Takata M, Sainouchi M, Teshima Y, Kawarazaki S, Kawabata Y, Murase N, Ohtani R, Aoki T, Akao M, Tsukahara T　Predictors of Cardioembolic Stroke in Japanese patients with atrial fibrillation : The Fushimi AF Registry　Asia Pacific Stroke Conference　2016.7.15　Brisbane,Australia
研究会発表	川端康弘　塞栓後に脳幹部浮腫を来たしたBA-SCA動脈瘤の一例　近畿脳神経血管内治療手術法ワークショップ　2016.7.16　和歌山
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原﨑知　最近経験した後頭蓋窩神経鞘腫4症例の報告　第72回脳神経外科学会近畿地方会　2016.9.3　大阪
国内学会	青木友和　膠芽腫の新しい治慮の試み　第72回脳神経外科学会近畿地方会　2016.9.3　大阪
国内学会	青木友和　再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法（TA療法）の第Ⅰ/Ⅱ相試験　日本脳神経外科学会第75回学術総会　2016.9.29　福岡
国内学会	川端康弘　脳動脈瘤コイル塞栓術中・術後における血栓塞栓性合併症の検討　日本脳神経外科学会第75回学術総会　2016.9.30　福岡
国内学会	福田俊一、下權谷祐児　計算流体力学(CFD)解析による中大脳動瘤と前交通動脈瘤破裂率の相違に関する検討：CFD ABO Study中間報告　日本脳神経外科学会第75回学術総会　2016.10.1　福岡
研究会発表	川端康弘　後下小脳動脈遠位の脳動脈瘤破裂急性期にステント支援下コイル塞栓術を施行した１例　京滋脳卒中臨床カンファランス　2016.10.17　京都
国内学会	川端康弘　破裂嚢状脳動脈瘤の治療成績　第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会　2016.11.26　神戸
国際学会	Tomokazu AOKI,Yoshiki ARAKAWA, Tetsuya UEBA, Masashi ODA,Namiko NISHIDA, Yukinori AKIYAMA, Tetsuya TSUKAHARA,Koichi IWASAKI, Nobuhiro MIKUNI, and Susumu MIYAMOTO　Phase I/II Study of Temozolomide Plus Nimustine　Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas:　Kyoto Neuro-oncology Group　21th Annual Metting and Education Day　Nov.18,2016　Scottsdale, Arizona
国内学会	青木友和、荒川芳輝、上羽哲也、織田　雅、西田南海子、秋山幸功、塚原徹也、岩崎孝一、三國信啓、宮本　享　再発悪性神経膠腫のTemozolomide+ACNU科学療法　第Ⅰ/Ⅱ相試験　京都脳腫瘍グループ　第34回日本脳腫瘍学会学術集会　2016.12.5　山梨
教育講演	塚原徹也　脳卒中診療のいまと今後の課題　第１４回脳卒中市民講座　2016.12.17　京都
教育講演	川端康弘　脳卒中・急性期の治療　第１４回脳卒中市民講座　2016.12.17　京都
国際学会	Shunichi Fukuda, Miyuki Fukuda, Joji Ando, Kimiko Yamamoto, Tetsuya Tsukahara, Yuki Ito, Koji Hasegawa　Inhibition of the Endothelial Shear Stress Sensor, P2X4 Purinoceptor Drastically Reduces Cerebral Aneurysm Formation　International Stroke Conference 2017　Feb. 22, 2017　Houston, TX
国際学会	Shunichi Fukuda, Yuji Shimogonya　Wall Shear Stress Strength Over the Cerebral Aneurysm is Drastically Affected by Aneurysm Location While the Magnitude of Disturbed Flow is Closely Related to Aneurysm Size and Surface Area　International Stroke Conference 2017　Feb. 22, 2017　Houston, TX
研究会発表	川端康弘　後下小脳動脈遠位部の破裂脳動脈瘤に対してステント支援下塞栓術を行った１例　第7回熱海脳血管内治療セミナー　2017.2.26　静岡
教育講演	福田俊一、下權谷祐児　脳動脈瘤の形成・増大・破裂における血行力学的因子の役割：実験的・臨床的背景からCFD解析まで　ANSYS医療セミナー　2107.3.9　東京
国内学会	川端康弘、福田俊一、青木友和、塚原徹也、河原﨑知　脳動脈瘤コイル塞栓術の周術期におけるオザグレルナトリウムの有用性　第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017)　2017.3.16　大阪
国内学会	福田俊一、下權谷祐児　計算流体力学（CFD）解析による未破裂脳動脈瘤の最大径および表面積による血行力学的因子の分布の相違の検討　第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017)　2017.3.17　大阪
国内学会	峰晴陽平、尾原知行、永金義成、冨井康宏、大谷　良、今井啓輔、福田俊一、西村真樹、高木康志、赤尾昌治　経口抗凝固薬処方中に発注した脳卒中の前向き登録研究：KOACS　Registrtyの中間解析結果　第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017)　2017.3.18　大阪
国内学会	大谷　良、中村道三、村瀬永子、齊ノ内信、後藤昌広、栄田康弘、高田真基、増田裕一、塚原徹也、坂根直樹　脳梗塞急性期治療rt-PA療法後における出血性脳梗塞の予測因子に関する検討　第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017)2017.3.18　大阪
国際学会	Tomokazu Aoki　Expression of murine interleukin 7 in a murine glioma cell line results in reduced tumorigencity in vivo　4th Immunotherapy of Cancer Conference　21 March, 2017　Prague, Czech Republic

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Aoki T, Yamamoto K, Fukuda M, Shimogonya Y, Fukuda S, Narumiya S	Sustained expression of MCP-1 by low wall shear stress loading concomitant with turbulent flow on endothelial cells of intracranial aneurysm	Acta Neuropathologica Communications	4	48	1-14	2016.5
Shimogonya Y, Fukuda S	Computational and experimental studies into the hemodynamics of cerebral aneurysms	Journal of Biomechanical Science and Engineering	11	1	1-14	2016.6

Masashi Tanaka, Shinya Masuda, Yoshiyui Matsuo, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakege, Kazuya Muranaka, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tetsuya Tsukahara, Akira Shimatsu and Noriko Satoh-Asahara;	Hyperglycemia and Inflammatoriy Property of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patuentts Undergoing Corotid Endarterectomy	J Atheroscler Thromb.	23	10	1212-1221	2016 Oct 1
福田俊一	第２章 全身を評価する　Lesson 5 脳卒中既往	これが伏見流! 心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。			72-80	2017.3
Aoki T, Arakawa Y, Ueba T, Oda M, Nishida N, Akiyama Y,Tsukahara T, Iwasaki K, Mikuni N, Miyamoto	Phase I/II Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto Neuro-oncology Group.	Neurol Med Chir (Tokyo)	57	1	17-27	2017.1
Tetsuya Tsukahara, Alberto Pasqualin, Giuseppe Esposito, Luca Regli,Giampietro Pinna, Editors	Trends in Cerebrovascular Surgery Acta Neurochirurgica (Switzerland)	Acta Neurochirurgica (Switzerland)Suppl	123			2016
Tetsuya Tsukahara	Surgical Treatment of Carotid Artery Stenosis	Acta Neurochirurgica (Switzerland)Suppl	123		109-114	2016

血管外科



診療科長
浅田　秀典

専門医資格等　心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学　医学博士

専門分野　血管外科（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術）、静脈、リンパ疾患

□診療科の特徴

1．あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
2．患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。

2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓血管炎（バージャー病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

□診療（業務）内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の週3日間実施しております。
心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
10.1名	185名	20.0日

外来患者数

1日平均患者数
9.0名

主な手術・検査の件数など

下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
55件	13件	60件	1件

四肢カテーテル治療	四肢動脈造影
57件	105件

心臓外科



診療科長
部長（医療安全担当）
白神　幸太郎

専門医資格等　心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医
京都大学臨床教授、非常勤講師
日本胸部外科学会評議員
日本冠動脈外科学会評議員
日本心臓血管外科学会国際会員

専門分野　成人心臓大血管手術

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	片岡　　剛	心臓血管外科専門医 外科専門医 脈管専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

京都府南部地域における循環器疾患の基幹施設として機能すべく、2011年に開設。2013年までの実績により、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設認定を受けた。①心臓外科診療を通して人々のお役に立つ②手術や診療の透明性を確保する③循環器診療の最後の砦となる、という3つの診療指針の下、循環器内科、血管外科、救命救急科、麻酔科との緊密な連携を維持しながら安全な医療を提供するように努力している。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。循環器内科、血管外科と共に心臓血管カンファレンスを行い、手術適応、術前リスクと治療方針の検討、周術期治療経過の報告を行い、治療の透明性を担保している。また緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

□診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6.5名	81名	28.2日

外来患者数

1日平均患者数
5.9名

主な手術・検査の件数など（重複あり）

冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	大動脈手術	ステントグラフト手術
22件	45件	7件	9件

2011年4月心臓外科開設。2011年（6月-12月）34例、2012年65例、2013年74例、2014年72例、2015年69例、2016年71例であった。単独冠動脈バイパス術17例中、16例を体外循環非使用手術、1例を体外循環使用心拍動下手術として施行した。弁膜症に対しては31例に対して治療を行った。弁形成術20例、弁置換術25例、心房細動に対するメイズ手術は9例施行し、8例が正常洞調律に復帰した。大動脈手術は解離性大動脈瘤に対して2例、うち緊急手術が1例、真性大動脈瘤に対する手術が5例であった。予定手術、緊急手術を合わせた院内死亡は1例で弓部大動脈瘤破裂に対する上行弓部大動脈置換術を施行した症例で術後慢性期のリハビリテーション中に脳梗塞を発症して失った。予定、緊急を含めた院内総死亡率は1.4%であった。冠動脈バイパス術における術後早期グラフト開存率は98.0%（48/49）であった。術後出血再開胸症例は認めなかった。術後前縦隔洞炎を3例に認めたが、全例軽快退院された。大動脈疾患に対する血管内治療（ステントグラフト留置術）については腹部大動脈瘤4例、胸部大動脈瘤5例を施行し全例軽快退院された。

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、他院循環器内科とも積極的に協働している。院外からの手術目的紹介症例は年々増加している。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
研究会発表	片岡剛　白神幸太郎　坂本和久　解離性大動脈瘤破裂に対して、TEVAR+Candy Plug法によってエントリーを閉鎖し、破裂偽腔の血栓化に成功した１例　第７２回京滋循環器懇話会　2016.11.5　京都
研究会発表	白神幸太郎　若い医療人へのメッセージ　倉敷中央病院心臓血管外科研修会　2017.2.15　倉敷
研究会発表	白神幸太郎　片岡剛　開心術後心房細動に対する取り組み　第14回京阪心外懇話会　2017.1.28　大阪
国内学会	白神幸太郎　院内死亡症例の把握と原因分析　第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄
国内学会	白神幸太郎　オカレンスを活かす　第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄
国内学会	柿本由美子、白神幸太郎　インシデントレポートシステム導入の効果と応用　第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄
国内学会	山﨑茂　白神幸太郎　院内暴力から職員を守る-院内暴力の実態とホワイトコードコール 第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄

□ 投稿論文など

著　書　・　雑　誌　名	著　者　・　タ　イ　ト　ル
これが伏見流、心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。	赤尾昌治　阿部充　安珍守　井口守丈　石井充　大谷良　小川尚　片岡剛　岸本周子　小宮山麻紀　品川智子　白神幸太郎　中島康代　長谷川浩二　畑啓昭　福田俊一　益永信豊　和田啓道　AFの外科治療　2017.3;151-153
これが伏見流、心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。	赤尾昌治　阿部充　安珍守　井口守丈　石井充　大谷良　小川尚　片岡剛　岸本周子　小宮山麻紀　品川智子　白神幸太郎　中島康代　長谷川浩二　畑啓昭　福田俊一　益永信豊　和田啓道　開心術後のAF戦い　2017.3;209-210
Circulation Journal	Shinichi Shirai, Kotaro Shiraga et al.　Five-Year Clinical Outcome of Asymptomatic vs. Symptomatic Severe Aortic Stenosis After Aortic Valve Replacement　2017.3;81(4):485-494

皮膚科



診療科長
十一　英子

専門医資格等　日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事
専門分野　皮膚科一般
皮膚免疫
得意疾患　乾癬
糖尿病足病変

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	渋谷　真美	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	小亀　敏明		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設

1. 乾癬に対して生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病、悪性腫瘍など基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

尋常性乾癬、関節症性乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うっ滞性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、水疱症、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、
ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、
真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、
皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

□ 診療（業務）内容

乾癬：治療が急速に進歩し、難治の皮疹や関節炎のため生物学的製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査を行い適応を決め、投与しています。
掌蹠膿疱症：病巣感染などの原因検索を行って治療しています。
糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病と関連した難治性足潰瘍や皮膚病変を、糖尿病科、形成外科、血管外科、整形外科、循環器科などと連携して診療しています。
帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、或いは入院で点滴治療を行っています。
爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。
接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。
薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。
水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や免疫グロブリン大量療法を行っています。
診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

□診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
5.9名	105名	21日

外来患者数

1日平均患者数
77.4名

主な手術・検査の件数など

皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
275件	77件	72件

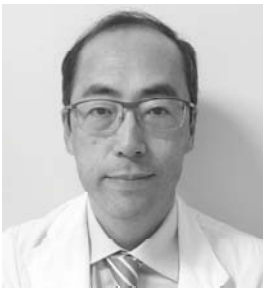
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
皮膚科受診患者の入浴習慣 十一英子, 臼居駿也, 渋谷真美, 岡本奈都子, 第115回　日本皮膚科学会総会　2016年6月5日　京都
若年女性に発症したarterial teleangiectasiaの１例 小亀敏明, 臼居駿也, 岡本奈都子, 十一英子 第445回　日本皮膚科学会京滋地方会　2016年6月25日　京都
成人女性に発症した播種状黄色腫の１例 小亀敏明, 渋谷真美, 岡本奈都子, 十一英子 第448回　日本皮膚科学会京滋地方会　2016年12月17日　京都
抗BP230抗体のみ陽性であった水疱性類天疱瘡の１例 小亀敏明, 渋谷真美, 岡本奈都子, 十一英子 第449回　日本皮膚科学会京滋地方会　2017年3月11日　京都
知っておきたい乾癬治療の心得 十一英子　　第4回アライアンスセミナー　2016 4/16 京都
生物学的製剤による乾癬治療　ーステラーラの開発から実際の使用法、今後の展望までー 十一英子　　Psoriasis Interactive Meeting 2016 4/23 静岡
知っておきたい乾癬治療のポイント 十一英子　　第4回南京都皮膚疾患セミナー　2016 5/14 京都
爪白癬治療の経験から　ークレナフィン１年使用してみてー 十一英子　　京都南地区皮膚科勉強会　2016 7/30 京都
生物学的製剤による乾癬治療　ーステラーラ®の開発から使用時の心得、今後の展望までー 十一英子　　第31回日本乾癬学会 2016 9/2 宇都宮
当院におけるセクキヌマブの使用経験 十一英子　　乾癬フォーラム in南京都2016 12/3 京都
乾癬Bio治療の意義と使用時の心得 十一英子　　京都皮膚免疫研究会　2016 12/7 京都
予測できる薬疹できない薬疹　ー処方する以上、対処が必要ですー 十一英子　　伏見医師会ランチョンセミナー　2016 12/9 京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
十一英子　糖尿病足病変「皮膚科的診断と治療」 Diabetes Frontier vol 27　No 3 : 265-269 2016
野々村優美, 嘉山智子, 林雄二郎, 岡本奈都子, 十一英子　結節性紅斑と関節痛、発熱で急性に発症したサルコイドーシス（Löfgren症候群）. 皮膚病診療 37(2):175-178, 2015（昨年号補遺）

泌尿器科



診療部長　科長
奥野　博

専門医資格等　日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本泌尿器内視鏡学会　代議員
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士

専門分野　泌尿器科一般

得意疾患　ロボット支援手術、前立腺癌、男性学

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	三品　睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 精巣癌 尿路結石症
医　　師	後藤　崇之	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	前立腺癌 腹腔鏡手術
医　　師	田島　基史	日本泌尿器科学会専門医 ICD：Infection control doctor	泌尿器科一般	尿路性器感染症
医　　師	松本　敬優	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路変更術
レジデント	齋藤　駿河		泌尿器科一般	
医　　師 (非常勤)	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本透析医学会　専門医	泌尿器科一般	夜間頻尿
医　　師 (非常勤)	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1．ロボット支援手術、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2．最先端医療も積極的に取り入れます。
3．地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4．患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療（業務）内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：木曜は４診　火曜、金曜は３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間
・火曜日の早朝には外来カンファレンス
・水曜日の早朝には朝病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・金曜日の早朝には薬剤師、看護師を交えた病棟症例カンファレンス
・平成19年06月～「夜間頻尿外来」開設
・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP)を導入
・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入
・平成28年04月～「女性外来」開設
・平成28年08月～腎臓癌に対し、ロボット支援腎部分切除術を導入

□診療実績（平成28年度）

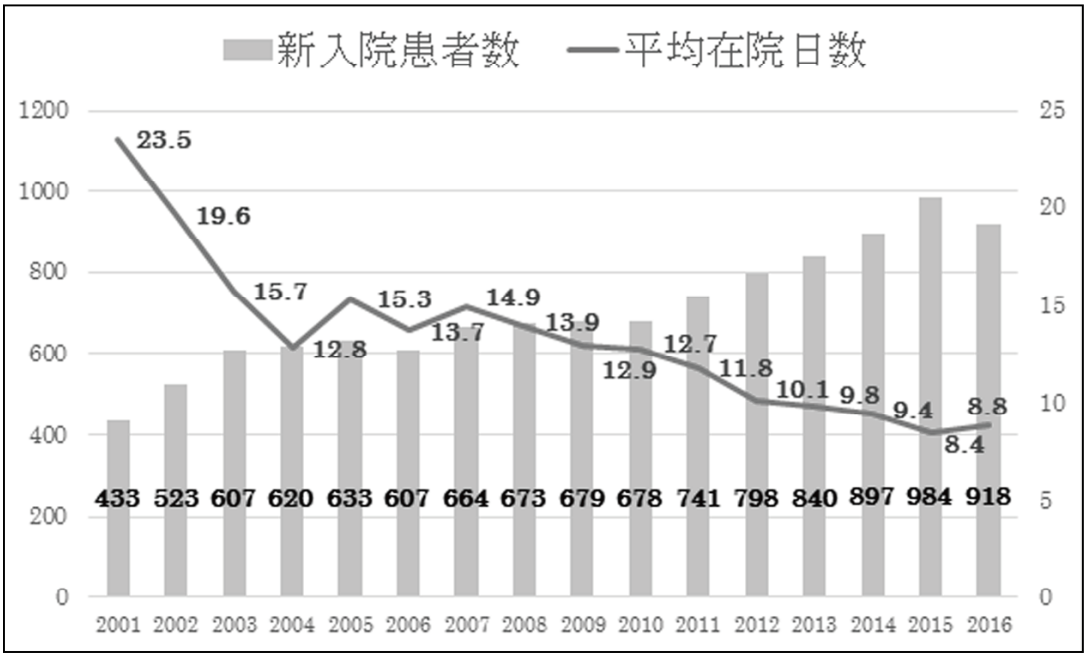
入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23.1名	918名	9.2日

外来患者数

1日平均患者数
73.0名

入院統計（年度）過去15年間の推移



下記は平均在院日数の計算対象外になりました。
2014年度～「前立腺針生検法」
2016年度～「体外衝撃波腎・尿管結石破砕術」

主な手術・検査の件数など（2016年度）

ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘	ロボット支援腎部分切除術	副腎腫瘍手術	腹腔鏡(後腹膜鏡)下腎(尿管)悪性腫瘍手術
51件	9件	18件	18件

前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術(TUR－BT)	骨盤臓器脱・尿失禁手術	前立腺針生検
81件 (PVP 74件・TURP 7件)	107件	10件	216件 (経直腸式 111件・経会陰式 105件)



□ 地域医療連携・広報活動

第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）
テーマ「尿潜血・血尿の診かた」
2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）
特別講演　「膀胱癌ガイドライン2015のツボ」
講師：秋田大学　医学部　病院長　泌尿器科教授　羽渕友則先生

第1回京滋北陸Urological Expert Meeting
2016.06.11（京都・アーバンネット四条烏丸ビル７F）
基調講演：小松和人先生「泌尿器領域における医療連携」
Short Lecture：後藤崇之先生「前立腺癌の新規バイオマーカー探索」
手技討論：山崎俊成先生「ロボット支援腎部分切除術」

平成28年度京都泌尿器科医会講習会「研修医のための泌尿器救急疾患に対する対応」
2016.07.23（京都・ANAクラウンプラザホテル京都）

眞鍋由美：講演Ⅰ「排尿障害治療連携パスについて」　テーマ「尿潜血・血尿の診かた」第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）

三品睦輝：講演Ⅱ「血尿診断　ガイドライン（2006年版、2013年版を比較しつつ）」　テーマ「尿潜血・血尿の診かた」第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）

奥野　博：講演Ⅲ「プライマリードクターのための膀胱癌オーバービュー」テーマ「尿潜血・血尿の診かた」第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）

後藤崇之：Short Lecture「前立腺癌の新規バイオマーカー探索」京滋北陸 Urological Expert Meeting 2016.06.11（京都・アーバンネット四条烏丸ビル７F）

奥野　博：特別講演「プライマリーケア・ドクターのための排尿障害連携パス」。宇治久世医師会学術講演会。2016.07.09（京都・京都センチュリーホテル）

後藤崇之：講演1「肉眼的血尿」（原因はどう考える？凝血塊除去のコツは？）。平成28年度京都泌尿器科医会講習会「研修医のための泌尿器救急疾患に対する対応」　2016.07.23（京都・ANAクラウンプラザホテル京都）

奥野　博：講演『高齢者排尿障害における薬物療法の実際』メインテーマ：高齢化社会における薬物治療～病態と在宅医療を踏まえて～武庫川女子大学薬学講座　2016.10.15　（兵庫県　武庫川女子大）

奥野　博：当院における低侵襲ロボット支援手術について　癌の最新の低侵襲手術と在宅における疼痛コントロール。第33回（一社）伏見医師会癌医療連携の会　2016.11.12（京都・伏見医師会館）

伊東晴喜：夜間頻尿を考える。京都医療センター医局会ミニセミナー　2016.5.20（京都・京都医療センター多目的ホール）

田島基史：講演「排尿ケアに関する基礎知識」第1回排尿ケア研修会　2017.01.31（京都・京都医療センタ-　多目的ホール）

後藤崇之：講演「前立腺癌Up Date」。平成28年度内分泌代謝性疾患専門研修会　2017年2月2日　京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	奥野　博 ディベート「BPH低侵襲手術療法：PVP vs HoLEP」PVP（Photpselective Vaporization of the Prostate：光選択的前立腺レーザー蒸散術）The Spirit of Urology企画７ 日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.24）（仙台市：仙台国際センター）
国内学会	奥野　博、藤井将人、齋藤駿河、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝 当院における光選択的前立腺レーザー蒸散術(PVP)297例の検討 第5回PVP研究会学術集会～次世代に伝えようPVPの技術～　2016.05.14（福岡市・福岡国際会議場）
国内学会	奥野　博 講演Ⅲ「プライマリードクターのための膀胱癌オーバービュー」　テーマ「尿潜血・血尿の診かた」 第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）
国内学会	奥野　博 特別講演「プライマリーケア・ドクターのための排尿障害連携パス」 宇治久世医師会学術講演会　2016.07.09（京都・京都センチュリーホテル）
国内学会	奥野　博 講演『高齢者排尿障害における薬物療法の実際』メインテーマ：高齢化社会における薬物治療～病態と在宅医療を踏まえて～ 武庫川女子大学薬学講座　2016.10.15　（兵庫県　武庫川女子大）
国内学会	奥野　博　増田憲彦、佐倉雄馬、藤井将人、松本敬優、田島基史、後藤崇之、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝 不必要な生検回避のためのPSAグレーゾーン症例におけるMRI及びPSAパラメーターを用いた前向き研究 日本泌尿器腫瘍学会第2回学術集会　2016.10.22-23（発表22）（横浜市・横浜ランドマークタワー）
国内学会	奥野　博 当院における低侵襲ロボット支援手術について　癌の最新の低侵襲手術と在宅における疼痛コントロール 第33回（一社）伏見医師会癌医療連携の会　2016.11.12（京都・伏見医師会館）
国内学会	田島基史、松本敬優、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 尿路のドレナージを要した閉塞性腎盂腎炎の臨床的検討 第104回日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.24）（仙台市：仙台国際センター）
国内学会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 PVP術後後出血に対する予測因子の検討 第104回日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.24）（仙台市：仙台国際センター）
国内学会	関　成人、黒松　功、桑原勝孝、伊原博之、奥野　博、杉村芳樹、野村博之、山口秋人 PVPの有用性と安全性に関する多施設共同前向き研究の中間解析結果 第104回日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.24）（仙台市：仙台国際センター）
国内学会	眞鍋由美、松本敬優、藤井将人、田島基史、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 前立腺癌患者のQOLに関するEPIC (Expanded Prostate Cancer Index Composit) 調査票を用いた単施設前向き研究：手術療法によるQOL変化について 第104回日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.25）（仙台市：仙台国際センター）

国内学会	後藤崇之、寺田直樹、井上貴博、小林恭、岡田能幸、宮崎有、植垣正幸、宇都宮紀明、牧野雄樹、山崎俊成、神波大己、小川修 高解像度質量顕微鏡を用いたリゾホスファチジルコリン(16:0/OH)の発現低下は前立腺癌の術後生化学的再発の独立予測因子である 第104回日本泌尿器科学会総会　2016.04.23-25（発表04.23）（仙台市：仙台国際センター）
国内学会	伊東晴喜 夜間頻尿を考える 京都医療センター医局会ミニセミナー　2016.5.20（京都・京都医療センター多目的ホール）
国内学会	眞鍋由美 講演Ⅰ「排尿障害治療連携パスについて」　テーマ「尿潜血・血尿の診かた」 第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）
国内学会	三品睦輝 講演Ⅱ「血尿診断　ガイドライン（2006年版、2013年版を比較しつつ）」　テーマ「尿潜血・血尿の診かた」 第21回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2016.06.04（京都・ホテルグランビア京都）
国内学会	後藤崇之 Short Lecture「前立腺癌の新規バイオマーカー探索」 京滋北陸Urological Expert Meeting 2016.06.11（京都・アーバンネット四条烏丸ビル７F）
国内学会	後藤崇之 講演1「肉眼的血尿」（原因はどう考える?凝血塊除去のコツは?） 平成28年度京都泌尿器科医会講習会「研修医のための泌尿器救急疾患に対する対応」　2016.07.23（京都・ANAクラウンプラザホテル京都）
国内学会	齋藤駿河、松本敬優、田島基史、後藤崇之、三品睦輝、奥野　博 精巣カルチノイド腫瘍の1例 第254回 泌尿器科マンスリーミーティング　2016.07.30（京都・芝蘭会館別館）
国内学会	田島基史 臓器転移を有する化学療法後の去勢抵抗性前立腺癌にエンザルタミドが著効している1例 第80回伏見医師学術集談会2016.11.05（京都・京都タワーホテル）
国内学会	松本　敬優 RALP後に恥骨骨髄炎を発症した２症例 第68回西日本泌尿器科学会総会　2016.11.24-11.27（発表2016.11.26）（山口県・下関）
国内学会	伊東晴喜、齋藤駿河、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、後藤崇之、三品睦輝、奥野　博 夜間頻尿患者における塩分摂取量と生活習慣病との関連について 第23回日本排尿機能学会　2016.12.06-2016.12.08（発表2016.12.07）（東京・東京国際フォーラム）
国内学会	後藤崇之、寺田直樹、井上貴博、小林　恭、神波大己、小川　修 高解像度質量顕微鏡を用いた前立腺癌組織in situ脂質分布解析による新規バイオマーカー探索 第32回前立腺シンポジウム2016年12月10日(土)　品川
国内学会	後藤崇之 質量顕微鏡を用いた前立腺癌研究の成果 泌尿器科癌における脂質代謝を考える会　2016年12月20日　つくば市
国内学会	田島基史 講演「排尿ケアに関する基礎知識」 第1回排尿ケア研修会　2017.01.31（京都・京都医療センター　多目的ホール）
国内学会	後藤崇之 講演「前立腺癌Up Date」 平成28年度内分泌代謝性疾患専門研修会　2017年2月2日　京都
国内学会	齋藤駿河、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、後藤崇之、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 RALP施行後に発熱・腹水貯留を来たした結核性腹膜炎の1例 第257回 泌尿器科マンスリーミーティング　2017.03.11（京都・ハートンホテル京都）

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Prostate. ;76(11):994-1003. 2016	Yoshikawa T, Kobori G, Goto T, Akamatsu S, Terada N, Kobayashi T, Tanaka Y, Jung G, Kamba T, Ogawa O, Inoue T. An original patient-derived xenograft of prostate cancer with cyst formation.
日本臨床74巻　増刊号3：350-354　2016.05.20発行	奥野　博：経直腸および経会陰生検の比較。Ⅷ. 前立腺癌の検査・診断　前立腺生検　新前立腺癌-最新の基礎研究と診断・治療-
臨床婦人科産科70巻　第4号：298-304　2016.04.20発行	奥野　博：精索静脈瘤根治術の適応と有効性。【7.男性不妊症の治療】知りたい最新情報がすぐわかる!　不妊・不育症診療パーフェクトガイド
臨床婦人科産科70巻　第4号：309-311　2016.04.20発行	奥野　博：Q2.逆行精射精の精子採取法のコツを教えてください。【7. 男性不妊症の治療】知りたい最新情報がすぐわかる!不妊・不育症診療パーフェクトガイド
伏見医報　679：185-186, 2016	奥野　博：当院における低侵襲ロボット支援手術について　癌の最新の低侵襲手術と在宅における疼痛コントロール 第33回（一社）伏見医師会癌医療連携の会
月刊腎臓内科・泌尿器科　科学評論社 4巻6号　pp594-598 2016	後藤崇之、井上貴博、小川修：高解像度マススペクトロメトリーによる前立腺がん脂質バイオマーカーの探索

産科婦人科



副院長
診療科長
髙倉　賢二

専門医資格等　日本産科婦人科学会専門医・指導医・代議員
日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
日本産婦人科内視鏡学会　評議員
日本内分泌学会　評議員
日本受精着床学会　評議員
京都大学　医学博士
京都大学医学部　非常勤講師
京都大学医学部　臨床教授
関西医科大学　臨床教授

専門分野　婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断・治療

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
産科婦人科医長	高尾　由美	日本産科婦人科学会専門医・指導医・京都大学医学博士・日本医師会認定産業医 臨床研修指導医	産婦人科一般	婦人科腫瘍 不妊症
産科婦人科医長	住友　理浩	日本産科婦人科学会専門医・指導医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コースインストラクター・ALSO-Japan認定インストラクター	産婦人科一般	婦人科腫瘍・周産期救急・リスクマネージメント
医師	宇治田 麻里	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	産婦人科一般
医師	和田 美智子	日本産科婦人科学会専門医・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	周産期一般
医師	川村　洋介	日本産科婦人科学会専門医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	
医師	中木　絢子	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
医師	髙倉　賢人	日本産科婦人科学会専門医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	
レジデント	小椋　惠利		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本産科婦人科学会　専攻医指導施設 日本婦人科腫瘍学会認定研修施設 日本周産期・新生児医学会　母体・胎児専門医制度研修施設（指定） 日本産科婦人科内視鏡学会　技術認定医研修施設

～産科～

何よりも安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を提供します。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています。

～婦人科～

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術（腹腔鏡手術や腟式手術、小開腹手術）を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療（業務）内容

～産科～

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩（出産）は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科（NICU）・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
   合併症妊娠やハイリスク妊娠の症例も多く取り扱っています。 2015年度の周産期救急搬送（母体搬送）の受け入れ件数は39件で地域の周産期救急にも積極的に貢献しています。医学的根拠に基づいた安全で安心なお産を提供すべく、日々努力しています。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。

～婦人科～

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
   十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
   充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広い婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
   女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性（癌）の疑いのない腫瘍に対しては、積極的に低侵襲手術（腹腔鏡下手術、腟式手術、小開腹手術）を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
   京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会認定施設に指定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頸癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。
5. 更年期からの健康管理を推進します
   直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期（50歳前後）からの健康管理が重要になります。更年期障害や骨粗鬆症などの女性特有の疾患に対応するため更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23.5名	1,230名	7.0日

外来患者数

1日平均患者数
56.4名

主な手術・検査の件数など

分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術	悪性腫瘍手術
405件	107件	208件	85件
腹腔鏡下手術	腟式手術		
87件	221件		

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	学会名・演題・演者
国内学会	第48回日本臨床分子形態学会　生殖器の発生学ー男性中心仮説から男女共同参画へー　小西郁生　2016.9.23 熊本
国内学会	第54回日本癌治療学会　婦人科がんの新規治療法開発とがん予防推進の社会的活動　小西郁生　2016.10.21 横浜
国内学会	第1回日本肉腫学会・日本臨床肉腫学会　婦人科肉腫の診断と治療　小西郁生　2016.12.2　京都
研究会	第135回鹿児島県産科婦人科学会　再発がんに対する手術療法について　小西郁生　2016.9.17　鹿児島
研究会	第42回京都医学会　新たな卵巣がん治療の開発ーゲノム解析と個別化治療の道ー　小西郁生　2016.9.25　京都
研究会	第41回岡山産科婦人科学会　婦人科がん再発の手術療法　小西郁生　2016.11.20　岡山
TV・ラジオ出演	FM845「からだ元気」出演　がん治療の最新情報　小西郁生　2017.1.31　京都
国内学会	第32回日本糖尿病・妊娠学会　妊娠糖尿病褥婦の産褥早期のインスリン感受性に及ぼす母乳哺育の効果　安日一郎、山下 洋、野見山亮、久保紀夫、小川昌宣、大藏尚文、川上浩介、林公一、水之江知哉、兒玉尚志、多田克彦、前田和寿、前田眞、前川有香、住友理浩　2016.11. 18　岡山
国際学会	37th Society of Maternal Fetal Medicine Annual Pregnancy Meeting　Exclusive breastfeeding improves insulin sensitivity independent of maternal weight change during early postpartum in gestational diabetic women Ichiro Yasuhi,　Hiroshi Yamashita , Makoto Nomiyama, Norio Kubo,　Masanobu Ogawa, Naofumi Okura, Kosuke Kawakami, Kimikazu Hayashi, Tomoya Mizunoe, Takashi Kodama, Katsuhiko Tada, Kazuhisa Maeda, Makoto Maeda, Yuka Maekawa, Masahiro Sumitomo　2017.1. 27　Las Vegas
国内学会	第24回　日本胎盤学会　Wnt5aはPKCとJNKの活性化を介して胎盤形成に関与しうる　宇治田麻里、近藤英治、川崎薫、千草義継、佐藤麻衣、髙井浩志、清川晶、最上晴太、松村謙臣、小西　郁生　2016.11. 25　和歌山
研究会発表	第3回　内分泌代謝トランスレーショナル医学塾　妊婦の甲状腺機能異常が出生児に与える影響　和田美智子、小椋恵利、髙倉賢人、中木絢子、川村洋介、宇治田麻里、住友理浩、髙尾由美、髙倉賢二、小西郁生　2017.3. 24　京都
研究会発表	第6回　京都周産期カンファレンス　子宮動静脈瘻に中間型トロホブラストの長期存続を認めた一例　和田美智子、髙尾由美、小椋恵利、髙倉賢人、中木絢子、川村洋介、宇治田麻里、住友理浩、髙倉賢二、小西郁生　2016.11. 12　京都
研究会発表	第8回　京都産婦人科救急診療研究会　妊娠29週子宮内胎児死亡を契機に糖尿病ケトアシドーシスと診断された劇症1型糖尿病の一例　和田美智子、髙尾由美、小椋恵利、髙倉賢人、中木絢子、川村洋介、宇治田麻里、住友理浩、北岡有喜、髙倉賢二、小西郁生　2016.10. 2　京都
国内学会	第58回 日本婦人科腫瘍学会　診断に苦慮した未経妊女性の卵巣性索腫瘍類似子宮腫瘍の1例　川村洋介、下園寛子、髙倉賢人、中木絢子、秦さおり、和田美智子、奥田亜紀子、住友理浩、髙尾由美、北岡有喜、髙倉賢二　2016.7. 8　米子
研究会発表	京都女性のヘルスケア研究会　事前に超音波で診断し得なかった部分胞状奇胎の3例　中木絢子、住友理浩、小椋恵利、髙倉賢人、川村洋介、和田美智子、宇治田麻里、髙尾由美、髙倉賢二　2016.11. 22　京都
国内学会	第52回日本周産期・新生児医学会学術集会　帝王切開時に子宮動脈および卵巣固有靭帯を結紮し保存的に管理した前置癒着胎盤の1例　髙倉賢人、住友理浩、下園寛子、川村洋介、秦さおり、和田美智子、奥田亜紀子、江川晴人 2016.7. 16　富山
研究会	第134回近畿産科婦人科学会学術集会　子宮内膜症性嚢胞に対してジエノゲスト投与中に卵巣明細胞癌を発症した1例 ー12年間の経過観察例ー　髙倉賢人、下園寛子、川村洋介、秦さおり、和田美智子、奥田亜紀子、住友理浩、髙尾由美、髙倉賢二　2016.6. 5　京都

研究会	京都産婦人科学会　平成28年度学術集会　分娩後16時間経過してから発症した腟外陰部血腫に対し、経カテーテル的動脈塞栓術が有効であった1例　小椋恵利、住友理浩、髙倉賢人、中木絢子、川村洋介、和田美智子、宇治田麻里、髙尾由美、髙倉賢二、小西郁生　2016.10. 8　京都
国内学会	第68回日本産科婦人科学会学術講演会　加齢による子宮頸部ＭＲＩ所見の変化～頸部stromal ringに注目して～　松尾恵利、濱西潤三、杉並興、伊尾紳吾、馬場長、近藤英治、小西郁生　2016.4. 23　東京

□ 投稿論文など

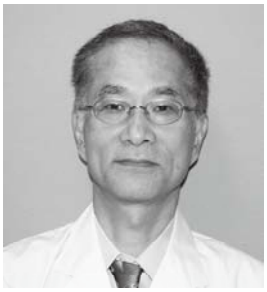
著者	タイトル	著書・雑誌名
小西郁生	標準的治療からゲノム個別化治療へ 2017;94(2):青ページ1-2	臨床と研究
近藤英治、小西郁生	選択的プロゲステロン受容体修飾薬(SPRM)2017;71(1):121-126	臨床婦人科産科
Koshiyama M, Matsumura N, Konishi I	Review. Subtypes of ovarian cancer and ovarian cancer screening 2017.7.12;doi:10. 3390 [Epub]	Diagnostics
下園寛子、住友理浩、髙倉賢人、中木絢子、川村洋介、秦さおり、和田美智子、奥田亜紀子、江川晴人	母児ともに救命し得た「分娩型」劇症型A群β溶連菌感染症の2症例 2016;52(3):954-958	日本周産期・新生児医学会雑誌
伊藤美幸、川村洋介、秦さおり、住友理浩、江川晴人、髙尾由美、髙倉賢二	Alpha-fetoprotein　高値を示し、肝様腺癌と漿液性腺癌が混在した子宮体癌の一症例 2016;34(2):162-168	日本婦人科腫瘍学会雑誌

緩和ケア科



専門医資格等
緩和ケア

診療部長
(緩和ケア外科)
土屋　宣之



専門医資格等
日本緩和医療学会暫定
指導医
専門分野
緩和ケア

診療科長
(緩和ケア内科)
久保　速三

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	石田　大助	婦人科学会専門医	緩和ケア	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療（業務）内容

1. 与えられた構造の中での環境整備ー視覚（照明、花木）、聴覚（院内放送の個室内制限）などー
2. 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3. 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4. 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
5. 目的としてではなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、アロマセラピー、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6. 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7. 遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8. 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績（平成28年度）

緩和ケア内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7.3名	0名	77.3日

緩和ケア内科外来患者数

1日平均患者数
0名

緩和ケア外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
12.6名	73名	49.3日

緩和ケア外科外来患者数

1日平均患者数
4.4名

□ 地域医療連携・広報活動

①年３回、癌医療病診連携の会を伏見医師会と運営。
②今年は、伏見医師会の先生方に、在宅医療の新保険点数を（施設基準も含めて）分かりやすいようにCD-Rにまとめて、配布しました。
③年２回の、お祭り（イベント）をしています。
落語会、アロマセラピーの実演、看護部・薬剤部・診療部からの講演と相談窓口、コンサート（音楽療法士を中心にして）、タオル帽子の実演等。
④患者サロンの方々の、出品展（今までに３回、不定期）、勉強会（１回/年、定期）を開催しています。
⑤訪問看護ステーション、調剤薬局との密な連携。
⑥癌診療拠点病院の地域連携室との密な連携。

2016年(平成28年)緩和ケア研修会関係
2016/1/23-24
宇治徳洲会病院、ファシリテーター及び演者『M-3 がん疼痛の評価と治療』
2016/1/30-1/31
市立京都病院　ファシリテーター及び演者『M-4a疼痛事例検討』
2016/2/6-7
市立静岡病院　ファシリテーター及び演者
2016/2/11
三重フォローアップ研修会　ファシリテーター及び演者（『M-12アドバンス・ケア・プランニング』並びに『m-11治療・ケアのゴールを話し合う』）
2016/2/20-21
浜松医療センター　ファシリテーター及び演者（『M8コミュニケーション講義ならびにロールプレイ』）
2016/3/12-13
京都医療センター　企画担当者
2016/3/26-27
愛知医科大学　ファシリテーター及び演者（『M-4a　疼痛事例検討』）
2016/5/21-22
独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター　ファシリテーター及び演者『M-4a疼痛事例検討』
2016/7/9-10
第5回京都フォローアップ研修会　企画担当者
2016/11/15-16
公立南丹病院　ファシリテーター
2016/12/3-4
市立静岡病院　ファシリテーター及び演者（『M-1b つらさの包括的評価と症状緩和』）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	2016/06/16-18　第21回日本緩和医療学会　eポスター 久保速三『専門職に対するend of life care(EOL)ケア研修会の試み』
国内学会	畑亜紀子、久保速三、土屋宣之　看取り時期の精神的肉体的苦痛に対してアロマセラピストにできたこと　第21回日本緩和医療学会 2016.6.21 京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
畑亜紀子　病院図書館ー　緩和ケア病棟におけるアロマセラピストの役割ー　近畿病院図書室協議会　2015;35(1):9-14

眼科



診療部長
喜多　美穂里

専門医資格等　京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師
京都大学医学博士
日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医
ＰＤＴ認定医
Ｂｅｓｔ　Ｄｏｃｔｏｒｓ　2012-2017

専門分野　網膜硝子体疾患
内視鏡併用硝子体手術

得意疾患　網膜剥離
糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	濵　　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　　師	川越　直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　　師	藤井友起子	日本眼科学会専門医	眼科一般	
レジデント	李　　相沅		眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

・科長交代があった2012年より、手術・検査機器を整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡を用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
・白内障全般、緑内障全般
・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

□ 診療（業務）内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
   眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
   さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。 内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心で確かな医療を実践します
   医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

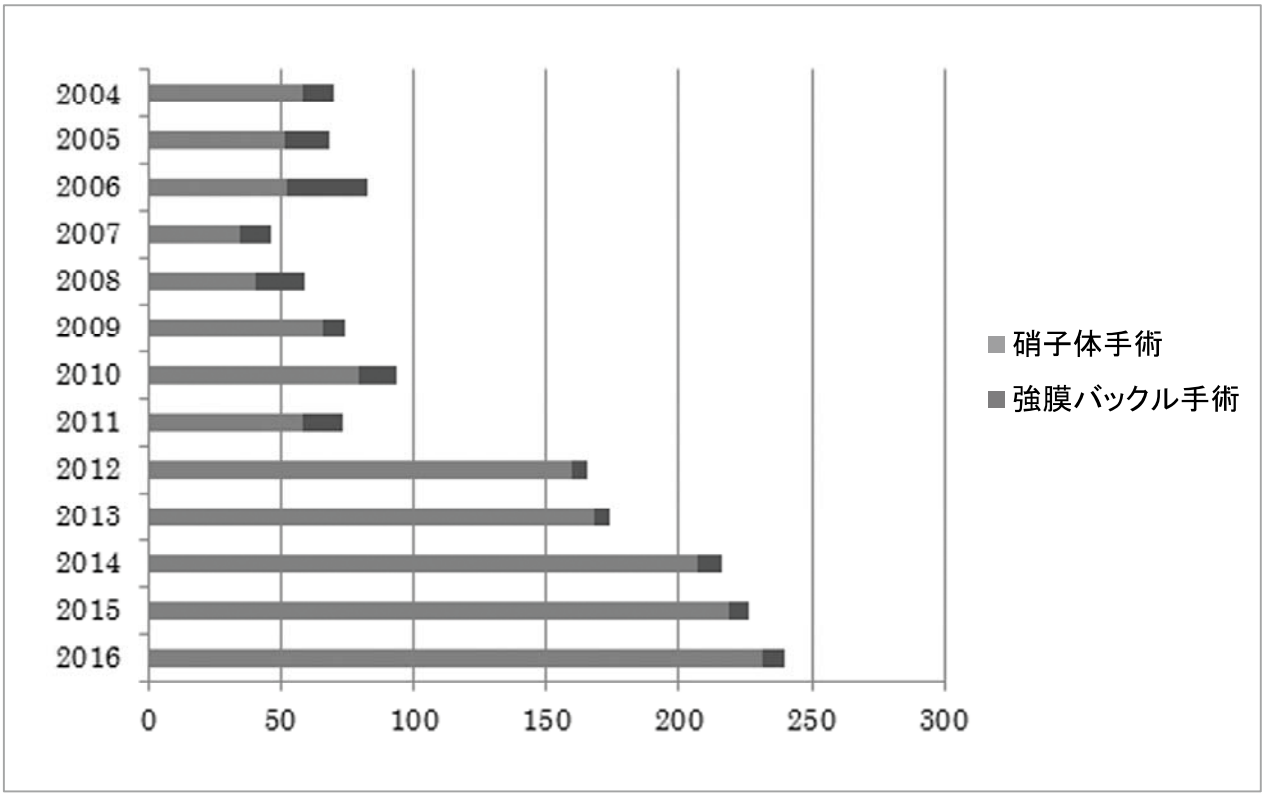
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
19.4名	829名	8.6日

外来患者数

1日平均患者数
66.0名

主な手術・検査の件数など

水晶体再建術	硝子体手術	強膜バックル手術	緑内障手術	観血手術件数合計
908件	231件	9件	2件	1,078件



□ 地域医療連携・広報活動

・喜多美穂里：眼科診療最前線!「白内障の手術4」　糖尿病センターだより. 34：6-7、2016
・喜多美穂里：眼科診療最前線!「白内障の手術5」　糖尿病センターだより. 35：6-7、2016
・喜多美穂里：眼の構造　糖尿病センターだより. 36：8-9、2016
・喜多美穂里：視力検査について　糖尿病センターだより. 37：8-9、2016
・喜多美穂里：細隙灯顕微鏡検査　糖尿病センターだより. 38：8-9、2017

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	サブスペシャリティーサンデー、網膜・硝子体分野サージカル関連：小切開硝子体手術のポイントとトラブルシューティング：喜多美穂里（モデレーター）：第120回日本眼科学会総会、仙台市、2016.4.10
国内学会	網膜剥離ファイトクラブー症例をシェアして自分のものにする（インストラクションコース）：喜多美穂里、大島佑介、門之園一明、木村英也、日下俊次、栗山晶治、竹内忍：第70回日本臨床眼科学会　京都市、2016.11.4
国内学会	医長が知っておくべきいくつかの常識―バラ色の医長生活（イブニングセミナー）：喜多美穂里：第70回日本臨床眼科学会　京都市、2016.11.3
国内学会	チャレンジ硝子体手術2016ー内視鏡で斬る!（ランチョンセミナー）：喜多美穂里：第70回日本臨床眼科学会　京都市、2016.11.5
国内学会	裂孔原性網膜剥離手術の基本ー内視鏡手術(教育セミナー)：喜多美穂里：第55回日本網膜硝子体学会総会、東京都、2016.12.4
国内学会	硝子体手術最前線!小さな工夫で大きな成果Ⅳーより良い観察像を求めて（ランチョンセミナー）：喜多美穂里：第55回日本網膜硝子体学会総会、東京都、2016.12.3
国内学会	第4回眼科コールドケース：喜多美穂里（オーガナイザー）、大澤俊介、瓶井資弘、門之園一明、日下俊次、栗山晶治、本田茂：京都市、東京、横浜市、名古屋市、神戸市、2016.12.15
国内学会	MIVS時代の硝子体手術ー適応と手技の変化ー網膜剥離（シンポジウム）：喜多美穂里、渡辺朗、大澤俊介、松本惣一：第40回日本眼科手術学会総会、福岡市、2016.1.29
国内学会	ビトモンGo!アイテムを駆使してレア症例をゲットせよ!（シンポジウム）：喜多美穂里（オーガナイザー）、大島佑介、木村英也、堀尾直市、渡辺朗、米田一仁、安宅伸介、塙本宰：第40回日本眼科手術学会総会、福岡市、2016.1.29
国内学会	接触型眼底観察用レンズ用いた硝子体手術（ビデオ講演）：喜多美穂里：第40回日本眼科手術学会総会、福岡市、2016.1.27
国内学会	術前裂孔不明裂孔原性網膜剥離：喜多美穂里、今井大輔、松崎祥子、李相沅、藤井友起子、川越直顕、浜祥代：第67回京大眼科同窓会学会、京都市、2016.10.30
国内学会	HHVディスポレンズでみる!：喜多美穂里：第48回RETINAの会　京都市、2016.11.5
国内学会	網膜硝子体「網膜剥離と新しい術式」：喜多美穂里（座長）：第40回日本眼科手術学会総会、福岡市、2016.1.27
研究会	糖尿病網膜症を斬る：喜多美穂里(特別講演)：第38回玉野市臨床研究会、玉野市、2016.5.22
研究会	糖尿病網膜症を斬る!硝子体手術のトレンド：喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	102度レンズでより広く撮る!蛍光眼底造影検査：今井大輔、喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	眼科受診からAIDSの診断に：川越直顕、李相沅、藤井友起子、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	片眼の光視症、急性視力障害をきたした４７歳女性：李相沅、藤井友起子、川越直顕、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	こんな時には、ビジョンブルー：浜祥代、李相沅、藤井友起子、川越直顕、喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	強度近視に伴う網膜分離、牽引性網膜剥離：藤井友起子、李相沅、川越直顕、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	裂孔不明裂孔原性網膜剥離：喜多美穂里、松崎祥子、李相沅、藤井友起子、川越直顕、浜祥代：眼科連携FSM2016、京都市、2016.6.4
研究会	流行性角結膜炎：喜多美穂里：平成28年度第1回院内感染対策講習会、京都市、2016.6.23、24
研究会	京都医療センターが支えるウーマン・ヘルスケア：喜多美穂里（座長）：第7回京都医療センター医療連携フォーラム、京都市、2016.9.3
研究会	硝子体手術up dateよりよく見て、きれいに治す（特別講演）：喜多美穂里：京都府眼科医会冬季集談会、京都市、2017.2.4
教育講演	裂孔原性網膜剥離：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	ぶどう膜炎：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	加齢黄斑変性：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	これから：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	なぜものが見えるか：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	白内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	糖尿病網膜症：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	緑内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学　東京、2017.2.12
教育講演	薬物、眼科疾患：喜多美穂里：第39回京都府眼科医会コメディカル講習会、京都市、2017.2.18

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
喜多美穂里：内因性眼内炎. 眼感染症の傾向と対策、完全マニュアル. 下村嘉一、福田昌彦編集. 臨床眼科増刊号、274-278、2016医学書院、東京
喜多美穂里：裂孔原性網膜剥離―網膜剥離と裂孔の位置. 一目でわかる眼疾患の見分け方、ぶどう膜疾患・網膜硝子体疾患. 大路正人、門之園一明、井上幸次、山本哲也編集. 120-121、2016　MEDICAL VIEW、東京
喜多美穂里：裂孔原性網膜剥離―弁状裂孔による胞状網膜剥離. 一目でわかる眼疾患の見分け方、ぶどう膜疾患・網膜硝子体疾患. 大路正人、門之園一明、井上幸次、山本哲也編集. 126-127、2016　MEDICAL VIEW、東京
喜多美穂里：眼科診療最前線!「白内障の手術4」　糖尿病センターだより. 34：6-7、2016
喜多美穂里：眼科診療最前線!「白内障の手術5」　糖尿病センターだより. 35：6-7、2016
喜多美穂里：眼の構造　糖尿病センターだより. 36：8-9、2016
喜多美穂里：視力検査について　糖尿病センターだより. 37：8-9、2016
喜多美穂里：細隙灯顕微鏡検査　糖尿病センターだより. 38：8-9、2017

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

No Image

診療科長
(耳鼻咽喉科)
辻　純

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　京都大学医学博士
　京都大学医学部臨床教授
　日本耳鼻咽喉科学会代議員
専門分野
　耳科学・耳鼻咽喉科
得意疾患
　中耳疾患、めまい疾患



診療科長
(頭頸部外科)
安里　亮

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　頭頸部がん専門医
　内分泌外科専門医
　気管食道科専門医
　日本がん治療認定医
　日本頭頸部癌学会評議員
　日本頭蓋底外科学会評議員
　日本気管食道科学会評議員
専門分野
　頭頸部外科・甲状腺外科
得意疾患
　頭頸部がん、甲状腺手術

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　員 (頭頸部外科)	宮崎　眞和	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医	頭頸部外科	頭頸部癌 甲状腺癌
医　　員 (耳鼻咽喉科)	田浦　晶子	日本耳鼻咽喉科学会専門医 再生医療認定医 めまい相談医 補聴器相談医	耳鼻咽喉科一般 めまい	めまい症
医　　員 (耳鼻咽喉科)	嘉田　真平	日本耳鼻咽喉科学会専門医 頭頸部がん専門医	耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	頭頸部癌 甲状腺癌 音声疾患
医　　員 (耳鼻咽喉科)	辻村　隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医・ 気管食道科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科一般、 鼻副鼻腔疾患	鼻副鼻腔炎
医　　員 (耳鼻咽喉科)	片岡　通子		耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設 日本気管食道科専門医認定施設

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 中耳・頭蓋底手術セミナーへ講師として参加
8. めまいの診断と治療

□ 主な対象疾患

・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
・めまい症
・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。真珠腫・中耳炎・めまい・顔面神経麻痺など耳科全域を行っている。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
25.7名	500名	18.6日

外来患者数

1日平均患者数
56.6名

主な手術・検査の件数など

耳手術	鼻副鼻腔手術	甲状腺・副甲状腺手術	頭頸部腫瘍手術
24件	56件	117件	182件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	本多啓吾, 安里亮, 辻純, 宮崎眞和, 嘉田真平, 辻村隆司, 片岡通子	悪性腫瘍に対する頭蓋底術後合併症	第117回日本耳鼻咽喉科学会 2016/5/19　名古屋
国内学会	辻村隆司, 安里亮, 辻純, 宮崎眞和, 嘉田真平, 辻村隆司, 片岡通子	当科における舌癌リンパ節転移様式の検討	第117回日本耳鼻咽喉科学会 2016/5/21　名古屋
国内学会	宮崎眞和, 本多啓吾, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆t司, 嘉田真平, 辻純	中咽頭がん口内法切除におけるMCFP法について	第40回日本頭頸部癌学会 2016/6/9　さいたま
国内学会	片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 嘉田真平, 宮崎眞和, 安里亮, 辻純	耳下腺原発のMammary analogue secretory carcinoma例	第40回日本頭頸部癌学会 2016/6/9　さいたま
国内学会	本多　啓吾, 安里亮, 辻純, 宮崎眞和, 嘉田真平, 辻村隆司, 片岡通子	経頸部法で切除した上咽頭進展中咽頭後壁癌例	第40回日本頭頸部癌学会 2016/6/10　さいたま
国内学会	嘉田真平, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 宮崎眞和, 辻純	耳下腺癌肉腫の1例	第78回耳鼻咽喉科臨床学会 2016/6/24　鹿児島
研究会	田浦晶子, 片岡通子, 辻村隆司, 嘉田真平, 宮崎眞和, 安里亮, 辻純	当院におけるメニエール病症例のめまい発作についての検討	第124回日耳鼻京滋合同地方会 2016/6/25　京都
研究会	伊藤通子, 辻村隆司, 嘉田真平、田浦晶子, 宮崎眞和, 安里亮, 辻純	副鼻腔炎、中耳炎を合併したIgG4関連疾患例	第125回日耳鼻京滋地方会 2016/12/17　京都
教育講演	田浦晶子	日常診療におけるめまいの診断と治療	第237回与謝医師会学術講演会 2016/5/19　京都
国内学会	田浦晶子, 中川隆之,船曳和雄, 辻純,伊藤壽一,大森孝一	微小重力環境における前庭有毛細胞についての検討	第75回日本めまい平衡医学会総会　2016/10/27　大阪

研究会	田浦晶子	シンポジウム3：めまい疾患のモデル動物 ―遺伝子医療、再生医療への扉― iPS細胞を用いた前庭再生医療.	第75回日本めまい平衡医学会総会　2016/10/28　大阪
研究会	田浦晶子、伊藤通子、辻村隆司、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純、小亀敏明、瀬崎伸一	手術用顕微鏡光源による耳珠部熱傷の一例	第31回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2017/1/28　大阪
国内学会	嘉田真平, 安里亮, 片岡通子, 辻村隆司, 本多啓吾, 宮崎眞和, 辻純	耳下腺癌肉腫の1例	第78回耳鼻咽喉科臨床学会 2016/6/24　鹿児島
国内学会	嘉田真平, 片岡通子, 辻村隆司, 宮崎眞和, 田浦晶子, 安里亮, 辻純	甲状腺乳頭癌再発症例に対する手術と予後	第49回日本甲状腺外科学会 2016/10/27　山梨
国内学会	嘉田真平, 辻純, 安里亮, 宮崎眞和, 田浦晶子, 辻村隆司, 片岡通子	二次性副甲状腺機能亢進症の１腺に副甲状腺癌を合併した症例	第70回国立病院総合医学会 2016/11/11　沖縄
国内学会	嘉田真平, 安里亮, 宮崎眞和, 辻村隆司, 片岡通子	頭頸部扁平上皮癌の両側頸部リンパ節転移症例の検討	第27回日本頭頸部外科学会 2017/2/3　東京

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル	巻・ページ
JOHNS	安里　亮	私が愛用する手術器具148 「PGAシート」	Vol.32 No.4 524-8 2016
medicina	安里　亮	甲状腺腫大・結節	Vol.53 No.4 224-8 2016
ENTONI	安里　亮	口腔癌を見逃さないコツとpitfall	Vol.202 27-33 2017
Acta Otolaryngol.	Taura A, Nakashima N, Ohnishi H, Nakagawa T, Funabiki K, Ito J, Omori K.	Regenerative therapy for vestibular disorders using human induced pluripotent stem cells (iPSCs): neural differentiation of human iPSC-derived neural stem cells after in vitro transplantation into mouse vestibular epithelia.	Vol.136 999-1005 2016
Clinical Neuroscience	田浦晶子、大西弘恵	前庭障害に対するiPS細胞移植の可能性	Vol.34 No.10 1142-1144 2016
iPS細胞	大西弘恵、田浦晶子	第4節 ヒト iPS 細胞からの前庭神経節細胞作製の開発	No.1867 361-364 2016
耳鼻咽喉科頭頸部外科レジデントマニュアル	田浦晶子	メニエール病	114-118 2016
耳鼻咽喉科頭頸部外科レジデントマニュアル	田浦晶子	良性発作性頭位めまい症	119-121 2016
耳鼻咽喉科頭頸部外科レジデントマニュアル	田浦晶子	前庭神経炎	122-123 2016
臨床頭頸部癌学	宮崎　眞和	治療　外科治療　切除術　頸部郭清	140-142 2016.6
耳鼻咽喉科・頭頸部外科レジデントマニュアル	嘉田　真平	呼吸困難（上気道狭窄）	51-2 2016
耳鼻咽喉科・頭頸部外科レジデントマニュアル	嘉田　真平	急性喉頭蓋炎	250-1 2016
耳鼻咽喉科・頭頸部外科レジデントマニュアル	嘉田　真平	気管切開術・緊急気道確保	263-6 2016

麻酔科



診療科長
七野　力

専門医資格等　厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
京都大学医学博士

専　門　分　野　麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　師	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	原　　りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	野口 英梨子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	松山　智紀	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医 京都大学医学博士	麻酔管理一般 心臓血管外科麻酔	
医　　師	水津　　悠	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般 心臓血管外科麻酔 救急・集中治療	
医　　師	鈴木　陽世	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専　修　医	山内　千奈		麻酔管理一般	
非　常　勤	鈴木万里子		麻酔管理一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設

1. 麻酔管理
2. 集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療（業務）内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理

当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室（ＩＣＵ）での集学的治療

本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ（院内ＩＣＵ）の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績（平成28年度）

主な手術・検査の件数など

全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（+脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
2,639件	588件	322件

麻酔科管理症例　計	院内ＩＣＵ入室患者数
3, 549件	724件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	水津　悠、子安　聡子、杉本　亮大、七野　力　人工心肺使用症例での希釈式自己血輸血の有用性について　日本麻酔科学会第63回学術集会　2016/5/27：福岡
研究会	原　祐介、廣津　聡子、水津　悠、七野　力　腹腔鏡下腸切除術中に２回心房細動を起こした症例　日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会　2016/9/3：大阪
研究会	鈴木　陽世、杉本　亮大、七野　力　劇症型A群溶連菌感染症により緊急帝王切開となった２症例　日本麻酔科学会第62回関西支部学術集会　2016/9/3：大阪
研究会発表	杉本　亮大、原　祐介、原　りさ、松山　智紀、七野　力　抜管後早期に気道狭窄を呈したIgG4関連疾患の一例　第20回侵襲反応制御医学研究会　2017/2/11：京都
国内学会	廣津　聡子、水津　悠、七野　力　全身麻酔中に胸骨圧迫を施行した6症例の神経学的予後の検討　第44回日本集中治療医学会学術集会　2017/3/9：札幌
国内学会	山内　千奈、七野　力、水津　悠、廣津　聡子、佐田　容子　歯肉癌術後に敗血症性ショックとなったFanconi貧血患者の一例　第44回日本集中治療医学会学術集会　2017/3/10：札幌

□ 投稿論文など

著者	著書・雑誌名・タイトル・出版社等	発行年月
七野力、島川宣子、渋谷博美、鈴木宏昌、小澤章子、森脇克行、平尾素宏	麻酔 "術後せん妄"に関するアンケート調査ー国立病院機構外科・麻酔ネットワークグループー 克誠堂	2016.7
Tsutomu Shichino, Motohiro Hirao, Yoshio Haga	Acute Medicine & Surgery Inter-rater reliability of the American Society of Anesthesiologists physical status rating for emergency gastrointestinal surgery Wiley	2016.9

放射線科



医療技術部長
伊藤　剛

専門医資格等　日本医学放射線学会専門医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授
専 門 分 野　画像診断

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木　則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科医長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医（評価A-S）	画像診断、核医学、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医（評価A-S）	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科医師	濱中　訓生		画像診断、IVR	救急画像診断
放射線科医師	楢林　正流		放射線腫瘍学	放射線治療
放射線科レジデント	大嶋　園子		画像診断	
放射線科レジデント	佐藤　敏之		画像診断	
放射線科レジデント	渡邉　幸香		画像診断	
放射線科レジデント	キ シュ ボルバーラ		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、第１種放射線取扱主任者		
副技師長	伊藤　篤	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
副技師長	福本　真司	核医学専門技師、X線CT認定技師、医療情報技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師、衛生工学衛生管理者、第1種放射線取扱主任者		
主任	坂本　龍彦			
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
技師	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
主任	麻布三枝子	マンモグラフィ認定技師		

主任	山本　匠	マンモグラフィ認定技師、X線CT認定技師		
技師	川端　清志	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技師	大西　孝志	マンモグラフィ認定技師、肺がんＣＴ認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技師	西川　峰生	救急撮影認定技師、X線CT認定技師		
技師	山本　崇	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技師	小田　晴義	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技師	竹原　和宏	マンモグラフィ認定技師、X線CT認定技師、衛生工学衛生管理者、第１種放射線取扱主任者		
技師	新家　睦巳	X線CT認定技師		
技師	淺野　朱香	マンモグラフィ認定技師、第１種放射線取扱主任者		
技師	熊給　淳	救急撮影認定技師		
技師	辰野　絢香			
技師	嵯峨根真也	第１種放射線取扱主任者		
技師	濵田佳代子	マンモグラフィ認定技師		
技師	藤田　訓充			
技師	若畑　旬弥			
技師	山本　翼			
技師	池上　周平			
技師	小嶋　智大			
技師	穴吹　泰博			
技師	中村あゆみ	マンモグラフィ認定技師		
技師	戸川　謙太			
技師	淡海　光司			
技師	仲山　暁介			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会総合修練施設

□ 主な対象疾患

悪性腫瘍全般

□ 診療（業務）内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

□ 診療実績（平成28年度）

外来患者数

1日平均患者数
25名

主な手術・検査の件数など（放射線治療）

年間治療件数
8,772件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	熊給淳、山本匠、片倉和雄　上腹部息止め撮像におけるRev-Linear方の有用性　第32回日本診療放射線技師学術大会　2016.9.18　岐阜
国内学会	熊給淳、山本匠、片倉和雄　ガドブトロールを用いた造影MRAの検討　第32回日本診療放射線技師学術大会　2016.9.18　岐阜
国内学会	辰野絢香、山中早苗、山本匠、川端清志、伊藤篤、片倉和雄　放射線治療計画CTにおける金属アーチファクトを抑えるアルゴリズムの適用について　第25回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会　2016.10.8　大阪
国内学会	藤田訓充、小田晴義、山本崇、福本真司、伊藤篤、片倉和雄　患者急変時における放射線科ICLS W.G.の取り組み 第2報ーリーダーストラップを使用してー　第70回国立病院総合医学会　2016.11.12　沖縄
国内学会	嵯峨根真也、藤田訓充、小田晴義、福本真司、伊藤篤、片倉和雄　放射線科における原子力災害W.G.の取り組み　第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄
国内学会	大西孝志、山中早苗　治療計画装置アップグレード時のコミッショニングの必要性　平成28年度近畿地域診療放射線技師会学術大会　2017.02.19　和歌山
国内学会	藤田訓充、嵯峨根真也、小田晴義、福本真司、片倉和雄　放射線科における原子力災害W.G.の取り組み　第564回研修会　京都府放射線技師会学術大会　2017.2.5　京都
国内学会	大嶋園子、広川侑奨、キシュボルバーラ、佐藤敏之、濱中訓生、荒木則雄、伊藤剛　肝原発腫瘍との鑑別が困難であった副腎皮質癌の一例　第30回日本腹部放射線学会　2016,6.25　金沢
国内学会	佐藤敏之、広川侑奨、渡邊幸香、キシュボルバーラ、大嶋園子、濱中訓生、黒田昌志、楢林正流、荒木則雄、伊藤剛　肝外及び肝内に広範波及した化膿性血栓性門脈炎の一例　第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会　2016,9.16　東京
研究会	佐藤敏之、広川侑奨、渡邊幸香、キシュボルバーラ、大嶋園子、濱中訓生、黒田昌志、楢林正流、荒木則雄、伊藤剛　食道癌の化学療法中に生じたサルコイド様反応の一例　第313回日本医学放射線学会関西地方会　2016.6.11　大阪
研究会	渡邊幸香、佐藤敏之、キシュボルバーラ、大嶋園子、濱中訓生、黒田昌志、広川侑奨、楢林正流、荒木則雄、伊藤剛　原発性精巣カルチノイドの一例　第314回日本医学放射線学会関西地方会　2016.11.5　大阪
研究会	キシュボルバーラ、渡邊幸香、大嶋園子、佐藤敏之、濱中訓生、黒田昌志、楢林正流、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛　縮小傾向を示した胸腺癌の一例　第315回日本医学放射線学会関西地方会　2017.2.25　大阪
教育講演	伊藤剛　肉眼病理が教える事　第42回京奈臨床画像カンファレンス　2016,11.26　奈良

リハビリテーション科



診療科長
山田　茂

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
京都大学　医学博士
京都大学医学部　臨床教授
専 門 分 野　運動器領域

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　長	中島　康代	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本リハビリテーション医学会認定医 京都大学　医学博士	循環器内科
医　　師	井村　美紀	日本リハビリテーション医学会認定医 日本医師会認定スポーツ医	リハビリテーション
理学療法士	12名（士長1名、主任1名）		
作業療法士	5名（主任1名）		
言語聴覚士	4名		

□ 診療科の特徴

1. 救急医療に重点を置く当院の方針に従って、入院患者の急性期リハビリテーションを基本に診療しています。
2. がん診療を補完するものとして、在宅療養への移行を支援します。

□ 主な対象疾患

疾患により、またその治療に伴う安静等によって障害される身体機能の回復を目指して、各科各種疾患に対応します。

疾患別リハビリテーション：脳血管疾患（Ⅰ）、心大血管疾患（Ⅰ）、運動器（Ⅰ）、呼吸器（Ⅰ）、がん、廃用症候群（Ⅰ）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	第51回リハビリテーション医学会　2016年6月10日 脳梗塞再発により弁蓋部症候群をきたした一例 松灘里佳 後藤広亮 井村美紀 菊川玲子 中村紀子 磯野理
国内学会	第51回リハビリテーション医学会　2016年6月10日 MASA（日本語版嚥下アセスメント）を導入して～当院における傾向～ 森永浩介 井村美紀

歯科口腔外科



診療科長
吉田　和也

専門医資格等　日本口腔外科学会専門医・指導医
日本顎関節学会専門医・指導医
日本補綴歯科学会専門医・指導医
日本睡眠学会認定歯科医・評議員
日本睡眠歯科学会専門医・指導医・評議員
大阪歯科大学歯学博士
京都大学医学博士
厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医
専門分野　口腔外科一般
得意疾患　睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	大野　　純	日本小児口腔外科学会認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	宮本 絵里加	日本口腔ケア学会認定医 日本外傷歯学会認定医・評議員	口腔外科一般	口腔ケア
研　修　医	山口　　隆子		口腔外科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関

1．迅速で的確な診断を心がけます。
2．複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3．治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4．口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯・口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）・顎の骨折や歯、口腔の外傷・顎関節症、その他の顎関節疾患・顎変形症（歯並び、咬み合わせ、受け口など顎の形の異常）・口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症（舌のヒリヒリする痛みや違和感）・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導、口腔ケア・歯茎、顎の骨の炎症・口内炎、舌や頬の炎症・入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
・睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
・顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
・顎変形症（下顎前突症、下顎後退症、顔面非対称、上顎前突症など）
・顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療（業務）内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や救急対応、有病者（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中、ビスフォスフォネート系薬剤使用中など）の歯科治療、入院患者さん(一般病棟、ICU、緩和ケア病棟）の歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）に対する口腔内装置治療（マウスピース）や顎矯正手術、顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど）の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法（MAB療法）、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は全国的にも例がありません。患者さん用のサイト「顎口腔領域の不随意運動」（http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/）を開設し、日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム（医療観光）により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1.6名	91名	6.3日

外来患者数

1日平均患者数
41.5名

主な手術・検査の件数など

抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術
856件	75件	52件	15件	14件

顎変形症手術	骨折手術
10件	12件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	内　　容
国内学会	吉田和也　第29回日本顎関節学会総会・学術大会　ジストニアによる顎関節脱臼とボツリヌス治療　2016.7.18　箱根
国内学会	吉田和也　第29回日本顎関節学会総会・学術大会　Coronoidotomy for oromandibular dystonia-related limited mouth opening: long-term follow-up　2016.7.18　箱根
国内学会	吉田和也　第３回日本ボツリヌス治療学会学術大会　歯科インプラント埋入用装置を応用した外側翼突筋へのボツリヌス毒素注射法　2016.9.30　東京
国内学会	吉田和也　第３回日本ボツリヌス治療学会学術大会　閉口ジストニアに伴う開口制限に対する筋突起切離術の効果と予後　2016.9.30　東京
国内学会	吉田和也、大野 純、宮本絵里加、山口隆子、下郷麻衣子、兵 行忠　第61回日本口腔外科学会総会・学術大会　サージカルテンプレートを応用した外側翼突筋へのボツリヌス毒素注射方法　2016.11.25～2016.11.27　千葉
研究会	宮本絵里加、福原紫津子、山口隆子、大野 純、吉田和也、兵 行忠　第47回日本口腔外科学会近畿支部学術集会　上顎犬歯に発生したCombined epithelial odontogenic tumourの1例　2016.7.2　大阪
研究会	野瀬將洋、鈴木雅博、金谷 徹、藤田純一、西 大和、大野 純、岩城倫弘、東 智、平野 護　第29回京都府歯科医学大会　肩ひじを張らない矯正症例勉強会のご案内 -簡易診断チャートを使用して-　2017.2.26　京都
教育講演	吉田和也　三木市三師会学術講演会　顎口腔領域の筋緊張異常に起因する疾患の診断と治療　ー睡眠時無呼吸症候群と不随意運動についてー　2016.7.14　兵庫

教育講演	下郷麻衣子　京都府伏見区歯科医師会　地域連携講演会　終末期患者の口腔トラブルと医科歯科連携　2016.7.22　京都
教育講演	下郷麻衣子　南口腔ケアセンター例会　がん終末期患者の口腔トラブルに対する口腔ケアと医科歯科連携の重要性～京都医療センター緩和ケア病棟での取り組み～　2016.8.16　京都
教育講演	下郷麻衣子　京都医療センター　CANCER・BOARDがん診療セミナー　第４回グランドセミナー　End of Life期がん患者における口腔トラブルとケア～緩和ケア病棟スタッフと共に歩んだ２年～　2016.11.24　京都
教育講演	下郷麻衣子　愛知県一宮市歯科医師会　第7回桃花会　End of Life期がん患者における口腔トラブルとケア～緩和ケア病棟スタッフと共に歩んだ２年～　2016.11.30　愛知
教育講演	下郷麻衣子　下京西部医師会　第29回下西集談会　End of Life期のがん患者の口腔ケアと多職種連携の重要性　2017.3.4　京都
教育講演	下郷麻衣子　口腔外科主催(NST共催)口腔ケア勉強会　吸引付き口腔ケア用品の使い方と注意点　2016.8.25　京都
教育講演	下郷麻衣子　口腔外科主催(NST共催)口腔ケア勉強会　どんな口腔ケア用品が院内にあるの？覚えよう！口腔ケア用品の種類と使用方法　2016.12.9　京都
教育講演	宮本絵里加　RST・口腔外科共催口腔ケア勉強会　気管挿管患者への口腔ケア　2017.3.4　京都
教育講演	宮本絵里加　RST・口腔外科共催口腔ケア勉強会　口腔内の構造を知ろう～むし歯・歯周病・動揺歯・外傷歯～　2017.3.4　京都

□ 投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　容
2016.7	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	Maezawa H, Tojyo I, Yoshida K, Fujita S.　Recovery of impaired somatosensory evoked fields after improvement of tongue sensory deficits with neurosurgical reconstruction.
2017.1	Journal of Craniomaxillofacial Surgery	Yoshida K　Surgical intervention for oromandibular dystonia-related limited mouth opening: Long-term follow-up.
2017.3	Movement Disorders Clinical Practice	Yoshida K　How do I inject botulinum toxin into the lateral and medial pterygoid muscles?
2016.4	糖尿病センターだより	吉田和也　睡眠時無呼吸症候群のマウスピースによる治療
2016.7	糖尿病センターだより	吉田和也　マウスピース治療はなぜ日本人に効果的なのか？
2016.10	糖尿病センターだより	吉田和也　睡眠時無呼吸症候群の口腔外科的手術療法
2017.1	糖尿病センターだより	吉田和也　睡眠時無呼吸症候群の予防について
2017.3	うづらだより	吉田和也　歯科の最新医療「ボツリヌス毒素注射用装置を用いた外側翼突筋のジストニア治療」

救命救急センター（救命救急科）



センター長
西山　慶

専門医資格等
- 日本救急医学会専門医
- 日本循環器学会専門医
- 日本集中治療学会CCU委員会委員
- 日本救急医学会　学会主導研究評価特別委員会　委員
- 日本循環器学会　蘇生科学小委員委員
- FAHA
- 京都大学医学部　臨床教授

専門分野
- 救急医学
- 蘇生科学
- 集中治療学

得意疾患
- 蘇生後症候群
- 体外循環
- ショック



診療部長
赤尾　昌治

専門医資格等
- 日本循環器学会認定循環器専門医・代議員（社員）・近畿支部評議員
- 日本内科学会認定内科医・指導医・近畿支部評議員
- 日本不整脈心電学会評議員
- 日本心血管脳卒中学会評議員
- 京都大学臨床教授・非常勤講師

専門分野
- 心房細動
- 不整脈
- 臨床疫学
- 医学教育

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	笹橋　　望	日本救急医学会専門医 日本外科学会認定医 日本胸部外科学会認定医・指導医	救急医学	ER
医　　長	別府　　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医 麻酔科標榜医 JATECインストラクター FCCSインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター	集中治療 麻酔 感染症 救急医学	重症感染症
医　　師	田中　博之	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医/総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター JMECCインストラクター/ディレクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学 呼吸管理 災害医療	呼吸器疾患 災害医療

医　　師	竹　下　淳	日本集中治療医学会専門医 麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医・認定医 日本心臓血管麻酔学会正式認定 心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道心臓エコー認定医(JB-POT) National Board of Echocardiography Advanced PTEeXAM Testamur(米国周術期経食道心エコー認定医)	心臓麻酔 小児超音波ガイド下血管カテーテル留置 神経ブロック 集中医療医学	
医　　師	岡田　信長	日本救急医学会専門医	救急医学	医学教育
医　　師	増永　直久	日本救急医学会専門医	救急医学	外傷
医　　師	上田　忠弘	日本内科学会認定内科医	救急医学	
医　　師	手島　啓幾		救急医学	神経救急
専修医	藤野　光洋		救急、集中治療	
専修医	貞松　毅大		救急、集中治療	
顧　　問	金子　一郎	帝京大学救急医学講座　准教授		
顧　　問	志馬　伸朗	広島大学救急集中治療医学　教授		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本救急医学会指導医認定施設に準ずる施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1．京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2．重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3．循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4．積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学）
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績（平成28年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.4名	809名	7.1日

外来患者数

1日平均患者数
10.2名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Takashi Unoki, Kei Nishiyama, Noritoshi Ito, Tomohiko Orita, Hideki Arimoto, Satoru Beppu, Mitsuru Abe, Tomoyuki Endo, Hideto Yasuda, Ken Nagao　Severity Assessment of Brain Damage With rSO2 monitoring for Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation After Out-of-hospital Cardiac Arrest　American Heart Association Resuscitation Science Symposium　2016.11.11　New Orleans, USA
国際学会	Fujii, Masashi; Shime, Nobuaki; Nishiyama, Kei　TREATMENT FOR TRAUMATIC SPINAL EPIDURAL HEMATOMA WITH FLUOROSCOPICALLY GUIDED PERCUTANEOUS DRAINGE　Society of Critical Care Medicine Scientific Session　2017.1.24　Honolulu, USA
国内学会	西山　慶　院外心肺停止患者に対する救急隊員によるrSO2計測に関する研究　第19回日本臨床救急医学会総会　2016.5.13　郡山
国内学会	西山　慶　院外心肺停止患者に対する急性期脳酸素飽和度を用いたテーラーメード型集中治療　第19回日本臨床救急医学会総会　2016.5.14　郡山
国内学会	田中博之, 竹下　淳, 藤野光洋　交通外傷（肝損傷IIIB）を契機として診断された重症肺アスペルギールス症の一例　第44回日本救急医学会総会・学術集会　2016.11.17　東京
国内学会	濱中訓生, 伊藤　剛, 藤野光洋, 岡田信長, 浜崎幹久, 田中博之, 別府　賢, 笹橋　望, 西山　慶　胆嚢炎と同時に発症しIVR　で治療した左副腎出血の一例　第44回日本救急医学会総会・学術集会　2016.11.17 東京
国内学会	竹下　淳, 貞松毅大, 藤野光洋, 手島啓幾, 浜崎幹久, 岡田信長, 田中博之, 別府　賢, 笹橋　望, 西山　慶, 志馬伸朗　巨大甲状腺腫瘍による気管圧迫のために呼吸原性心肺停止となり, 気管支鏡ガイド下に気管挿管し救命できた症例　第44回日本救急医学会総会・学術集会　2016.11.18　東京
国内学会	堤　貴彦, 濱中訓生, 下戸　学, 柚木知之, 小池　薫　褐色細胞腫の自然破裂に対し動脈塞栓術を施行した一例　第44回日本救急医学会総会・学術集会　2016.11.18　東京
国内学会	西山　慶　ICUにおける心房細動への治療戦略　第44回日本集中治療医学会学術集会　2017.3.9　札幌
研究会	田中 博之、笹橋　望、竹下　淳、西山　慶　胞巣状軟部肉腫の肺転移に伴う喀血による呼吸不全にて救命しえなかった一例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2017.3.9　札幌
研究会	藤野　光洋、貞松　毅大、手島　啓幾、岡田　信長、田中　博之、竹下　淳、別府　賢、笹橋　望、西山　慶　頭部外傷後に汎下垂体機能低下症をきたした一例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2017.3.9　札幌
研究会	濱中　訓生、藤野　光洋、岡田　信長、田中　博之、竹下　淳、別府　賢、中島　康文、笹橋　望、西山　慶　強直間代性けいれんによる非外傷性椎体破裂骨折の一例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2017.3.11　札幌
国内学会	鵜木　崇、西山　慶、伊藤　賀敏、折田　智彦、有元　秀樹、別府　賢、阿部　充、遠藤　智之、安田　英人、長尾　健　院外心肺停止患者におけるrSO2および長期予後から見たE-CPRの適応　第45回日本集中治療医学会学術集会　2017.3.10　札幌

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Kunio Hamanaka,Yuusuke Hirokawa,Tsuyoshi Itoh,Mitsuhiro Fujino,Kenichi Kano,Satoru Beppu,Nozomu Sasahashi,Kei Nishiyama	Successful non-operative management of traumatic extrahepatic portal venous injury without intraperitoneal hemorrhage: a case report	Acute Medicine & Surgery.					2016.11
Sasahashi, N., Hamazaki, M., Asada, H., Kataoka, T., Hamanaka, K. and Nishiyama, K.	Infected iliac artery aneurysm with aortocaval fistula.	Acute Medicine & Surgery.					2016.5
Fujii N, N Tsubouchi, K Nishiyama, N Shime	Successful treatment of traumatic spinal epidural haematoma with fluoroscopically-guided percutaneous drainage: a report of two cases	Anaesth Intensive Care.	44	6	777-780		2016.11

健診センター



健診センター長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医・近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・教育責任者・評議員
日本甲状腺学会　専門医・評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士
専門分野　内科、内分泌・代謝
得意疾患　内分泌疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副健診センター長	島　　伸子	日本内科学会　認定内科医 日本人間ドック学会　人間ドック健診認定医 日本医師会　認定産業医 日本消化器病学会　専門医 日本消化器内視鏡学会　専門医 日本ヘリコバクター学会　H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本消化器がん検診学会認定医（胃）	消化器内科	消化器疾患 消化器内視鏡検査
医　　師	小見山麻紀	日本内科学会 認定内科医 日本人間ドック学会 人間ドック健診認定医 日本医師会 認定産業医 日本禁煙科学会 上級禁煙支援医師 FNAネットワーク協会 食生活アドバアイザー 静岡県立大学 非常勤講師 大阪医科大学 医学博士 Anglia Ruskin University 公衆衛生学修士	内科 予防医学	生活習慣病 禁煙支援
非常勤医師	前川　高天	日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　指導医 日本消化器内視鏡学会　指導医・評議員 日本ヘリコバクター学会　H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医	消化器内科	消化管疾患 消化器内視鏡検査

□ 診療科の特徴

食生活の乱れや過度の飲酒、運動不足、喫煙など不適切な生活習慣の積み重ねにより、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が急激に増加しています。生活習慣病の多くは、自覚症状がほとんどないため、気付かないうちに動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳卒中などの重大な結果を招いてしまうことも少なくありません。生活習慣病は、まず予防すること、そして早期発見と早期治療が大切です。また、増加の一途をたどっている様々な臓器に発生する癌においても、予防や早期発見・早期治療が重要であることはいうまでもありません。京都医療センター健診センターは、生活習慣病や癌の早期発見に貢献しています。 特に、癌の全身検索に適しているPET-CT健診や、苦痛の少ない経鼻内視鏡を用いた胃がん検診などを行い、癌の早期発見に力を入れています。ご自身だけでなく、大切なご家族の健康を守るために、定期的に健診を受けられることをお勧めします。

□ 主な対象疾患

高度で贅沢な設備とスタッフ

京都医療センターは各種の高度専門医療施設に指定されていますので、それぞれの診療設備については高度かつ精密な検査機器が配備されています。また、各学会認定の専門医が多数常勤しており、専門的かつ高度な診断が可能となっています。当健診センターでは、最高の設備・スタッフを駆使することにより、みなさまに安心していただける健診を提供しています。

健診センター専用棟での迅速な健康診断

平成16年5月に完成した健診センター専用棟には、待合ロビー、診察室、心電図室、超音波検査室、肺機能検査室、X線一般撮影/造影撮影室がすべて完備されていますので、それぞれの検査・診察が効率的かつ迅速にすすめることが可能となっています。また、待ち時間の短縮など、受診されるみなさまのご負担をできるだけ軽減できるよう、常にこころがけていますので、是非ご利用いただきますよう職員一同お待ちしています。

1. より"迅速"に、より"的確"に

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査，診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

2. "点"から"線"の健診

従来の、結果を眺めるだけの"点"の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ"線"の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患、ヘリコバクターピロリ菌感染症については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より"確実"な早期発見

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。 また近年、がんに対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当健診センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、また、2014年10月からPETがん検診を開始し、各疾患の早期発見を目指しています。

4. より"楽"な検査

胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで"つらい"検査の一つでした。当健診センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって"つらい"検査から"楽な"検査への転換を図っています。

〈健診コース〉

基本コース	★基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：マンモグラフィなど）を受診者の希望に応じて実施しています。また、2014年度からPET健診を，2015年度から胃がん健診を始めました。 ★血液サラサラ健診 血液は体内に必要な栄養素，酵素等を運び、老廃物を取り除く働きをします。 生活習慣病予防のために「血液サラサラ健診」を受けてみませんか？ ★鼻から行う内視鏡 鼻から行う内視鏡をご存じですか？ 経鼻内視鏡検査は、口からの検査に比べ検査時の吐き気、不快感が少ないものとなっています。
一般健診	
生活習慣病	
脳ドック	
レディース	
オプション	
脳オプション	
動脈硬化オプション	
血液サラサラ度オプション	
骨粗鬆症オプション	
各種がんオプション：肺，前立腺，乳腺，子宮	
PET健診	

〈サリドマイド健診〉
先行の「全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究班」の研究成果を踏まえ、中年期を向かえた患者の今後の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療及び支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みに関する調査も進め、国際的な医療情報交換を推進し、患者に対する支援のあり方、取組みを世界的規模で検討していく。
京都医療センター健診センターでは、西日本居住者を対象に健診を実施している。

□ 診療実績（平成28年度）

〈受診者数〉

基本健診	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	PET検診	胃がん検診	サリマイド健診	合計
2012年度	766	11	27	30	-	-	10	844
2013年度	802	6	34	16	-	-	8	866
2014年度	965	6	25	27	11	-	8	1,042
2015年度	965	2	29	20	47	4	7	1,074
2016年度	992	8	22	22	65	41	9	1,159

オプション	脳	動脈硬化	血液流動性	骨粗鬆症
2012年度	118	94	36	101
2013年度	122	85	43	93
2014年度	144	135	88	135
2015年度	135	133	69	139
2016年度	144	133	72	123

がんオプション	肺がん	前立腺がん	乳がん	子宮がん
2012年度	48	161	183	140
2013年度	54	175	197	136
2014年度	76	207	221	138
2015年度	65	215	227	152
2016年度	82	219	212	146

胃がんリスク検診	A群	B群	C群	D群	E群（除菌後）	計	当院での除菌者数
2014年度	616	88	56	9	168	937	102
2015年度	617	46	17	5	254	939	44
2016年度	549	45	42	60	311	1,007	28

PPI内服、胃手術後、腎機能異常を除外

がん検診

上部消化管検査	内視鏡		内視鏡合計	透視	計	がん発見率（%）（内視鏡）	がん発見率（%）（透視）	がん発見率（%）（total）
	経鼻	経口						
2013年度	244（0）	206（5）	450（5）	312（0）	762（5）	1.11	0.00	0.66
2014年度	389（1）	410（2）	799（3）	152（0）	951（3）	0.38	0.00	0.32
2015年度	458（0）	390（2）	848（2）	105（0）	953（2）	0.24	0.00	0.21
2016年度	541（1）	393（2）	934（3）	94（0）	1,028（3）	0.32	0.00	0.29

（　）内は発見された胃がん数

大腸がん検診	便潜血検査		要精検者数	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
	件数	陽性数						
2013年度	781	73	73	9.3	37	50.7	2	0.26
2014年度	962	162	157	16.3	121	77.0	1	0.10
2015年度	995	145	140	14.9	100	71.4	4	0.39
2016年度	1,034	128	117	11.3	68	58.1	4	0.39

前立腺がん検診	PSA		要精検者数	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
	件数	陽性数						
2015年度	215	8	8	3.7	6	75.0	1	0.50
2016年度	255	11	7	2.7	6	85.7	1人結果未着（生検予定）	

子宮がん検診	子宮頸部細胞診		要精検者数	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
	件数	陽性数						
2015年度	172	4	4	2.3	4	100	0	0.00
2016年度	173	3	3	1.7	3	100	1人結果未着（円錐切除予定）	

乳がん検診	マンモグラフィー検査		要精検者数	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	がん	がん発見率（%）
	件数	陽性数						
2015年度	248	99	99	39.9	86	86.9	0	0.00
2016年度	239	69	69	28.9	50	72.4	1(CIN3)	0.58

PET検診	件数	発見腫瘍
2014年度	11	0
2015年度	47	2 （肺癌1、乳癌1）
2016年度	65	0

健診で発見された癌（まとめ）

	咽喉頭癌	食道表在癌	早期胃癌	十二指腸癌	大腸癌	乳癌	子宮癌	肺癌	前立腺癌
2013年度	1	1	5	0	2	0	0	0	0
2014年度	1	1	3	0	1	1	0	1	0
2015年度	0	1	2	0	3	1	0	1	1
2016年度	0	0	3	2	4	1	1	0	0

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
研究会	田上哲也　内分泌・代謝障害　第２回サリドマイド胎芽症研究会　2017.2.18　東京
研究会	小見山麻紀、和田啓道、山陰一、浅原哲子、嶋田清香、島津章、尾崎裕香、高橋裕子、長谷川浩二　禁煙後体重増加と心血管バイオマーカー　第57回日本人間ドック学会学術大会　2016.7.28-29　松本

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社
田上哲也,島 伸子,小坂田元太	（独）国立病院機構京都医療センターにおける日帰り人間ドック, 健康診断	サリドマイド胎芽症患者の健康, 生活実態の諸問題に関する研究　平成27年度総括・分担研究報告書			178-179	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

田上哲也,島 伸子,小見山麻紀	(独)国立病院機構京都医療センターにおける日帰り人間ドック, 健康診断	サリドマイド胎芽症患者の健康, 生活実態の諸問題に関する研究　平成28年度総括・分担研究報告書			in press	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
田上哲也	Ⅳ　内科診療　2　内分泌・代謝障害	サリドマイド胎芽症診療ガイド			20-21	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
島　伸子,前川高天	Ⅺ　臨床現場における諸問題　4　経鼻消化器内視鏡のポイント	サリドマイド胎芽症診療ガイド			64-65	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

臨床研究センター



臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長(併任)
糖尿病研究部長(併任)
治験管理室長(併任)
研究室長(糖尿病合併症:併任)
島津　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
専 門 分 野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医・指導医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医 日本臨床分子医学会 評議員 日本心不全学会 評議員 日本心血管内分泌学会 評議員 国際心臓研究学会(ISHR) 評議員 日本内科学会近畿支部 評議員 日本禁煙科学会治療分科会長 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 国際心血管薬物療法学会日本部会（J-ISCP）理事長 日本動脈硬化学会禁煙推進部会委員 国際心血管薬物療法学会（ISCP）次期理事長 京都大学医学博士 京都大学医学部非常勤講師 大阪医科大学非常勤講師 静岡県立大学客員教授	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
内分泌代謝高血圧研究部長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本抗加齢医学会　専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医 日本糖尿病学会近畿支部　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌、遺伝診療
研究室長（予防医学）	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員	糖尿病、糖尿病教育

研究室長(先端医療技術開発)	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究（バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙）、実験医学（心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生）
研究室長(臨床内分泌代謝)	日下部　徹	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌、遺伝診療
研究室長(情報化推進：併任)	北岡　有喜	日本産科婦人科学会　専門医・指導医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会　副会長 京都府がん医療戦略推進会議　がん登録部会長 ITコンソーシアム京都　医療情報化部会長 地方公共団体情報システム機構　経営審議委員会委員 総務省　地域情報化アドバイザー 総務省　ICT地域マネージャー 独立行政法人情報処理推進機構「先進的IoTプロジェクト支援事業」メンター 京都大学博士(医学) 同志社大学博士(政策科学)	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学・政策科学・公共政策学
研究室長(分子内分泌代謝：併任)	田上　哲也	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医, 近畿支部評議員 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者, 評議員 日本甲状腺学会　専門医, 評議員 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学　医学博士 京都大学　臨床教授・非常勤講師	内科・内分泌代謝 （甲状腺疾患）
研究室長(内分泌系腫瘍：併任)	奥野　博	日本泌尿器科学会　指導医・専門医 日本泌尿器内視鏡学会　代議員 日本生殖医学会　評議員 日本アンドロロジー学会　評議員 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本移植学会　移植認定医 日本内視鏡外科学会　技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定医 京都府緩和ケア研修会　修了 京都大学　医学博士 京都大学　臨床教授 関西医科大学　臨床教授	男性学 前立腺癌 腹腔鏡手術
研究室長(臨床疫学情報：併任)	小山　弘	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医・指導医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病：併任)	河野　茂夫	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　評議員	糖尿病、足病変
研究室長(血管障害：併任)	塚原　徹也	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員 日本脳卒中の外科学会技術指導医	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般

研究室長(がん医療：併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 外科専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本肝癌研究会幹事・取扱い規約委員 日本臨床外科学会　評議員 京都大学医学部　臨床教授 京都大学　医学博士	肝胆膵外科（肝臓がん、胆道がん、膵臓がん）
研究室長(生命情報科学：併任)	七野　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定　集中治療専門医	麻酔科学全般　心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
臨床研究企画運営部特別研究員	成瀬　光栄	日本内科学会　指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医・指導医	内科・内分泌代謝（副腎疾患）・高血圧
流動研究員	津崎こころ		
流動研究員	田中　将志		
流動研究員	曽和　尚也		
流動研究員	滝川　裕介		

□ 診療（業務）内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

・蒲郡市 市民健康公開講座「糖尿病予防！すぐに実践したくなる食の講座」　2016.11.13（愛知）
・中日新聞「糖尿病予防！すぐに実践したくなる食の講座　」　2016.11.15（愛知）
・日本栄養士会 栄養士会 産後ケアリスト認定講座「産後のお母さんを支援する産後ケア 栄養の基礎から産後ケア　離乳食まで」　2016.11.27（愛知）
・相楽医師会 市民フォーラム「楽しくわかる糖尿病と認知症予防～これならできそう食事療法～」　2016.11.5（京都）
・NHK「きょうの健康」-JA直売所キャラバン-「野菜を生かした効果的なダイエット（冬野菜をおいしく食べて体を燃やそう）」　2017.1.28（京都）
・第32回 きょうと健やか21in相楽　相楽医師会 市民フォーラム「これならできる運動療法」　2016.11.5（京都）
・伏見内分泌代謝ネットワーク 第25回連携の会　2016.7.23（京都）
・伏見内分泌代謝ネットワーク 第26回連携の会　2016.12.8（京都）
・南国市市民公開講座「ポケットカルテ・地域共通診察券について」　2017.2.24（高知）
・J-ISCP第10回市民公開講座「非喫煙者にも知ってほしい！タバコの何が悪いのか」　2016.9.11（長野）

他

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　　者	演　　題	講　演　会　名	会　　期
Umakoshi H, Tsuiki M, Naruse M, et al.	Subtype diagnosis by adrenal vein sampling in patients with primary aldosteronism associated with autonomous cortisol secretion.	42th International Aldosterone Conference	2017.3.30～2017.3.31 (Orlando, USA)
Umakoshi H, Tsuiki M, Naruse M, et al.	Adrenal venous sampling in patients without primary aldosteronims.	17th International Congress of Endocrinology	2016.8.31～2016.9.4 (Beijing, China)
Ogasawara T, Umakoshi H,Tsuiki M, Naruse M, et al.	Clinical significance of aldrenal computed tomography findings in young patients with primary aldosteronism.	ENDO 2016	2016.4.1～2016.4.4 (Boston, USA)
Naruse M, Umakoshi H, Tsuiki M, et al.	Bilateral disease is a predominant subtype of primary aldosteronism : Japan Primary Aldosteronism Study.	42th International Aldosterone Conference	2017.3.30～2017.3.31 (Orlando, USA)
Kono S.	Dianbetic foot problems and education proguramme on the diabetic foot in western paciffic region.	11th IDF-WPR Congress 2016&8th AASD Scientific Meeting	2016.10.27～2016.10.30 (台湾, 台北)
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Takahashi K, et al.	Eating behavior associated with weight regain after dietary intervention in obese female.	The XIII International Congress on Obesity	2016.4.30～2016.5.1 (Vancouver, Canada)
Shimada S, Komiyama M, Ono K,Wada H, Yamakage H, Asahara N, Akao M, Morimoto T, Takahashi Y, Hasegawa K.	Different roles of monocyte chemoattractant protein-1 in smokers and nonsmokers.	European Society of Cardiology Congress 2016	2016.8.27～2016.9.1 (Rome, Italy)
Komiyama M, Wada H, Yamakage H, Asahara N, Shimada S, Shimatsu A, Morimoto T, Takahashi Y, Hasegawa H	Changes in adipocytokine levels and abdominal obesity after smoking cessation.	European Society of Cardiology Congress 2016	2016.8.27～2016.9.1 (Rome, Italy)
Wada H, Shimizu M, Abe M, Akao M, Hasegawa K, et al.	Low adiponectin and high NT-proBNP levels independently correlated with angiographic severity of coronary artery disease in non-diabetic patients: baseline data from the ANOX study.	European Society of Cardiology Congress 2016	2016.8.27～2016.9.1 (Rome, Italy)
Hasegawa K.	Bio-Mmarkers of cardiovascular events for preventive medicine by pharmacotherapy.	13th International Congress of Update in Cardiology and Cardiovascular Surgery	2016.10.15～2016.10.16 (Beijing, China)
Wada H, Satoh-Asahara N, Abe M, Akao M, Hasegawa K, et al.	Sex differences in biomarkers predicting severity of coronary artery disease in patients with suspected coronary heart disease: baseline data from the ANOX Study Circulation.	American Heart Association Scientific Session 2016	2016.11.12～2016.11.16 (New Orleans, USA)
Hasegawa K.	Effects of Curcumin for the Prevention and Treatment of Heart Failure.	International Society of Cardiomyopathies and Heart Failure Congress 2016	2016.12.2～2016.12.4 (Kyoto, Japan)
浅原哲子，田中将志，山陰一，島津章	肥満症の心血管疾患発症における単球M1/M2形質の病態生理学的意義-肥満症コホート研究-	第37回 日本肥満学会	2016.10.7～2016.10.8 (東京, 日本)
浅原哲子、田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章	GLP-1　受容体作動薬による単球・マクロファージのオートファジー誘導を介した硬動脈硬化作用	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	2016.5.19～2016.5.21 (京都, 日本)
田中将志、増田慎也、山陰一、佐々木洋介、村中和哉、和田啓道、長谷川浩二、塚原徹也、島津章、浅原哲子	糖尿病における末梢血単球と頸動脈プラーク浸潤マクロファージのM1/M2形質連関	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	2016.5.19～2016.5.21 (京都, 日本)

他

□ 投稿論文など

著者	タ イ ト ル	著書（雑誌）名・巻・号・頁数
Tagami T, Tsuiki M, Nakao K, Nakatani R, Kakita M, Ueda Y, Matsuo N, Usui T, Naruse M, Shimatsu A.	Specific Symptoms of Thyrotoxicosis in Japanese Patients: A Reevaluation of Classical Symptoms in Modern Thyroid Function Tests.	J Gen Fam Med 2016 ; 17(3) : 225-231
Hashimoto K, Tagami T, Yamakage H, Muranaka K, Tanaka M, Odori S, Kono S, Shimatsu A, Ogawa Y, Satoh-Asahara N.	Serum free thyroxine levels are associated with the efficacy of weight reduction therapy in obese female patients.	Endocrine Journal 2016 ; 63(3) : 221-229
Umakoshi H, Naruse M, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M.	Adrenal Venous Sampling in Patients With Positive Screening but Negative Confirmatory Testing for Primary Aldosteronism.	Hypertension 2016 ; 67(5) : 1014-1019
Umakoshi H, Xiaomei Y, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Ogasawara T, Tsuiki M, Naruse M; WAVES-J Study Group.	Reassessment of the cosyntropin stimulation test in the confirmatory diagnosis and subtype classification of primary aldosteronism.	Clin Endocrinol (Oxf)　2017;86(2) : 170-176

Masashi Tanaka, Shinya Masuda, Yoshiyui Matsuo, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakege, Kazuya Muranaka, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tetsuya Tsukahara, Akira Shimatsu and Noriko Satoh-Asahara.	Hyperglycemia and Inflammatoriy Property of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patuentts Undergoing Corotid Endarterectomy.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2016 ; 23(10):1212-1221
Shimatsu A, Nagashima M, Hashigaki S, Ohki N, Chihara K.	Efficacy and safety of monotherapy by pegvisomant, a growth hormone receptor antagonist, in Japanese patients with acromegaly.	Endocrine Journal 2016 ; 63(4): 337-347
Komiyama M, Shimada S, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Akao M, Morimoto T, Takahashi Y, Hasegawa K.	Time-dependent changes of atherosclerotic LDL complexes after smoking cessation.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2016 ; 23(11): 1270-1275
Inoue T, Tanaka M, Masuda S, Ohue-Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Omega-3 polyunsaturated fatty acids suppress the inflammatory responses of lipopolysaccharide-stimulated mouse microglia by activating SIRT1 pathways.	Biochim Biophys Acta. 2016.2 ; 1862(5) : 552-560
Nishiga M, Horie T, Kuwabara Y, Nagao K, Baba O, Nakao T, Nishino T, Hakuno D, Nakashima Y, Nishi H, Nakazeki F, Ide Y, Koyama S, Kimura M, Hanada R, Nakamura T, Inada T, Hasegawa K, Conway SJ, Kita T, Kimura T, Ono K	MicroRNA-33 Controls Adaptive Fibrotic Response in the Remodeling Heart by Preserving Lipid Raft Cholesterol.	Circ Res. 2016.12 ; 120(5) : 835-847
Katanasaka Y, Suzuki H, Sunagawa Y, Hasegawa K, Morimoto T.	Regulation of Cardiac Transcription Factor GATA4 by Post-Translational Modification in Cardiomyocyte Hypertrophy and Heart Failure.	International Heart Journal 2016.12 ; 57(6) : 672-675
Sunagawa Y, Katanasaka Y, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T.	Functional Analysis of GATA4 Complex, a Cardiac Hypertrophy-response Transcriptional Factor, Using a Proteomics Approach	Yakugaku Zasshi 2016 ; 136:151-156
Suzuki H, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Miyazaki Y, Funamoto M, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T.	Tyrosine phosphorylation of RACK1 triggers cardiomyocyte hypertrophy by regulating the interaction between p300 and GATA4.	Biochim Biophys Acta. 2016.9 ; 1862(9):1544-1557
Funamoto M, Sunagawa Y, Katanasaka Y, Miyazaki Y, Imaizumi A, Kakeya H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Komiyama M, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T.	Highly absorptive curcumin reduces serum atherosclerotic low-density lipoprotein levels in patients with mild COPD	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease 2016.8 ; 11: 2029-2034
Miyazaki Y, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Sae Hirano-Sunagawa, Funamoto M, Eriko Morimoto, Komiyama M, Shimatsu A, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Wada H, Hasegawa K, Morimoto T.	Effect of Statins on Atherogenic Serum Amyloid A and α 1-Antitrypsin Low-Density Lipoprotein Complexes	International Journal of Cardiology 2016.10; 3(225): 332-336
Komiyama M, Sayaka Shimada, Hiromichi Wada, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Masaharu Akao, Tatsuya Morimoto, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Time Course Changes of Atherosclerotic LDL Complexes after Smoking Cessation.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 2016 2016.11 ; 1(23) : 1270-1275
Komiyama M, Shimada S, Wada H, Yamakage H,Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Akao M, Morimoto T, Takahashi Y, Hasegawa K	Abrupt Increase in Glucose Intolerance after Smoking Cessation Therapy: A Case Report	Clin Med Rev Case Rep 2016.7 ; 2:116

他

□ 獲得した競争的研究資金

項　目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任/分担	主任/分担研究者 直接経費金（単位：万円）
日本学術振興会科学研究費	地域食材を生かした合併症予防のための糖尿病食（低AGE食）レシピの開発と効果検証	鋤納　心	基盤研究（C）	主任	150
日本学術振興会科学研究費	時間栄養学を活用した交代勤務者のための食事調査票と指導法開発についての研究	大原（津崎）こころ	基盤研究（C）	主任	105
日本学術振興会科学研究費	骨格筋の恒常性維持にかかるNotch2シグナルの役割の解明	増田　慎也	基盤研究（C）	主任	110
日本学術振興会科学研究費	家族や地域を巻き込んだ糖尿病予防プログラムの開発と効果検証	坂根　直樹	基盤研究（C）	主任	105
日本学術振興会科学研究費	骨髄・単球由来分子を標的とした肥満・糖尿病合併症の新規診断指標と治療戦略の確立	浅原（佐藤）哲子	基盤研究（C）	主任	110
日本学術振興会科学研究費	心筋細胞肥大の核内情報伝達機構を標的とした創薬による新規心不全療法の確立	長谷川　浩二	基盤研究（C）	主任	120
日本学術振興会科学研究費	ポーションコントロールプレートを活用した教育効果の評価及び普に関する研究	坂根　直樹	基盤研究（C）	分担	50

日本学術振興会科学研究費	独身男性のための心血管疾患予防食事支援プログラムの開発と効果検証	河口　八重子	基盤研究(C)	主任	134
日本学術振興会科学研究費	単球機能を標的とした肥満・糖尿病合併CKD進展予防の為の新規バイオマーカーの確立	山陰　一	基盤研究(C)	主任	110
日本学術振興会科学研究費	TREM2に着目した肥満・糖尿病合併認知症予防の為の新規評価系・治療戦略の開発	田中　将志	基盤研究(C)	主任	110
日本学術振興会科学研究費	運動は褐色脂肪を増量するか：脂質代謝異常症への治療応用	二連木　晋輔	若手研究(B)	分担	140
日本学術振興会科学研究費	「健康サポート」薬局」における簡便で有効な健康支援プログラムの開発と効果の検証	岡田　浩	基盤研究(C)	主任	110
日本学術振興会科学研究費	多発性内分泌腫瘍症1型の腫瘍発生機序の分子基盤の解明とiPS細胞の樹立	垣田 真以子	若手研究(B)	主任	170
厚生労働科学研 究費	間脳下垂体機能障害における診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ作成に関する研究	島津　章	難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）	主任	296
国立高度専門医療センター等研究費	難治性副腎腫瘍の疾患レジストリーと診療実態に関する検討	成瀬　光栄	国際開発費27指1402	分担	220
国立高度専門医療センター等研究費	1-2機能性農林水産物・食品による高齢者（健常者・病者）のロコモティブシンドロームおよび脳機能改善効果の検証	坂根　直樹	SIP「次世代農林水産業創造技術」委託試験研究	分担	409.5
日本医療研究開発機構研究費	間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	島津　章	難治性疾患実用化研究事業	主任	175.3846
日本医療研究開発機構研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立（H25-循環器等（生習）-一般-017）	和田　啓道	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	主任	1013.0842
日本医療研究開発機構研究費	重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に質するエビデンス構築	成瀬　光栄	難治性疾患実用化研究事業	主任	1261.8187
日本医療研究開発機構研究費	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為の効果的医療連携体制の構築　(H26-循環器等実用化-一般-015)	浅原（佐藤）哲子	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	主任	460
日本学術振興会科学研究費	ｒSO2モニタリングを用いたプレホスピタル心肺蘇生プロトコルの再構築	西山　慶	基盤研究(C)	主任	130
その他財団等からの研究費	単球・マクロファージ機能を標的とした肥満・糖尿病性血管障害・認知症の新規予知指標・治療戦略の開発	田中　将志	武田科学振興財団	主任	200
その他財団等からの研究費	単球機能・ＴＲＥＭ2を標的とした肥満・糖尿病における認知症の新規評価系・治療戦略の開発	田中　将志	公益財団法人臨床薬理研究振興財団	主任	200
その他財団等からの研究費	エクオールによる腸内環境改善を介した新規心血管病予防法の構築	浅原　哲子	公益財団法人臨床薬理研究振興財団	主任	200

他

医療安全管理部

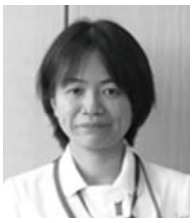

医療安全管理部長
白神　幸太郎


医療安全管理副部長
阿部　充


訴訟専門職
山﨑　茂
平成29年3月31日まで


訴訟専門職
赤井　太地
平成29年4月1日現在


医療安全管理係長
柿本　由美子


副看護師長
北野　朋子
平成29年4月1日現在

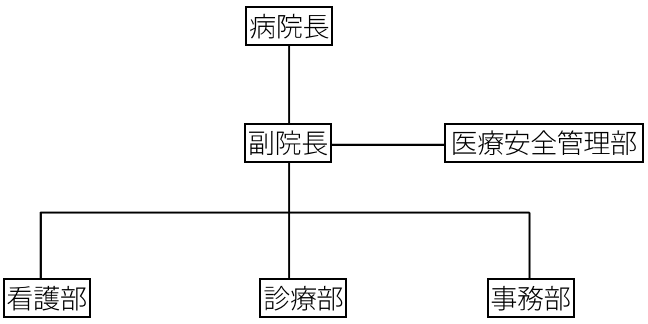
患者安全の確保、医療の質の担保と向上への取り組みは、急性期基幹病院である当院において最も重要な課題であり、安全文化の醸成は医療教育機関としての責務である。これらの課題、責務を達成するために医療安全管理部が活動している。院内に医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）をおいて医療安全管理体制を整備している。医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの定例会議を主催するとともに、随時オカレンス症例検討会、ハイリスク診療検討会などを開催している。平成27年7月より電子化した報告システムによりインシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い医療安全管理体制の強化充実を図っている。また院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。

平成27年10月より新たな医療事故調査制度がスタートし、当院でも新制度に対応すべく、院内で生じた死亡症例についてモニタリングし、迅速かつ適切に事例の収集と検討が可能となるシステムを整備した。

これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1．医療安全組織図

1）副院長直下に医療安全管理部を設ける。



2）構成メンバー

医療安全管理部長　１名
医療安全管理副部長　１名
医療訴務専門職　１名
医療安全管理係長　１名
看護部医療安全担当副看護師長：1名
医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計60名

2．医療安全に関する日常活動

1）医療安全に関する院内の情報収集及び実態調査（定期的な院内の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）

2）マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

3）インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理

4）医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知

5）医療安全に関する職員への啓発、広報

6）医療安全に関する教育研修の企画・運営

7）医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告

8）医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況　(平成28年度)

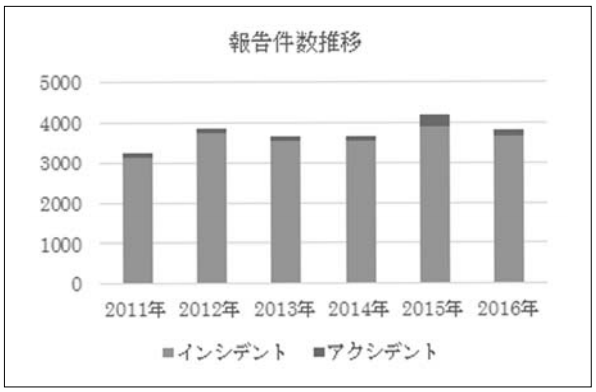
① 拡大医療安全管理委員会　　0件
② 医療事故本部対策会議　　1件
③ オカレンス事例検討会議　　17件
④ ハイリスク診療検討会議　　12件

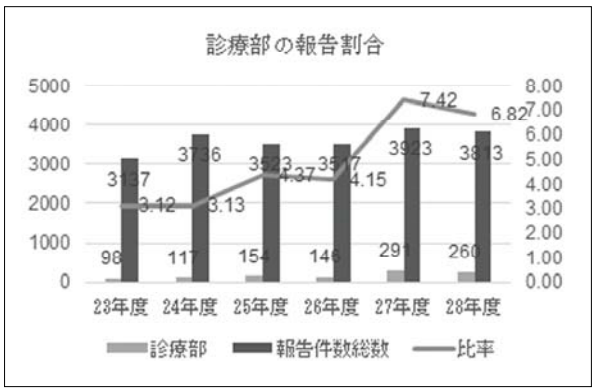
2）マニュアル、ガイドラインの作成・改訂

・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン（2012年）
・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備（2012年）
・ロヒプノール院内使用指針（2014年）
・事故防止対策マニュアル改訂版（2014年）
・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版（2015年改訂）
・院内転倒時の頭部打撲対応（2016年）
・深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防対策ガイドライン（2016年改訂）
・医療安全管理マニュアル（2016年改訂）

3）インシデント・アクシデントレポート収集

・平成28年度報告件数
インシデント　3,645 件
アクシデント　　168 件





4）平成28年度　緊急コール件数

ドクターハートコール：24件
ＭＥＴＳコール（平成25年9月稼働）：11件
ホワイトコードコール：7件

5）医療安全に関する活動及び情報提供

・医療安全管理委員会　1回/月　計12回
・リスクマネージャー会議　1回/月　計12回
・診療科長会議、医局会、管理診療会議での情報提供
・事故事例の情報発信等
・医療安全カレンダー作成、配布
・各部門カンファレンス・検討会等参加

6）医療安全に関する教育研修

(1) 医療安全研修会

第1回「職場における個人情報の取り扱いについて」平成28年8月2日、3日開催
第2回「最近の医療機関トラブルの特徴と対応の極意」外部講師 平成28年10月5日開催

(2)医療事故防止研修会　計9回開催

＜テーマ＞
麻薬管理について
緊急気道確保シミュレーション
CVC・PICC シミュレーション
必ず守ってほしい事　「ＭＲ検査・造影剤について」
インスリンの基礎知識」「アラーを減らしたい！当院のインスリン事故事例から学ぼう」
転倒を防ごう！～動作のみるべきポイントとは～
誤刺防止機能付き CV ポート針の使用方法
人工呼吸器トラブルシューティング～気切編～
薬剤の影響からみた転倒転落

(3)医局会において「医療安全アップデート」として18テーマについて情報発信

＜テーマ＞
救急医療と医療安全
転倒転落の現状と患者アセスメント
肺動脈塞栓症の予防
死亡症例報告
手術部位取り違え
問題患者への対応
化学療法時のニューモシスチス肺炎対策
院内発症肺塞栓事例
診療情報二次利用と個人情報保護
医療事故調査制度
救急医療と医療安全
転倒転落の現状と患者アセスメント
肺動脈塞栓症の予防
死亡症例報告
手術部位取り違え
問題患者への対応
化学療法時のニューモシスチス肺炎対策
院内発症肺塞栓事例

7）医療安全に関する講義

新採用者研修、看護助手等採用時の研修、幹部看護師任用候補者研修、看護学校、医療安全管理研修、スペシャルメディカルクラーク研修、等

8）平成28年度学会発表

(1) 第70回国立病院総合医学会（沖縄）4題

『院内死亡症例の把握と原因分析-医療事故調査制度への取り組み』

『オカレンスを活かす-事例検討から診療へのフィードバック』

『院内暴力から職員を守る-院内暴力の実態と「ホワイトコード」コール』

『インシデントレポーティングシステム導入の効果と応用』

医療情報部



部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター
政策医療企画研究部
情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等　京都大学博士（医学）
同志社大学博士（政策科学）
日本産科婦人科学会　専門医
日本産科婦人科学会　指導医
総務省　地域情報化アドバイザー
総務省　ICT地域マネージャー
地方公共団体情報システム機構　経営審議委員会委員
独立行政法人情報処理推進機構
「先進的IoTプロジェクト支援事業」メンター
ジャパン・クラウド・コンソーシアム
健康・医療クラウドWG総合監修
ITコンソーシアム京都　医療情報化部会長
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
がん登録部会　データ利用審査委員会委員
京都府がん医療戦略推進会議
院内がん登録部会　部会長
国立病院等総合情報ネットワーク研究会　副会長

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
副　部　長	八幡　兼成	京都大学博士（医学） 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室　主任	金子　悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務指導者
診療情報管理室　室員	前田　夕子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	秋好　香織	診療情報管理士
診療情報管理室　室員	上田　好美	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	口村　恭子	診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	産婦人科
スペシャル医療クラーク	牧原麻理子	産婦人科
スペシャル医療クラーク	木村　仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	成田　朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井　樹理	外科担当・院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）臨床試験セミナー入門編修了
スペシャル医療クラーク	甲田　実樹	呼吸器内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	柴田　暢子	形成外科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	品川　智子	循環器内科担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	村上　雅代	救命センター担当

スペシャル医療クラーク	中村　繭子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	西山万里子	血管外科担当・看護師
スペシャル医療クラーク	小川　文代	呼吸器外科担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	中條　夏子	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	糖尿病センター担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	金本　知恵	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	整形外科担当・院長室
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山　順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下　幸子	腫瘍内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	金山　聡美	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	川口裕希子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	藤澤　静香	耳鼻科担当
スペシャル医療クラーク	山崎真理子	眼科担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	戸田由美子	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	奥田　英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	村岡　大督	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	杉本　初雄	運用管理職員(委託)
流動研究員	滝川　裕介	システムエンジニア・医療情報技師
非常勤研究員	中辻　善行	システムエンジニア・上級医療情報技師
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	松島　大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・情報セキュリティスペシャリスト・ソフトウェア開発技術者

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。
2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。
4. 情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療（業務）内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1. 病院情報システム管理室
   病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること
2. 診療情報管理室
   診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること
3. 診療支援チーム
   スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

院内がん登録部会, 京都医療センター, 2016年4月14日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2016年4月14日
第68回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,　京都医療センター, 2016年4月22日
院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2016年4月23日
第69回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年5月19日
自由民主党本部政務調査会ＩＴ戦略特命委員会,永田町自民党本部「ポケットカルテ」 北岡有喜, 2016年5月26日
日本ケーブルテレビ連盟ID連携利活用WG第9回会合,KPP八重洲ビル, 2016年6月2日
地方公共団体情報システム機構第10回経営審議委員会 北岡有喜ほか,千代田区一番町25番地全国町村議員会館, 2016年6月8日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2016年6月9日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2016年6月9日
第70回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年6月16日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2016年6月9日
情報通信研究会「電子版お薬手帳「ポケットカルテ」～診療情報を自己管理して健康を守る～」北岡有喜,新居浜テレコムプラザ, 2016年6月18日
院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2016年6月25日

独立行政法人国立病院機構副院長協議会「ランチョンセミナー」北岡有喜ほか,大阪医療センター, 2016年7月15日
日本一般用医薬品連合会「スイッチOTC」北岡有喜,日本OTC医薬品協会, 2016年7月20日
第71回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年7月21日
京都府医師会脳神経外科部会「ポケットカルテ」北岡有喜,新都ホテル, 2016年7月23日
平成28年度ITコンソーシアム京都総会「医療情報化部会平成27年度事業報告と平成28年度事業計画」, 京都リサーチパーク, 2016年7月27日
九州大学医学部講義「ポケットカルテ」北岡有喜,九州大学病院, 2016年7月28日
平成28年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師　北岡有喜,公益社団法人福岡県看護協会, 2016年7月29日
第72回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年8月18日
総務省G7神戸保健大臣会合推進協議会近畿総合通信局セミナー「ICT利活用の現状と今後の展望」「『ポケットカルテ』及び地域共通診察券『すこやか安心カード』」北岡有喜ほか,三宮研修センター, 2016年9月8日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2016年9月8日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2016年9月8日
第73回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年9月15日
第5回院内がん登録セミナー, 京都医療センター, 2016年10月1日・10月2日
院内がん登録部会, 京都市立病院, 2016年10月6日
院内がん登録実務WG, 京都市立病院, 2016年10月6日
院内がん登録部会研修会, 京都市立病院, 2016年10月6日
第74回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年10月20日
野村総合研究所健康情報システム協議会「第3回医療のICTについて考える会」北岡有喜,野村総合研究所, 2016年11月14日
第１回電子化に関する四者協拡大委員会「ポケットカルテの進捗について」北岡有喜ほか, AP品川アネックス, 2016年11月25日
第75回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年11月17日
第76回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2016年12月15日
院内がん登録部会, 京都府立大学附属病院, 2016年12月22日
院内がん登録実務WG, 京都府立大学附属病院, 2016年12月22日
院内がん登録部会研修会, 京都府立大学附属病院, 2016年12月22日
南国市市民公開講座「ポケットカルテ・地域共通診察券について」北岡有喜,南国市市役所, 2016年12月26日
平成28年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師　北岡有喜,ナースプラザ福岡, 2017年1月6日
京都大学医学部腎臓内科学セミナー「ポケットカルテについて」北岡有喜,京都大学, 2017年1月16日
第77回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年1月19日
南国市主催シンポジウム「ポケットカルテ・地域共通診察券について」北岡有喜,南国市, 2017年1月23日
第18回京都研究会2016-2017 ポケットカルテとマイナポータル ～マイナンバーカードの活用方法～ 北岡有喜, 特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター, 2017年1月27日
院内がん登録部会, 京都第二赤十字病院, 2017年2月9日
院内がん登録実務WG, 京都第二赤十字病院, 2017年2月9日
院内がん登録部会研修会, 京都第二赤十字病院, 2017年2月9日

第78回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年2月16日
南国市主催シンポジウム「ポケットカルテ・地域共通診察券について」北岡有喜,南国市, 2017年2月24日
第79回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年3月16日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
北岡有喜, 個人向け障害健康・医療・福祉・介護履歴管理(PHR)サービスにおけるID連携とICカードの意義について　ケーブルID　CABLE PLATFORM　説明会, 2016年4月13日;東京
北岡有喜, 地方創生に資する『地域情報化大賞』「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」（NPO法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター）, 総務省 情報通信(ICT政策), 2016年4月20日; http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/taisho/
平成28年度厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」平成28年度田口班第1回班会議, 新大阪マルビル, 2016年5月29日
北岡有喜「ビックデータ分析における人工知能（ＡＩ）の利活用について」公益財団法人田附興風会医学研究所　第91回学術講演会・第15回研究発表会, 2016年7月16日;大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者　・　タ　イ　ト　ル
ITUジャーナル2016年6月号　Vol. 45 No. 12	北岡 有喜, 個人向け健康・医療・福祉履歴管理サービス
ITU Journal, New Breeze 2016 Summer	Yuki Kitaoka, Pocket Karte: Service for Managing Individual Healthcare,Medical, and Welfare Histories
総務省情報通信(ICT政策)地方創生に資する『地域情報化大賞』	北岡 有喜, [ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」 http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/taisho/

□ 表彰

総務省　地方創生に資する「地域情報化大賞」　大賞／総務大臣賞受賞　「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」2015,3,6

厚生労働省　第4回健康寿命をのばそうアワード　厚生労働省健康局長優良賞受賞　「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」2015,11,16



□ 院内情報処理業務支援

２０１６年度	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4672件	（月平均389件）
２０１５年度	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	3453件	（月平均288件）
〃	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	1129件	（月平均194件）
２０１４年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	5271件	（月平均439件）
２０１３年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3771件	（月平均314件）
２０１２年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3684件	（月平均307件）

感染制御部



感染制御部長
奥野　博

専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会・腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士
専門分野
泌尿器科一般
得意疾患
前立腺がん
男性学
尿路感染症



副部長
(専任)
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
ICD：Infection Control Doctor
日本内科学会総合内科専門医/指導医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医/指導医
日本医師会認定産業医
専門分野
内科一般、感染制御
得意疾患
一般内科疾患

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	畑　　啓昭	ICD:Infection control doctor 日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会 内視鏡外科技術認定医 日本食道学会 食道科認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医	上部消化管 外科感染症	胃がん 食道がん
医　　師 （非常勤）	遠藤　文司	ICD：Infection control doctor 日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医・学会本部学術評議員・近畿支部評議員 日本肝臓学会　肝臓専門医 日本消化器がん検診学会　認定医（胃・肝胆膵） 日本化学療法学会　抗菌化学療法認定医・指導医 日本医師会　認定産業医 臨床研修指導医 難病指定医 大阪市介護保険認定審査委員 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師	内科、消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療
薬 剤 師	水本　友宏	感染制御認定薬剤師、 抗菌化学療法認定薬剤師		

薬剤師（専任）	福田　良子	救命認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師		
副看護師長（専従）	森　誠司	CNIC：Certified Nurse Infection Control 感染管理認定看護師		
検査科主任（専任）	福田　修	認定臨床微生物検査技師		
経営企画室長	水野　実			
事務	諸木　真知			

□ 診療（業務）内容

平成9年4月に院内感染対策チームが（ICT）設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。実務はICTリーダーを中心に週に１回ICTミーティングを行い、さらに週に1回定期的に院内ICTラウンドを実施しています。また日常の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

活動例）

①インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの院内感染対策業務
②手術部位感染、中心静脈カテーテル関連血流感染などのサーベイランス業務
③針刺し・切創事故対応業務
④職員対象の各種ワクチン接種業務
⑤抗菌薬適正使用推進業務
⑥その他、院内感染対策に必要とされる業務

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、これまで以上に感染対策チーム（ICT）の活動が求められるようになりました。平成26年度の改訂でも大きな変更点はなく継承されています。

＊感染防止対策加算２を算定する当院連携施設：弘仁会大島病院　真和会京都大橋総合病院　ＮＴＴ西日本京都病院　国立病院機構南京都病院　淀さんせん会金井病院
＊感染防止対策加算１施設を算定している連携医療機関：京都市立病院機構　京都市立病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会　第１回「針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露対策」　2016年6月23日、6月24
院内感染対策講習会　第２回「感染管理のdon't10箇条」　2016年12月2日

第１回感染防止対策地域連携カンファレンス　「細菌検査室がなくてもできる感染対策上重要な簡易検査とその特性」2016年6月3日
第２回感染防止対策地域連携カンファレンス　伏見桃山総合病院にてICTラウンド　2016年9月9日
第３回感染防止対策地域連携カンファレンス　大島病院にてICTラウンド　2016年11月4日
第４回感染防止対策地域連携カンファレンス　金井病院にてICTラウンド　2017年2月9日

感染防止対策地域連携加算相互評価：京都市立病院　2016年11月24日・12月1日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
院内講習会	小田垣　孝雄「針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露対策～概説」2016年6月23日、24日
院内講習会	遠藤　文司「針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露対策～肝炎ウイルス・HIV」2016年6月23日、24日
院内講習会	森　誠司「針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露対策～院内感染報告」2016年6月23日、24日
地域連携 カンファレンス	福田　修「細菌検査室がなくてもできる感染対策上重要な簡易検査とその特性」2015年6月3日
国際学会 （オーストラリア）	Hata H: usefulness of oral and parenteral antibiotic prophylaxis in colorectal　16th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology & Infection　2016/12/2
国内学会 （京都）	畑啓昭：NPWTの適応、気をつける点、文献エビデンス、世間の流れ等　陰圧閉鎖療法セミナー　2016/11/18
国内学会 （沖縄）	畑　啓昭 坂井義治：パネルディスカッション1：手術部位感染の予防 術後感染予防抗菌薬の投与法について 2016/11/24
国内学会 （沖縄）	畑　啓昭:ランチョンセミナー2：SSIケアバンドルの最新知見-整形外科医と消化器外科医の立場から- SSIケアバンドルの最新知見-消化器外科医の立場から-　第59回日本感染症学会 中日本地方会学術集会　2016/11/25
国内学会 （東京）	畑　啓昭：スポンサードシンポジウム2 CDCガイドライン/ドラフトからみたSSI予防バンドル SSI予防対策バンドル～消化器外科領域～ 第29回日本外科感染症学会総会 2016/11/30
国内学会 （東京）	畑　啓昭：教育委員会企画プログラム　プレゼンター「周術期感染対策にまつわるコスト」第29回日本外科感染症学会総会 2016/11/30
国内学会 （栃木）	畑　啓昭：手術部位感染予防と院内感染対策～ガイドラインと実際に行っていること～　栃木県立がんセンター Grand-Conference　2016/12/15
国内学会 （神戸）	畑　啓昭：日本外科感染症学会合同シンポジウム　ERAS: enhanced recovery after surgeryー最近のSSI防止ガイドラインを踏まえてーディスカッサント　第32回日本環境感染学会総会・学術集会　2017/2/24
国内学会 （東京）	畑　啓昭：WHO　SSI　サーベイランスを読み解く　日本外科感染症学会特別セミナー「知って得する感染症」外科感染症のUp To　Date 2017　in　Tokyo　2017/3/25
国際学会 （ウイーン）	Naoki Esaka, Bunji Endo, Yoshinori Mizumoto, Shinji Katsushima, Nobuaki Shime: Predictors for Detection of Difficult-to-Treat Bacteria in Biliary Tract Infection. United European Gastroenterology Week (UEGW) 2016. 2016年10月
国内学会 （神戸）	遠藤文司, 江坂直樹, 福田良子, 水本知宏, 志馬伸朗：急性胆管炎・胆嚢炎に対する経験的抗菌薬の適切な選択に寄与する因子の検討　第64回日本化学療法学会総会 2016年06月
国内学会	福田良子：ポスター「ICTのカルテラウンドによる抗菌薬適正使用への取り組みー対象抗菌薬をSBT/ABPCまで拡大してー」　第32回日本環境感染学会
国内学会 （東京）	遠藤 文司1, 中野 重治1, 下釜 翼1, 熊谷 健1, 江坂 直樹1, 太田 義之1, 岩本 諭1, 笠原 勝宏1, 米田 俊貴1, 水本 吉則1, 勝島 慎二1：胆道感染症に対する初期経験的抗菌薬の適切な選択に寄与する因子の検討　Japan Digestive Disease Week (DDW) 2015（日本消化器病学会）2015/10/1
研究会 （京都）	遠藤 文司：胆道感染症に対する抗菌薬治療　第3回京阪奈胆膵フォーラム　2016/1/1
国内学会 （沖縄）	福田修,中村美咲,伊藤千慧,溝上泰司,河合健,住田善之,益田喜信,藤森洋一　「Clostridium difficile迅速検査キット培養の組み合わせの有用性に関する検討」　第70回国立病院総合医学会　2016年11月12日
国内学会 （熊本）	森　誠司　「入院患者におけるCRE(カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)検出状況と感染対策上の課題」第14回国立病院看護研究学会学術集会　2017年12月17日

□ 投稿論文など

著 者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年 および月
畑啓昭 志馬伸朗	術後肺合併症のリスク評価	日本外科感染症学会雑誌	13	3	201-208			2016.6
畑　啓昭	結腸・直腸手術	術後ケアとドレーン管理のすべて			270-273		照林社	2016.7
畑　啓昭	【感染症診療-その常識は正しいか?-】　脾損傷患者に対して肺炎球菌ワクチンを接種する?	救急・集中治療	28	7.8	543-548			2016.7
畑　啓昭	感染症フォーカス 手術部位感染の予防	INFECTION　FRONT	38		4-7			2016.10
Goto S, Hasegawa S, Hata H, Yamaguchi T, Hida K, Nishitai R, Yamanokuchi S, Nomura A, Yamanaka T, Sakai Y.	Differences in surgical site infection between laparoscopic colon and rectal surgeries: sub-analysis of a multicenter randomized controlled trial (Japan-Multinational Trial Organization PREV 07-01).	Int J Colorectal Dis.	31		1775-1784			2016.11

遠藤文司	【感染症診療-その常識は正しいか-】急性胆道感染症にSBT/CPZを投与する? ～急性胆道感染症に対する抗菌薬治療～	救急・集中治療	28	7-8	630-634			2016
福田修,伊藤千慧,中村美咲,常松裕子,志馬伸朗	薬剤感受性検査の迅速診断	臨床微生物迅速診断研究会	27	1	1-7			2017.1

教育研修部



教育研修部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会内科指導医
日本内科学会総合内科専門医
京都大学医学部臨床教授

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1. スーパーローテーション方式を採用し、各科を広く経験しています。
2. 臨床研修医は、ERの担当を通じ幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を習得すると同時に、地域医療に貢献しています。
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です。

※ 伏見医師会臨床研修医顔合わせ、伏見地区総合診療臨床カンファレンス、地域医療研修など、伏見医師会の先生方には多大なご支援をいただき深く感謝しております。

□ 診療（業務）内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部、京都府立医科大学、滋賀医科大学などの臨床研修プログラムに所属する臨床研修医で、協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

伏見総合診療臨床カンファレンス（伏見医師会館にて）
京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会副委員長
京都府地域医療支援センター運営会議委員
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員
伏見医師会理事

地域医療部



地域医療部長
秋山　祐一



地域医療部長
猪飼　伊和夫
平成29年4月1日現在



地域医療連携室長
瀬田　公一

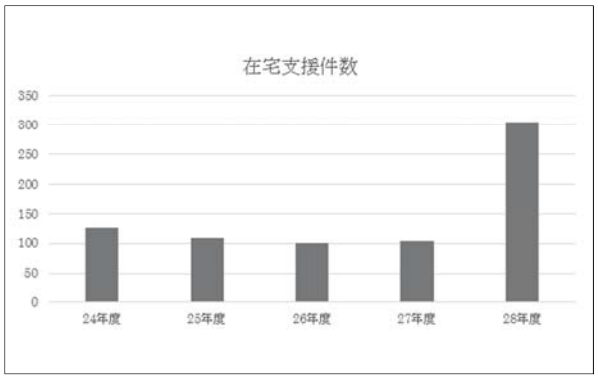
□ 急性期病院の超高齢者の医療に対する意義

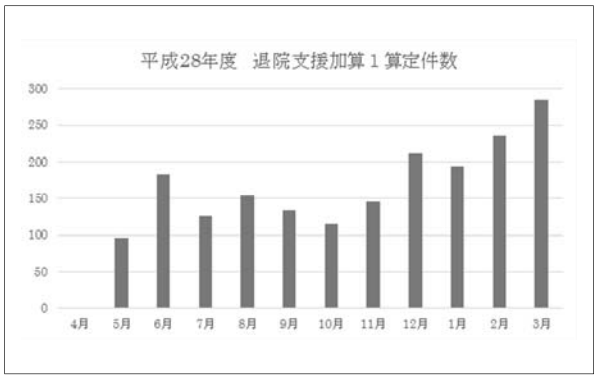
北欧諸国や英国などでは超高齢者の介護施設における医療の提供を本人・家族の意思を確認して明確に中止する運動が盛んになってきた。誤嚥性肺炎に対する経静脈的抗生剤投与の手控えが代表的である。しかし臨床的な現場ではあらゆる事態が想定される。インフルエンザ様疾患にかかった発熱・咳嗽のある老人を超高齢であるからだけの理由で検査もおこなわず抗ウィルス剤をひかえることが可能であるとは思えない。腹痛がある超高齢者で大腸憩室炎が臨床的に疑われる患者に抗生剤投与なしに観察可能であろうとは思えない。痛みからはじまった帯状疱疹を無治療で観察可能であろうとは思えない。比較的わかりやすい上記のような病態においては苦痛をとるという通常の医療の明確な対象であると思われる。経口摂取不良となれば地域ケア病棟や通常の急性期病棟が必要になる。急性期病棟の削減が明確な政策目標になっているが、超高齢者にとっても苦痛がとれる病態を的確に診断する総合的診断・入院施設の必要性は減っていない。また、がんの終末期病棟と同様な超高齢者の非がん患者の終末期病棟や余裕のある穏やかな急性期病棟（地域ケア病棟）の必要性も高まっているように思います。

地域医療部長　秋山　祐一

□ 地域医療連携室

平成28年度は、入院された患者さんが安心して地域に戻れるように退院支援及び地域連携業務に専従する看護師・医療社会事業専門員を2病棟に1人配置しました。退院が困難な要因を有する患者さんを入院後速やかに抽出して、その患者さん及びご家族と病状や退院後の生活も含めた話合いを行うとともに、関係する様々な職種と連携して退院支援の計画を立てて、患者さんに安心して家に帰っていただくことを目指しています。その成果は早速現れており、グラフのように在宅支援件数はこれまでの3倍程度に増加しました。これからも患者さんやご家族が安心して在宅で過ごしていただけるよう、地域と密着して頑張っていきます。



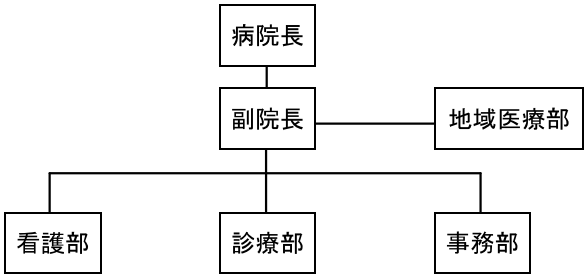


□ スタッフ

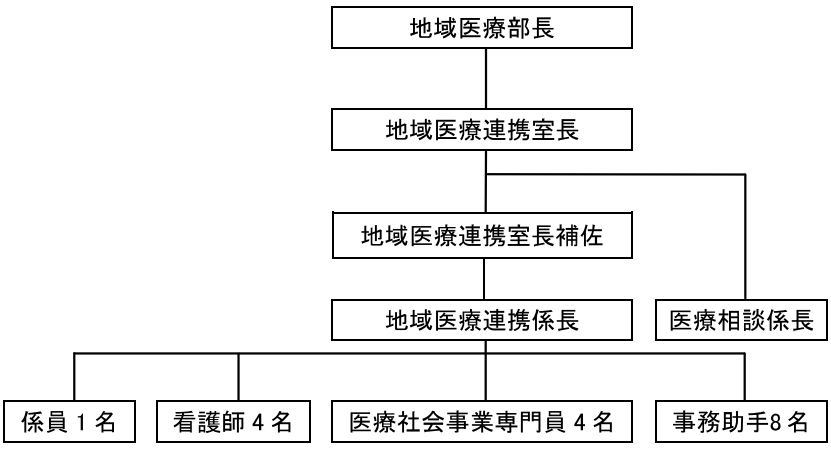
地域医療連携室長補佐・経営企画室長	水野　実
地域医療連携係長・病床管理師長	小林　美保
看護師	鈴木　里香
看護師	松尾　さやか
看護師	松岡　和子
看護師	河本　友貴美
医療社会事業専門員	弘中　孝佳
医療社会事業専門員	石田　沙友梨
医療社会事業専門員	吉岡　孝師
医療社会事業専門員	仲江　陽大
地域医療連携係	山下　千覚
事務	丸本　志帆
事務	沖中　直子
事務	富永　恵
事務	西田　美紀
事務	久武　ゆり
予約担当	諸木　真知
予約担当	前田　恭代
予約担当	長谷川　伶奈

1．沿革と体制

2002年　地域医療連携室設置
2007年　地域がん診療拠点病院の指定
2008年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

●診察・検査事前予約
●救急紹介受診の受付と手配
●開放型病床のデータ管理
●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

●退院支援（転院・在宅）
●後方支援機関との連携の強化
●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

●療養上の相談や受診についての相談
●経済的問題の解決
●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

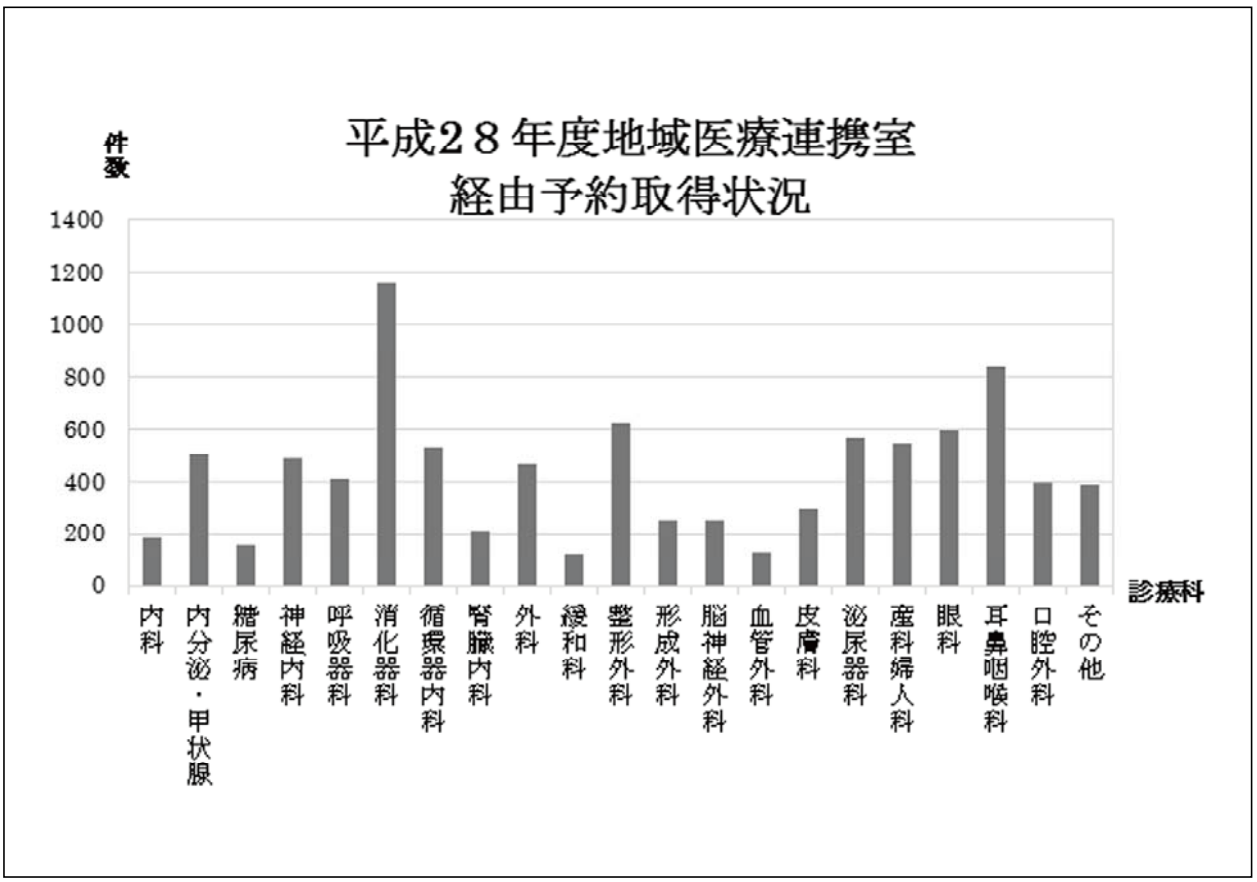
〈広報〉

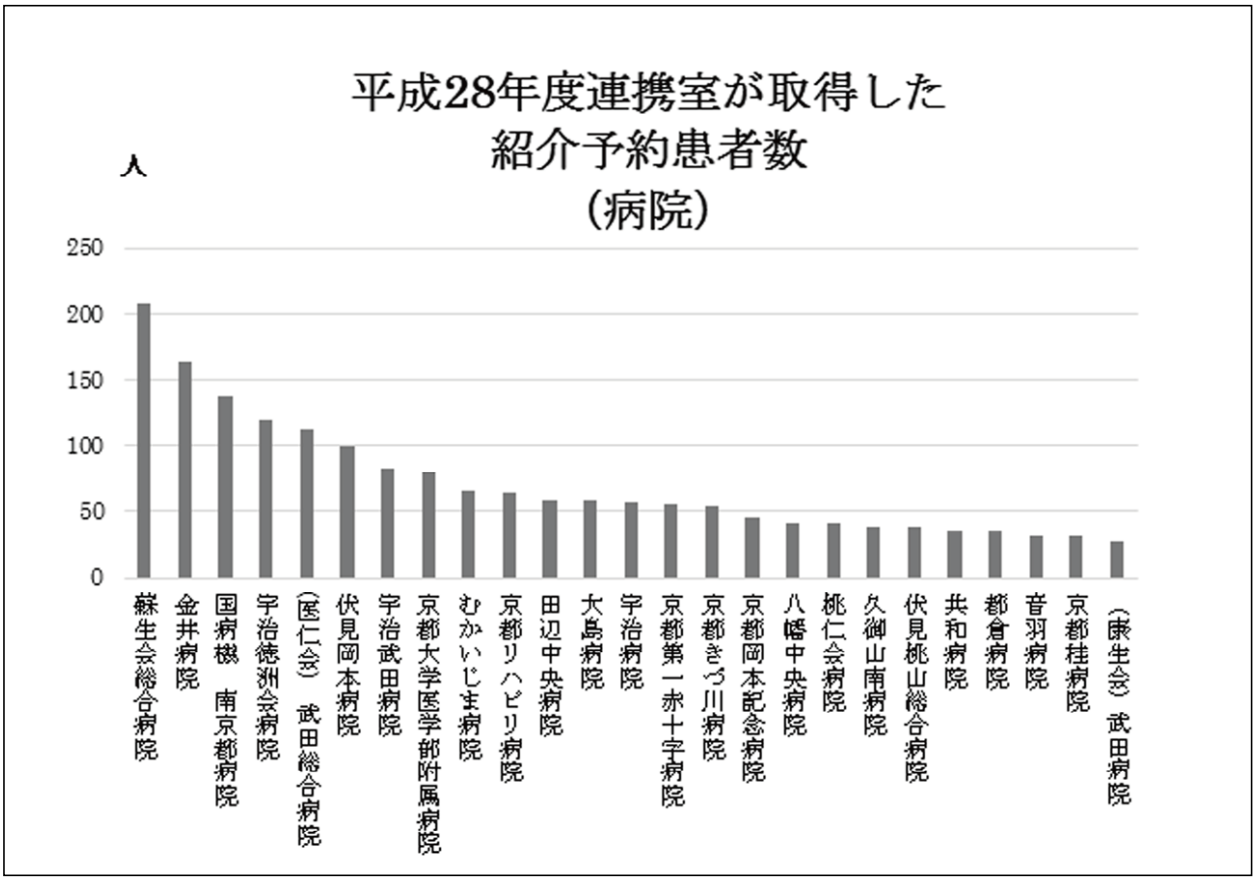
●外来担当表等の発送
●広報誌『うづら便り』の発送
●医療連携フォーラムの開催
●各医療機関への訪問

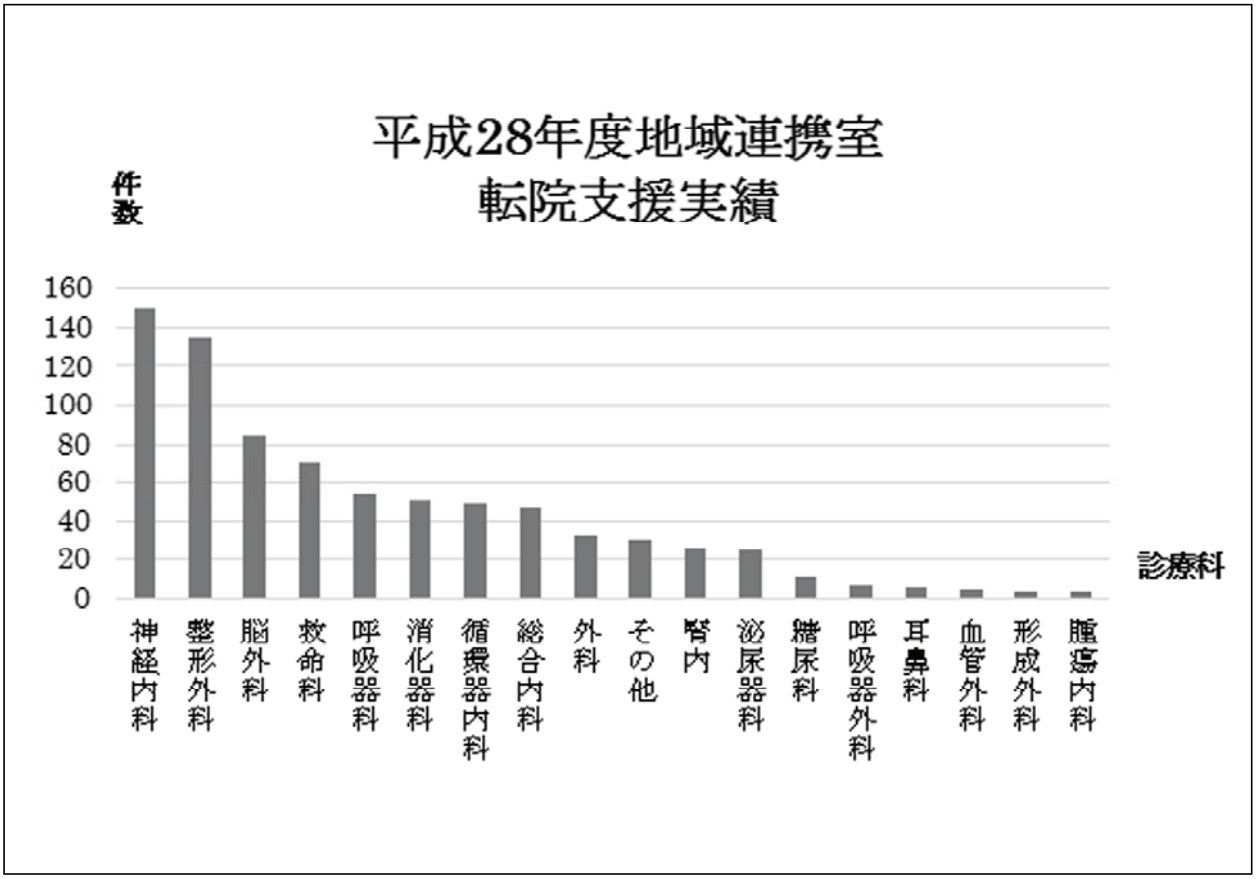
3. 業務実績(2016年実績)

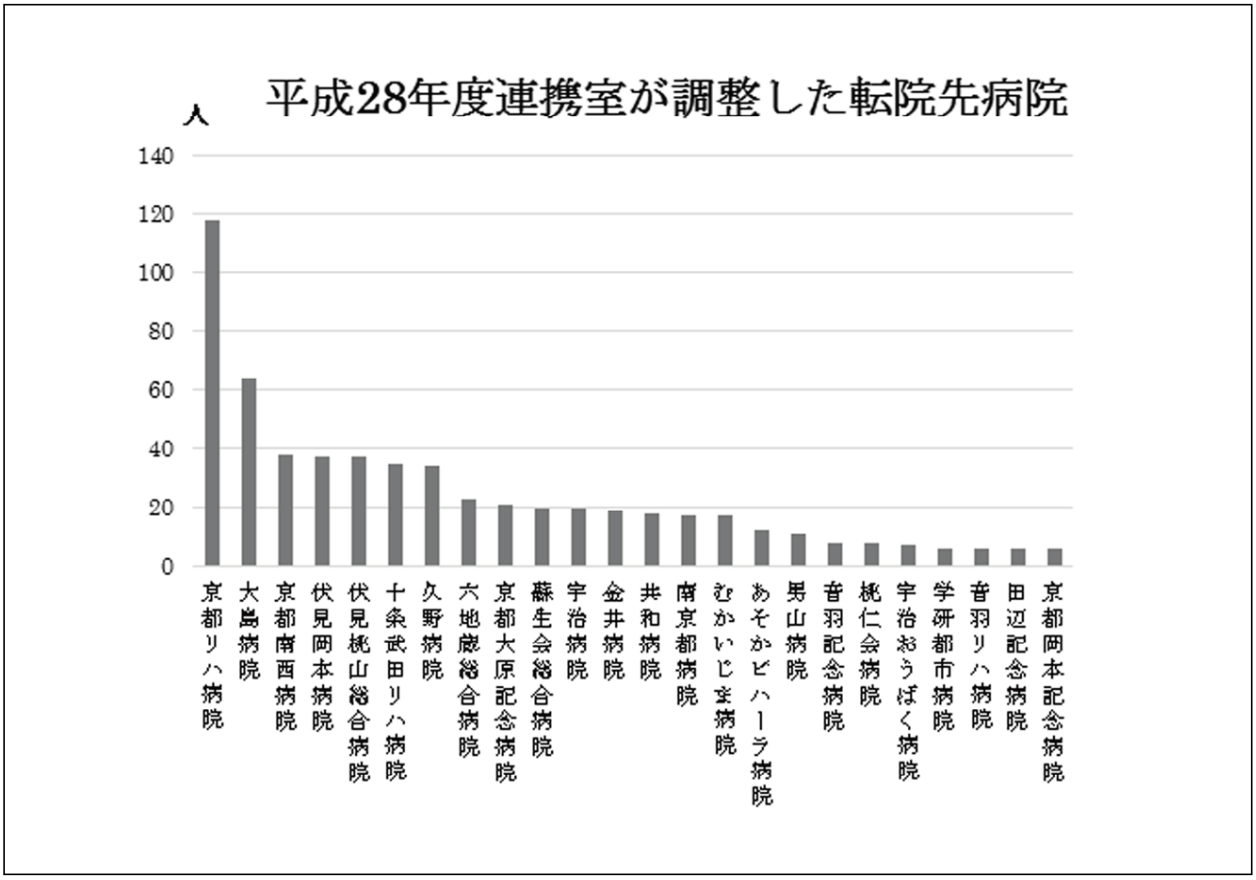
地域医療連携室経由予約件数　診療予約9,126件　検査予約1,242件
1日平均予約件数42.7件
相談件数21,936件　転院支援実績787件
転院支援実績在院日数36.4日　地域連携診療計画管理料適用患者数176件
救急受診受付754件　救急受診受入後入院件数355件
セカンドオピニオン相談件数203件　セカンドオピニオン実績件数21件
紹介率71.2%　逆紹介率88.3%　開放型病床登録医数147件
地域医療連携委員会　1回/月
地域支援病院運営委員会　四半期1回

院内発表
平成28年2月20日（土）成果発表会
「在院日数の更なる短縮に向けて」　口述
「円滑な地域医療連携の推進に向けた取組み」　ポスター
平成29年2月18日（土）成果発表会
「周産期領域に関する地域との連携について」　口述
「地域連携強化のための取組み」　ポスター


平成２８年度地域医療連携室
経由予約取得状況
件数
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
内科
内分泌・甲状腺
糖尿病
神経内科
呼吸器科
消化器科
循環器内科
腎臓内科
外科
緩和科
整形外科
形成外科
脳神経外科
血管外科
皮膚科
泌尿器科
産科婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
口腔外科
その他
診療科


平成28年度連携室が取得した
紹介予約患者数
（病院）
人
250
200
150
100
50
0
蘇生会総合病院
金井病院
国病機　南京都病院
宇治徳洲会病院
（医仁会）武田総合病院
伏見岡本病院
宇治武田病院
京都大学医学部附属病院
むかいじま病院
京都リハビリ病院
田辺中央病院
大島病院
宇治病院
京都第一赤十字病院
京都きづ川病院
京都岡本記念病院
八幡中央病院
桃仁会病院
久御山南病院
伏見桃山総合病院
共和病院
都倉病院
音羽病院
京都桂病院
（康生会）武田病院


平成28年度地域連携室
転院支援実績
件数
160
140
120
100
80
60
40
20
0
診療科
神経内科
整形外科
脳外科
救命科
呼吸器科
消化器科
循環器内科
総合内科
外科
その他
腎内
泌尿器科
糖尿科
呼吸器外科
耳鼻科
血管外科
形成外科
腫瘍内科


平成28年度連携室が調整した転院先病院
人
140
120
100
80
60
40
20
0
京都リハ病院
大島病院
京都南西病院
伏見岡本病院
伏見桃山総合病院
十条武田リハ病院
久野病院
六地蔵総合病院
京都大原記念病院
藤生会総合病院
宇治病院
金井病院
共和病院
南京都病院
むかいじま病院
あそかビハーラ病院
男山病院
音羽記念病院
桃仁会病院
宇治おうばく病院
学研都市病院
音羽リハ病院
田辺記念病院
京都岡本記念病院

薬剤部



薬剤部長
小林　勝昭

専門医資格等　日本医療薬学会指導薬剤師
日本医療薬学会認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
副薬剤部長	河 合　　実	日本医療薬学会認定薬剤師、日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
副薬剤部長	桶 本　　幸	日本医療薬学会認定薬剤師、NST専門療養士
治験主任	山本　靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
調剤主任	畝　　佳子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
薬務主任	山本　修平	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師
試験・検査主任	小田　亮介	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	竹松　茂樹	日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師、NST専門療養士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
製剤主任	畑　　裕基	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
調剤主任	水津　智樹	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
薬剤師	中嶋　尚子	小児薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬剤師	喜田　孝史	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	沖　　遼子	
薬剤師	福田　良子	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	西村　容徳	
薬剤師	田渕　寿美	
薬剤師	宮地由香里	
薬剤師	熊谷　康平	
薬剤師	野田　拓誠	
薬剤師	藤井　大和	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師

薬　剤　師	植田　裕美	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士
薬　剤　師	小玉美紀子	
薬　剤　師	井上　麻美	
薬　剤　師	岸本　周子	
薬　剤　師	杉本　有香	
薬　剤　師	前川由季奈	
薬　剤　師	市原　英則	
薬　剤　師	松本真理子	
薬　剤　師	上田　浩人	日本アンチ・ドーピング機構　スポーツファーマシスト、日本糖尿病療養指導士認定機構　日本糖尿病療養指導士
薬　剤　師	竹之下祥愛	
薬　剤　師	水本　知宏	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師
薬　剤　師	吉水　浩史	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬　剤　師	馬場　雅子	
薬　剤　師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を除く全患者を対象に実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、服薬指導を実施している。また、薬剤師外来（化学療法）を設置し、がん患者管理指導料算定業務をおこなっている。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生や年間27名の長期実務実習生を受け入れなど、質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学と、また平成28年度に摂南大学と包括協定を締結し、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるＣＲＣ業務等を実施している。

□ 診療（業務）内容

「薬学的介入によるアウトカムの検証」

〈病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務〉

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

〈医薬品の安全性の確保〉

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

〈注射薬の無菌調製業務〉

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調製を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

〈医薬品管理の適正化〉

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

〈教育研修・研究〉

積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。

薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を行い、学会などに積極的に参加する。

〈調剤過誤防止〉

ヒヤリ・ハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに鑑査の徹底により調剤過誤を減少させる。

〈チーム医療、クリニカルパスへの参画〉

薬剤師の専門性を活かした業務を押し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤部として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。

〈地域医療連携の強化〉

地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。

また平成27年度は上記目標に加え、病院運営方針に則り、下記の目標についても現在実施中である。

国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。

また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	畑裕基、畝佳子、桶本幸、河合実、小林勝昭　非小細胞肺がん患者(NSCLC)47例へのNivolumab投与の有効性と安全性の調査　第26回日本医療薬学会年会　2016.9.18　京都
国内学会	竹松茂樹、中嶋尚子、小田亮介、桶本幸、河合実、小林勝昭　NHO京都医療センター薬剤部での医薬品リスク管理計画(RMP：Risk　Management　Plan)の活用について　第26回日本医療薬学会年会　2016.9.18　京都
国内学会	上田浩人,熊谷康平,田淵寿美,小玉美希子,宮地由香里,小田亮介,畑裕基,山本修平,河合実,小林勝昭　当院手術室における使用済み注射薬自動認識システム導入による薬剤師業務効率化　第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄
TV・ラジオ出演	小林勝昭　知っておきたい医療用麻薬の正しい知識　FM845「からだ元気」　2016.11.29　京都
国内学会	福田良子、河合実　ICTのカルテラウンドによる抗菌薬適正使用への取り組み-対象抗菌薬をSBT/ABPCまで拡大して-　第32回日本環境感染学会総会・学術集会　2017.2.25　神戸
国内学会	吉水浩史、水本知宏、中嶋尚子、小田亮介、水津智樹、桶本幸、河合実、小林勝昭　病棟薬剤業務実施加算2の 開始前後の比較検討　第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会　2017.2.25　大阪
国内学会	熊谷康平、宮地由香里、吉水浩史、水津智樹、小田亮介、桶本幸、河合実、小林勝昭　整形外科病棟への薬剤師の介入　第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会　2017.2.25　大阪
国内学会	畑裕基、畝佳子、水津智樹、小田亮介、馬場雅子、桶本幸、河合実、小林勝昭　薬剤師を主体とした電子カルテベンダー変更・レジメン移行時の未然リスク対策　日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017　2017.3.19　新潟

臨床検査科



専門医資格等
日本整形外科学会

臨床検査科長
藤森　洋一

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
臨床検査技師長	益田　喜信	認定臨床化学者
副臨床検査技師長	河合　　健	認定輸血検査技師
副臨床検査技師長	住田　善之	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	楠木　秀和	日本細胞検査士、国際細胞検査士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士、国際細胞検査士
主任臨床検査技師	溝上　泰司	
主任臨床検査技師	浅田　高至	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	林　　文子	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	福田　　修	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	宮本　祐吾	2級微生物臨床検査士
主任臨床検査技師	安達名緒子	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	島田　良員	
臨床検査技師	黒川美和子	
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士、国際細胞検査士、二級甲類臨床病理技術士（病理学）
臨床検査技師	西山　智美	認定緊急臨床検査士、超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	相原美奈子	認定緊急臨床検査士、認定輸血検査技師
臨床検査技師	松本　俊一	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	永阪麻衣子	2級病理臨床検査士
臨床検査技師	伊藤　千慧	
臨床検査技師	塩澤　洋子	認定緊急臨床検査士、認定血液検査技師、認定輸血検査技師
臨床検査技師	吹田　卓也	認定緊急臨床検査士、2級循環生理学臨床検査士
臨床検査技師	園田美代子	
臨床検査技師	飛驒　美希	認定遺伝カウンセラー
臨床検査技師	山本　紗綾	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	内山有里紗	認定緊急臨床検査士、2級血液臨床検査士
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士
臨床検査技師	土田麗央奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	前川美翠穂	
臨床検査技師	中村　美咲	認定緊急臨床検査士

臨床検査技師	三觜　智子	認定緊急臨床検査士、2級血液臨床検査士
臨床検査技師	里部　美咲	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	平野　花奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	丸野　大輝	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	片山　由衣	日本細胞検査士
臨床検査技師	金丸　青空	
非常勤技師	井本　元治	超音波検査士（循環器、消化器）
非常勤技師	佐伯　ミカ	
非常勤技師	三浦　辰朗	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	岡　由美	
事務助手	小野　忍	
事務助手	川口　真弓	
事務助手	北村　直子	
事務助手	村井　佳世	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、24時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ICT（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 診療（業務）内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにする検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	飛驒 美希、臼井 健、浅原 哲子、高倉 賢二 球脊髄性筋萎縮症の遺伝カウンセリング 第40回日本遺伝カウンセリング学会　2016.4.6　京都市
国際学会	Miki Hida, Takeshi Usui, Noriko Asahara, Kenji Takakura Genetic Counseling for Spinal and Bulbar Muscular Atrophy The 13th International Congress of Human Genetics　2016.4.6　京都市
国内学会	楠木 秀和、桑江 優子 超音波気管支鏡下針生検に出現したホジキンリンパ腫の1例 第57回日本臨床細胞学会総会　2016.5.29　横浜市

研究会	住田 善之 危険な心電図を見極める 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部心電図研修会　2016.6.25　京都市
研究会	大上 哲也 尿細胞診 第33回細胞診教育セミナー　2016.7.14　京都市
研究会	内山 有里紗、三觜 智子 Case study 19 京都府臨床検査技師会血液講演会　2016.7.16　京都市
研究会	住田 善之 先天性心疾患の基本をおさえる 平成28年度第4回OSAKA心血管エコー研究会　2016.9.9　大阪市
研究会	住田 善之 エコーで心不全を診る 日本超音波検査学会JSS四国第26回地方会研修会　2016.10.9　愛媛県東温市
研究会	伊藤 千慧、溝上 泰司、福田 修、河合 健、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 臨床とのコミュニケーションで感じたこと BD 関西エキスパートセミナー　2016.10.15　大阪市
研究会	伊藤 千慧、溝上 泰司、福田 修、河合 健、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 『血液培養の迅速報告』～迅速報告がもたらしたもの～ 平成28年度 国立病院臨床検査技師協会近畿支部微生物研修会　2016.10.22　大阪市
国内学会	林 文子、松本 俊一、住田 善之、山本 紗綾、前川 美翠穂、平野 花奈、安達 名緒子、井本 元治、益田 喜信、藤森 洋一 生理機能検査室における患者意見に応えるための取り組み　その1 第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄県宜野湾市
国内学会	松本 俊一、林 文子、安達 名緒子、井本 元治、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 生理機能検査室における患者意見に応えるための取り組み　その2 第70回国立病院総合医学会　2016.11.11　沖縄県宜野湾市
国内学会	伊藤 千慧、中村 美咲、溝上 泰司、福田 修、河合 健、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 薬剤感受性検査の簡易迅速化の検討 第70回国立病院総合医学会　2016.11.12　沖縄県宜野湾市
国内学会	中村 美咲、伊藤 千慧、溝上 泰司、福田 修、河合 健、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 血液培養陽性ボトルからの肺炎球菌直接同定における成績向上に向けた取り組み 第70回国立病院総合医学会　2016.11.12　沖縄県宜野湾市
国内学会	福田 修、中村 美咲、伊藤 千慧、溝上 泰司、河合 健、住田 善之、益田 喜信、藤森 洋一 Clostridium difficile迅速検査キット培養の組み合わせの有用性に関する検討 第70回国立病院総合医学会　2016.11.12　沖縄県宜野湾市
研究会	吹田 卓也 疾患に立ち向かう臨床検査シリーズ10～甲状腺疾患～　「甲状腺領域における生理機能検査」 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2016.12.10　京都市
研究会	宮本 祐吾、飛驒 美希 疾患に立ち向かう臨床検査シリーズ10～甲状腺疾患～　「甲状腺領域における生化学・免疫検査」 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2016.12.10　京都市
研究会	住田 善之 心臓超音波検査を施行するうえで知っておくべき基礎知識 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2017.1.14　京都市
研究会	里部 美咲 明日から役に立つ臨床（緊急）検査　「緊急検査士の受験について」 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2017.2.25　大阪市
研究会	丸野 大輝 明日から役に立つ臨床（緊急）検査　「患者急変時に何をすべきか～生理機能検査　半年の経験から～」 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2017.2.25　大阪市
研究会	相原 美奈子 明日から役に立つ臨床（緊急）検査　「時間外輸血検査について」 平成28年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部学術研修会　2017.2.25　大阪市

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
福田 修,伊藤 千慧,中村 美咲,常松 裕子,志馬 伸朗	薬剤感受性検査の迅速診断	臨床微生物迅速診断研究会	27	1	1-7	2016.4
Masatoshi Koga, Kazuaki Sato, Hatsue Ishibashi-Ueda, Koji Tanaka, Reiko Suzuki, Yoshiyuki Sumita, Kazuo Minematsu, Kazunori Toyoda	A preliminary ex vivo study of 3D ultrasonography of aortic atherosclerosis using autopsied aorta	International Journal of Stroke	11	7	NP74-NP75	2016.10
住田 善之	6章　心機能評価	判読力を高める循環器超音波検査士への最短コース			101-114	2017.1
T. Maeda , K. Nakagawa, K. Murata, Y. Kanaumi, S. Seguchi, S. Kawamura, M. Kodama, T. Kawai, I. Kakutani, Y. Ohnishi, K. Kokame, H. Okazaki, S. Miyata	Identifying patients at high risk of heparin-induced thrombocytopenia-associated thrombosis with a platelet activation assay using flow cytometry	Thrombosis and Haemostasis	117	1	127-138	2017.1

病理診断科



専門医資格等
病理専門医、研修指導医
細胞診専門医
死体解剖資格

病理診断科長
寺島　剛



専門医資格等
病理専門医
細胞診専門医
死体解剖資格

病理診断科長
森吉　弘毅

平成29年4月1日現在

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床検査技師	楠木　秀和	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士
臨床検査技師	永阪麻衣子	
臨床検査技師	片 山 由 衣	日本細胞検査士

□ 科の特徴

1. 病理医2名でダブルチェックを行い、診断精度の向上を図っています。
2. 細胞検査士の資格を持つ検査技師と協力し、細胞診業務を行っています。
3. コンサルテーション等で京大病院病理診断科との協力体制を築いています。
4. 組織診、細胞診、術中迅速診断、病理解剖、CPCのいずれについても正確かつ迅速な診断を心がけています。
5. カンファレンス等を通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 診療（業務）内容

1. 組織診断：生検や手術によって採取された検体に対し、良悪性の判定、炎症の有無などを調べ、診断名を確定します。また、治療効果や腫瘍のステージ、転移の有無などの判定を行い、以後の治療方針の決定に役立てています。2016年は7640件の組織診断を行いました。
2. 細胞診：子宮頸部擦過、尿、喀痰、甲状腺やリンパ節の穿刺などによって得られた細胞を観察し、良悪性の判定を行います。2016年は7722件の細胞診を行いました。
3. 他院標本診断：セカンドオピニオンや転院によって当院を受診された患者さんが持参された標本を改めて検討し、診断の確認を行っています。2016年は組織診140件、細胞診38件の他院標本診断を行いました。
4. 術中迅速診断：手術中に提出された検体を15-20分程度で診断し、手術範囲や術式の決定に役立てています。2016年は401件の術中迅速診断を行いました。
5. 病理解剖：亡くなられた患者さんのご遺体を解剖し、病態を詳しく調べて、生前に分からなかった事も解明しています。2016年は17件の病理解剖を行いました。

6. CPC：臨床各科と合同で病理解剖症例の検討を行い、様々な視点から病態を調べて、今後の診断や治療に役立てています。また、研修医と共に発表を行い、医学教育に寄与しています。
7. カンファレンス：臨床各科と定期的にカンファレンスを実施し、臨床情報と病理所見の摺り合わせを行っています。また、手術検体の切り出しの際の外科医立ち会いや、個別症例についてのディスカッションを通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	森吉弘毅、山本鉄郎、南口早智子、伊藤美幸、川村洋介、新宅雅幸　漿液性腺癌との移行像を示す婦人科肝様癌の２例 第105回日本病理学会総会　2016.05.12　仙台

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Imakita T, Fujita K, Kanai O, Terashima T, Mio T.	Small cell lung cancer transformation during immunotherapy with nivolumab: A case report.	Respir Med Case Rep.	21		52-55	2017.3
Fujita K, Hayashi K, Motoishi M, Sawai S, Terashima T, Mio T.	Giant mature teratoma in the mediastinum presenting with rapid growth.	Oxf Med Case Reports.	2016	12	omw093	2016.12
Fujita K, Terashima T, Mio T.	Anti-PD1 Antibody Treatment and the Development of Acute Pulmonary Tuberculosis.	J Thorac Oncol.	11	12	2238-2240	2016.12
影本善子, 服部ゆかり, 宮地良樹, 寺島剛, 武内英二, 真鍋俊明	ビルダグリプチンにより掌蹠に水疱・びらんを生じた1例	皮膚科の臨床	58	8	1267-1269	2016.7
岡本 奈都子, 臼居 駿也, 渋谷 真美, 十一 英子, 奥野 芳章, 森吉 弘毅	芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の1例	皮膚の科学	15	1	1347-1813	2016.2
廣嶋 佳歩、垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木美香,田上 哲也, 成瀬 光栄, 辻村 隆司, 安里 亮, 森吉 弘毅, 島津 章	治療に難渋した甲状腺疾患 甲状腺C細胞過形成段階での甲状腺全摘術を施行したRET遺伝子変異保持者の二症例	日本内分泌学会雑誌	92	1	188	2016.4
Kanae K. Miyake, Yuji Nakamoto, Tatsuki R. Kataoka, Chiyuki Ueshima, Tatsuya Higashi, Tsuyoshi Terashima, Koya Nakatani,Tsuneo Saga, Shunsuke Minami and Kaori Togashi	Clinical, Morphologic, and Pathologic Features Associated With Increased FDG Uptake in Schwannoma	American Journal of Roentgenology	207	6	1288-1296	2016.12
Kohei Fujita, Tsuyoshi Terashima, Tadashi Mio.	Anti-PD1 Antibody Treatment and the Development of Acute Pulmonary Tuberculosis	Journal of Thoratic Oncology	11	12	2238-2240	2016.12

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
栄養管理室長	西田　博樹	
副栄養管理室長	上ノ町かおり	日本糖尿病療養指導士・病態栄養専門師・NST専門療法士・NSTｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
主任栄養士	竹内　由紀	
栄養士	繁井三智子	
栄養士	騎馬　沙苗	
栄養士	弓場　洋子	
栄養士	坂本　実優	
非常勤栄養士	岡田　怜奈	
非常勤栄養士	藤井　恵子	
非常勤事務助手	山城智佐子	
調理師長	福井　　勝	
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤邊　元弘	
調理師	荒川　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　　亘	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

1．管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2．専門外来栄養指導の実施

3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食（PS食）の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療（業務）内容

1. 食事の提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供。また、今年度については、衛生管理マニュアルの改訂を実施した。患者サービス、喜ばれる食事の環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別室病棟を対象に特別献立による食 事の提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食（PS食を提供している。産科病棟に於いて母乳分泌促進のため夜食の提供を実施。今年度からシステムの更新に伴い食札内に献立名、栄養量を明記した。嚥下食の一部変更し移行食を追加した。

2. 栄養食事指導

外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、1型糖尿病ポンプ外来や２型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。

3. チーム医療

栄養サポートチーム（管理栄養士専従）や、摂食嚥下対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。

4. 教育研修

今年度は５大学より、２４名の実習生を受入れた。

5. レシピの提供

院内レストランに低カロリー、減塩のランチメニューのレシピを提供している。
構築したレシピをもとにレシピ本の２版を出版した。

□ 地域医療連携・広報活動

第30回DM京都「食生活タイプに合わせた食事療法のポイント」　2016年7月30日
第8回腎臓病教室「自宅で簡単にできる腎臓食のポイント」2016年9月3日
伏見栄養療法・在宅医療研究会「高齢社会における栄養管理の留意点～当院救急患者におけるリフィーディング症候群からの学び～」　2016年8月27日
合同経営企画会議（QC活動報告）「チーム医療で取り組む減量指導～脱メタボのためのレシピ本作成～」2016年7月15日
第34回京都・滋賀つぼみの会サマーキャンプ　2016年8月7日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
TV・ラジオ出演	上ノ町かおり　京都医療センター・メタボ外来の弁当本と作り置き　FM845　「カラダ元気」　2016.5.31：京都

医療技術部　臨床工学科



医療技術部長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	柳澤　雅美	３学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水真樹子	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	川西　恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	湊　　拓巳	体外循環技術認定士、透析技術認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	体外循環技術認定士・３学会合同呼吸療法認定士・医療情報技師
臨床工学技士	中村　健志	
臨床工学技士	井原　由奈	３学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	町屋敷　薫	
臨床工学技士	丸宮　千冬	
臨床工学技士	瀬津健太郎	
臨床工学技士	植田　哲朗	

□ 診療科の特徴

患者さんへ安全かつ安心して、高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容
臨床工学の業務は、大きく【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。
『臨床支援業務』：呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作
『医療機器管理業務』：院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理
日々高度化する医療において、不可欠な人工呼吸器（呼吸療法）・人工透析（血液浄化療法）・人工心肺（体外循環）など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器の管理と操作のプロフェッショナルとして活動しています。また、患者さんの状態に合わせて安全に最適な条件で治療の手助けを行い、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として、必要な専門知識と技術を『工学分野』と『医学分野』を交え日々努力しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	大谷　直哉、瀬津健太郎、丸宮　千冬、町屋敷　薫、井原　由奈、中村　健志、川西　恭輔、清水　真樹子、柳澤　雅美、井上　裕之　ECPRにおける当院のCEの対応とDoor to PCPS時間短縮への取り組み　日本臨床工学技士会　2016.5.14～15：京都
国内学会	湊　拓巳、峰松　佑輔、宮川　幸恵、藤井　順也、池宮　裕太、柴田　純一、榊　雅之　血液浄化装置の遠隔システムの開発と構築　日本臨床工学技士会　2016.5.14～15：京都
国内学会	井原　由奈、瀬津健太郎、丸宮　千冬、町屋敷　薫、中村　健志、大谷　直哉、川西　恭輔、清水　真樹子、柳澤　雅美、井上　裕之　当院で施行した血漿吸着の有効性と安全性について　日本臨床工学技士会　2016.5.14～15：京都
研究会	井原　由奈、瀬津健太郎、丸宮　千冬、町屋敷　薫、中村　健志、大谷　直哉、川西　恭輔、清水　真樹子、柳澤　雅美、井上　裕之　当院で施行した血漿吸着の有効性と安全性について　第35回日本アフェレーシス学会関西地方会　2017.2.5：大阪
研究会	町屋敷　薫、瀬津健太郎、丸宮　千冬、井原　由奈、中村　健志、大谷　直哉、湊　拓巳、川西　恭輔、清水　真樹子、柳澤　雅美　新型シリンジポンプの選定から運用までの臨床工学技士の取り組み　第23回近畿臨床工学技士会　2016.11.12～2016.11.13：神戸
研究会	丸宮　千冬、瀬津健太郎、町屋敷　薫、井原　由奈、中村　健志、大谷　直哉、湊　拓巳、川西　恭輔、清水　真樹子、柳澤　雅美　持ち込みNPPV管理を開始して　第23回近畿臨床工学技士会　2016.11.12～2016.11.13：神戸
国内学会	柳澤　雅美、赤井　健太郎、小川　尚、中村　健志、安　珍守、井上　裕之、赤尾　昌治　変行伝導を伴う心房細動に対して波形認識機能の再調節にて識別が可能であった1例　第63回日本不整脈心電図学会学術大会　2016.7.15～7.17：札幌
国内学会	中村　健志、赤井　健太郎、柳澤　雅美、小川　尚、安　珍守、井上　裕之、赤尾　昌治　MRI対応デバイス業務における多職種連携について　第63回日本不整脈心電図学会学術大会　2016.7.15～7.17：札幌
研究会	湊　拓巳、峰松　佑輔、宮川　幸恵、藤井　順也、池宮　裕太、柴田　純一　人工呼吸器の遠隔システムの開発　第5回日本光電循環器病研究助成平成28年度発表会　2016.12.7：吹田

看護部



看護部長
荒木　輝美

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす

1. 機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める
2. 看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う
3. 良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う
4. 看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する
5. チーム医療推進のための調整を図る
6. 地域住民への健康教育活動に参画する

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の目標

【平成２８年度　看護部目標】

スローガン　「看護力と組織力の強靭化」

1. 急性期医療を担う看護力の向上
2. 積極的な地域との連携と、安定した経営
3. 専門職業人としてのプライドの醸成と倫理的観点にぶれない看護サービス

□ 看護部の組織

Ⅰ. 看護部組織図

（別紙１：看護部組織図）

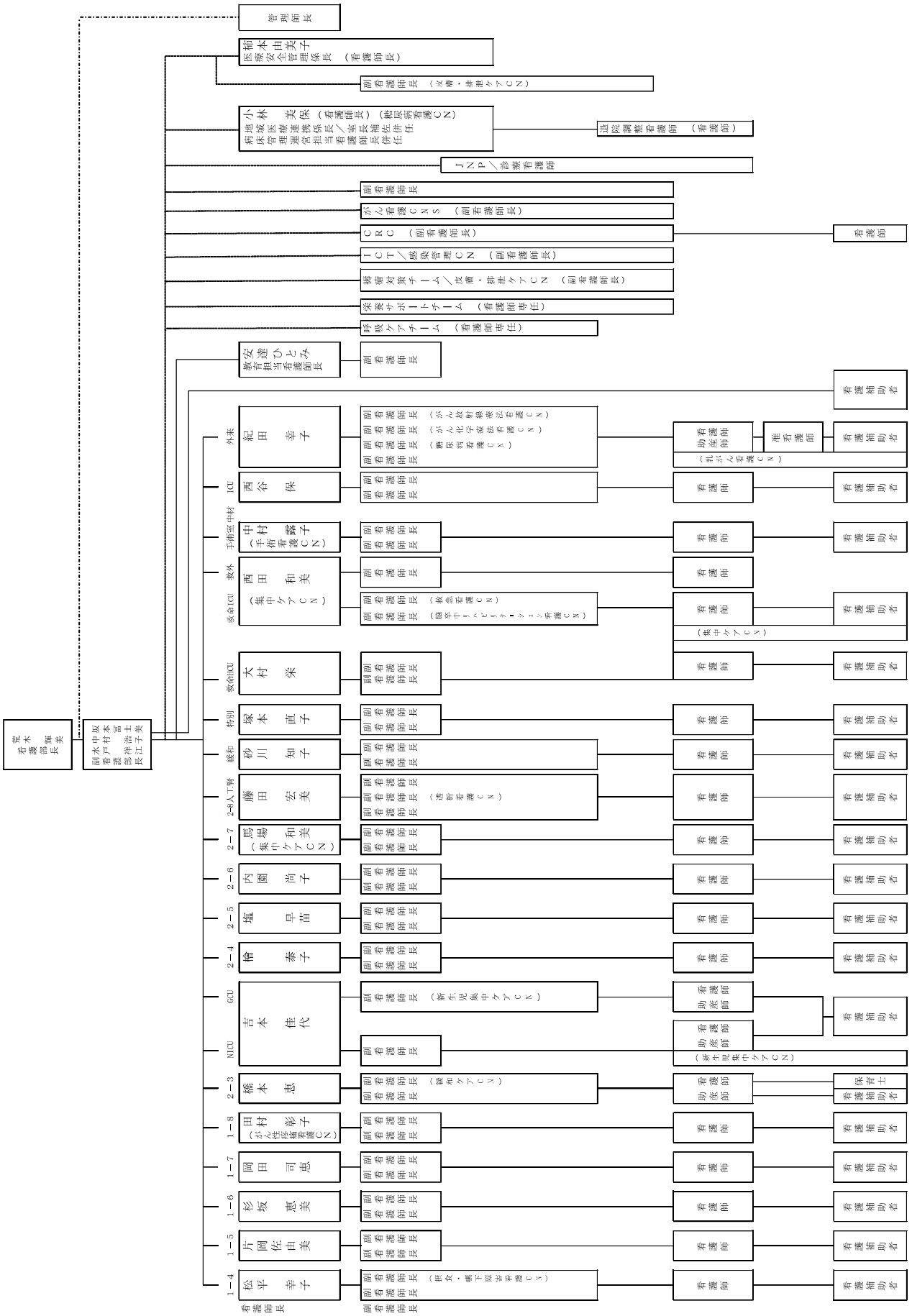
Ⅱ. 看護部会議・委員会

（別紙２：看護部会議・委員会機能図）

□ 看護部の活動

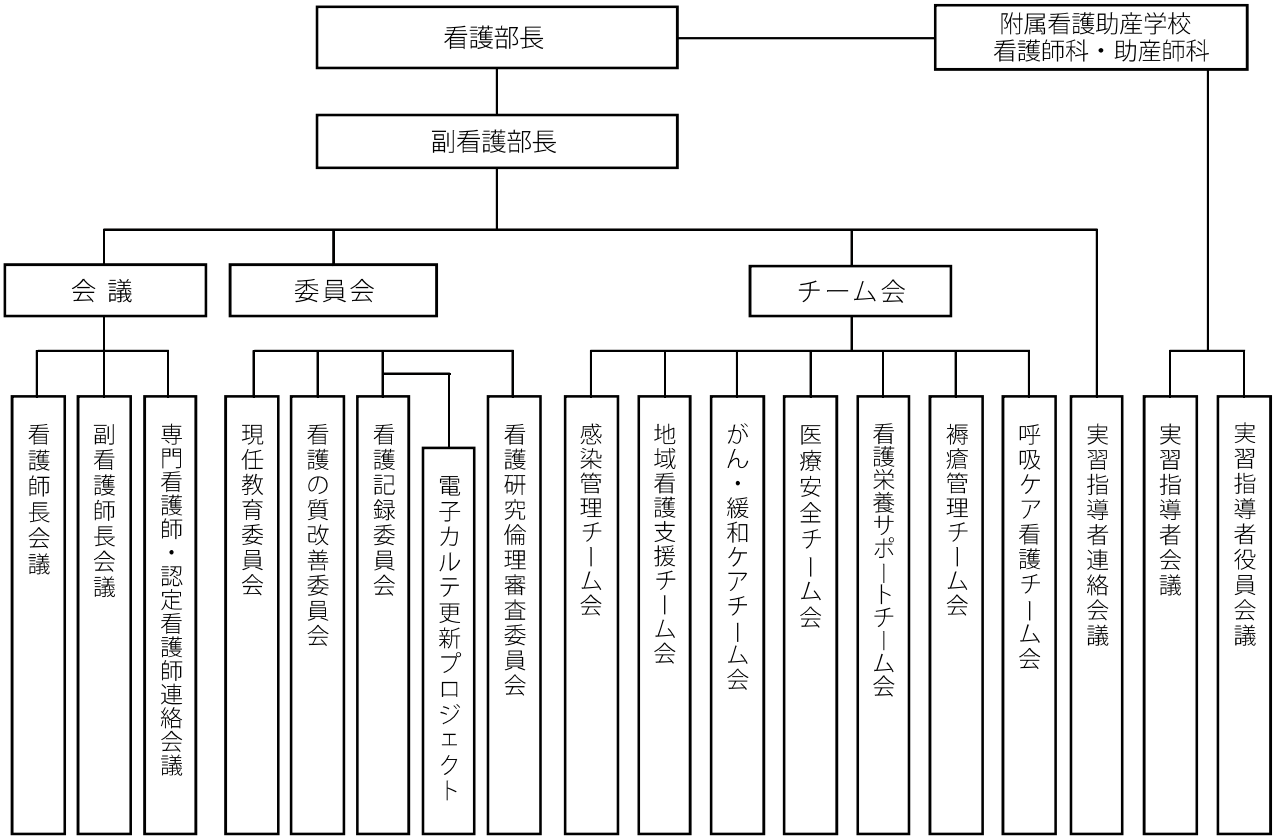
（別紙３：看護部の活動）

別紙１：看護部組織図



荒木 輝 看護部長
坂本 富士美
中村 浩子
副看護部長
管理師長
柿本 由美子
医療安全管理係長 （看護師長）
副看護師長 （皮膚・排泄ケアCN）
小林 美保（看護師長）（糖尿病看護CN）
地域医療連携係長／室長補佐併任
病床管理運営担当看護師長併任
退院調整看護師 （看護師）
JNP／診療看護師
副看護師長
がん看護CNS （副看護師長）
CRC （副看護師長）
看護師
ICT／感染管理CN （副看護師長）
褥瘡対策チーム／皮膚・排泄ケアCN （副看護師長）
栄養サポートチーム （看護師専任）
呼吸ケアチーム （看護師専任）
安達ひとみ
教育担当看護師長
副看護師長
看護補助者
外来
紀田 幸子
副看護師長 （がん放射線療法看護CN）
副看護師長 （がん化学療法看護CN）
副看護師長 （糖尿病看護CN）
副看護師長
看護師
助産師
准看護師
看護補助者
（乳がん看護CN）
ICU
西谷 保
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
手術室中材
中村 露子
（手術看護CN）
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
救外
西田 和美
（集中ケアCN）
副看護師長
看護師
救命ICU
副看護師長 （救急看護CN）
副看護師長 （脳卒中リハビリテーション看護CN）
看護師
看護師
看護補助者
（集中ケアCN）
救命HCU
大村 栄
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
特別
塚本 直子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
緩和
砂川 知子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2-8人工腎
藤田 宏美
副看護師長
副看護師長 （透析看護CN）
副看護師長
看護師
看護補助者
2－7
馬場 和美
（集中ケアCN）
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2－6
内園 尚子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2－5
塩 早苗
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2－4
檜 泰子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
GCU
吉本 佳代
副看護師長 （新生児集中ケアCN）
看護師
助産師
看護補助者
NICU
副看護師長
看護師
助産師
（新生児集中ケアCN）
2－3
橋本 恵
副看護師長 （緩和ケアCN）
副看護師長
看護師
助産師
保育士
看護補助者
1－8
田村 彰子
（がん性疼痛看護CN）
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1－7
岡田 司恵
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1－6
杉坂 恵美
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1－5
片岡佐由美
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1－4
松平 幸子
副看護師長 （摂食・嚥下障害看護CN）
副看護師長
看護師
看護補助者
看護師長
副看護師長

別紙２：看護部会議・委員会機能図



看護部が関わる主な病院諸会議

○管理診療会議
○経営企画・業績評価委員会
○サービス向上委員会
○薬事委員会
○診療報酬管理委員会
○病床管理委員会・小委員会
○外来管理委員会
○手術室運営委員会
○集中治療室運営委員会
○救命救急委員会
○緩和ケア運営委員会
○地域医療連携委員会
○褥瘡対策委員会
○栄養管理委員会・NST委員会
○透析委員会・小委員会
○臨床検査委員会
○輸血療法委員会・小委員会
○化学療法委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策委員会
○リスクマネージャー会
○院内感染対策委員会
○災害対策委員会
○医療機器安全管理委員会
○医療情報委員会・小委員会
○クリティカルパス委員会
○広報委員会
○安全衛生委員会
○過半数代表者会議・選出選挙委員会

別紙３：看護部の活動

平成28年度病院目標　：　地域医療構想などへの対応に向けて、今後の需要と供給バランス
などを踏まえた将来への展望を開く医療基盤の充実と発展

平成28年度　看護部目標　　大目標　「看護力と組織力の強靭化」

目標	課題	内容(ポイント)	担当（委員会・チーム会等）
急性期医療を担う看護力の向上	・質の高い急性期看護供に向けた教育システムの構築 ・ラダーの実践・評価 ・急性期の患者への ・アセスメント能力の向上 ・看護計画の充実 ・看護実践能力の強化 ・電子カルテの更新において、看護記録を効率的に構築 ・リスクアセスメント能力の向上 ・専門性の向上	・急性期病院で勤務する看護師に求められる能力強化	専門看護師・認定看護師連絡会議
		急性期看護に求められるアセスメント能力（呼吸・循環・代謝機能等）強化	呼吸ケア看護チーム会
		急性期看護に求められる看護技術能力の強化	褥瘡管理チーム会
		増えつつある対象群：高齢者・認知症看護能力の強化	栄養サポート看護チーム会
			認知症・せん妄ケア検討ワーキング
		・医療安全、リスクアセスメント能力の向上（分析方法を理解したインシデントの予防）	医療安全チーム会 感染管理チーム会
		・標準看護計画の充実と、看護計画立案能力の向上	看護の質改善委員会 看護記録委員会
		・記録の記載基準の作成	
		・看護記録についての教育システムの構築	
積極的な地域との連携と、安定した経営	・積極的な退院調整のシステム作り ・各看護単位の専門性の向上と、どの看護単位でも安定した重症患者が看れる体制づくり ・患者数確保と在院日数の短縮 ・京都府南部の基幹病院として、前方連携・後方連携の強化 ・7：1入院基本料の維持 ・特定集中管理加算等の維持	・患者数の確保　　目標患者数530名/日	各病棟
		・平均在院日数の短縮　目標平均在院日数12.0日台（13.0日未満）	
		・病床管理・病床調整の充実（専門性を強化しつつ空床ベッドの有効利用・効率的入院処理の業務調整）	
		・長期入院患者の減少（症例に合わせた早期の退院調整・どこに入院しても退院を見据えた調整）	地域看護支援チーム会
		・病床調整・退院調整にかかるＩＣの充実	
		・各病棟が看護必要度25％以上が維持できる病床管理（重症患者を見れる実践力の強化）	各病棟
		・前方連携の強化（顔の見える関係・地域のニーズへの対応）	
		・後方連携の強化（顔の見える関係・正確な情報の提供と継続看護の充実）	
		・救急医療の充実と推進	
		・地域がん診療拠点病院の推進	がん緩和ケアチーム会
		・京都府災害拠点病院の機能整備	
		・診療報酬算定状況を評価し、改善	経営・病院機能充実ワーキング
		・管理加算など確実な算定への実践の強化	各病棟
		・機能に応じたベンチマークを行い評価（国立病院機構評価指標）	
		（・入院支援センター設立に向けての準備状態を継続）	
	・優秀な人材（看護職員）の確保 ・優秀な人材（看護職員）の育成 やりがいの充実 （定着促進・離職防止） ・看護系大学の臨地実習を推進し、人材確保に繋げる ・職場環境・人間関係の調整	・使いやすい電子カルテ更新に向けた準備と教育と周知	電子カルテプロジェクト
		・看護管理基準改訂版の評価と改善	看護管理実践強化ワーキング
		・看護が充実し働きやすい看護体制の整備	各病棟
		（各看護単位の看護体制・組織の明確化　固定チームナーシングの評価）	
		・看護職員の定着促進と離職防止対策の継続と新たなる試行	現任教育委員会人材確保育成を含む
		・新人看護師（ＡＣＴｙ対象看護師等）のフォロー体制の強化	
		（固定チームナーシング・チューター等役割の整理と明確化）	
		・キャリア支援における各研修プログラムの一元管理・誰もが活用できるシステムづくり	
		・各部署の教育プログラムの評価と再構築	各病棟
		・労働環境の整備と労務管理の充実	
専門職業人としてのプライドの醸成と倫理的観点にぶれない看護サービス	・さらなるチーム医療の推進 ・他職種カンファレンスの推進 ・倫理的判断ができる組織への発展 ・看護研究倫理審査の導入 倫理的評価を基盤に看護研究の推進と発展	・看護の質の向上、選ばれる病院につながる他職種カンファレンスの運営・調整	経営・病院機能充実ワーキング
		・行動制限、看護計画の開示等で同意を得ることの徹底	各病棟
		・職業倫理の醸成　看護実践を通じての倫理観の育成	
		・看護研究倫理審査委員会を開催し、看護研究の推進	
		・看護研究の指導者の招聘と育成	看護研究倫理審査委員会
		・患者・職員間の接遇と、承認し合える関係づくり（挨拶・身だしなみ・言葉使い等）	

□ 会議･委員会活動

Ⅰ. 会議･委員会

1. 副看護師長会議

目　的	看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割果たす
目　標	1）看護師の看護実践基準の活用の促進、副看護師長会での遅延のない看護手順の作成ができる 2）看護師の倫理観を育成し、倫理的視点をもった看護実践のための支援ができる 3）患者参加型の看護の提供とその記録の実践モデルを示し看護実践を支援できる 4）リンクナースの役割を担う看護師の実践遂行を支援できる（リンクナース支援）
活動内容	1）看護師の看護実践基準の活用の促進 ①看護実践基準の活用状況についてアンケート調査を実施。活用場面の具体例を作成し各部署に周知 ②看護手順の作成と改訂 2）倫理的視点をもった看護実践の支援 ①退院支援カンファレンスが倫理的視点で実施できるよう事例を用いて「倫理カンファレンスのすすめ」を作成し活用を推進 ②JONSEN の 4 分割法倫理カンファレンス用紙の作成とカンファレンスの実施、監査による評価 3）患者参加型の看護の提供と記録の推進 ①診療マニュアルの「行動制限」の改訂と周知、行動制限の記録についてテンプレートを作成し、記録内容について 1 day調査を実施 ②看護計画開示基準を作成し、計画開示の同意手順・モデルカルテの作成。看護記録の監査を 2 回実施 4）リンクナースの支援について調査用紙を作成し、自己評価・他者評価を 2 回実施。1 回目のアンケート調査後、委員会・チーム会ごとに支援してほしい内容を作成し情報共有
成果と課題	1）看護実践基準の活用率は 7 月 55%、12 月 60%と微増した。看護手順は 29 項目作成、11 項目改訂を行った。作成・改訂した看護手順の内容と活用について周知徹底を図る必要がある 2）13 病棟が患者事例、6 病棟が模擬患者事例で倫理カンファレンスを実施。JONSEN の 4 分割法の活用と OJT で「これは倫理的な問題」と指摘し、倫理的な視点が育成できる場を作ることが課題である 3）行動制限のマニュアルを改訂しテンプレートを作成し、記録の監査を実施した結果、アセスメント、計画立案、カンファレンスの実施、行動制限解除時のアセスメント全ての項目に於いて 2 回目の方が改善。毎日カンファレンスを実施すること、患者参画型の看護実践の強化を図る必要がある 4）看護記録開示のモデルカルテを作成した結果、情報収集やアセスメントへのつなげ方のイメージ化が図れ、2 回目の監査で改善した項目が多かった。看護記録基準の周知、モデルカルテの作成、記録委員会との連動が課題である

2. 専門･認定看護師連絡会議

目　的	看護部の理念に基づき、専門看護師・認定看護師の活動を円滑に行うことにより看護の質向上に寄与する
目　標	1）看護実践や集合教育を通して、当院の看護の質が向上する 2）組織横断的な活動を拡充し、介入件数を増やすことができる 3）院内外に向けた広報活動ができる
活動内容	1）専門・認定看護師セミナー、院内研修・学習会の企画・運営・評価 2）院内の情報や、病棟のニーズを把握して、ＯＪＴの活動を増やす 3）院内ポスター、看護部ホームページの更新及び、連絡会が企画する学習会の広報を行う

成果と課題	1）専門・認定看護師セミナーの参加者は、院内：15 名、院外：65 名の 80 名 今年度は関連分野とのコラボレーションや演習を取り入れたので、参加人数は妥当であった。前年度と開催時期も変更したがその他のアンケートについても良好な回答であった。現任教育委員会と連携を図り、時間内外合わせて 23 項目の研修を実施。テーマにより出席者が 10 人以下と少ないため、開催時間・方法の見当が必要である 2） 6月から毎月ラウンドを実施。相談件数は6月16件、7月15件、9月14件、10月1件、11月13件、12月11件、1月7件と昨年度と同様の件数であった 1月にアンケート調査でラウンドの評価を実施した結果、概ね良いという意見であったが、ラウンドの時間や方法については検討が必要である 3）院内ポスター・一覧表は知っているが 60%以上であるが、活用は 50%以下であった。12 月から専門・認定看護師への院内研修を取り入れ、2名の希望者があった。参加者から好評であったが、取り組み期間が短いため継続して評価を行う

3. 現任教育委員会

目　的	当院の使命を自覚し、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、専門的知識・技術・態度に優れた看護師を育成する
目　標	1）経年別研修計画の企画運営ができ、研修生が到達目標を達成することができるよう支援する 2）集合教育と機会教育の連携を強化し、教育体制を充実させる 3）新採用の確保と離職防止につながる支援を行い、人材確保に努める
活動内容	1）看護職員能力開発プログラム到達目標に沿った集合研修の企画・運営・評価 専門・認定看護師と連携したキャリア支援研修の企画・運営・評価 2）研修前の動機づけ、研修後の報告や伝達講習等を各部署で行い継続教育を推進できるよう支援。「現任だより」の発刊とe-ラーニング活用の促進 3）インターンシップ、病院見学者の対応、就職説明会用資料作成、看護部のパンフレットの改訂、ホームページの更新等による PR 活動 働きやすい職場環境、承認行動をとること、個人の成長に合わせて教育計画や方法を検討するよう各部署に発信 4）ACT y Ver.２導入に向けて教育プログラムの内容の理解、次年度の教育計画の策定
成果と課題	1） 2）シミュレーションや小グループの参加型研修や、年度末の取り組みの発表方法の工夫などを通して研修目標は概ね 80%達成できた。動機付けについては、100%は未達成。研修効果を上げるためにも研修前の動機付けが徹底できるような関わりが課題である ①研修目標達成度とやる気度の平均値（研修アンケート結果より）

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
目標達成度	88%	82%	82%	93%	78%
研修前動機付あり	94.9%	94.1%	89%	93%	84.5%

②キャリア支援研修参加人数は 123 名（うち 3 名は自己研鑽）で、アンケート結果も「実践につなげられる内容である」という評価であるが、看護の質向上につながったのか評価が課題である
③「教育だより」は毎月発刊できたが、e-ラーニングについては、研修前課題を提示した項目以外の視聴が低い。次年度異なる e-ラーニングを導入予定であり活用の促進と評価を行う必要がある
3）必要時期までに必要な資料の準備が完了。新人看護師の退職は 3 名（内 1 名は中途退職）で離職率 3.5%と前年度より上昇（平成 27 年度 1.3%）した
4）委員会、看護師長会、副看護師長会で学習会を開催し、ACTy Ver.２の内容が理解できるように関わった。ラダー別研修参加者名簿作成、研修計画を作成。次年度は活用しながら評価を行う

4. 看護の質改善委員会

目　的	1）看護基準・手順の見直しと周知 2）看護提供プロセスの検討と改善
目　標	1）看護手順の周知、監査を実施し、看護実践の質の向上ができる 2）退院時アンケートを実施し、評価した結果を看護の質改善に活用できる 3）身だしなみ調査を実施し、当院の身だしなみ基準に基づいて改善する
活動内容	1）看護手順の活用状況調査と活用方法について周知 2）看護手順の改訂と看護手順の記載方法の改訂 3）退院時アンケートを 2 回実施し結果をフィードバック 4）身だしなみ調査 2 回実施し結果をフィードバック
成果と課題	1）看護手順 ①看護手順の活用回数は 1 回、活用のタイミングは初めての技術、活用項目は採血・CVポート・血液培養等が多かった。久しぶりに実施する看護技術、インシデントカンファレンス等での活用が課題である ②看護手順は副看護師長会、医療安全管理室からの意見を反映し、25 項目の看護手順の改訂を行った。改訂した内容の周知と活用を徹底できるような関わりが課題である 2）退院時アンケート 5 月・11 月の 2 回実施 アンケートの回収率は昨年より向上し、今年度前期より後期が 7%増加。総合評価満足度は 80%以上であったが、「忙しそうで頼みにくい」「ナースコール対応」「同じことを何度も聞かれる」「注射や点滴のやりなおし」については、昨年と同様で改善しなかった。患者の意見をリアルタイムに共有し改善できるように取り組む必要がある 3）身だしなみ調査を 6 月・9～10 月の 2 回実施 1 回目のアンケートの結果、「派手な髪色」「愛称で呼び合う」「男性看護師のひげ」「ナースシューズの汚れ」等が低い結果となったため、各部署で個別指導を行い、全ての項目で 2 回目改善が見られたが継続していくことが課題である

5. 看護記録委員会

目　的	看護部の理念に基づき、看護職員の資質の向上・発展を図るため、看護過程の監査及び記録システムの改善を図る
目　標	1）看護記録記載要領の活用により質の向上をはかる 2）電子カルテ更新（看護記録）に向けての準備を進め、スムーズに移行できるようにする
活動内容	1）看護記録記載要領の改訂　看護記録監査の実施 2）電子カルテ移行に伴う問題点の抽出 3）看護部テンプレートの整理と統一
成果と課題	1）看護記録記載基準と記載要領の改訂、新採用者が電子カルテに沿った見てわかりやすく活用できるモデルカルテを作成。8 月に「急変・事故発生時」「IC 時」の記録監査用紙を作成し監査を実施。50%以下の項目があり、今後看護記載要領、モデルカルテの活用、記録監査を継続し、記録の質改善を図ることが課題である 2）旧電子カルテで同じようなテンプレートが多数あり、テンプレートの抽出と統合を行った。新カルテ移行後も新旧のテンプレートを混在して使用、テンプレートと経過記録の重複、テンプレート未使用による記録時間の延長や不統一な記録の改善が課題である

6. 電子カルテ更新プロジェクト

目　標	1）電子カルテ更新に向けての準備を進めることができる 2）電子カルテ更新後の問題を解決することができる
活動内容	1）電子カルテ更新準備 実装されている機能と仕様書との相違の有無について点検、IBM カルテとの相違点の抽出、各機能（看護診断・看護記録・看護実践・看護管理）についての意見を集約し電子カルテ更新の準備を実施 2）電子カルテ導入後は不具合や活用方法の疑問等に対応

成果と課題	1）事前準備期間が短く、看護部全体からの意見を聴取し反映することができなかったが、予定通り 10 月に電子カルテ移行ができた。始動後不具合や不明点等について電子カルテプロジェクトで検討し、医療情報小委員会に改修の要望を提出し改善に取り組んだ。標準看護計画の追加・修正、処置入力、看護必要度等の不具合についての改善が必要である

7. 看護研究倫理審査委員会

目　標	1）倫理的視点で看護研究を審査する 2）「看護研究倫理審査委員会規定」を作成し、看護研究倫理審査システムを整備する
活動内容	1）看護研究倫理委員会の開催と申請された看護研究の審議 2）「看護研究倫理審査委員会規定」の作成と周知
成果と課題	1）委員会開催は 8 回で審議課題数 15 題、うち承認は 8 題であった。継続審議が 3 回以上となる研究課題もあるため、計画段階での支援が課題である 2）「看護研究倫理審査委員会規定」は作成したが、規定に沿った申請方法が徹底できていない。現行の「看護研究に関する資料」ファイルの見直し、活用ができるよう周知徹底する必要がある

Ⅱ. チーム会

1. 感染管理チーム会

目　的	感染予防対策の充実に向けた活動をする
目　標	1）スタッフ全員が正しい知識を持った標準予防策ができる 2）経路別予防策に関する感染防止マニュアルの整備ができる 3）感染防止の視点で環境改善・整備ができる
活動内容	1）月別ゴージョ使用調査と改善策の実施、情報共有。ゴージョ使用状況（5 つのタイミング） 1 day 調査 2）感染防止マニュアル活用に伴う問題点の抽出と改善に向けた取り組みの実施。マニュアル周知状況についてアンケート調査を実施 3）病棟環境ラウンドの実施と改善に向けた取り組みの実施
成果と課題	1）情報共有を通してゴージョ使用が少ない病棟は具体的な取り組みを実践し改善した。ゴージョ使用回数調査で目標達成したのは全病棟で 30%、特殊病棟は 60%であった。必要なタイミングでゴージョが使用できているか調査を実施した結果、「患者周辺の物品に触れた後」が 50%実施できていなかったので改善に向けた取り組みが必要である 2）マニュアル活用について取り組んだ結果、インフルエンザ・感染性胃腸炎等の対応時に活用できるようになった。マニュアル周知状況の調査の結果、半数以上の病棟で「マニュアルを使用したことがある」と回答したスタッフの割合が増加した 3）病棟環境ラウンドを行い会議で情報共有し改善に向けて取り組んだ結果、吐物処理セット、点滴処置台整理整頓が90%実施できた。病棟環境ラウンドを継続し、改善した項目を含め、環境整備が継続できることが課題

2. 地域看護支援チーム会

目　標	1）退院支援の質を向上し、退院支援加算 1 が確実に算定できる 2）医療的処理や物品が理解でき、確実な退院支援ができる手順が確立できる 3）後方支援を強化する
活動内容	1）確実な退院支援加算 1 の算定 ①電子カルテに「退院支援計画書」を電子化し整備。電子カルテ移行後は算定要件と運用について手順を作成し周知 ②退院支援計画書・看護計画の記載状況について実態調査。退院支援事例で退院支援の実際と方法、算定条件の可否について事例検討 2）退院支援ツール 5 項目の作成 3）訪問看護師交流会前に 4 事例を用いて事例検討。11 月の訪問看護師交流会では4事例のパネルディスカッション、参加者とのグループ討議を実施

成果と課題	1）確実な退院支援加算 1 の算定 ①退院支援スクリーニング、退院支援計画書等必要書類の電子化と記載要項の活用について周知を図った結果、退院支援加算 1 （1165 件/9 月）、介護支援連携指導料 211 件/9 月（H27 年度 134 件）の算定につながった。退院支援加算・介護連携指導料・退院時共同指導料など必要な患者に必要な支援ができているかモニタリングとリンクナースによる病棟スタッフへの働きかけが課題である ②退院支援計画書・看護計画の記録の監査を実施した結果、約 30%が記録不備、算定できる内容か否かに悩んでいることがわかった。退院支援部門と事例を検証しながら、全ての病棟が同じ視点で支援を行い算定できることが課題である 2）退院支援ツール 5 項目（「在宅中心静脈栄養指導管理」「経管栄養指導管理」「在宅自己注射指導管理」「在宅自己導尿指導管理」「在宅自己腹膜灌流指導管理」「人工肛門・人工膀胱」）を作成。今後作成したツールの活用と評価、追加の退院支援ツール作成を検討する 3）退院前カンファレンス事例を各病棟から持ち寄り4事例を選択して事例検討を実施し、ケアマネージャー・訪問看護師との連携、退院前カンファレンスの設定方法と内容・参加者の選定、自己管理指導のタイミングについて学習。学習したことを各病棟にフィードバックし退院前カンファレンスの充実に取り組んだ 11月の訪問看護師交流会に訪問看護師25名（新規訪問看護ステーション6事業所）、院内看護師46名、MSW4名の75名が参加。交流会を通して退院後の患者の状況や家族の反応が把握でき学びにつながった反面、入院早期からのケアマネージャーとの連携、退院支援・退院前カンファレンス充実の必要性が明確になった。訪問看護師交流会の継続、より実践につながりやすくなるよう参加者を人選する必要がある

3. がん･緩和ケアチーム会

目　的	がん看護・緩和ケアの実践力を高め、看護の質の向上をめざす
目　標	1）「生活のしやすさ」の質問票を用いて必要な援助ができる
活動内容	1）「生活のしやすさ」質問票の使用手順の作成。質問票を対象患者に配布、介入が必要な患者へのカンファレンス実施状況、コンサルテーション実施状況について毎月調査。質問票を活用したカンファレンス、コンサルテーション事例の共有
成果と課題	1）質問票使用手順を作成し会議で周知。質問票回収率は 85%、1 病棟が100%であるが、手術療法を受ける患者を受け入れる病棟は配布数は多いが回収率が低い。短期の化学療法・対象患者が少ない病棟は配布数・回収率共に低い。入院を繰り返す患者から記載拒否の発言があった。質問票の配布時期・対象患者についての検討が課題。質問票で症状があるとチェックがついたのは 48%、そのうちカンファレンスを実施したのは45%未満であった。カンファレンスができなかった事例を検証し、各病棟での工夫点など取り入れて改善を図る

4. 医療安全チーム会

目　標	1）転倒・転落に関するアセスメント能力が向上し、転倒・転落件数が5%減少できる 2）インシデント・アクシデント事例・対策を共有することで、現場での問題点を早期に把握・解決し、類似したインシデントを起こさない
活動内容	1）転倒・転落件数の低減について ①転倒･転落アセスメントスコアシートの入力漏れ、評価のタイミング、評価しづらい部分の調査を行い、アセスメントスコアシートの改訂（案）、評価、修正 ②7 月・1 月に 3 名 1 組で転倒・転落ラウンドを実施し、アセスメントスコアシートの評価、看護計画への反映、病床環境について監査を実施 ③センサーマット類の保有台数と使用状況一覧表を作成し、物品の有効利用に活用 ④電子カルテ移行に伴い転倒時のテンプレート、標準看護計画を改訂 2）看護部で起こったインシデント事例について情報共有し、病棟での取り組みに活用

成果と課題	1）活動を通して転倒・転落件数は平成 27 年度比 5%減少の目標は達成できたが、看護単単位別では 5 割の部署が目標未達成。全部署で目標達成できるよう取り組みを継続 転倒・転落アセスメントスコアシートの作成し、デモを行い改訂中 センサーマット類の保有台数一覧用を作成したことで、物品の有効利用につながった。転倒時のテンプレートの見直し、具体的な看護計画が立案できるように標準看護計画を改訂し、医療情報小委員会で審議予定 2）ステプティの剥がし忘れ、患者誤認、肺塞栓予防、チューブ・ドレーン管理、インスリン保管についての事例を共有することでスタッフへの周知につながった。しかし、患者誤認は 71 件/9 ヶ月と削減は未達成。インシデント事例から看護手順の改訂の必要性について検討し、改訂後の評価が課題

5. 栄養サポート看護チーム会

目　的	入院患者の栄養不良、あるいはその危険が高い患者に対して栄養改善をはかり、栄養不良による合併症を予防し、ＱＯＬを改善する
目　標	1）病棟での嚥下評価の実践が定着する 2）患者の状態に合った安全な経口摂取への援助ができる 3）ＳＧＡ評価が適切に実施でき、必要な患者をＮＳＴへ依頼することができる
活動内容	1）嚥下評価方法、食事開始までの手順、入院時・食事開始後の観察項目について学習会を開催。嚥下評価の実施状況について 1 day 調査を実施し、結果の分析と評価表改訂について検討。嚥下障害のある患者の標準看護計画作成 2）食事介助場面を写真撮影し、食事介助方法の問題点を抽出。抽出した問題点を分析し、「安全な食事姿勢について」実技演習を実施。リンクナースが各病棟で伝達講習を実施。その後食事介助方法についてスキルチェックシートを用いて評価。評価結果の分析と課題の抽出 3）毎月 SGA 評価の 1 day 調査を実施し、評価ができていない理由について情報共有。電子カルテ更新後の SGA 評価実施方法の周知と評価漏れ防止策の検討
成果と課題	1）チーム会で学習した内容の伝達講習の実施状況は、①嚥下評価方法は 95%、②食事開始後の観察項目は 96.%、③食事開始までの手順は 96.3%。入院時の嚥下評価使用率は 84%と意識の向上は図れた。しかし、使用方法や言葉の解釈等にずれがあるため、評価表の改訂が必要。「誤嚥リスクあり」と判定された患者の看護計画立案率は 73%であるが、嚥下テストの方法の習熟度については、調査が未実施であり今後の課題である 2）安全な食事姿勢についての伝達講習の実施状況は 70.4%と他の学習会に比べ低い。スキルチェックシートを用いた食事介助方法を評価した結果、ポジショニングや圧抜き、体位保持、頸部前屈位が課題で、実践力の定着に向けてより焦点化した学習会等の企画を検討する必要がある。また、個別性をふまえた食事援助ができるようなツール等の検討が未実施のため実施に向けて取り組む 3）SGA 評価の平均実施率は 88%で、実施率 85%以上の目標は達成。12 月以降看護師による評価に変更後、実施率 91%に上昇したが、看護師の入力漏れもあり改善策を検討して取り組む

6. 褥瘡管理チーム会

目　的	褥瘡を発生させないように対策を行う
目　標	1）スタッフが正しくポジショニングを身につけ実践できる 2）皮膚損傷や褥瘡発生リスク患者の評価ができ、看護計画に反映できる 3）医原性皮膚損傷やスキンテアについての知識を習得し、スキンケア技術を向上できる
活動内容	1）ポジショニングについて講義・演習・テストを実施し、合格者には院内認定シールを付与。ポジショニングマニュアルを作成し、マニュアルを基にペア病棟でポジショニング学習会を 2 回実施。実施後にアンケート調査を実施

	2）褥瘡診療計画書と看護計画立案状況について実態調査を実施し、結果を基に対策を検討。電子カルテ更新後に 2 回実態調査を実施。褥瘡発生後のカンファレンス開催と毎月の褥瘡発生率の調査を継続し、発生率低減に向けた取り組みを検討し実施 3）医原性圧迫損傷、失禁関連皮膚炎、スキンテア等褥瘡以外の皮膚トラブルの実態と介入方法に苦慮していることについてアンケート調査を実施。文献を参考にしながら画像を取り入れた医療関連機器圧迫損傷予防マニュアルを作成
成果と課題	1）前期で学習会、後期でテストを行い、それを基に各病棟のスタッフに伝達講習を実施した結果、リンクナースの知識・技術の向上につながり、全員がポジショニングテストに合格。院内認定シールを作成したことで、リンクナースの自覚とモチベーション向上につながった。ポジショニングマニュアルは作成したが周知と活用が課題である 2）電子カルテ更新に伴う書式変更の周知が不十分で入力漏れが増加したが、褥瘡に関する書類記載方法を作成し周知したことで入力漏れは減少。入院時の危険因子評価表の漏れは0.3%、状態変化時の評価・褥瘡対策計画書の入力漏れや不備は約20%と高値のため適切な評価と看護計画立案が課題。また、褥瘡発生要因もリスク評価不足、観察・介入不足、技術不足の看護師要因が多い。適切に患者の状態のリスク評価を行い、看護計画に反映し、実践していくことが課題。褥瘡発生率は1.67%と昨年の1.31%より増加しており看護師要因による褥瘡発生率の減少が課題。電子カルテ更新に伴い、ハイリスク加算の対象となる患者の入力が可能となり昨年より8%増加した 3）アンケート調査を実施することで、褥瘡以外の皮膚トラブルの実態と介入方法の課題が明確になり、医療関連機器圧迫損傷予防マニュアル作成の参考になった。今後は作成したマニュアルの周知と活用が課題。また、12月の医療関連機器圧迫損傷は10件で一部の病棟で発生。医療関連機器圧迫損傷による褥瘡発生報告の必要性を周知し、低減に向けて取り組む必要がある

7．呼吸ケア看護チーム会

目的	呼吸ケア実践能力の向上を図る
目　標	1）フィジカルアセスメント能力が向上する 2）看護師が呼吸ケア実践ができる 3）看護師が呼吸に関する必要な記録ができる
活動内容	1）呼吸ケアに関するDVDを基に認定看護師が知識確認のテストを作成し、全病棟で実施。NIPPV、RST主催の学習会への参加促進、チーム会で事例検討や酸素療法について学習会を実施。呼吸器ケアのDVDを作成し全病棟に配布 2）NIPPV のマニュアル作成、呼吸ケアマニュアルの活用状況調査。チーム会で「気管切開中の患者の看護」について学習会を実施 3）既存の呼吸監査表についてアンケートを実施し監査表の改訂、口腔内観察のテンプレート作成。改訂後監査を 1 回実施し、監査方法を修正
成果と課題	1）DVD 視聴前のテストは全病棟で実施し、回収率 75%であったが正答率の評価は未実施。DVD 作成に時間を要し、年度末に配布したので視聴後の評価は未実施。NIPPV の学習会には 28 名が参加し、実技や体験もありわかりやすかったという評価であったが、RST 主催の学習会への参加は少数であり、リンクナース会として RST 主催の学習会を支援することが課題。チーム会で実施した学習会は好評であったため、前期に実施しても良かった。次年度はチーム会がないので、DVD の活用、RST 主催の学習会やラウンドに参加し知識と技術の向上を図っていく必要がある 2）NIPPV のマニュアルを作成し、呼吸ケアマニュアルに追加できた。呼吸ケアマニュアルの活用状況の調査を実施した結果、呼吸マニュアルを活用の有無では「ある」の回答は 42%で 4%増加、「ない」は 58%で 4%減少、実際に使用した場面の上位は①呼吸ケア実践 49%、②人工呼吸器看護 36%、③後輩指導 32%であった。使用できない原因は「時間がない」83%であた。活用を普及するために現任教育委員会や RST との連携を行う必要があった。今後、マニュアルの活用を促進し評価、改訂を行う 3）既存の呼吸監査表についてアンケートを実施し、口腔内のチェックリストのテンプレート作成、電子カルテ更新後の呼吸に関する入力項目の設定に反映。呼吸に関する記録の監査は1回実施したが、「NA」をどう評価するか監査方法を検討する必要がある。また、定期的な監査の実施、監査結果を学習会やマニュアルに活用することと記録の質改善が課題である

Ⅲ. ワーキング

1. 経営・病院機能充実ワーキング

目　標	1）平成 28 年度診療報酬改定に伴う変更点を理解し、重症度・医療・看護必要度評価が 25%維持できる 2）看護の質の視点からデータを活用し、看護管理に活かすことができる
活動内容	1）①重症度・医療・看護必要度の勉強会を実施 ②重症度・医療・看護必要度 25%維持できる方策の検討と実施 ・入力漏れのチェックと必要度入力監査 2 回 ・評価項目記載方法の作成、「免疫抑制剤の管理」標準看護計画の作成 2）平成 27 年度 DiNQL データ（レーダーチャート）から「転倒・転落」について自病棟の傾向を把握
成果と課題	1）評価者研修の伝達講習は全看護職員に実施できた。監査結果や日々の記載漏れ確認で記載漏れがある、心電図モニター使用時の医師の指示がない、免疫抑制剤使用患者の看護計画がない、観察項目がないなどの問題があるので正しく記録できるように指導していく必要がある 2）DiNCL データの活用を検討する中で「転倒・転落」を抽出したが、各病棟での課題発見や課題整理、改善策の検討には至らなかった

2. 看護管理実践力強化ワーキング

目　標	1）看護管理基準の改訂ができる 2）労務管理についての実践能力の強化ができる
活動内容	1）看護管理基準の見直し項目を検討し担当を決めて改訂し看護師長会で検討ポケットマニュアル、看護管理師長用マニュアル内の資料、看護管理関連資料ファイルの見直し 2）労務管理に関する問題、意見についてアンケート調査を実施し、対策の検討と実施
成果と課題	1）看護管理基準の見直し項目を検討し、改訂時は書式の右欄に関連資料を記載するよう変更した。改訂した基準は看護師長会で承認を得て差し替えを実施。ポケットマニュアルは廃止としたが、看護管理基準内に含まれる内容も含まれているので、看護管理基準の整理と看護管理業務基準の作成の必要性が出てきた。看護管理基準関連の資料を含め看護管理業務基準の作成が課題である 2）労務管理に関する問題・意見についてアンケート調査を実施し、労務災害に関するフローチャートを改訂。年次休暇取得に関する事例検討の準備を行ったが日程調整ができず未実施。勤務時間管理については看護師長会で検討を重ね看護師長業務とてしての体制を整備した

3. 認知症・せん妄ケア等ワーキング

目　標	1）認知症ケアに必要なマニュアルの整備・学習会等ができる 2）認知症ケア実践のコンサルテーション・指導を行うことができる 3）認知症ケア実践力を向上するための人材育成ができる 4）せん妄ケアに必要なマニュアルの整備・学習会等を行う 5）せん妄等ケア実践のコンサルテーション・指導を行う 6）せん妄等ケア実践を向上するための人材を育成する
活動内容	1）認知症患者への看護で困っていることやどのように対応しているか等学習ニーズを把握するためにアンケート調査を実施。アンケート調査の結果を分析し、学習会を 2 回開催。e-ラーニングでの学習を推進。他施設のマニュアルを参考にして認知症ケアマニュアルを作成 2）アンケート結果を反映して学習会で事例の対応を説明 3）認知症ケア加算対象の研修に各病棟から 2 名以上参加し、各部署で伝達講習を実施 4）せん妄患者に看護に必要な資料を検索し各部署へ配布。e-ラーニング「せん妄ケア」の視聴を促進。学習会を 2 回開催。せん妄アセスメントシート・標準看護計画作成、せん妄患者ケアマニュアル・患者家族への説明資料を各部署に配布し情報提供を実施 5）せん妄患者の情報提供を受け、専門看護師・認定看護師がコンサルテーションを通じて実践支援

成果と課題	1）アンケート結果から①認知症看護学習会を開催し 33 名参加、②診断と治療に関する学習会を開催し 38 名参加。e-ラーニングの活用は勧めたが視聴実績の評価は未実施。ケアマニュアルは資料を参考に作成したが、診断・治療の項目は医師に依頼中で未完成。標準看護計画は看護師長会で検討中でありマニュアル・標準看護計画の完成、認知症ケア加算算定方法の周知が課題である 2）学習会で事例をもとに対策について助言したが、日々の看護実践の中でコンサルテーションを受けるまでには至っていないので、システムの構築と運用が課題である 3）学習会の内容を伝達できたが各部署活用には至っていないので、次年度チーム会を立ち上げ認知症ケア実践能力の向上を図る 4）学習会は①せん妄の定義・診断方法・治療・ケアに 28 名参加、②せん妄患者の事例から考える看護に 34 名参加。研修後アンケート結果は 97%が現場で活かせるという回答であったが、e-ラーニングについては活用は勧めたが視聴実績の評価は未実施。せん妄アセスメントシートのテンプレート化、標準看護計画の電子カルテでの運用が課題である 5）専門看護師・認定看護師によるコンサルテーション件数は 8 件で、せん妄診断方法、暴言や行動への対応、薬剤調整などであった。コンサルテーション方法・実践支援方法の検討、システムの構築が課題である

□ 地域医療連携・広報活動

1. がん看護研修ステップ
   ・ステップⅠ：10月22日、11月26日　計10時間　　修了者：院内31名、院外32名
   ・ステップⅡ：7月2日、7月30日、12月5日　計11時間　　修了者：院内5名

2. 専門・認定看護師セミナー
   11月19日開催、　テーマ：～私たちの力をあなたの力に～で講義・演習を実施
   参加者：80名（院内：15名、院外：65名）

3. ふれあい看護体験
   7月27日：参加者：高校生4名参加

4. 訪問看護師・病院看護師交流会
   11月16日開催　事例討議　　参加者：訪問看護師23名　看護師31名

5. 生き方探究・チャレンジ体験
   11月1日～ 4日（3日間）　中学生4名
   11月7日～10日（4日間）　中学生2名
   11月8日～10日（3日間）　中学生2名

□ 看護部の活動

1. 投稿・執筆　（別紙４）
2. 院外発表　（別紙５）
3. 院内発表　（別紙６）

別紙4：投稿・執筆

１．平成28年度　雑誌投稿・執筆

出版社	雑誌名	テーマ	部署	著者名
日総研出版	手術看護エキスパート 2017年　3.4月号 vol.10 no.6	インシデントで学ぶ手術室の医療安全・ナラティブ事例集 ～手術体位が原因と考えられる合併症を経験して導かれた医療安全対策と看護師の役割・姿勢～	手術室	中村　露子

別紙５：院外発表

２．平成28年度　院外研究発表

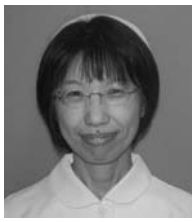
	テーマ	学会名	開催日	部署	発表者名
1	タブレット端末を用いた内視鏡処置関連情報の管理と看護への活用	第76回日本消化器内視鏡学会	5月14日	外来	坂井　洋子
2	めざせ！皮膚に優しいうつむき安静	眼科連携FSM2016	6月4日	1病棟5階	豊山　美由紀
3	PCU希望者がより多く入棟できるための取り組み	第21回日本緩和医療学会	6月17日・18日	緩和ケアチーム	櫻井　真知子
4	患者模擬体験前後でのイメージの変化からみた外来化学療法センターでの実習における看護学生の学び（第3報）	第47回日本看護学会ー看護教育ー学術集会	8月4日	外来	田中　雅子
5	うつ病の家族に終末期（看取りの時期）であることを告知できたー事例ー他施設の精神科医とPCTとの協働	第29日本サイコオンコロジー学会総会	9月23日・24日	看護部長室	櫻井　真知子
6	院内BAD治療マニュアル導入の取り組み	第43回脳神経看護研究学会	9月30日	救命センターICU	樋口　泰子
7	心不全再入院患者の増悪要因の状況と心不全チームの今後の課題	第20回日本心不全学会学術集会	10月8日	2病棟7階	貞方　良太
8	硝子体手術後患者の腹臥位安静における皮膚損傷の要因分析と看護介入	第58回看護学会	10月15日	1病棟5階	豊山　美由紀
9	ICU患者に対する趣味を取り入れたせん妄予防への取り組み	第58回看護学会	10月15日	救命センターICU	吉田　咲子
10	長期呼吸器装着患者のリハビリテーションにおける看護師の役割	第58回看護学会	10月15日	救命センターICU	松下　紀子
11	救急外来における看護師教育ラダー活用評価	第18回日本救急看護学会	10月29日	救急外来	中島　梢恵
12	大腸内視鏡検査における不適切な前処置による予測因子の検討	第77回日本消化器内視鏡技師学会	11月5日	外来	北野　由美
13	がん患者のせん妄ケアについて、私たち看護師ができること～がん看護研修の学びから～	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	1病棟8階	布施　克美
14	婦人科癌術後のリンパ浮腫予防指導後のアンケート調査　～知識の理解と対処方法の実態～	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	2病棟3階	上村　直子
15	抗精神薬服用妊婦における周産期管理の現状と課題	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	NICU	岡庭　暁子
16	救命救急センターICU看護師のマネジメント力強化に向けた教育計画の立案	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	救命センターICU	尾崎　聡美
17	急性期病院看護師の職務満足度調査における満足要因の実態	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	救命センターICU	西田　和美
18	新採用者の支援を通して、教育担当副看護師長の役割を考える	第70回国立病院総合医学会	11月11日・12日	看護部長室	藤野　典子
19	入院患者におけるCRE（カルベパネム耐性腸内細菌科細菌）検出状況と実践した対策の検証	第14回国立病院看護研究学会学術集会	12月17日	看護部長室	森　誠司
20	当院における母乳育児推進の現状と課題	第８回近畿母乳育児フォーラム	2月12日	2病棟3階	大谷内　志浦
21	ほぼ意識清明下の気管挿管患者におけるせん妄スクリーニングツールの使用と身体拘束の関連	第44回集中治療医学会学術集会	3月9日	救命センターICU	森口　真吾

別紙6：院内発表

３．平成28年度 院内研究発表

		テーマ	部署	発表者
口述発表	1	救命救急センターICUにおけるエンドオブライフケア実践報告 ～口渇に対する症状マネジメント～	救命救急センターICU	篠原　麻里
	2	周産期領域に関する地域との連携について	地域医療連携室	松尾　さやか
	3	リンクナースを支援のための計画立案に向けて取り組み	副看護師長会A	林　朋子
	4	ギア・チェンジの時期を迎えた患者への看護介入 ～アギュレラの危機問題解決モデルを用いて～	1病棟７階	坂田　伊央莉
ポスター発表	5	外来がん化学療法を受ける40代女性患者の心の軌跡 ～心理的支援を振り返って～	外来	田中　雅子
	6	緩和ケア病棟における遺族の満足度調査 ～アンケートを実施して～	緩和ケア病棟	林　麻美
	7	手術看護の充実を目指した新手術部門システム作成への取り組み	手術室	田中　めぐみ
	8	患者が求める術前オリエンテーションについての調査	1病棟４階	大江　智子
	9	行動制限に関する規定の改訂に向けての取り組みと行動制限の現状	副看護師長会B	豊山　美由紀
	10	いのちの授業～中学生への性教育～	2病棟３階	石上　朋子
	11	治療を開始した患者への意思決定支援 ～アギュレラの危機問題解決モデルを用いて～	1病棟６階	余頃　楓
	12	AYA世代（子育て世代）の子供に対する看護介入についての実態調査 ～緩和ケア病棟看護師へのインタビュー分析～	緩和ケア病棟	平田　淳朗
	13	術後訪問から見えてきたこと	手術室	手良村　康代
	14	助産師外来の現状と今後の課題	2病棟３階	田仲　有季子
	15	５S活動 ～療養生活の安全・安楽を確保するためには～	2病棟７階	増田　友香
	16	PDCAサイクルを活用した病棟業務改善への取り組み	2病棟８階	柴田　美歩
	17	大腸内視鏡検査における不適切な前処置になる予測因子の検討	外来	北野　由美
	18	硝子体手術後のうつむき安静による苦痛緩和への取り組み	1病棟５階	原田　健太
	19	呼吸不全患者の退院までの長い道のりとその後 ～訪問看護師交流会を通して～	1病棟８階	布施　克実
	20	呼吸器外科患者の手術後1日目の離床評価 ～安全な早期離床をめざして～	集中治療室	柴田　浩司
	21	安全な経口摂取の援助の実践力の向上と定着に向けての取り組み	救命救急センターICU	吉田　咲子
	22	急性期病棟における保育士の活動	2病棟３階	江戸川　志帆
	23	スポーツリハビリカンファレンスを開始して	2病棟５階	木田　美帆
	24	当病棟におけるカンファレンスの傾向と実態	特別室個室	森　未帆
	25	当院の認知症ケア実践力向上への取り組み	救命救急センターICU	樋口　泰子
	26	せん妄ケア検討WG活動報告	救命救急センターICU	西田　和美
	27	救命救急センターICU看護師のマネジメント強化への取り組み	救命救急センターICU	尾﨑　美聡
	28	新人教育担当としての取り組み ～Let's enjoy education!!～	1病棟６階	徳丸　千恵
	29	新人教育	1病棟６階	古川　淳貴
	30	側臥位手術における褥瘡軽減への取り組み	手術室	西村　清美
	31	アンギオ介助可能な看護師育成のための教育	救急外来	清水　克彦
	32	看護師と看護補助者間の連携 ～看護業務を円滑にすすめる～	2病棟４階	森　香代
	33	救命救急センターICUにおける胃管チューブ予定外抜去予防の取り組み報告	救命救急センターICU	児玉　恵理
	34	急変時看護の実践能力を向上させる取り組み	2病棟７階	有村　美穂
	35	カンガルーケアによる母児関係への効果	ＮＩＣＵ	中村　由梨
	36	救命救急センターICUの新採用におけるシミュレーション教育の効果	救命救急センターICU	伊藤　明信
	37	糖尿病透析予防外来を受診した患者のセルフケア行動の変化	外来	小久保　敦子
	38	ロボット支援下腎部分切除導入までの取り組み	手術室	中谷　夏実

京都看護助産学校



副学校長
増山　路子
平成29年3月31日まで



副学校長
池田　仁美
平成29年4月1日から



助産学科 教育主事
佐藤　美春
平成29年3月31日まで



助産学科 教育主事
伊藤　美栄
平成29年4月1日から



看護学科　教育主事
釘宮　泰子



看護学科　教育主事
小林　由里

Ⅰ　看護学校の概要

1．名称

独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

2．所在地

〒612－8555　京都市伏見区深草向畑町１の１

TEL（075）641－9191（直通）　　HP　http://www.hosp.go.jp/~kyotolan/guide/medicalinfo/school/

3．沿革

昭和24年４月１日	国立京都病院附属高等看護学院として開設
	１学年定員30名　総定員90名
昭和43年４月１日	１学年定員50名　総定員150名
昭和44年４月１日	助産婦科の附設　１学年定員35名　総定員35名
	国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
昭和50年４月１日	国立京都病院附属看護助産学校に名称変更
昭和51年４月１日	専修学校（専門課程）に認定
平成16年４月１日	国立療養所宇多野病院附属看護学校（３年課程）と国立療養所南京都病院附属看護学校（２年課程）と３校が統合、大型校となり独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
	看護学科　１学年定員80名　総定員240名
	助産学科　１学年定員35名　総定員 35名
平成27年４月１日	助産学科　１学年定員25名　総定員25名　定員変更

卒業生数（平成28年 3月31日現在）

看護学科（１回生～53回生）… 1,968名

（１回生～13回生）…　970名（統合後）

助産学科（１回生～48回生）… 1,399名

4．課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成29年3月1日現在）			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護学科（3年課程）	80人	240人	74人	92人	84人	250人
看護専門課程	助産学科	25人	25人	24人			24人
計		115人	275人	98人	92人	84人	274人

II　教育理念・目的

1．教　育　理　念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的・実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2．教　育　目　的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3．教　育　目　標

1．生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う
2．看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う
3．看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する
4．科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う
5．健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う
6．保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う
7．社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探求する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う

コンセプト

感じる心　　考える力　　そして・・・行動を

４．平成２８年度　部門（看護学校）目標

病院目標：地域医療構想などへの対応に向けて、今後の需要と供給などを踏まえた将来への展望を開く医療基盤の充実と発展

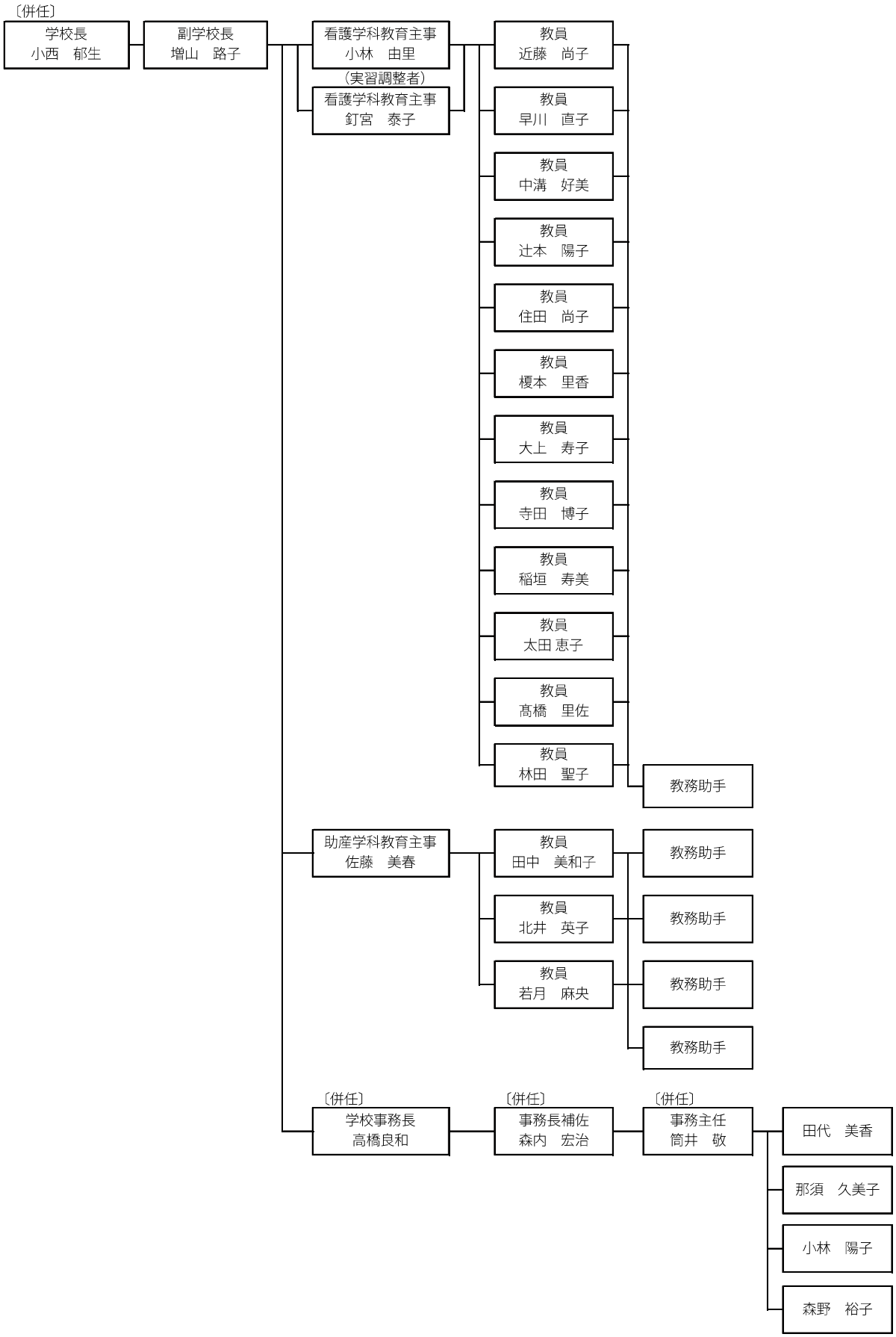
↓

地域医療構想への対応→医療の変化に対応しうる看護職者の育成→主体的に学び続ける基礎能力の育成

部門目標		２８年度重点目標	
1	組織が円滑に機能するよう連携を密にし、組織の活性化に努める	○	組織における情報の共有
			①朝・夕のミーティングの活用　②会議での意見交換（情報の提供、提案）
		○	チームとしての業務遂行
			①学年、講義担当、実習担当、各チームが年末病院での成果発表会にて発表
		○	勤務時間管理の徹底と自己管理
			①学校使用時間の厳守　②勤務時間内における業務遂行(管理責任の徹底)
2	国立病院機構に貢献できる優秀な人材の確保と育成。	○	広報活動の推進（ＨＰ改訂、リアルタイムな情報提供、学生意見の活用）
			①ＨＰのリニューアルと更新　②説明会への参加（教員・教育主事を含む広範囲な活動）
		○	臨床との連携による看護技術教育の充実　①実習指導者会活動　②演習計画のお知らせ
		○	国立病院機構への就職率看護師科７０％以上、助産師科５０％以上
		○	国家試験合格率が当該年度の国立病院機構全国平均以上
			①1年次からの国家試験対策　②実習学習とリンクする国家試験対応
3	指導計画や授業実践の改善・充実につながる授業評価や研修の充実を図り、教員の指導力の向上に努める	○	自己の研究テーマを持ち，研究に取り組む
		○	研修、学会等へ1回以上の参加により自己啓発を図る
		○	専門領域等の実務研修に1回以上参加し。最新の知識・技術を吸収する
		○	他校における研究授業に1回以上参加し、授業方法を研鑽する
		○	当校における授業研究での意見交換等により他科目との関連を理解する
		○	研修日の確保（月1日）
4	学生が主体的に学ぶ基礎的能力を育成する《感じ、考え、行動する》	○	アクティブラーニングの活用
			①主体的に学ぶ、協同的に学ぶ＝課題の検討、グループワークの活用、演習形式の活用
		○	学生フォーラム・「看護の日」活動・自治会活動・クラブ活動への支援
		○	ボランティア活動等の推奨
5	学生にとって、公平で相談しやすい学校組織の充実を図る。	○	学生の気づきや、課題を意識し、きめ細やかな指導・タイムリーな指導に努める
		○	学生の声が充分学校職員に上がるよう、話しやすい雰囲気作りに努める
		○	担任、担当にこだわらず学校職員全てが相談の窓口になれることを発信する
		○	学生による授業評価から課題を明確にし、改善に取り組むと共に学生に公表する
		○	継続的な自己点検・自己評価（及び第三者評価）を実施し、学生・保護者へ公表する
		○	卒業時カリキュラム評価の目標平均値３．０以上

Ⅲ． 本学の組織

1．組織図


〔併任〕
学校長
小西　郁生
副学校長
増山　路子
看護学科教育主事
小林　由里
（実習調整者）
看護学科教育主事
釘宮　泰子
教員
近藤　尚子
教員
早川　直子
教員
中溝　好美
教員
辻本　陽子
教員
住田　尚子
教員
榎本　里香
教員
大上　寿子
教員
寺田　博子
教員
稲垣　寿美
教員
太田 恵子
教員
髙橋　里佐
教員
林田　聖子
教務助手
助産学科教育主事
佐藤　美春
教員
田中　美和子
教務助手
教員
北井　英子
教務助手
教員
若月　麻央
教務助手
教務助手
〔併任〕
学校事務長
高橋良和
〔併任〕
事務長補佐
森内　宏治
〔併任〕
事務主任
筒井　敬
田代　美香
那須　久美子
小林　陽子
森野　裕子

2．教育経験年数

	教 員 の 種 別	教 育 年 数	専 門 領 域
看護学科	副学校長 （増山　路子）	18 年	
	教育主事 （小林　由里）	12 年	基礎看護学
	教育主事 （釘宮　泰子）	13 年	小児看護学
	教　　員 （近藤　尚子）	22 年	在宅看護論
	教　　員 （早川　直子）	10 年	成人看護学
	教　　員 （中溝　好美）	8 年	老年看護学
	教　　員 （辻本　陽子）	助 5 年・看 2 年	母性看護学
	教　　員 （榎本　里香）	6 年	成人看護学
	教　　員 （住田　尚子）	6 年	小児看護学
	教　　員 （稲垣　寿美）	5 年	成人看護学
	教　　員 （大上　寿子）	5 年	基礎看護学
	教　　員 （寺田　博子）	5 年	老年看護学
	教　　員 （太田　恵子）	1 年	老年看護学
	教　　員 （髙橋　里佐）	1 年	母性看護学
	教　　員 （林田　聖子）	0 年	母性看護学
	教務助手 （宮崎　千代子）		
助産学科	教育主事 （佐藤　美春）	助 7 年・看 12 年	助産学・母性看護学
	教　　員 （田中　美和子）	助 7 年・看 1 年	助産学
	教　　員 （北井　英子）	助 4 年	助産学
	教　　員 （若月　麻央）	助 2 年	助産学
	教務助手 （中川　明子） （勢力　陽子） （太田　結子） （赤築　佳美） （置田　貴代）		

3．職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専　任	兼　任		職員の種別	専　任	兼　任
			(看)	(助)			
	保健師	0名	0名	1名	事務職員	4名	3名
	助産師	6名	4名	10名	その他の職員	0名	0名
	看護師	12名	38名	1名	合　計	4名	3名
	医　師 （歯科医師含む）	0名	38名	14名			
	その他の教員	0名	27名	6名			
	合　計	18名	107名	32名			

Ⅳ. 学生募集

1. 入学試験実施状況

看護学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成29年 1月19日(木)	平成29年 1月21日(土)	平成29年 1月26日(木)
社会人入学試験	平成28年11月17日(木)	平成28年11月19日(土)	平成28年11月24日(木)
公募推薦入試	平成28年11月17日(木)	平成28年11月19日(土)	平成28年11月24日(木)
推薦入学試験	平成28年11月17日(木)		平成28年11月24日(木)

助産学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成29年 1月19日(木)	平成29年 1月21日(土)	平成29年 1月26日(木)
特別選抜入学試験	平成28年11月17日(木)		平成28年11月24日(木)

2. 入学状況

＜看護学科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成26年（第13回生）	推薦	9	9	9			
	社会人	82	76	33			
	一般	171	164	72			
	合計	262	249	114	82	3	77
平成27年（第14回生）在学中	推薦	12	12	12	12		
	社会人	62	60	30	30		
	一般	110	99	65	49		
	合計	184	171	107	91		
平成28年（第15回生）在学中	推薦	16	16	16	16		
	社会人	23	22	10	10		
	一般	69	69	56(4)	44(4)		
	合計	108	107	82(4)	70(4)		
平成29年（第16回生）在学中	推薦（学校）	10	10	10	10		
	推薦（公募）	25	25	24	24		
	社会人	28	28	16	15		
	一般	106	103	65	39		
	合計	169	166	115	88		
総　計		723	693	418(4)	331(4)	3	77
平　均		181	173	106	84	3	

（　　）内　補欠合格者

＜助産学科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成25年（第45回生）	特別選抜（学校）	9	9	9	9	1	8
	特別選抜（施設）	3	3	3	3		3
	一般	72	54	18	15	2	13
	合計	84	66	30	27	3	24
平成26年（第46回生）	特別選抜（学校）	10	10	10	10		10
	特別選抜（施設）	0	0	0	0		0
	一般	69	62	18	18	3	15
	合計	79	72	28	28	3	25
平成27年（第47回生）	特別選抜（学校）	13	13	13	13	2	12
	特別選抜（施設）	1	1	1	1		1
	一般	65	57	12	11		10
	合計	79	71	26	25	2	23
平成28年（第48回生）	特別選抜（学校）	8	8	8	8		8
	特別選抜（施設）	3	3	3	3		3
	一般	73	63	19	13		13
	合計	84	74	30	24		24
平成29年（第49回生）在学中	特別選抜（学校）	11	11	11	11		
	特別選抜（施設）	0	0	0	0		
	一般	58	54	18	14		
	合計	69	65	29	25		
総　計		395	348	143	129	8	96
平　均		79	70	29	26	2	19

3．オープンキャンパス・公開講座の実施

＜公開講座＞

日　程	テーマ	参加者数
平成 28 年 5 月 28 日（土）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	13 人
平成 28 年 6 月 26 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	30 人
平成 28 年 7 月 31 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	59 人
平成 28 年 8 月 20 日（土）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	55 人
平成 28 年 9 月 11 日（日）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	28 人
平成 28 年 11 月 6 日（日）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	28 人
平成 28 年 11 月 6 日（日）	市民公開講座：ストレッチ・ゆびヨガ	15 人
平成 28 年 9 月 17 日（土）	性教育講座を「つながる命の大切さ　～これまでの自分、これからの自分～」	14 人
平成 28 年 10 月 8 日（土）	ファミリー教室「みんなで新しい家族をむかえよう」～Welcome , New Family～	19 人
平成 28 年 7 月 16 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	52 人
平成 28 年 8 月 20 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	65 人
平成 28 年 9 月 3 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	23 人
合計		342 人

＜オープンキャンパス＞

学　科	日　程	参加者数	内　容
看護学科	平成 28 年 5 月 28 日（土）	16 人	学校説明 入学試験の説明 学校生活の紹介 校舎内見学 看護学生体験 看護学生との交流
	平成 28 年 6 月 26 日（日）	45 人	
	平成 28 年 7 月 31 日（日）	71 人	
	平成 28 年 8 月 20 日（土）	70 人	
	平成 28 年 9 月 11 日（日）	35 人	
	平成 28 年 11 月 6 日（日）	33 人	
助産学科	平成 28 年 7 月 16 日（土）	52 人	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 校舎内見学

Ⅴ．　学生生活

1．心身の健康保持・増進

1）カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週１回（放課後）に実施している。

2）健康診断

健康管理規定に基づき、定期的に実施している。

項　目	対　象	4月	7月	１０月	1月
１．身体測定	全学生	○	○	○	○
２．胸部Ｘ線撮影	全学生	○			
３．血圧測定	全学生	○		○	
４．検尿 （糖、蛋白、潜血、ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ）	全学生	○		○	
５．内科総合診断	全学生	○		○	
６．採血 （梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査）	新入生	○			
７．ツベルクリン反応検査	新入生（2、3年生の陰性者）	○			
＊検便は実習前に実施					

2．課外活動　：　看護学科

1）自治会活動

	＜　前　期　＞		＜　後　期　＞
5月	自治会総会	11月	自治会総会
6月		12月	大掃除　クリスマスコンサート
7月	大掃除　サマーコンサート	1月	
8月		2月	国家試験激励会、予餞会
9月		3月	
10月	戴帽式のお祝い 自治会総括 後期自治会選挙 近畿看護学会（3年生）	4月	新入生歓迎会 自治会総括 前期自治会選挙

2）クラブ活動

（1）バレーボール部

毎週　火・水・木・金　曜日　１６：３０～１８：００　体育館

あじさい杯　平成28年6月18日（土）　開催

＊京都看護助産学校主催で近畿グループ附属看護学校5校のバレーボール部が集まる大会。
毎年開催している。

（2）茶道部

隔週　木　曜日　１６：３０～１８：３０　在宅看護実習室

七夕茶会　平成28年7月21日（木）　開催

初釜茶会　平成29年2月 2日（木）　開催

（3）園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

（4）合唱サークル

不定期開催

みんなで楽しむとともに、病院コンサートや実習でのレクレーションで患者さんに喜んでもらえるよう、練習している。

3）ボランティア活動

	実施時期	学年	実施内容
1	平成 28年　5月 12日	学生全員	看護の日記念行事コンサート・カードの配布（京都医療センター）
2	平成 28年　7月 22日	1 年生	サマーコンサート（京都医療センター）
3	平成 28年 12月 21日	1 年生	クリスマスコンサート（京都医療センター）
4	平成 29年　2月 27日	3 年生	病院清掃ボランティア（京都医療センター）

Ⅵ.　卒業生の進路

1．就職・進学状況

＜看護学科＞

年度	回生	卒業者数	就　職						進学				未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設									
平成25年度	第 10 回生	80	32	28	3	3	0	0	0	9	0	5	0
平成26年度	第 11 回生	70	36	24	3	1	0	0	0	4	0	2	0
平成27年度	第 12 回生	69	41	18	1	0	4	0	0	3	0	2	0
平成28年度	第 13 回生	82	43	29	1	0	2	0	0	6	0	0	1

＜助産学科＞

年度	回生	卒業者数	就　職						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成24年度	第 44 回生	29	5	10	9	2	3	0	0	0
平成25年度	第 45 回生	24	6	10	6	2	0	0	0	0
平成26年度	第 46 回生	25	4	10	8	3	0	0	0	0
平成27年度	第 47 回生	23	4	9	7	2	0	0	0	1
平成28年度	第 48 回生	24	4	9	6	5	0	0	0	0

2．国家試験

＜看護学科＞

		全国 （%）	機構附属 （%）		
			全国	近畿	京都
１０５回（ H28.3 ）	全体（新卒）	89.4 （ 94.9 ）	98.0 （ 98.4 ）	99.4	100
１０６回（ H29.3 ）	全体（新卒）	88.5 （ 94.3 ）	88.5 （ 94.3 ）	98.6	98.8

＜助産学科＞

		全国 （%）	機構附属 （%）	
			全国	京都
９９回 （H28.3 ）	全体（新卒）	99.8（ 99.8 ）	100	100
１００回（H29.3 ）	全体（新卒）	99.8（ 99.8 ）	100	100

Ⅶ.　教員の研究および研修参加

3．教員の業績および活動状況

1．研究活動

＜学会発表＞

日程	学会名	テーマ	研究者（○発表）
平成28年 11月11日	国立病院総合医学会	中堅教員の学校運営能力を育成する活動報告	○小林由里、増山路子 （ポスター）
平成28年 11月12日	国立病院総合医学会	実習前演習に老年期の特徴を活かした排泄援助演習の試み	○中溝好美、太田恵子 （ポスター）
平成28年 11月12日	国立病院総合医学会	協同学習を取り入れた国家試験対策学習の取り組み	○住田尚子、釘宮泰子 （ポスター）

＜教員研修会　研究グループ＞

	テーマ	教 員
1G	授業研究におけるカリキュラム開発	早川　直子、榎本　里香
2G	看護教員が教える「人体の構造と機能」の評価	他校教員
3G	看護学生の学習に対する主体性の実際	他校教員
4G	看護学生への症状アセスメント・症状緩和に向けての援助抽出における思考過程の育成	他校教員
5G	看護学生のソーシャルネットワークに対する調査	他校教員
6G	母性看護学、助産学分野における実習指導の充実 実習指導者の指導力向上に向けた活動	辻本　陽子、田中　美和子、北井　英子
7G	在宅看護論実習における学生の戸惑い・困難さの把握	近藤　尚子、住田　尚子、稲垣　寿美
8G	学生が主体的に取り組めるための看護技術指導方法の検討	大上　寿子、高橋　里佐
9G	アクティブラーニングに関する文献レビュー	若月　麻央、中溝　好美、林田　聖子
10G	採血の技術習得に向けた教育方法の開発	寺田　博子、太田　恵子

＜授業研究＞

日 程	授業内容	教 員
平成28年6月7日（火）	基礎看護技術Ⅱ：移動（演習）	辻本陽子
平成28年7月４日（月）	基礎看護技術Ⅰ：感染（演習）	髙橋里佐
平成28年7月5日（火）	基礎看護技術Ⅲ：清潔（演習）	大上寿子
平成28年7月21日（木）	成人看護援助技術Ⅰ（講義）	榎本里香
平成28年8月29日（月）	老年看護学演習（講義）	中溝好美
平成28年11月1日（火）	看護と実践の統合Ⅲ（演習）	住田尚子
平成28年11月8日（火）	基礎看護技術Ⅴ（検査）	太田恵子
平成28年11月29日（火）	基礎看護技術Ⅵ：与薬（演習）	近藤尚子
平成28年12月8日（木）	成人看護概論	早川直子
平成29年2月20日（月）	老年看護援助技術	寺田博子

2）研修参加

日 程	主 催	研修内容	参加人数
平成28年5月13日	近畿グループ	1・2年目教員研修 講義「1・2年目教員に期待すること」	太田　恵子 髙橋　里佐
平成28年7月4日	近畿グループ	新任中間監督者研修	林田　聖子
平成28年7月30日	副学校長・教育主事・教員 夏期合同研修会	講演：「ハラスメント防止について」	20人
平成28年8月4日	近畿グループ	3年目以上教員研修 講義「看護学校での学級経営・学年経営と授業づくり」	12人
平成28年8月3日～5日	労働者健康安全機構	専任教員・臨地実習指導担当者研修	榎本　里香
平成28年9月23日	近畿グループ	1・2年目教員研修 講義・演習「教師のための『教える技術』」	太田　恵子 髙橋　里佐 林田　聖子
平成28年12月7日・8日	近畿グループ	認知症ケア研修	中溝　好美
平成29年1月25日	公益社団法人大阪府看護協会/大阪府看護学校協議会	大阪府専任教員養成講習会フォローアップ研修	若月　麻央
平成29年2月10日	国立病院機構 岡山医療センター附属岡山看護助産学校 助産学科	国立病院機構　助産学校教員研修会：研究報告、技術到達度に関する検討など	田中美和子 北井　英子 若月　麻央
平成28年12月24日	一般財団法人 日本助産評価機構	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルIII 認証研修修了・認定	佐藤　美春

〈中堅教員研修〉

日 程	研 修 内 容	担　当	参 加 者
平成28年10月31日	中堅教員研修 自校の課題分析と意見交換	増山　路子 小林　由里 佐藤　美春	住田尚子 田中美和子
平成28年12月2日	中堅教員研修 講義：「学校組織における中堅教員の役割」 グループワーク：自校の課題達成のアクションプランについて		

〈1,2年目教員研修〉

日 程	研 修 内 容	担　当	教　員
平成28年9月6日（火）	講義「単元：日常生活援助技術（コミュニケーション）」 参観・リフレクション	釘宮　泰子	太田　恵子 髙橋　里佐 林田　聖子
平成28年11月29日（火）	演習「単元：診療援助技術（薬物療法）」参観・リフレクション	釘宮　泰子 近藤　尚子	太田　恵子 髙橋　里佐 林田　聖子

〈実務研修〉

日程	研修内容		教　員
平成28年8月3日～ 8月10日 6日間	京都医療センター	看護援助の見学・体験	林田　聖子
平成28年8月8日 1日間	京都医療センター	地域連携における退院支援の実際	近藤　尚子
平成28年8月9日 1日間	京都医療センター	地域連携における退院支援の実際	中溝　好美
平成28年8月10日 1日間	京都医療センター	病床管理の実際	榎本　里香
平成28年8月10日 1日間	京都医療センター	教育担当看護師長が実施する1年目看護師の育成・フォローアップの実際	稲垣　寿美
平成28年9月20日 1日間	大阪南医療センター 附属大阪南看護学校	基礎看護学実習指導の実際	大上　寿子
平成28年9月21日 1日間	大阪南医療センター 附属大阪南看護学校	基礎看護学実習指導の実際	寺田　博子

Ⅷ.　社会への貢献

＜公開講座＞

日　程	テーマ	参加者数
平成 28 年 5 月 28 日（土）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	13 人
平成 28 年 6 月 26 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	30 人
平成 28 年 7 月 31 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	59 人
平成 28 年 8 月 20 日（土）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	55 人
平成 28 年 9 月 11 日（日）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	28 人
平成 28 年 11 月 6 日（日）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	28 人
平成 28 年 11 月 6 日（日）	市民公開講座：ストレッチ・ゆびヨガ	15 人
平成 28 年 9 月 17 日（土）	性教育講座を「つながる命の大切さ　～これまでの自分、これからの自分～」	14 人
平成 28 年 10 月 8 日（土）	ファミリー教室「みんなで新しい家族をむかえよう」 ～Welcome , New Family～	19 人
平成 28 年 7 月 16 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	52 人
平成 28 年 8 月 20 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	65 人
平成 28 年 9 月 3 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	23 人
	合計	342 人

＜オープンキャンパス＞

学科	日程	参加者数	内容
看護学科	平成28年5月28日（土）	16人	学校説明 入学試験の説明 学校生活の紹介 校舎内見学 看護学生体験 看護学生との交流
	平成28年6月26日（日）	45人	
	平成28年7月31日（日）	71人	
	平成28年8月20日（土）	70人	
	平成28年9月11日（日）	35人	
	平成28年11月6日（日）	33人	
助産学科	平成28年7月16日（土）	52人	学校説明 学校生活の紹介 入学試験の説明 校舎内見学

＜ガイダンス＞

月	日	曜	内容	場所	出席者	実績数
4	14	木	TAP 主催京都精華学園高等学校（4/14）	国際交流会館	増山路子	7
	20	水	進学相談会（さんぽう）	天王寺都ホテル	増山路子	4
	30	土	進学相談会（さんぽう）	メルパルク京都	釘宮泰子	18
5	6	金	進学相談会（さんぽう）	みやこめっせ	増山路子	17
	11	水	TAP 主催向陽高等学校	みやこめっせ	増山路子	3
	14	土	就職・就学フェア（京都府看護協会）	みやこめっせ	増山路子 小林由里	33
	31	火	進学相談会（京都廣学館高等学校）	けいはんなホール	増山路子	4
	31	火	進学相談会（京都府立園部高等学校）	園部高等学校	釘宮泰子	3
6	12	日	医歯薬・看護・医療・福祉・医療事務系 会場形式進学相談会	梅田スカイビル タワーウエスト	小林由里	9
7	13	水	進学相談会（昭栄広報　府立北嵯峨）	みやこめっせ	増山路子	7
	14	木	キャンパス見学会	当校	小林由里	15
	17	日	合同説明会（東京アカデミー）	東京アカデミー京都校	増山路子	15
8	4	木	学校相談会（京都予備校）	京都予備校	増山路子	23
9	12	月	進学相談会（さんぽう）	天王寺ミオ	釘宮泰子	5
12	6	火	進学相談会（さんぽう）	ラポール京都	増山路子	6
2	22	水	進学相談会（京都聖母学院高等学校）	聖母学院高等学校	増山路子	21
2	24	金	高等学校教員との情報交換会（さんぽう）	梅田スカイビル	増山路子	4

〈教員の講習会、研修等の講師〉

日程	研修内容	教　員
平成28年6月～7月	近畿グループ 平成28年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会　講義講師	増山路子(3回) 小林由里(3回) 釘宮泰子(1回) 佐藤美春(1回)
	近畿グループ 平成28年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 演習指導案助言講師	榎本里香
平成28年　5月25日 6月22日 7月27日 平成29年 1月25日	京都医療センター附属 京都看護助産学校 実習指導者研修プログラム（第1回～第4回）	増山路子　小林由里 釘宮泰子　近藤尚子 中溝好美　榎本里香 寺田博子　稲垣寿美

平成28年8月1日 3日18日25日	滋賀県専任教員養成講習会 教育課程演習　指導	増山路子
平成28年9月15日	近畿グループ 教育担当看護師長研修　講師 「ファシリテータースキル」について 受講者21名	増山路子
平成29年2月23日	敦賀医療センター 社会人基礎力を育む教育力とは	増山路子
平成28年度	京都母性衛生学会　理事 京都母性衛生学会　会計副委員長 会計委員	佐藤美春 若月麻央 田中美和子 北井英子

＜研修生受け入れ＞

日程	研修内容		受け入れ数
平成28年12月5日 ～12月8日	教員 インターンシップ	近畿グループ主催	1人
平成28年12月5日 ～12月7日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	1人
平成29年2月5日 ～3月1日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長教育主事協議会主催	1人
平成29年3月7日 ～3月8日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長教育主事協議会主催	1人

Ⅸ．　施設と設備

１. 建物の概要

	区　分	建築年数	構造・階	面積（㎡）	摘　要
看護学科	校　舎	平成１６年	RC４階	延：3037㎡ 建：1002㎡	
助産学科	校　舎	昭和５４年	RC２階	延：850㎡ 建：469㎡	
	寄宿舎		RC５階	延：540㎡ 建：111㎡	
共通	図書棟	平成１６年	RC２階	延：704㎡ 建：421㎡	
	体育館	平成３年	RC２階	延：664㎡ 建：600㎡	

２. 図書・ビデオ保有数

＜図書＞　（平成29年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看護学科	3,446	2,600	9,567	37	20種	15,650
助産学科	594	944	2,053	8	20種	3,599

＜ビデオ＞　（平成29年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合　計
看護学科	28	139	780	0	947
助産学科	0	57	267	0	324

Ⅹ． 会議一覧

月	平成 28 年度　開催状況
4 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）
5 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3回／月）
6 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
7 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
8 月	教員会議（7回／月）
9 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
10 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
11 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月） 入試委員会（社会人入試・特別選抜入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
12 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
1 月	運営会議 教員会議（4回／月） 入試委員会（一般入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
2 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
3 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）

学校評価　〈看護学科〉

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

平成28年度は京都府健康福祉部の3名の評価者による評価と国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

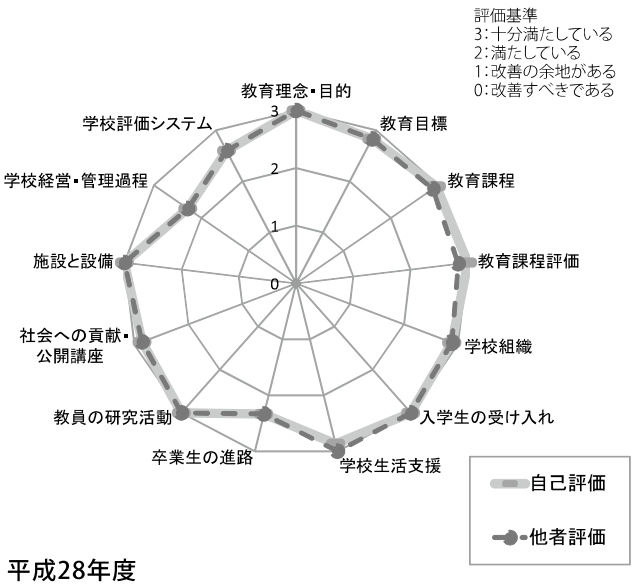
学校評価総評結果と改善への取り組み

すべての評価項目について、「2：満たしている」以上の評価を得ることができました。カリキュラムポリシーやディプロマポリシーを明確に示し、学生の反応をタイムリーに把握し、教育に反映させていると評価を得ました。

今後改善を必要とする内容は、次の4点です。改善点を早急に見直し、更に教育の充実がはかれるように取り組んでいきます。

1.学生・教員による授業・実習評価の結果を学校運営の改善に活用していくこと。
2.学生の便覧、シラバスを、学生にとって活用しやすいものにしていくこと。
3.学生の反応をタイムリーに把握し対応できるよう、「意見箱」の活用等を継続すること。
4.教員が自己研鑽し、積極的に研究に取り組める環境を整え、業績成果を示していくこと。

	評価項目	項目	自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念・目的	6項目	3.0	3.0
Ⅱ	教育目標	6項目	2.8	2.8
Ⅲ	教育課程	26項目	3.0	2.9
Ⅳ	教育課程評価	6項目	3.0	2.8
Ⅴ	学校組織	9項目	2.9	2.9
Ⅵ	入学生の受け入れ	5項目	3.0	3.0
Ⅶ	学校生活支援	15項目	2.9	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	7項目	2.3	2.3
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	3.0	3.0
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	7項目	2.9	2.9
Ⅺ	施設と設備	7項目	3.0	3.0
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	2.3	2.3
ⅩⅢ	学校評価システム	5項目	2.6	2.6



平成28年度
看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護学科）

	評価項目	評価の概要
Ⅰ	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。
Ⅱ	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。
Ⅲ	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し、計画的に進められているかについて評価します。
Ⅳ	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。
Ⅴ	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。
Ⅵ	入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。
Ⅶ	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。
Ⅷ	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。
Ⅸ	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。
ⅩⅠ	施設と設備	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。
ⅩⅡ	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。
ⅩⅢ	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。

学校評価　〈助産学科〉

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

平成28年度は京都府健康福祉部の3名の評価者による評価と国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

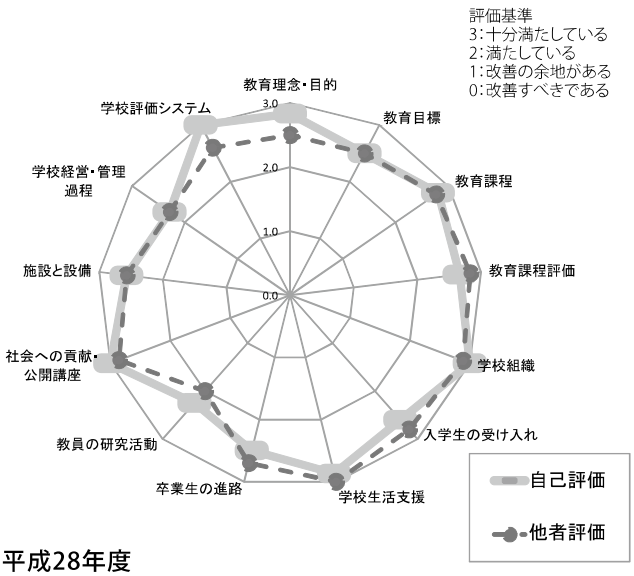
学校評価総評結果と改善への取り組み

すべての評価項目について、「2：満たしている」以上の評価を得ることができました。この中で更に改善・向上への取り組みを必要とする内容は、次の4点です。

今後、改善点を早急に見直し、更に教育の充実がはかれるように取り組んでいきます。

1.教育理念に基づいて、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ、ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰを助産学科独自に検討していくこと。
2.教員間の連携を密に保てるように会議やﾐｰﾃｨﾝｸﾞの場を効果的に活用していくこと。
3.防災に関する取り組みや活用について、看護学科と協働して検討していくこと。
4.教員が自己研鑽し、積極的に研究に取り組める環境を整え、業績成果を示していくこと。

	評価項目	項目	自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念･目的	6項目	2.8	2.5
Ⅱ	教育目標	6項目	2.5	2.5
Ⅲ	教育課程	26項目	2.8	2.8
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.7	2.8
Ⅴ	学校組織	9項目	3.0	2.9
Ⅵ	入学生の受入れ	5項目	2.6	2.8
Ⅶ	学校生活支援	15項目	2.9	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	7項目	2.5	2.7
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.3	2.0
Ⅹ	社会への貢献･公開講座	7項目	3.0	2.9
Ⅺ	施設と設備	7項目	2.6	2.6
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	2.3	2.3
ⅩⅢ	学校評価システム	5項目	3.0	2.6



平成28年度
助産師養成所自己点検･自己評価結果（助産師科）

	評価項目	評価の概要
Ⅰ	教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。
Ⅱ	教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒後教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。
Ⅲ	教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し、計画的に進められているかについて評価します。
Ⅳ	教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。
Ⅴ	学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。
Ⅵ	入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。
Ⅶ	学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。
Ⅷ	卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。
Ⅸ	教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。
ⅩⅠ	施設と設備	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。
ⅩⅡ	学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。
ⅩⅢ	学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。

編集後記

平成28年度のアニュアルレポートが出来ました。

この年度の当院のトップニュースは、小西郁生院長の就任です。信州大学、京都大学の産婦人科教授を経て平成28年4月1日付けで当院に着任しました。薬剤部も小林勝昭が、看護部も荒木輝美が、それぞれ部長として着任し、平成28年度はまさしく新体制での始動でした。当院への患者さんの紹介件数は年々増加しており、地域の拠点病院としての当院の役割と責任は益々大きくなっていると考えます。また、それぞれの診療部門が、臨床だけでなく学術面でも努力を続けていることも本レポートの示す通りです。

本レポートに載せられなかった出来事としては、4月に当院の広報誌である“うづら便り”が、“京都医療センター便り”として発刊されて以来、通算100号を迎えました。また4月14日と16日に熊本地方を最大震度7の大地震が襲ったことを受けて、16日の早朝に現地に向けDMATを出動させました。同日19時に熊本赤十字病院に到着し、18日の夕方まで現地でミッションに従事しました。被災された皆様にはこの場を借りて、お見舞い申しあげますとともに一日も早い復興を心より祈念申しあげます。その他、7月15日付けで先進医療推進委員会を立ち上げました。当院の基本方針の冒頭に掲げているように「常に高度で先進的な医療を導入し」地域の医療に貢献すべく、これからも努力していきます。また、狭い・汚い・臭いとのご批判を受けて、8月7日に外来2階のトイレのリフォームが完成しました。

平成28年度の出来事を挙げればまだまだキリがないのですが、京都医療センターはよりよい姿を目指して日々努力・革新しています。平成29年度のアニュアルレポートも胸を張ってお届けできるよう、これからも邁進していきますので、どうかよろしくお願い申しあげます。

広報委員会

瀬田公一　塚原徹也